

險證書ヲ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ之ニ保險料拂込済ノ證明ヲ受ケルコトヲ得

第四章 保險金ノ支拂

第二十三條 被保險者死亡シタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ事實ヲ知リタル日ヨリ三月内ニ簡易保險局ニ其ノ通知ヲ發スヘシ
正當ノ事由ニ因リ前項ノ期間内ニ通知ヲ發スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ノ止ミタル後速ニ其ノ通知ヲ發スヘシ
前二項ノ通知書ハ無料普通郵便物トシテ差出スコトヲ得

第二十四條 削除

第二十五條 保險金受取人保險金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ保險金支拂請求書ニ保險證書及左ノ書類ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ保險證書ノ受領證ノ受取ルヘシ
一 被保險者ノ戶籍又ハ寄留簿ノ謄本又ハ抄本
二 被保險者死亡ノ場合ニ在リテハ市町村長ニ差出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調書ニ記載シタル事項ノ證明書又ハ之ニ代ルヘキ書類
三 保險料集金人拂込又ハ意口拂込ノ場合ニ在リテハ保險料領收帳(第十二條ノ六ノ規定ニ依リ保險證書ニ保險料拂込ノ證明ヲ受ケタルモノヲ除ク)
前項ノ場合ニ於テ災害又ハ傳染病豫防法第一條第一項ノ傳染病ニ因ラスシテ保險契約ノ效力發生後一年内ニ死亡シ又ハ保險契約ノ效力發生後一年六月内ニシテ復活ノ效力發生後一年内ニ死亡シタルモノニ在リテハ保險金支拂請求書ニ前項第一號及第二號ノ書類ヲ添附シテ省略スルコトヲ得
此ノ場合ニ於テハ保險金支拂請求書ニ被保險者ノ本籍ヲ附記スヘシ

第二十六條

前條ノ請求アリタルトキハ保險金支拂通知書ヲ保險金受取人ニ送付ス

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ支拂フヘキ保險金額カ郵便年金契約ノ掛金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ付保險金支拂通知書ヲ作成シ保險金受取人ニ送付ス

第二十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條ノ六 保險金受取人ハ左記各號ニ該當スルトキハ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ保險金ノ即時拂ヲ請求スルコトヲ得
一 保險契約ノ效力發生後一年六月ヲ經過シ保險料拂込期間内ニ被保險者死亡シタルモノナルトキ
二 復活ノ效力發生後一年内又ハ保險料拂込期間内ニ同時ニ保險期間満了シタルモノナルトキ

二 削除

三 被保險者死亡又ハ保險期間満了後三月内ナルトキ

第二十六條ノ七 保險金受取人保險金ノ即時拂ヲ請求セムトスルトキハ郵便局ニ於テ交付スル用紙ニ依リ作成シタル保險金受領證ヲ第二十五條第一項ノ規定ニ依リ添附書類ト共ニ當該郵便局ニ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ保險金ヲ直ニ保險金受取人ニ交付ス

第二十六條ノ八 天災其ノ他避クヘカラサル事變ニ際シ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局ニ於テ保險料ノ拂込ヲ取扱フ保險契約ニ付第一項ノ規定ニ依ラス保險金ノ即時拂ヲ爲ス

前項ノ取扱ヲ爲ス郵便局及取扱日時ハ當該郵便局前ニ之ヲ揭示ス
前條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ正當ノ事由ニ因リ被保險者ノ戶籍又ハ寄留簿ノ謄本又ハ抄本ヲ提出スルコト能ハサルトキハ之カ添附ヲ省略スルコトヲ得

第二十七條

第二十三條乃至第二十六條ノ二ノ規定ハ簡易生命保險法第二十四條ノ場合ニ於テ同法第二十五條ノ規定ニ依リ還付スヘキ金額ノ支拂

ニ送付ス

保險金受取人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印シ保險證書ノ受領證ヲ添ヘ通知書ニ指定シタル郵便局ニ差出シ保險金ノ拂渡ヲ受ケヘシ

第二十六條ノ二

保險金受取人簡易生命保險法施行區域外ニ於テ保險金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ第二十五條ノ規定ニ依リ保險金支拂請求書類及其ノ添附書類ヲ簡易保險局ニ送付スヘシ但シ臺灣總督府、關東局、樺太廳及南洋廳各管内ニ於テ保險金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條ノ三

保險金受取人ハ別ニ告示スル郵便局ニ於テ保險金ノ局待拂ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條ノ四

保險金受取人保險金ノ局待拂ヲ請求セムトスルトキハ第二十五條第一項ノ規定ニ依リ保險金支拂請求書及其ノ添附書類ヲ當該郵便局ニ差出スヘシ

第二十六條ノ五

保險金受取人郵便年金規則第十六條ノ規定ニ依リ保險金ノ振替請求ヲ爲サムトスルトキハ保險金支拂請求書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ニ第二十五條第一項ノ規定ニ依リ添附書類及年金契約申込書ヲ添ヘ郵便局ニ差出シ保險證書ノ受領證ヲ受取ルヘシ

保險金受取人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印シ當該郵便局ニ差出シ保險金ノ拂渡ヲ受ケヘシ

ニ之ヲ準用ス

第五章 契約ノ異動變更

第二十八條 終身保險又ハ養老保險ノ保險契約者ハ左ノ場合ニ於テ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ保險料ノ拂込ヲ要セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 保險金額及保險料額ヲ増加セシムルコト
二 保險金額及保險料額ヲ減少セシムルコト
三 保險期間ヲ延長セシムルコト
四 養老保險ノ保險期間ヲ短縮セシムルコト

一 保險金額及保險料額ヲ増加セシムルコト
二 保險金額及保險料額ヲ減少セシムルコト
三 保險期間ヲ延長セシムルコト
四 養老保險ノ保險期間ヲ短縮セシムルコト

一 保險金額及保險料額ヲ増加セシムルコト
二 保險金額及保險料額ヲ減少セシムルコト
三 保險期間ヲ延長セシムルコト
四 養老保險ノ保險期間ヲ短縮セシムルコト

第二十八條ノ二 小兒保險ノ保險契約者ハ左ノ場合ニ於テ保險契約ノ變更ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ保險料ノ拂込ヲ要セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 保險金額及保險料額ヲ増加セシムルコト
二 保險金額及保險料額ヲ減少セシムルコト
三 保險期間ヲ延長セシムルコト
四 養老保險ノ保險期間ヲ短縮セシムルコト

第二十九條 保險契約者カ當該保險契約ヲ保險料拂渡保險契約ニ變更ノ請求ヲ爲スニハ簡易生命保險令第十一條第二項ノ規定ニ該當セサル場合ニシテ料濟保險金額八十圓以上ナルコトヲ要ス

第三十條 削除

二 親族ニ讓渡サムトスルトキハ其ノ續柄ヲ認ムヘキ戶籍謄本又ハ抄本
第三十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十八條 保險契約ノ無效又ハ取消ノ場合ニ於テ保險料其ノ他還付ヲ要
スルモノアルトキハ簡易保險局ハ其ノ還付通知書ヲ保險契約者ニ送付
ス

第六章 契約ノ消滅及復活

第四十四條 保險契約者保險契約ノ解除ヲ爲サムトスルトキハ解約通知書
ヲ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局キハ其ノ住所ノ集配受持郵便局ニ差出シ
保險證書ヲ呈示スヘシ

第四十九條 保險契約者保險契約復活ノ申込ヲ爲サムトスルトキハ復活申
込書用紙ニ第十二條第十號乃至第十二號ノ事項ヲ記載シ被保險者カ第三
者ナルトキハ被保險者ニ在リテハ其ノ法定代理人
保險證書及保險料ノ拂込ヲ爲ササリシ期間ノ保險料ヲ添へ郵便局又ハ其
ノ派出局員ニ差出シ其ノ領收證ヲ受取ルヘシ此ノ場合ニ於テ保險料領收
帳アルモノハ之ヲ添附スヘシ

第四十五條 簡易生命保險法第二十五條及簡易生命保險令第十一條第一項
ノ規定ニ依リ還付スヘキ金額ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第五十條 第十三條、第十三條ノ二及第十四條ノ規定ハ保險契約復活ノ場
合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 保險金受取人簡易生命保險法第二十五條第一項ノ規定ニ依リ
保險契約ノ解除又ハ失効ニ因ル還付金支拂ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ
還付金支拂請求書ニ保險證書ヲ添へ郵便局ニ差出シ保險證書ノ受領證ヲ
受取ルヘシ此ノ場合ニ於テ保險料領收帳アルモノハ之ヲ添附スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ保險還付金支拂通知書ヲ保險金受取人ニ送付
ス

第五十一條 保險契約者ハ簡易生命保險法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ
保險料ニ振替フル爲一年以内ノ保險料ニ相當スル金額ニ付貸付ノ請求ヲ
爲スコトヲ得

第二十六條ノ二乃至第二十六條ノ四ノ規定ハ第一項ノ規定ニ依ル還付金
ノ支拂ニ之ヲ準用ス

第七條 保險契約者ニ對スル貸付

第四十七條 簡易保險局ニ於テ保險契約ノ解除ヲ爲ストキハ保險契約者ニ
其ノ旨ヲ通知ス

第五十二條 簡易生命保險法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ第五十一條第
一項以外ノ貸付ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ金額ハ保險金額ノ百分ノ五十
以内ニ於テ五圓以上トス但シ一圓未満ノ端數ヲ附スルコトヲ得ス
前項ノ貸付期間ハ貸付金ヲ交付シタル月ノ翌月ヨリ一年ヲ以テ滿了ス
保險契約者貸付金第五十一條ニ依
ニ於テハ前貸付金ハ新ニ貸付ヲ請求シタル時ニ於テ辨濟アリタルモノト
シテ新貸付金額ヨリ之ヲ控除ス此ノ場合ニ於テ其ノ控除シタル殘額ハ五
圓以上ナルコトヲ要ス

テ振替ヲ爲スモノトス
貸付期間ハ前項ノ規定ニ依リ最後ニ保險料ニ振替ヘタル月ノ翌月ヨリ一
年ヲ以テ滿了ス

前項ノ請求アリタルトキハ保險證書及保險料領收帳ニ貸付ニ關スル事項
ヲ記載シ之ヲ保險契約者ニ返付ス

保險契約者已ムヲ得サル場合ニハ辨濟期ニ於テ貸付期間ノ更新ヲ請求ス
ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ貸付期間ハ更新ヲ請求シタル月ノ翌月ヨリ一
年ヲ以テ滿了ス
貸付期間滿了前ニ於テ保險契約消滅シ又ハ保險料拂濟保險ニ變更シタル
トキハ辨濟期ニ達シタルモノトス
貸付金ニ對シテハ保險料ニ振替ヘタル月ノ翌月ヨリ利息ヲ附ス但シ第二
十二條第一項ノ期間ノ末日ニ振替ヘタル貸付金ニシテ其ノ振替ヲ爲シタ
ル月ニ辨濟スルモノニ對シテハ一月分ノ利息ヲ附ス
貸付金ノ利率ハ別ニ之ヲ告示ス
貸付金ニ對スル利息ノ計算ハ月割ヲ以テシ一月未滿ノ端數アルトキハ一
月ニ切上ク

貸付金ニ對シテハ貸付金ヲ交付シタル月ノ翌月ヨリ利息ヲ附ス但シ貸付
金ヲ交付シタル月ニ辨濟スル場合ニ於テハ一月分ノ利息ヲ附ス
貸付金ノ一部辨濟ヲ爲ス場合ニ於テハ年賦償還ヲ除ク外一圓未滿ノ端
數ヲ附スルコトヲ得ス
第五十一條第四項、第五項及第七項乃至第九項ノ規定ハ第一項ノ貸付ニ
之ヲ準用ス

第五十一條ノ二 保險契約者前條ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ振替貸付證
書ニ保險證書ヲ添へ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ保險料拂込ヲ取扱フ郵便
集配受持郵便局ニ差出シ保險證書ノ受領證ヲ受取ルヘシ此ノ場合ニ於テ保
險金受取人カ第三者ナルトキハ共ニ記名調印シ保險料領收帳アルモノハ
之ヲ添附スヘシ

第五十三條 保險契約者前條ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ普通貸付請求書
ニ保險證書ヲ添へ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ保險證書ノ受領證
ヲ受取ルヘシ此ノ場合ニ於テ保險金受取人カ第三者ナルトキハ共ニ記名
調印シ保險料領收帳アルモノハ之ヲ呈示スヘシ

簡易保險局前項ノ請求ヲ認メタルトキハ貸付通知書ヲ保險契約者ニ送付ス
保險契約者前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ其ノ貸付證書ノ部ニ住所氏名ヲ記入シ調印ノ上保險證書ノ受領證ヲ添ヘ通知書ニ指定シタル郵便局ニ差出シ貸付金ノ交付ヲ受クヘシ
保險證書ニハ貸付ニ關スル事項ヲ記載シ貸付金交付ノ際之ヲ保險契約者ニ返付ス

第五十四條 貸付通知書ノ有効期間ハ其ノ發行ノ日ヨリ六十日トス

貸付金ノ交付ヲ受クルコトナクシテ前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ貸付請求ヲ取消シタルモノト看做シ保險證書ハ貸付ニ關スル記載事項ヲ抹消シ之ヲ保險契約者ニ返付ス

第五十四條ノ二 保險契約者ハ別ニ告示スル郵便局ニ於テ第五十二條ノ規定ニ依ル貸付金ノ局待貸付ヲ請求スルコトヲ得但シ同條第三項ニ依ル貸付ハ此ノ限ニ在ラス

第五十四條ノ三 保險契約者局待貸付ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ貸付請求書ニ保險證書ヲ添ヘ當該郵便局ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テ保險金受取人カ第三者ナルトキハ共ニ記名調印シ保險料領收帳アルモノハ之ヲ呈示スヘシ
前項ノ請求ヲ認メタルトキハ貸付通知書ヲ直ニ保險契約者ニ交付ス

保險契約者前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ其ノ貸付證書ノ部ニ住所氏名ヲ記入シ調印ノ上當該郵便局ニ差出シ貸付金ノ交付ヲ受クヘシ
保險證書ニハ貸付ニ關スル事項ヲ記載シ貸付金交付ノ際之ヲ保險契約者ニ返付ス

第五十五條 保險契約者貸付金ノ辨濟ヲ爲サムトスルトキハ貸付金ニ利息

交付ス

第五十七條 保險契約者辨濟期間ヲ過クルモ貸付金ノ辨濟ヲ爲サス且簡易生命保險法第十九條ノ期間ヲ經過シタルトキハ同法第十八條第一項ノ期間滿了ノ日ニ於テ辨濟アリタルモノトシ同法第二十五條ノ還付金額ヨリ之ヲ控除ス

第八章 長期繼續ノ契約ニ對スル保險料還付

第五十七條ノ二 保險契約ノ效力發生後五年ヲ經過シタル契約ニ付テハ左ノ場合ニ於テ別表ノ定ムル所ニ依リ保險料ニ相當スル金額ヲ還付ス但シ保險契約ノ效力發生後五年内ニ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ保險料ノ拂込ヲ要セザルコトト爲リタルモノ又ハ保險料拂濟保險契約ニ變更シタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 保險金額ヲ支拂フトキ

二 簡易生命保險法第二十五條ノ規定ニ依ル還付金額ヲ支拂フトキ但シ保險契約ノ變更ニ因ル還付金額ヲ支拂フトキノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 簡易生命保險法第二十四條第三號ニ該當スルトキ

前項ノ還付金ハ保險契約者ニ於テ保險契約申込ノ際反對ノ意思ヲ表示セザルトキハ前項第三號ニ該當スル場合ヲ除クノ外保險金受取人ニ之ヲ支拂フ

第五十七條ノ三 削除

第五十七條ノ四 保險契約消滅シタル場合ニ於テ第五十七條ノ二ニ該當スルモノナルトキハ簡易保險局ハ保險還付金支拂通知書ヲ保險金受取人第五十七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ保險契約者反ニ送付ス但シ保險金ノ對ノ意思ヲ表示シタルトキハ保險契約者以下同シ

ヲ添ヘ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ保險證書ニ貸付金辨濟ノ旨ノ記入ヲ受クヘシ但シ貸付金年賦償還ノ場合ニ在リテハ別ニ交付スル受領證ニ依リ償還金ヲ拂込ミ償還金完済ノ際保險證書ニ其ノ記入ヲ受クヘシ
貸付證書ハ簡易保險局ヨリ保險契約者ニ返付ス

第五十六條 保險契約者貸付期間ノ更新又ハ貸付金年賦償還ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ其ノ旨ヲ申出テ利息ヲ差出シ保險證書ニ其ノ記入ヲ受クヘシ

第五十六條ノ二 保險契約者貸付期間滿了後二箇月以上貸付金ノ辨濟ヲ爲サザルトキハ利息ノ外別表ニ定ムル遲滞金ヲ徴收ス
前項ノ遲滞金ハ利息ト共ニ之ヲ拂込ムヘシ

第一項ノ遲滞金ハ簡易保險局ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認メタルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第五十六條ノ三 保險契約者辨濟期ヲ經過スルモ貸付金ノ辨濟ヲ爲スコト能ハザルトキハ郵便官署ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認メタル場合ニ限り利息遲滞期間中一年未滿ノ端及遲滞金ヲ拂込ミ其ノ貸付金ヲ以テ更ニ貸付ノ目的ト爲スコトヲ得
貸付期間ハ前項ノ請求ヲ爲シタル月ノ翌月ヨリ一年ノ遲滞期間ニ一年未滿ト合算シテ以テ滿了ス

貸付金ニ對シテハ第一項ノ利息ヲ拂込ミタル期間ノ翌月ヨリ利息ヲ附ス
第五十六條ノ四 保險契約者前條ノ規定ニ依ル貸付ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ保險證書ニ利息及遲滞金ヲ添ヘ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出スヘシ
前項ノ請求アリタルトキハ保險證書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ヲ保險契約者ニ

(台四)

即時拂フ爲ス場合 保險契約ニ變更アリタルモノヲ除クニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
保險金受取人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ之ニ記名調印シ通知書ニ指定シタル郵便局ニ差出シ還付金ノ拂渡ヲ受クヘシ

第一項但書ノ場合ニ在リテハ保險金受取人ハ郵便局ニ於テ交付スル用紙ニ依リ作成シタル保險還付金受領證ヲ當該郵便局ニ差出シ還付金ノ拂渡ヲ受クヘシ

第五十七條ノ五 保險金受取人郵便年金規則第十六條ノ規定ニ依リ保險料還付金ノ振替請求ヲ爲サムトスルトキハ保險金支拂請求書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

前項ノ請求アリタル場合ニ於テ支拂フヘキ保險金額及保險料還付額カ郵便金年契約ノ掛金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ付保險還付金支拂通知書ヲ作成シ之ヲ保險金受取人ニ送付ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第五十八條 本規則ハ大正五年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年逓信省令第三六號)

本令ハ昭和十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ貸付ヲ受ケ又ハ貸付期間ノ更新若ハ貸付金ノ年賦償還ヲ請求シタル貸付ノ貸付期間又ハ年賦償還期間ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行前ノ保險契約ニ付保險契約者カ保險契約ノ消滅前ニ第五十七條ノ二ノ規定ニ依ル還付金ヲ自ラ受ケタル意思ヲ表示シタルトキハ之ヲ保險契約者ニ支拂フ

第三十六條ノ規定ハ保險契約者カ前項ノ意思ヲ表示セムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第四編 社會 第四章 保險 簡易生命保險規則

別表第一

第二條ノ規定ニ依ル保險料額及保險金額

一 終身保險及養老保險

イ 保險料ハ月額十錢又ハ其ノ倍數トス但シ其ノ保險料ニ對スル保險

金額ハ二十圓以上ナルコトヲ要ス

ロ 保險料月額十錢ニ對スル保險金額ハ左ノ如シ

保險料月額二十錢ニ對スルモノハ其ノ二倍、三十錢ニ對スルモノハ其ノ三倍、其ノ他之ニ準シ計算スルモノトス

時ノ年齢	終身保險		養老保險		養老保險		養老保險		養老保險		養老保險	
	拂込	年拂	全期	十年	十年	十年	十年	十年	十年	十年	十年	十年
十二歳	六三・三	二六・六	一〇・八	一六・八	一六・八	一六・八	一六・八	一六・八	一六・八	一六・八	一六・八	一六・八
十三歳	六〇・三	二五・九	一〇・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七	一六・七
十四歳	五八・六	二五・三	一〇・七	一六・六	一六・六	一六・六	一六・六	一六・六	一六・六	一六・六	一六・六	一六・六
十五歳	五六・九	二四・六	一〇・六	一六・五	一六・五	一六・五	一六・五	一六・五	一六・五	一六・五	一六・五	一六・五
十六歳	五五・四	二四・一	一〇・六	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四
十七歳	五四・一	二三・六	一〇・五	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四	一六・四
十八歳	五三・八	二三・一	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
十九歳	五二・七	二三・七	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十歳	五一・七	二三・四	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十一歳	四九・七	二三・一	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十二歳	四八・八	二二・八	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三

二十三歳	四七・九	二二・五	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十四歳	四六・九	二二・三	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十五歳	四五・九	二二・〇	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十六歳	四四・九	二一・六	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十七歳	四三・八	二一・三	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十八歳	四二・七	二一・〇	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
二十九歳	四一・六	二〇・六	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十歳	四〇・四	二〇・二	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十一歳	三九・三	一九・八	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十二歳	三八・一	一九・五	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十三歳	三六・九	一八・一	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十四歳	三五・七	一七・七	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十五歳	三四・六	一七・三	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十六歳	三三・四	一七・〇	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十七歳	三三・三	一六・六	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十八歳	三二・二	一六・二	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
三十九歳	三〇・一	一五・八	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三
四十歳	二九・〇	一五・五	一〇・五	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三	一六・三

第四編 社會 第四章 保險 簡易生命保險規則

死亡又は満期當時ノ年齢		契約申込時ノ年齢		十二歳	十一歳	十歳	九歳	八歳	七歳	六歳	五歳	四歳	三歳
未四歳	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓
未五歳	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
未六歳	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓
未七歳	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
未八歳	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓
未九歳	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓
未十歳	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
満十一歳未	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓
満十二歳未	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓
上歳十二	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上

二十年満期小兒保險

死亡又は満期當時ノ年齢		契約申込時ノ年齢		五歳	四歳	三歳
未四歳	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓
未五歳	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
未六歳	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓
未七歳	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
未八歳	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓
未九歳	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓
未十歳	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
満十一歳未	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓
満十二歳未	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓
上歳十二	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上

十二歳	五圓
十一歳	五圓
十歳	五圓

二十年満期小兒保險

死亡又は満期當時ノ年齢		契約申込時ノ年齢		十二歳	十一歳	十歳	九歳	八歳	七歳	六歳	五歳	四歳	三歳
未四歳	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓
未五歳	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
未六歳	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓
未七歳	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
未八歳	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓
未九歳	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓
未十歳	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
満十一歳未	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓
満十二歳未	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓
上歳十二	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上

備考

死亡又は満期當時ノ年齢		契約申込時ノ年齢		十二歳	十一歳	十歳	九歳	八歳	七歳	六歳
未四歳	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓
未五歳	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
未六歳	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓
未七歳	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
未八歳	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓
未九歳	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓
未十歳	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
満十一歳未	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓
満十二歳未	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓
上歳十二	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上

二 保險料月額三十錢ニ對スル保險金額ハ左ノ如シ

十五年満期小兒保險

死亡又は満期當時ノ年齢		契約申込時ノ年齢		九歳	八歳	七歳	六歳	五歳	四歳	三歳
未四歳	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓	四圓
未五歳	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
未六歳	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓	六圓
未七歳	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓	七圓
未八歳	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓	八圓
未九歳	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓	九圓
未十歳	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
満十一歳未	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓	十一圓
満十二歳未	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓	十二圓
上歳十二	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上	十二圓以上

別表第二

- 一 終身保險、養老保險及小兒保險ノ保險金額表ニ記載シタル契約申込當時ノ年齢ハ出生ノ月ヨリ契約申込ノ月迄月ヲ以テ計算シ之ニ一年未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ其ノ端數カ七月以上ナルトキハ之ヲ一年ニ切上ケ六月以下ナルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス
- 二 小兒保險ノ保險金額表ニ記載シタル死亡又ハ満期當時ノ年齢ハ満年ヲ以テ計算スルモノトス
- 第三十一條及第三十一條ノ二ノ規定ニ依ル保險金額
- 第三十一條第一項ノ規定ニ依リ更正スヘキ保險金額ハ左ノ區別ニ依ル
 - イ 第二十八條第一項第一號乃至第三號又ハ第二十八條ノ二第一項第一號ノ請求アリタル場合ニ於テハ左記第一ノ保險金額ヨリ第二ノ保險金額ヲ減シタルモノトス
 - 第一 保險契約ノ效力發生ノ時ニ於テ申込當時ノ年齢及保險料ヲ以テ變更セムトスル保險種類、保險期間又ハ保險料拂込期間ニ依リ契約シタル場合ノ保險金額
 - 第二 前記ノ保險契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ト原契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額トノ差額ヲ變更セムトスル保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂込保險料トシテ算出シタル保險金額
- 第二十八條第一項第四號ノ請求アリタル場合第一號乃至第三號ノ請求ト同時ニ第二十八條第一項第一號乃至第三號ノ請求アリタル場合ヲ含ムニ於テハ左記第一ノ保險金額ヨリ第二ノ保險金額ヲ減シタルモノトス
- 第一 保險契約ノ效力發生ノ時ニ於テ保險契約申込當時ノ年齢ヲ以

第四編 社會 第四章 保險 簡易生命保險規則

一五九四

テ變更セムトスル保險料及保險種類、保險期間又ハ保險料拂込期間ニ依リテ契約シタル場合ノ保險金額

第二 前記ノ保險契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ト原契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額中變更セムトスル保險料ニ相當スル部分トノ差額ヲ變更セムトスル保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂込保險料トシテ算出シタル保險金額

ハ 第二十八條ノ二第一項第二號ノ請求アリタル場合第二十八條ノ二請求ト同時ニ第二十八條ノ二第一項ニ於テハ保險契約ノ效力發生ノ時ニ於テ保險契約申込當時ノ年齢ヲ以テ變更セムトスル保險料及保險期間ニ依リ契約シタル場合ノ保險金額トス

第三十一條第二項前段ノ規定ニ依リ加算スヘキ保險金額ハ其ノ保險料ノ減少セラレタル部分ニ對スル被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ヲ變更セムトスル保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂込保險料トシテ算出シタル保險金額トス但シ當該保險契約ニ付未拂保險料アルトキハ保險料ノ減少セラレタル部分ニ對スル未拂保險料ヲ第一ノ金額ヨリ控除ス

第一 原契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額

第二 保險契約ノ效力發生ノ時ニ於テ保險契約申込當時ノ年齢ヲ以テ變更セムトスル保險料及保險期間ニ依リ契約シタル場合ニ於ケル保險契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額

第三十一條第三項ノ規定ニ依リ更正スヘキ保險金額ハ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ヲ保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂込保險料トシテ算出シタル金額トス但シ當該保險契約ニ付未拂保險料及延滞料又ハ貸付金、利息及遲滞金アルトキハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ヨリ之ヲ控除ス

四 第三十一條ノ二ノ請求アリタル場合ニ於テ更正スヘキ保險金額ハ原契約ノ保險金額ヨリ同條第一號ノ場合ニ在リテハ左記イノ金額ヲ又同條第二號ノ場合ニ在リテハ左記ロノ金額ヲ控除シタル金額トス

イ 保險料ノ拂込ニ代ヘムトスル金額ヲ保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂込保險料トシテ算出シタル金額

ロ 契約變更ノ時ニ於テ辨償スヘキ貸付金、利息及遲滞金ニ相當スル金額ヲ保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂込保險料トシテ算出シタル金額

別表第二ノ二

第五十六條ノ二ニ依リ貸付金辨濟遲滞者ニ對スル遲滞金額

貸付金辨濟遲滞者ニ對スル遲滞金額ハ貸付金辨濟額一圓又ハ其ノ端數ニ付左記ノ額トス

遲滞期間	二年以内	三年以内	四年以内	五年以内	六年以内	七年以内	八年以内	九年以内	十年以内	十年ヲ超ユルモノ
遲滞金額	一錢	二錢	四錢	六錢	八錢	十一錢	十五錢	十九錢	二十四錢	以下一年又ハ其ノ端數ヲ増ス毎ニ六錢ヲ加フ

別表第三

第四十五條ノ規定ニ依リ還付金額及還付セザル期間

一 還付金額ハ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ左ノ區別ニ依リ割合ヲ乘シタル金額トス

保險契約ノ效力發生後三年以内ナルトキ 九割

保險契約ノ效力發生後四年以内ナルトキ 九割一分

保險契約ノ效力發生後五年以内ナルトキ 九割二分

以下一年ヲ増ス毎ニ一分ヲ加ヘ九割八分ニ至テ止ム

第二十八條第一項第四號ノ請求アリタル場合第二十八條第一項第一號ニ第二十八條第一項第四號ニ於ケル還付金額ハ其ノ保險料ノ減少セラレタル部分ニ對スル被保險者ノ爲ニ積立テタル金額ニ前記ノ割合ヲ乘シタルモノトス

第二十八條ノ二第一項第二號ノ請求アリタル場合第二十八條ノ二第一項第二號ノ請求アリタル場合第二十八條ノ二第一項第二號ノ請求アリタル場合ハ左記第一ノ金額ヨリ第二ノ金額ヲ減シタルモノトス

第一 原契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立テタル金額

第二 保險契約ノ效力發生ノ時ニ於テ保險契約申込當時ノ年齢ヲ以テ變更セムトスル保險料及保險期間ニ依リ契約シタル場合ニ於ケル保險契約ニ對シ契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額

二 前記ノ金額ヲ還付セザル期間ハ左ノ區別ニ依リ

未拂保險料ナキトキ 保險契約ノ效力發生後六月

未拂保險料一月分アルトキ 保險契約ノ效力發生後七月

未拂保險料二月分アルトキ 保險契約ノ效力發生後八月

未拂保險料三月分以上アルトキ 保險契約ノ效力發生後九月

別表第四

第五十七條ノ二ノ規定ニ依ル保險料還付額
 一 保險料還付額ハ第二十二條ノ二若ハ第二十二條ノ五ノ規定ニ依リ保險料ノ拂込ヲ要セサルモノ又ハ保險契約ニ變更アリタルモノヲ除キ左
 記ニ相當スル額トス

期	間	終身保險		二十年及十五年滿期養老保險	二十年、二十五年、三十年、三十五年及四十年滿期養老保險
		終身拂込	十年拂込		
六年	以內	五月分	六月分	九月分	七月分
七年	以內	六月分	八月分	十一月分	八月分
八年	以內	八月分	十月分	十二月分	十月分
九年	以內	十月分	十二月分	一月分	十一月分
十年	以內	十二月分	一月分	二月分	十二月分
十一年	以內	一月分	二月分	三分	一月分
十二年	以內	二月分	三分	四分	二月分
十三年	以內	三分	四分	五分	三分
十四年	以內	四分	五分	六分	四分
十五年	以內	五分	六分	七分	五分
十六年	以內	六分	七分	八分	六分
十七年	以內	七分	八分	九分	七分
十八年	以內	八分	九分	十分	八分
十九年	以內	九分	十分	十一分	九分
二十年	以內	十分	十一分	十二分	十分

年	以內	終身保險		二十年及十五年滿期養老保險	二十年、二十五年、三十年、三十五年及四十年滿期養老保險
		終身拂込	十年拂込		
二十一年	以內	四十一分	三十八分	四十五分	四十六分
二十二年	以內	四十二分	三十九分	四十六分	四十七分
二十三年	以內	四十三分	四十分	四十七分	四十八分
二十四年	以內	四十四分	四十一分	四十八分	四十九分
二十五年	以內	四十五分	四十二分	四十九分	五十分
二十六年	以內	四十六分	四十三分	五十分	五十一分
二十七年	以內	四十七分	四十四分	五十一分	五十二分
二十八年	以內	四十八分	四十五分	五十二分	五十三分
二十九年	以內	四十九分	四十六分	五十三分	五十四分
三十年	以內	五十分	四十七分	五十四分	五十五分
三十一	以內	五十一分	四十八分	五五分	五十六分
三十二年	以內	五十二分	四十九分	五十六分	五十七分
三十三年	以內	五十三分	五十分	五十七分	五十八分
三十四年	以內	五十四分	五十一分	五十八分	五十九分
三十五年	以內	五五分	五十二分	五十九分	六十分
三十六年	以內	五十六分	五十三分	六十分	六十一分
三十七年	以內	五十七分	五十四分	六十一分	六十二分
三十八年	以內	五十八分	五五分	六十二分	六十三分
三十九年	以內	五十九分	五十六分	六十三分	六十四分
四十年	以內	六十分	五七分	六四分	六五分

四十年以上	百九十四月分	百五十月分	百八十三月分	二百二月分	二百六十七月分	百八十月分	二百二十六月分
四十一年以上	一年又八其ノ端數毎ニ加算ス	一年又八其ノ端數毎ニ加算ス	一年又八其ノ端數毎ニ加算ス	一年又八其ノ端數毎ニ加算ス			

二 第二十二條ノ二又ハ第二十二條ノ五ノ規定ニ依リ保險料ノ拂込ヲ要セサル保險契約ニ在リテハ保險料ノ拂込ヲ要セサルニ至リタル時ニ於ケル保險料還付額トス

三 保險契約ニ變更アリタルモノニ對スル保險料還付額ハ保險契約ノ變更ニ因ル還付金ノ請求ヲ爲ササルモノ、保險料拂濟保險ニ變更シタルモノ又ハ第三十一條ノ二ノ規定ニ依リ保險金額ヲ減少シタルモノヲ除クノ外左記

第一ノ保險料還付額ヨリ第二ノ保險料還付額ヲ減シ第三ノ保險料還付額ヲ加ヘタルモノトス

第一 申込當時ヨリ變更シタル條件ニ依リテ契約シタル場合ノ保險契約消滅ノ時ニ於ケル保險料還付額

第二 申込當時ヨリ變更シタル條件ニ依リテ契約シタル場合ノ保險契約消滅ノ時ニ於ケル保險料還付額

第三 原契約ノ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額

前項ノ場合ニ於テ保險契約ノ效力發生後五年内ニ保險契約ニ變更アリタルモノニ付テハ第二及第三ニ規定スル保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ハ左記ニ相當スル額トス

期	間	終身		保		險	
		終身拂込	十年拂込	十五年拂込	二十年拂込	全期間拂込	全期間拂込
一	年	一月分	一月分	一月分	一月分	一月分	一月分
二	年	一月分	一月分	一月分	一月分	二月分	二月分
三	年	二月分	二月分	二月分	二月分	三月分	三月分
四	年	三月分	三月分	三月分	三月分	四月分	四月分
五	年	四月分	四月分	四月分	四月分	五月分	五月分
						七月分	七月分
							五月分
							六月分
							四月分

保險契約ニ付二回以上變更アリタルモノニ對スル保險料還付額ハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第三項ニ依ル保險料還付額ヲ例示スレハ左ノ如シ

大正五年十月一日終身保險料月額三十錢終身拂込ノ契約ヲ締結シ大正七年十一月十五日二十年滿期養老保險料月額五十錢全期間拂込ノ契約ニ變更シ大正十二年一月十日保險料月額四十錢ニ變更シ大正二十五年九月三十日保險期間滿了シ保險金額ヲ支拂フ場合ニ於ケル保險料還付額幾何ナルヤ

右保險料還付額ヲ算出スルニハ第三項ニ依リ第一項及第二項ヲ準用シ(一)申込當時ヨリ第二回目ニ變更シタル條件ニ依リテ契約シタル場合ノ保險契約消滅ノ時ニ於ケル保險料還付額ヨリ(二)申込當時ヨリ第二回目ニ變更シタル條件ニ依リテ契約シタル場合ノ第二回目ノ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ヲ減シ(三)第一回目ニ變更シタル契約ノ第二回目ノ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ヲ加ヘタルモノナリ

- (一)ノ保險料還付額ハ二十年滿期養老保險料月額四十錢全期間拂込ニ對スル二十年内ノモノニ付五十一月分ニ相當スル額ニシテ保險料月額四十錢ノ五十一倍即チ二十圓四十錢ナリ(別表第四第一號表參照)
- (二)ノ保險料還付額ハ二十年滿期養老保險料月額四十錢全期間拂込ニ對スル七年内ノモノニ付八月分ニ相當スル額ニシテ保險料月額四十錢ノ八倍即チ三圓二十錢ナリ(別表第四第一號表參照)
- (三)ノ保險料還付額ハ(一)申込當時ヨリ第一回目ニ變更シタル條件ニ依リテ契約シタル場合ノ第二回目ノ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ヨリ(二)申込當時ヨリ第一回目ニ變更シタル條件ニ依リテ契約シタル場合ノ第一回目ノ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ヲ減シ(三)原契約ノ第一回目ノ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ヲ加ヘタルモノナリ
- (イ)ノ保險料還付額ハ二十年滿期養老保險料月額五十錢全期間拂込ニ對スル七年内ノモノニ付八月分ニ相當スル額ニシテ保險料月額五十錢ノ八倍即チ四圓ナリ(別表第四第一號表參照)
- (ロ)ノ保險料還付額ハ二十年滿期養老保險料月額五十錢全期間拂込ニ對スル三年内ノモノニ付三月分ニ相當スル額ニシテ保險料月額五十錢ノ三倍即チ一圓五十錢ナリ(別表第四第三號表第二項參照)
- (ハ)ノ保險料還付額ハ終身保險料月額三十錢終身拂込ニ對スル三年内ノモノニ付二月分ニ相當スル額ニシテ保險料月額三十錢ノ二倍即チ六十錢ナリ(別表第四第三號表第二項參照)
- (イ)ノ保險料還付額ヲ加減スルニ三圓十錢ニシテ前記(三)ノ保險料還付額ナリ

更ニ前記(一)(二)(三)ノ保險料還付額ヲ加減スルニ二十圓三十錢ニシテ求ムル所ノ保險料還付額ナリ

四 保險契約ノ變更ニ因ル還付金ノ請求ヲ爲ササルモノニ對スル保險料還付額ハ前號ニ依リ算出シタル保險料還付額ニ保險契約變更後消滅ノ時迄ノ經過期間一年ニ付保險料ノ減少セラレタル部分ニ對スル保險契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ト保險契約消滅ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額トノ和ノ千分ノ八ヲ加ヘタル金額トス

五 保險料拂濟保險ニ變更シタルモノニ對スル保險料還付額ハ保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ニ保險契約變更後消滅ノ時迄ノ經過期間一年ニ付別表第二第三號ニ依リ保險契約ノ將來ノ部分ニ對スル一時拂納保險料ニ充テタル金額ト保險契約消滅ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額トノ和ノ千分ノ八及保險契約變更ノ時ニ於ケル保險料還付額ノ千分ノ五十ヲ加ヘタル金額トス

六 第三十一條ノ二ノ規定ニ依リ保險金額ヲ減少シタルモノニ對スル保險料還付額ハ第一號ノ保險料還付額ヨリ保險契約變更後消滅ノ時迄ノ經過期間一年ニ付保險金額ノ減少セラレタル部分ニ對スル保險契約變更ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額ト保險契約消滅ノ時ニ被保險者ノ爲ニ積立ツヘキ金額トノ和ノ千分ノ八ヲ減シタル金額トス

○簡易生命保險團體特別取扱規則

昭和六年九月十六日
逕信省令第四十二號

改正 昭和一年第三七號

第一條 官公署、會社、工場其ノ他ノ團體ニ屬スル者十五人以上ヲ被保險者トシ十五箇以上ノ終身又ハ養老保險契約ヲ一團トシテ申込ム場合ニ於テハ本令ノ定ムル所ニ依リ團體特別取扱ヲ請求スルコトヲ得

第二條 團體特別取扱ヲ受ケル保險契約ノ被保險者ハ各保險契約者ノ拂込ムヘキ保險料ノ全部カ併合拂込ヲ爲スモノタルコトヲ要ス

第三條 團體特別取扱ヲ受ケムトスルキハ代表者一名ヲ定メ其ノ者ニ於テ保險申込書ト共ニ團體特別取扱請求書ヲ郵便局又ハ其ノ派出局員ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ保險申込書ニハ保險料拂込方法及拂込場所ノ

記入ヲ要セス

前項ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載シ代表者記名調印スヘシ

- 一 團體ノ名稱
- 二 代表者ノ住所
- 三 保險料拂込方法 集金人拂込、何郵便局窓口拂込、振替貯金振替拂込ノモノニ在リテハ郵便振替貯金口座番號
- 四 保險料拂込場所 集金人拂込ノ場合ニ限ル
- 五 保險申込書通數

第四條 團體取扱ノ保險契約申込ニ付テハ簡易生命保險規則第十三條ノ手續ハ之ヲ省略スルコトアルヘシ

第五條 團體取扱ノ第二回以後ノ保險料ハ代表者ニ於テ取纏メ之ヲ拂込ムヘシ

前項ノ保險料ニ付テハ其ノ百分ノ五ニ相當スル金額ノ割引ヲ爲ス但シ被保險者十五人未滿ニ減シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 團體取扱ニ對シテハ一團體ニ付保險料領收帳一通及團體内譯簿ヲ代表者ニ交付ス

第七條 新保險契約ヲ團體取扱中ニ加ヘムトスルキハ代表者ニ於テ團體特別取扱加入請求書ヲ保險申込書場所ノ記入ヲ要セス

込ヲ取扱フ郵便局振替貯金振替拂込ノモノニ在リテハ其ノ派出局員ニ差出シ保險證書ノ交付ヲ受ケタル後遲滞ナク團體内譯簿ヲ呈示スヘシ

既存保險契約ヲ團體取扱中ニ加ヘムトスルキハ代表者ニ於テ團體特別取扱加入請求書ニ當該契約ノ保險料領收帳ヲ添ヘ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ團體内譯簿ヲ呈示スヘシ

第八條 團體取扱中ヨリ脱退シタル保險契約アルトキハ代表者ニ於テ團體特別取扱脱退通知書ヲ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ團體内譯簿ヲ呈示スヘシ此ノ場合ニ於テ脱退シタル保險契約ノ保險料拂込方法及ハ保險料拂込場所ニ付變更ヲ要スルモノアルトキハ其ノ旨ヲ通知書ニ附記スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ脱退シタル保險契約者ニ新ニ保險料領收帳ヲ交付ス第一項ノ規定ハ被保險者ノ死亡、解約其ノ他ノ事由ニ依リ團體取扱中ノ保險契約ニ異動ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 團體ノ名稱ヲ變更シタルトキハ代表者ニ於テ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ届出テ保險料領收帳ヲ呈示スヘシ代表者ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十條 團體特別取扱ヲ廢止シタルトキハ代表者ニ於テ團體特別取扱廢止通知書ニ團體内譯簿ヲ添ヘ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ差出シ保險料領收帳ヲ呈示スヘシ

第八條第一項及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四編 社會

第四章 保險 簡易生命保險團體特別取扱規則

第四編 社會 第四章 保險 簡易生命保險團體特別取扱規則

第十一條 團體取扱中異動頻繁ナルモノ又ハ第二條ニ依リ保險料ノ併合拂込ヲ爲シ得サルモノト認メタルモノニ付テハ簡易保險局ニ於テ團體特別取扱ヲ廢止スルコトアルヘシ

前項ニ依リ團體特別取扱ヲ廢止シタルトキハ代表者又ハ保險契約者ニ其ノ旨ヲ通知ス

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條ノ二 團體取扱ヲ受ケルニ至リタル保險契約ニ付テハ一年分以内ノ保險料ヲ前納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ一時ニ拂込ム爲サムトスル保險料當月分保險料ト共ニ拂込マカ六月分以上ナルトキハ第五條第二項ノ割引ト合セ保險料ノ百分ノ九ニ相當スル金額ノ割引ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依リ保險料ヲ拂込ミタル後其ノ期間中中途ニ於テ保險料ノ拂込ヲ要セザルニ至リタル保險契約ノ保險契約者ニ還付スヘキ保險料額ハ未經過期間ニ對スル保險料額ヨリ前項ノ規定ニ依リ割引ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ百分ノ九、第五條ノ規定ニ依リ割引ヲ爲シタルモノニ在リテハ其ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額トス

第十二條 本令ニ依リ團體特別取扱ニ關シテハ前各條ニ規定シタルモノヲ除ク外簡易生命保險規則ノ定ムル所ニ依ル但シ簡易生命保險規則第二十五條、第二十六條ノ四、第二十六條ノ五、第二十七條、第三十二條、第三十三條乃至第三十五條、第三十八條、第三十九條、第四十六條及第四十九條ノ場合ニ於テハ保險料領收帳ヲ差出スコトヲ要セス又第二十六條ノ七ノ場合ニ於テハ保險料領收帳ヲ呈示スヘシ

簡易生命保險規則第三十二條、第三十三條乃至第三十五條、第三十八條及第三十九條ノ請求ニシテ團體内譯簿ヲ訂正ヲ要スル場合ニ於テハ保險料拂込ヲ取扱フ郵便局ニ當該請求書ヲ差出シ團體内譯簿ヲ呈示スヘシ

第十三條 第三條及第五條乃至第十二條ノ規定ハ既存ノ十五箇以上ノ終身又ハ養老保險契約ヲ被保險者十五人以上ヲ一團トシテ保險料ノ併合拂込ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ其ノ保險契約ノ保險料拂込方法カ集金人拂込又ハ窓口拂込ノモノニ在リテハ團體特別取扱請求書ニ保險料領收帳ノ通數ヲ記載シ保險料領收帳ヲ添附シ又振替貯金振替拂込ノモノニ在リテハ團體特別取扱請求書ニ保險證書ノ記號番號ヲ記載スヘシ

附則

本令ハ昭和六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前ヨリ團體特別取扱ヲ受クル保險契約ニ付テハ本令施行ノ日ヨリ一年內ハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ特ニ本令ニ依ル特別取扱ヲ請求シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第十三條ノ規定ハ前項但書ノ請求ニ之ヲ準用ス

○簡易保險健康相談所規則

昭和九年九月十四日 逕信省令第六十號

簡易保險健康相談所規則左ノ通改正ス
第一條 簡易生命保險被保險者ハ本令ノ定ムル所ニ依リ健康相談ヲ爲シ又ハ訪問看護ヲ受クルコトヲ得
前項ノ健康相談及訪問看護ノ取扱ハ無料トス
第二條 健康相談ハ健康上ノ相談ニ應シ必要アル場合ハ診察ヲ爲シ又ハ試驗検査ヲ行ヒ若ハ處方箋ノ交付其ノ他ノ處置ヲ爲スモノトス
第三條 被保險者健康相談ヲ爲サントスルトキハ簡易保險健康相談所又ハ簡易保險健康相談所巡回出張所ニ出張シ其ノ旨ヲ申出ヅベシ

附則

第四條 被保險者ハ簡易保險健康相談所ニ無料普通郵便ニ依ル健康相談ヲ爲スコトヲ得
被保險者前項ノ規定ニ依ル健康相談ヲ爲サントスルトキハ其ノ書面ニ保險證書ノ記號番號、保險料額、住所、氏名、職業、年齢及相談事項ヲ記載スベシ
前項ノ場合ニ於テ試驗検査ニ必要ナル資料ヲ送付セントスルモノナルトキハ資料ノ包装上部ニ差出人ノ住所及氏名ヲ記載スルノ外書面ニ其ノ種類、採取年月日及發送年月日ヲ記載スベシ但シ被保險者ニ非ザル者ヨリ郵便物包裝規則第十一條ニ依リ資料ノ送付ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ差出人ノ住所、氏名及職業ヲ附記スベシ
第五條 訪問看護ハ疾病又ハ傷痍ノ爲現ニ醫療ヲ受ケ看護ノ要アル者ニ對シ其ノ居所ニ於テ看護手當ヲ加ヘ且看護上ノ心得ヲ授クルモノトス
訪問看護ハ隔日一回三十分以内トス但シ看護上ノ必要ニ因リ増減スルコトアルベシ
第六條 被保險者訪問看護ヲ受ケントスルトキハ其ノ地域ヲ受持ツ簡易保險健康相談所ニ口頭又ハ無料普通郵便ニ依リ其ノ旨ヲ申出ヅベシ
第七條 被保險者健康相談ヲ爲シ又ハ訪問看護ヲ受ケントスルトキハ第四條ノ規定ニ依リ書面ヲ以テ健康相談ヲ爲ス場合ヲ除クノ外保險料領收帳ノ呈示其ノ他ノ方法ニ依リ正當本人タルコトヲ證明スベシ
第八條 簡易保險健康相談所ノ名稱、位置、開始期日、訪問看護受持地域及取扱時間ハ別ニ之ヲ告示ス
簡易保險健康相談所巡回出張所ノ位置、取扱日時其ノ他必要ナル事項ハ別ニ之ヲ公示ス

本令ハ昭和九年九月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第二節 健康保險

○健康保險法

大正十一年四月二十二日 (總理、大藏、農商) 法律第七十號 (務司法大臣副署)

改正 大正一五年第三四號

昭和四年第二〇號、九年第一三號

第一章 總則

第一條 健康保險ニ於テハ保險者カ被保險者ノ疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ療養ノ給付又ハ傷病手當金、埋葬料、分娩費若ハ出産手當金ノ支給ヲ爲スモノトス
第二條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者カ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受クル賃金、給料又ハ俸給及之ニ準スヘキモノヲ謂フ
賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス
標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第四條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス
前項ノ時効ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時効ニ關スル規定ヲ準用ス

命令ノ定ムル所ニ依リ保險者ノ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第五百三十三條ノ規定ニ拘ラス時効中斷ノ效力ヲ有ス
第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス
第六條 健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス
第七條 保險者又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理人ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得
第八條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動、報酬等ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ文書ヲ提示セシメ其ノ他健康保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得
第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得
第十條 主務大臣ハ本法ニ規定スル其ノ職權ノ一部ヲ命令ヲ以テ保險官署ニ委任スルコトヲ得
第十一條 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アルトキハ保險者ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ
前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徵收ス
第十二條 前條ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ納付セザルトキハ保險者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財產ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得但シ保險者ガ國稅滯納處分ノ例ニ依

リ處分スルコトヲ得ルハ政府ガ保險者ナル場合ニ限ル
保險者ガ前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市
町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ保險者ハ徵收金
額ノ百分ノ四ヲ當該市町村ニ交付スベシ
前二項ノ規定ニ於テ町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ
準ズベキモノトス

第十一條ノ三 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ
市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徵收金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス
第十一條ノ四 保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ニ關スル書類ノ送達
ニ付テハ國稅徵收法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ヲ準用ス
第十二條 政府ノ事業ニ使用セラルル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付命令ヲ
以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第二章 被保險者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル
者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以
テ指定スルモノ及一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員ハ此ノ限ニ在ラズ
一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場
二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場
三 左ニ掲グル事業ニシテ常時五人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノ
物ノ製造、加工、選別、包裝、修理又ハ解體ノ事業
鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業
電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業
地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)

(ホ) (ニ)ニ掲グルモノヲ除クノ外陸上ニ於テ爲ス貨物又ハ旅客ノ運送ノ
事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條 前條ノ工場、事業場又ハ事業ヲ除クノ外左ノ各號ノ一ニ該當ス
ル事業ノ事業主ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業及之ニ附屬スル事業ニ
使用セラルル者ヲ包括シテ健康保險ノ被保險者ト爲スコトヲ得前條ノ工
場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業ニ付亦同ジ
一 前條第三號ノ事業ニシテ常時五人未滿ノ勞働者ヲ使用スルモノ
二 土木工事又ハ工作物ノ建設、保存、修理若ハ破壊ノ工事ニシテ主務
大臣ノ指定スルモノ
三 貨物積卸ノ事業
四 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ト爲ルベキ者ノ二分ノ一以上ノ同意
ヲ得ルコトヲ要ス
一 事業ニ於テ作業ノ場所ニ於テハ第一項ノ規定ノ適用ニ
付テハ主務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做
スコトヲ得
第十五條 前條ノ認可アリタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル者ハ健康保
險ノ被保險者トス

第十三條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十六條 第十三條ノ工場又ハ事業ガ同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタル
トキハ其ノ工場又ハ事業ニ付第十四條ノ認可アリタルモノト看做ス
第十七條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セ
ラルルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第二項ノ規定ニ該當

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)

セサルニ至リタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

第十八條 第十三條及第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其
ノ業務ニ使用セラレサルニ至リタル日又ハ第十三條但書若ハ第十五條第
二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス但シ其
ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日
ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

第十九條 第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ使用スル事業主ハ主務大臣ノ
認可ヲ受ケ其ノ被保險者ノ全部ヲシテ其ノ資格ヲ喪失セシムルコトヲ
得

前項ノ認可ヲ申請スルニハ被保險者ノ四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ
要ス
第一項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ
資格ヲ喪失ス

第二十條 第十八條ノ規定ニ依リ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者ニシテ喪
失ノ際引續キ六十日以上被保險者タリシモノハ勅令ノ定ムル期間内ニ申
請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ前條ノ規定ニ依リ被保險者ト爲
リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、保險料ヲ納付セスシテ命令ヲ
以テ定ムル猶豫期間ヲ經過シタルトキ又ハ第十三條若ハ第十五條ノ規定
ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス
前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合ニハ第十八條ノ規定ヲ準用ス

第三章 保險者

第二十二條 健康保險ノ保險者ハ政府及健康保險組合トス
第二十三條 保險者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲

必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 政府ハ健康保險組合ノ組合員ニ非サル被保險者ノ保險ヲ管掌
ス

第二十五條 健康保險組合ハ其ノ組合員タル被保險者ノ保險ヲ管掌ス

第二十六條 健康保險組合ハ法人トス

第二十七條 健康保險組合ハ事業主及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ヲ
以テ之ヲ組織ス

第二十八條 一又ハ二以上ノ事業ニ付被保險者常時三百人以上ヲ使用スル
事業主ハ健康保險組合ヲ設立スルコトヲ得

被保險者ヲ使用スルニ以上ノ事業主ハ共同シテ健康保險組合ヲ設立スル
コトヲ得此ノ場合ニ於テハ被保險者ノ員數ハ合算シテ常時三百人以上タ
ルコトヲ要ス

第二十九條 健康保險組合ヲ設立セムトスルトキハ組合員タル資格ヲ有ス
ル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ得規約ヲ作り主務大臣ノ認可ヲ受ケ
ヘシ
二以上ノ事業ニ付健康保險組合ヲ設立セムトスル場合ニ於テハ前項ノ同
意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

第三十條 前二條ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ第十四條第一項ノ規定ニ
依ル認可ノ申請ト同時ニ健康保險組合ノ設立認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在
リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第三十一條 主務大臣ハ一事業ニ付第十三條ノ規定ニ依ル被保險者常時五
百人以上ヲ使用スル事業主ニ對シ健康保險組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得

第三十二條 前條ノ規定ニ依リ健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主
ハ規約ヲ作り設立ニ付主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第三十三條 第十四條第三項ノ規定ハ第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ノ適用ニ付之ヲ準用ス

第三十四條 健康保險組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第三十五條 健康保險組合成立シタルトキハ事業主及其ノ事業ニ使用セララル被保險者ハ總テ之ヲ組合員トス

第三十六條 健康保險組合ノ規約ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三十七條 主務大臣ハ健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、規約ノ變更ヲ命ジ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 健康保險組合ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ組合ノ役員保險給付其ノ他其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ主務大臣ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

第三十九條 主務大臣ハ健康保險組合ノ決議若ハ役員ノ行爲カ法令、主務大臣ノ處分若ハ規約ニ違反シ、組合員ノ利益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ組合ノ事業若ハ財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第四十條 解散ニ因リテ消滅シタル健康保險組合ノ權利義務ハ政府之ヲ承繼ス

第四十一條 本法ニ規定スルモノノ外健康保險組合ノ管理、財産ノ保管及利用方法、分合、解散其ノ他健康保險組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ

以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第四十六條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第四十七條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サズ

第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ保險者ハ前條ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル者ニ對シ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトヲ得

擔ス

第五十四條 出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セス

第五十五條 被保險者ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ハ被保險者トシテ保險給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ同一保險者ヨリ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ被保險者タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノハ最後ノ保險者ヨリ埋葬料ノ支給ヲ受クルコトヲ得

第五十七條 前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クル者ナキ場合及前項ノ埋葬料ノ金額ニ付テハ第四十九條ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 被保險者タリシ者被保險者ノ資格ヲ喪失シタル日後勅令ヲ以テ定ムル期間内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ被保險者トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ保險給付ヲ最後ノ保險者ヨリ受クルコトヲ得

第五十九條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セス

第六十條 前條ニ掲ケル者疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコト能ハサリシトキハ保險者ハ之ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病手當金又ハ出産

產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分

一 他ノ法令ノ規定ニ依リ事業主ヨリ扶助ヲ受クヘキ者ニ付其ノ事業主ヨリ申請アリタルトキ

二 前號以外ノ場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ要シタル費用ニ相當スル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第四十九條 被保險者死亡シタルトキハ被保險者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ被保險者ノ報酬日額ノ三分日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額カ三十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ三十圓トス

被保險者死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條 被保險者分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ、出産手當金トシテ分娩ノ前後勅令ヲ以テ定ムル期間一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十一條 保險者ハ被保險者ヲ產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

產院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費及出産手當金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ減額スルコトヲ得

第五十二條 分娩ニ關スル保險給付ニ付テハ勅令ヲ以テ分娩前一定ノ期間被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲ササルコトヲ定ムルコトヲ得

第五十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テハ分娩ニ關スル保險給付ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係アル保險者之ヲ分

以テ之ヲ定ム

第四十二條 同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル被保險者ノ保險者ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第四章 保險給付

第四十三條 被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

第四十四條 療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合又ハ被保險者ノ申請アリタル場合ニ於テハ保險者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 被保險者療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給ス

前項ノ規定ニ依リ保險者ノ支給シタル金額ハ事業主ヨリ之ヲ徴收ス

第六十條 被保險者又ハ被保險者タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ保險給付ヲ爲サス

第六十一條 被保險者闘争、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ従ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十二條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險給付ヲ爲サス

- 一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
- 二 本法施行區域外ニ在ルトキ
- 三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ
- 四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス

前項ニ掲タル者ニ付テハ第四十六條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 保險者ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ従ハサル者ニ對シ之ニ支給スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第六十四條 保險者ハ詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ期間ヲ定メ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十五條 保險者ハ必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受ケタル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

保險者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ保險給付ノ

全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第六十六條 保險給付ノ支給期日ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 保險者ハ事故カ第三者ノ行為ニ因リテ生シタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ被保險者又ハ被保險者タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第六十八條 保險給付ヲ受ケタル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第六十九條 保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第五章 費用ノ負擔

第七十條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ十分ノ一ヲ負擔ス

前項ノ規定ニ依リ國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テハ各健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ限度ニ至ル迄之ヲ減額スルモノトス

前項ニ規定スル被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十一條 保險者ハ健康保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保險料ヲ徴收ス

第七十二條 保險料ノ算定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十三條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第七十四條 業務ノ性質上事故多キ事業ニ使用セラルル被保險者又ハ少額ノ報酬ヲ受ケタル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ勅令ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十五條 被保險者ノ負擔スヘキ保險料額ハ一日ニ付報酬日額ノ百分ノ

次健康保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ

第八十三條 健康保險審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十四條 第十一條ノ規定ニ依リ處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 健康保險審査會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ證人又ハ鑑定人ノ訊問其ノ他ノ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ之ヲ囑託スルコトヲ得證據調ニ關シテハ民事訴訟法ノ證據調ニ關スル規定及民事訴訟費用法第九條及第十一條乃至第十三條ノ規定ヲ準用ス但シ健康保險審査會ノ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ言渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命スルコトヲ得

第八十六條 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第五十八條第二項及第五十九條ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 罰則

第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依リ當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 第八條ノ規定ニ依リ保險者ノ請求アリタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ報告ヲ爲サス、虛偽ノ報告ヲ爲シ又ハ文書ノ提示ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十九條 健康保險組合ノ設立ヲ命セラレタル事業主正當ノ理由ナクシテ主務大臣ノ指定スル期日迄ニ設立ノ認可ヲ申請セサルトキハ其ノ手續

三ヲ超ユルコトヲ得但シ第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ規定スル制限ヲ超テ保險料ヲ徴收スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ事業主ノ負擔トス

第七十五條 健康保險組合ハ第七十二條若ハ前條ノ規定又ハ第七十三條ニ基キテ發スル勅令ノ規定ニ拘ラス其ノ規約ヲ以テ事業主ノ負擔スヘキ保險料額ノ負擔ノ割合ヲ增加スルコトヲ得

第七十六條 被保險者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間保險料ヲ徴收セス

- 一 傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給ヲ受ケタルトキ
- 二 第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スルコトキ

ノ遅延シタル期間其ノ負擔スヘキ保険料額ノ二倍ニ相當スル金額以下ノ過料ニ處ス

第九十條 健康保險組合カ第三十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル健康保險組合ニ關スル勅令ニ於テハ組合カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第九十一條 前二條ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第九十二條 事業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令中事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九十三條 事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

附則

本法ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年法律第二〇號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第八十六條ノ改正規定中民事訴訟法ノ規定ノ準用ニ關スル部分ハ大正十五年法律第六十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和四年勅令第四百四十二號ヲ以テ昭和四年六月一日ヨリ施行)

標準報酬ノ等級	標準報酬日額	報酬日額
第一級	三十錢	三十五錢未滿
第二級	四十錢	三十五錢以上 四十五錢未滿
第三級	五十錢	四十五錢以上 五十五錢未滿
第四級	六十錢	五十五錢以上 六十五錢未滿
第五級	七十錢	六十五錢以上 七十五錢未滿
第六級	八十錢	七十五錢以上 八十五錢未滿
第七級	一圓	八十五錢以上 一圓十五錢未滿
第八級	一圓三十錢	一圓十五錢以上 一圓四十五錢未滿
第九級	一圓六十錢	一圓四十五錢以上 一圓七十五錢未滿
第十級	一圓九十錢	一圓七十五錢以上 二圓十五錢未滿
第十一級	二圓二十錢	二圓十五錢以上 二圓三十五錢未滿
第十二級	二圓五十錢	二圓三十五錢以上 二圓六十五錢未滿
第十三級	二圓八十錢	二圓六十五錢以上 二圓九十五錢未滿
第十四級	三圓十錢	二圓九十五錢以上 三圓二十五錢未滿
第十五級	三圓五十錢	三圓二十五錢以上 三圓七十五錢未滿
第十六級	四圓	三圓七十五錢以上

第四條 標準報酬ハ毎年六月一日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ七月一日ヨリ翌年

○内務省告示第五百六十一號 (昭和十年十月二十六日)
健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業左ノ通指定ス
下水道ニ關スル工作物ノ建設、保存、修理又ハ破壊ノ工事

○健康保險法施行令

大正十五年六月三十日(總理、内務) 勅令第四百四十三號 (大臣副署)

改正 昭和二年第三〇號、第二二〇號、四年第一四三號、第二五〇號、九年第四〇〇號

第一章 總則

第一條 健康保險法第二條第一項ノ賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ範圍ハ常時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲グルモノヲ除ク
一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當
二 通勤手當
三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金、給料又ハ俸給ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ
四 其ノ他内務大臣ノ指定スルモノ

第二條 賃金、給料又ハ俸給ニ準スヘキモノノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ保險官署ノ定ムル標準價額ニ依リ之ヲ算定ス
前項ノ標準價額ハ其ノ地方ノ時價ニ依リ之ヲ定ム
健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條 健康保險法第三條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬日額ニ基キ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム
(台四)

六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス但シ被保險者ノ資格ヲ取得シタル際ニ於ケル標準報酬ハ其ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定メ其ノ日ヨリ六月三十日迄其ノ效力ヲ有ス
被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ保險者ハ前項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ變更ヲ爲スヘシ
健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ第一項ノ規定ニ拘ラス引續キ從前ノ標準報酬ニ依ル

健康保險組合ハ第一項ノ規定ニ拘ラス標準報酬ノ決定ニ關シ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第五條 第三條ニ規定スル被保險者ノ報酬日額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス
一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル年額ノ三百六十分ノ一
二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル月額ノ三十分ノ一
三 前二號ノ外一定ノ期間ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日ノ現在ニ於ケル其ノ報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

四 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬決定ノ日前三月間ニ受ケタル額ノ九十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三月ニ滿テサルトキハ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ從事シ同様ノ報酬ヲ受クル被保險者ノ報酬ニ付本號ノ規定ニ依リテ算定シタル額
五 前四號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ標準報酬決定ノ日前一

年間ニ於テ受ケタル額ノ三百六十分ノ一但シ現ニ使用セラルル事業ニ於テ報酬ヲ受ケタル期間三百六十日ニ滿チサルトキハ其ノ受ケタル報酬ノ額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シテ得タル額

六 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

七 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受ケタル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

被保險者ノ報酬日額カ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額カ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス保險者ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定スヘシ

保險者カ健康保險組合ナル場合ニ於テハ前項ノ算定方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五條ノ二 健康保險法第十一條第一項ノ規定ニ依リ保險料其ノ他同法ノ

規定ニ依ル徵收金納付ノ督促ヲ爲サントスルトキハ保險者ハ納付義務者ニ對シテ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ヲ發シタルトキハ督促手數料トシテ十錢ヲ徵收ス

第五條ノ三 前條ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ徵收金額百圓

ニ付一日三錢ノ割合ヲ以テ納期限ノ翌日ヨリ徵收金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徵收ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スベキ情狀アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 納入ノ告知書一通ノ徵收金額五圓未滿ナルトキ

二 納期ヲ繰上ゲ徵收ヲ爲ストキ

三 納付義務者ノ住所及居所ガ帝國内ニ在ラザル爲又ハ其ノ住所及居所

共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納入ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ徵收金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ

第六條 健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ事業主カ内務大臣ノ認可ヲ受ク

ヘキ場合ニ於テ政府カ事業主ナルトキハ内務大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第七條 政府ノ事業ニ使用セラルル被保險者ガ共濟組合ノ組合員ナル場合

ニ於テ其ノ組合ノ給付ノ種類及程度ヲ内務大臣ニ於テ適當ナリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ其ノ被保險者ニ對シテハ健康保險法ノ規定ニ依ル保險給付ヲ爲サズ

第八條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケザル者ニ付テハ保險料ハ之ヲ徵收セズ

第二章 被保險者

第九條 臨時ニ使用セラルル者ノ中左ニ掲クル者ハ健康保險法第十三條但

書又ハ第十五條第二項ノ規定ニ依リ被保險者タラサルモノトス但シ第一

號ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ

又ハ第二號若ハ第三號ニ該當スル者三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルル

ニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 六十日以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二 使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者

三 日日雇入レラルル者

四 前各號ニ掲タルモノノ外内務大臣ノ定ムル者

第十條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タラムトスル申請ハ被

保險者ノ資格ヲ喪失シタル日(繼續シテ保險給付ヲ受ケタル者ニ在リテハ

其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ保險者ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

第三章 健康保險組合

第一節 組合ノ設立

第十一條 事業主健康保險組合ヲ設立スル爲健康保險法第二十九條ノ同意

ヲ求ムル場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ同條ノ被保險者(健康保險法第三十條ノ場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者)全部ニ送付スヘシ

一 組合員タルヘキ者ノ範圍

二 組合ノ組織ノ概要

三 保險料ノ概要

四 保險給付ノ概要

五 其ノ他事業計畫ノ概要

第十二條 規約ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 公示ノ方法

五 其ノ他組合ニ關シ重要ナル事項

第十三條 組合ハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ

健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ健康保險組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第十四條 組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行令

算ハ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 組合設立ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ左ノ事項ヲ告示ス

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 認可ノ年月日

前項各號ノ事項ニ關スル規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ内務大臣ハ其ノ事項ヲ告示スヘシ

第十六條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク規約ヲ公示ス

ヘシ規約ノ變更アリタルトキ亦同シ

第十七條 組合設立ノ認可アリタルトキハ事業主ハ遲滞ナク組合會ヲ招集

シ組合設立ノ經過、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第十八條 組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ事業主理事ノ職務ヲ行フ

第二節 組合ノ會議

第十九條 組合ニ組合會ヲ置ク

組合會ハ組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十條 議員ノ定數ハ十二人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ニ於テ事

業主(若ハ其ノ代理人)及其ノ事業ニ使用セラルル者ノ中ニ就キ之ヲ選定

シ他ノ半數ハ被保險者タル組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十一條 議員就職シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ議員退職

又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第二十二條 議員ノ選舉ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十三條 選舉人タル組合員議員ノ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第二十一條ノ公示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ理事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立アリタルトキハ理事ハ二十日以内ニ之ヲ組合會ノ決定ニ付シ其ノ決定アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ公示スヘシ

前項ノ決定ニ不服アル者ハ決定アリタル日ヨリ三十日以内ニ監督官廳ニ訴願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ健康保險組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

議員ハ第二項ノ決定又ハ前項ノ訴願ノ裁決アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十四條 本令ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格、任期、選定及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

- 一 收入支出ノ豫算
- 二 事業報告及決算
- 三 收入支出豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄
- 四 準備金ノ管理方法
- 五 準備金其ノ他重要ナル財産ノ處分
- 六 組合債
- 七 規約ノ變更
- 八 保險料率
- 九 訴願訴訟ノ提起及和解

十 其ノ他重要ナル事項

第二十六條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 組合會ハ理事之ヲ招集ス

議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以内ニ之ヲ招集スヘシ

組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急務ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クとも三日以前ニ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ期間ニ付テハ規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

組合會開會中急務ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

組合會ハ理事之ヲ開閉ス

第二十八條 組合會ノ議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ

理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

決算ノ認定ニ關スル會議ノ議長ハ前二項ノ規定ニ拘ラス理事以外ノ出席議員中ヨリ互選セラレタル者ヲ以テ之ニ充ツ

議長ハ會議ヲ總理シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ第三十二條ノ除外ノ爲半數ニ滿チサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十一條 組合ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第三十二條 組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セザルトキハ理事ハ監督官廳ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第三十三條 組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急務ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セザルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第四十一條 前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十二條 理事ハ規約、財産目錄、事業報告書、組合原簿及組合會ノ會議録ヲ事務所ニ備フヘシ

組合員前項ノ書類ノ閱覽ヲ求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十三條 第二十一條、第二十四條及第三十五條ノ規定ハ理事及理事長ニ之ヲ準用ス

第四十四條 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四十五條 組合ハ毎會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキ亦同シ

豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第四十七條 組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

第三十一條 規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第三十二條 議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十三條 議員ハ自ら會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ病氣其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ會議ニ出席スルコト能ハサル議員ハ規約ノ定ムル所ニ依リ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス

第三十四條 組合員ハ規約ニ定ムル特別ノ場合ヲ除クノ外組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得

第三十五條 議員ハ其ノ職務ノ爲要スル旅費ノ支給ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

被保險者タル議員其ノ職務ヲ行フニ因リ平常ノ業務ニ對スル報酬ヲ受クルコトヲ得サル場合ニ於テハ其ノ補償ヲ組合ヨリ受クルコトヲ得

第一項ノ旅費及前項ノ補償ノ額及支給方法ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三十六條 組合ニ理事ヲ置ク

理事ノ定數ハ四人以上ノ偶數トシ其ノ半數ハ事業主ノ選定シタル議員ニ於テ、他ノ半數ハ被保險者タル組合員ノ互選シタル議員ニ於テ之ヲ互選ス

理事ノ中一人ヲ理事長トシ事業主ノ選定シタル議員タル理事中ニ就キ理事之ヲ選舉ス

第三十七條 理事長ハ組合ヲ代表ス

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第四十八條 組合ニ於テ其ノ收入金ヲ收納スルハ翌年度五月三十一日、其ノ支出金ヲ支拂フハ翌年度四月十五日限リトシ其ノ出納ヲ閉鎖ス

第四十九條 組合ハ保險料率ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十條 組合ハ少クとも保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額(剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額)ヲ準備金トシテ積立ツヘシ
前項ノ限度内ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十一條 組合ハ準備金ノ管理方法ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 準備金以外ノ財産ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十三條 組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ仍現金ニ不足アルトキハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度内ニ之ヲ返還スヘシ

第二項ノ一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ毎年度監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條 組合ハ組合債ヲ起シ、起債ノ方法、利息ノ定率若ハ償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第五十五條 組合ハ重要ナル財産ノ處分ヲ爲サムトスルトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十二條 組合ノ合併又ハ分割ノ認可ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合及合併又ハ分割後存続スル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

一 組合ノ名稱

二 事務所ノ所在地

三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地

四 認可ノ年月日

第六十三條 第十六條乃至第十八條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ付之ヲ準用ス

合併又ハ分割ノ際其ノ合併又ハ分割シタル組合ノ理事タリシ者カ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ノ組合員タル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ事業主ノ行フヘキ職務ハ其ノ理事タリシ者之ヲ行フ

第六十四條 組合解散ヲ爲サムトスルトキハ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 組合ハ被保險者タル組合員ナキニ至ルモ其ノ欠缺カ一時的ナル場合ニ於テハ解散スルコトヲ得

第六十六條 組合解散シタルトキハ内務大臣ハ第六十二條ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條 組合ノ設立アル事業ヲ増減セムトスルトキハ編入又ハ削除セラルヘキ事業ノ事業主ノ全部及其ノ事業ニ使用セラルル被保險者ノ二分ノ一以上ノ同意アルコトヲ要ス
編入又ハ削除セラルヘキ事業ニ以上アル場合ニ於テハ前項ノ被保險者ノ

第五節 組合ノ分合解散

第五十六條 組合合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ關係アル組合ノ組合會ニ於テ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ規約ノ變更ヲ要スルトキハ前項ノ議決ト共ニ之ヲ議決スヘシ
第五十七條 組合ノ分割ハ組合ノ設立アル事業ノ一部ニ付之ヲ爲スコトヲ得

一事業ニ於テ作業ノ場所二以上アル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ内務大臣ハ其ノ一又ハ二以上ノ場所ニ於ケル作業ヲ一事業ト看做スコトヲ得

第五十八條 分割ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後存続スル組合又ハ分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第五十九條 合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ事業主之ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 合併後存続スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存続スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

同意ハ各事業ニ付之ヲ得ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ於テ被保險者トアルハ健康保險法第十四條第一項ノ規定ニ依リ認可ノ申請ト同時ニ事業編入ニ關スル規約變更ノ認可ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ被保險者ト爲ルヘキ者トス

第六十八條 第五十七條ノ規定ハ前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 事業ノ削除ヲ爲ス場合ニ於テハ削除後ニ於テモ組合ノ被保險者タル組合員ノ員數ハ常時三百人以上タルヘキコトヲ要ス

第七十條 組合カ第六十七條ノ同意ヲ求ムトスルトキハ事業ノ編入ノ場合ニ在リテハ第十一條各號ニ掲ケル事項ヲ記載シタル書面ヲ、事業ノ削除ノ場合ニ在リテハ削除ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ編入又ハ削除ニ因リ組合員タル資格ヲ取得又ハ喪失スヘキ者ノ全部ニ送付スヘシ

第六節 組合ノ監督

第七十一條 内務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

組合會解散ノ場合ニ於テハ一月以内ニ議員ノ選定及選舉ヲ爲スヘシ

第七十二條 健康保險法第三十九條ノ規定ニ依リ解散セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得

第七十三條 第二十三條第三項、第三十九條、第四十五條第一項、第四十九條、第五十一條、第五十三條第四項、第五十四條及第五十五條ニ於テ監督官廳トアルハ社會局長官トス

第四章 保險給付

第七十四條 健康保險法第四十三條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
- 三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 看護

五 被保險者ノ移送
前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他被保險者必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス
第一項第四號及第五號ノ給付ハ被保險者必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第七十五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得但シ健康保險法第四十三條第三項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス
被保險者前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シタルトキハ保險者ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ被保險者ハ保險者ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコトヲ得
第七十七條 左ノ場合ニ於テハ健康保險法第四十四條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得
一 保險者ニ於テ療養費ヲ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
二 被保險者カ保險者ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ
三 被保險者カ緊急ノ場合ニ於テ保險者ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ被保險者ノ申請アリタルトキ

第八十四條 被保險者タリシ期間ノ割合ニ應ジテ之ヲ算定ス
第八十五條 疾病ニ罹リ、負傷シ又ハ分娩シタル場合ニ於テ繼續シテ報酬ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間傷病手當金又ハ出産手當金ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ報酬ノ額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第八十六條 前條ニ掲クル者其ノ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ全部又ハ一部ニ付其ノ全額ヲ受クルコト能ハサリシトキハ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全額、其ノ一部ヲ受クルコト能ハサリシ場合ニ於テ受ケタル額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ額ト傷病手當金又ハ出産手當金トノ差額ヲ支給ス但シ前條但書ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ一部ヲ受ケタルトキハ其ノ額ヲ支給額ヨリ控除ス

第八十七條 健康保險法第六十二條第二項ニ掲クル者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス
第八十八條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテハ保險者ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メ其ノ者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ決定ハ保險者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタルトキ遲滞ナク之ヲ爲シ本

キ

健康保險組合ハ前項各號ノ外規約ヲ以テ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得ル場合ヲ定ムルコトヲ得
第七十八條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ保險者之ヲ定ム
第七十九條 病院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス
一 主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合
標準報酬日額ノ百分ノ二十
二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合
標準報酬日額ノ百分ノ四十
三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合
標準報酬日額ノ百分ノ六十

第八十條 出産手當金ハ被保險者カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシ期間之ヲ支給ス
分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ保險者ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得
第八十一條 産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル被保險者ニ對シテ支給スヘキ分娩費ノ額ハ十圓トス
産院ニ收容シタル被保險者ニ對シテ支給スル出産手當金ニ付テハ第七十九條ノ規定ヲ準用ス

第八十二條 分娩ニ關スル保險給付ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上被保險者タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十日以上被保險者タリシ者ニ對シテハ分娩費ヲ支給シ又ハ助産ノ手當ヲ爲ス
第八十三條 分娩ノ前後ニ保險者ニ變更アリタル場合ニ於テ各保險者ノ分

人ニ通知スヘシ
被保險者業務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ヲ支給ス
前項ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス

第八十九條 傷病手當金及出産手當金ハ少クトモ毎月二回一定ノ期日ニ之ヲ支給スヘシ但シ毎月一回報酬ノ支拂ヲ受クル被保險者ニ付テハ毎月一回其ノ報酬支拂ノ日ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得
療養費、埋葬料及分娩費ハ其ノ都度之ヲ支給スヘシ健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ニ付亦同シ

第九十條 健康保險組合ニ對シテ交付スル國庫負擔金ニ付テハ概算拂ヲ爲スコトヲ得
前項ノ概算拂ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ムヘシ

第九十一條 健康保險法第七十條第一項ノ規定ニ依ル國庫負擔金算定ノ基礎タル保險給付ニ要スル費用ノ額ハ療養ノ給付、産院收容及助産ノ手當ニ直接要シタル金額並傷病手當金、出産手當金、分娩費、埋葬料、療養費及健康保險法第四十九條第二項又ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給額ノ合算額トシ毎年度之ヲ計算ス但シ同法第四十八條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ニ直接要シタル金額及同法第五十九條第一項ノ規定ニ依リ傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給額ハ之ヲ算入セス

前項ノ療養ノ給付、産院收容又ハ助産ノ手當ニ要シタル器具、機械、建築物其ノ他ノ施設ニシテ其ノ效用二年以上ニ互ルモノニ付テハ之ニ要シタ

ル費用ヲ其ノ施設ノ豫定使用年數ニ應シ各年均等ニ分割シテ之ヲ計算ス
第九十二條 健康保險法第七十條第二項ニ規定スル被保險者ノ員數ハ其ノ
年度内ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ總數ノ平均數トス

第九十三條 健康保險組合ニ對スル國庫負擔金ノ總額カ被保險者一人ニ付
一年平均二圓ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ各健康保險組合ニ對スル國庫負
擔金ノ額ハ健康保險法第七十條第二項ノ國庫負擔金ノ總額ノ限度ニ於テ
各健康保險組合ノ保險給付ニ要スル費用ノ額ニ應シ内務大臣之ヲ定ム
第九十四條 保險料額ハ一日ニ付各被保險者ノ標準報酬日額ニ保險料率ヲ
乘シテ得タル額トス

第九十五條 保險料率ハ保險者之ヲ定ム

保險料率ハ各被保險者ニ付同一ナルコトヲ要ス但シ性質上事故多キ業務
ニ使用セラルル被保險者ニ付テハ其ノ業務ノ種類ニ從ヒ異ナル保險料率
ヲ定ムルコトヲ得

第九十六條 性質上事故多キ業務ニ使用セラルル被保險者ニ關スル保險料
ニ付テハ内務大臣ハ事業主ノ負擔スヘキ割合ヲ保險料額ノ三分ノ二迄増
加スルコトヲ得

第九十七條 第五條ノ規定ニ依リ算定シタル報酬日額五十五錢未満ノ報酬
ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付テハ事業主ノ負擔額ハ報酬日額五
十五錢以上六十五錢未満ノ報酬ヲ受クル被保險者ニ關スル保險料ニ付事
業主ノ負擔スヘキ額ト同額トス但シ其ノ額カ保險料ノ全額ヲ超過スル場
合ニ於テハ事業主ノ負擔額ハ保險料ノ全額トス

第九十八條 事業主ハ被保險者ニ對シ金錢ヲ以テ報酬ヲ支拂フ場合ニ於テ
ハ被保險者ノ負擔スヘキ前月分ノ保險料ヲ報酬ヨリ控除スルコトヲ得
事業主ハ被保險者カ其ノ事業ニ使用セラレサルニ至リタルトキニ限り前

項ノ規定ニ拘ラス報酬支拂ノ際ニ於テ被保險者ノ負擔スヘキ前月分及其
ノ月分ノ保險料ヲ控除スルコトヲ得

第九十九條 事業主ハ保險料ノ控除ニ關スル計算書ヲ作製シ被保險者ノ請
求ニ應シテ閱覽セシムヘシ

第一百條 毎月ノ保險料ハ翌月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ
保險者保險料納入ノ告知ヲ爲シタル後ニ於テ告知シタル保險料額ガ當該
納付義務者ノ納付スベキ保險料額ヲ超過スルコトヲ知リタルトキハ其ノ
超過部分ニ對スル納入ノ告知ハ其ノ告知ヲ爲シタル後六月以内ノ期日ニ
於テ納付セラルベキ保險料ニ對シ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ納入ノ告知ヲ爲シタルモノト看做シタルトキハ保險者
ハ其ノ旨ヲ當該納付義務者ニ通知スベシ

第一百一條 健康保險組合ハ第九十八條又ハ前條ノ規定ニ拘ラス規約ヲ以テ
別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第一百二條 保險料納付義務者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ納期前ト
雖モ保險料ハ總テ之ヲ徵收スルコトヲ得

一 國稅、府縣稅其ノ他ノ公課ノ滞納ニ因リ滞納處分ヲ受タルトキ

二 被保險者ノ使用セラルル工場又ハ事業場ヲ廢止シタルトキ

三 強制執行ヲ受タルトキ

四 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

五 競賣ノ開始アリタルトキ

六 法人ガ解散ヲ爲シタルトキ

第六節 審査ノ請求及訴願

第一百二條 健康保險審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ健康保險法第八十條及

第八十二條ノ審査ヲ爲ス

第一百三條 健康保險審査會ハ第一次健康保險審査會、第二次健康保險審査
會及第三次健康保險審査會トス

健康保險審査會ノ名稱、位置及管轄區域ハ内務大臣之ヲ定ム

第一百四條 健康保險審査會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第一百五條 第一次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ第六條
第一項第一號ノ委員中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二次健康保險審査會ノ會長ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内務部内ノ高等官
中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第三次健康保險審査會ノ會長ハ社會局長官ヲ以テ之ニ充ツ

第一百六條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 二人又ハ三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 二人又ハ三人

三 被保險者 二人又ハ三人

第二次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 三人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 三人

三 被保險者 三人

第三次健康保險審査會ノ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 官吏、公吏又ハ學識經驗アル者 五人

二 被保險者ヲ使用スル事業主 五人

三 被保險者 五人

前三項ニ於テ被保險者ヲ使用スル事業主トアルハ事業主ガ國又ハ公共團
體ナル場合ニ於テハ關係官吏又ハ公吏、其ノ他ノ法人ナル場合ニ於テハ

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行令

業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ支配人トス

第一項ノ委員ニ付テハ同項各號ニ該當スル者各同數タルコトヲ要ス

第一百七條 道廳又ハ府縣(東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同ジ)ノ官吏ニ
シテ主トシテ健康保險ノ事務ニ從事スル者ハ健康保險審査會ノ委員タル
コトヲ得ズ

健康保險審査會ノ委員ハ他ノ健康保險審査會ノ委員ヲ兼スルコトヲ得ス
第一百八條 第一次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣之ヲ命シ第二次健康保
險審査會及第三次健康保險審査會ノ委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ
於テ之ヲ命ス

第一百九條 委員ノ任期ハ官吏又ハ公吏トシテ委員タル者ヲ除クノ外三年ト
ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第一百十條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第一百十一條 健康保險審査會ニ幹事ヲ置ク
第一次健康保險審査會ノ幹事ハ道廳又ハ府縣ノ官吏中ヨリ内務大臣之ヲ
命シ第二次健康保險審査會及第三次健康保險審査會ノ幹事ハ内務大臣ノ
奏請ニ依リ内務部内ノ高等官中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第一百十二條 健康保險審査會ニ書記ヲ置ク

第一次健康保險審査會ノ書記ハ道廳又ハ府縣ノ判任官中ヨリ地方長官
(東京府ニ在リテハ警視廳)之ヲ命シ第二次健康保險審査會及第三次健
康保險審査會ノ書記ハ社會局長ノ判任官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二節 健康保險審査會ノ審査手續

第二節 健康保險審査會ノ審査手續

第一百三十三條 審査ハ保險給付ニ關スル決定又ハ保險料其ノ他健康保險法ノ

規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分ヲ爲シタル保險官署又ハ健康保

險組合ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル健康保險審査會ニ於テ之ヲ爲ス

第一百十四條 審査ハ委員定數ノ半數以上出席シ且第六條第一項乃至第三

項各號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同

一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一百五十五條 審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ

議長ノ決スル所ニ依ル

第一百十六條 審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭

審問ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ

已ムコトヲ得サル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法

定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命

令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第一百十七條 審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲ス

ヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノ

ナルトキハ健康保險審査會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ之ヲ所轄健

康保險審査會ニ移送スヘシ

審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ健康保險審査會之ヲ補正

セシムヘシ

第一百十八條 審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定

ニ拘ラス傍聽ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第一百十九條 保險官署ノ職員其ノ他關係官吏ハ健康保險審査會ノ請求ニ依

リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第一百二十條 事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付

先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第一百二十一條 審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第一百二十二條 審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ

於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第一百二十三條 本節ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ內務大

臣之ヲ定ム

第三節 雜則

第一百二十四條 削除

第一百二十五條 健康保險法第八十一條ノ規定ニ依ル訴訟ニ關シテハ健康保

險組合ヲ訴訟法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ保險給付及費用ノ負擔ニ關

スル規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際ニ限リ第四條第一項但書中資格ヲ取得シタル日ノ現在トアル

ハ大正十五年十一月一日ノ現在トス但シ大正十五年十一月二日以後ニ於テ

被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

政府ノ事業ニ使用セラルル官吏又ハ待遇官吏ニ付テハ當分ノ內內務大臣ハ

之ヲ健康保險ノ被保險者ト爲ササルコトヲ得

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

內閣印刷局共濟組合

○內務省告示第六十一號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

土木事業従業員共濟組合

○內務省告示第六十二號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

專賣局共濟組合

○內務省告示第六十三號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

陸軍共濟組合

○內務省告示第六十五號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

海軍共濟組合

○內務省告示第六十六號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

林野現業員共濟組合

○內務省告示第六十七號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

製鐵所共濟組合

○內務省告示第六十八號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

遞信部內職員共濟組合

○內務省告示第六十九號 (昭和二年一月十四日)

昭和元年十二月三十日左ノ共濟組合ヲ健康保險法施行令第七條ノ共濟組合ニ指定シタリ

國有鐵道共濟組合

○健康保險法施行規則

大正十五年七月一日 內務省令第三十六號

改正 昭和二年第四〇號、三年第一二號、四年第一八號、第二九號、九年第三九號、一〇年第二九號

第一章 總則

第一條 政府ノ管掌スル保險ハ健康保險法第十三條又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ於テ、同法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ニ付テハ其ノ被保險者ノ住所地方ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ於テ之ヲ掌ル

第二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル場合ニ於テ被保險者ニ以上アルトキ又ハ其ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ其ノ被保險者ハ其ノ保險ヲ掌ルベキ地方長官又ハ健康保險組合ヲ定メ其ノ旨ヲ其ノ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ
地方長官又ハ健康保險組合前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ關係アル地方長官又ハ健康保險組合ニ之ヲ通知スベシ

第三條 事業主ハ毎年六月一日現在ニ依リ被保險者ノ報酬日額算定ノ基礎ヲ様式第一號ニ依リ同月十日迄ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

第四條 被保險者ノ報酬ニ著シキ増減アリタルトキハ事業主ハ様式第一號ニ準シ遅滞ナク其ノ旨ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ
第五條 前二條、第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依ル届出アリタルト

キハ地方長官又ハ健康保險組合ハ被保險者ノ標準報酬ヲ決定シ遅滞ナク之ヲ事業主ニ通知スベシ標準報酬ヲ變更シタルトキ亦同シ
事業主前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク之ヲ被保險者ニ告知スベシ
第六條 保險官署ノ官吏又ハ吏員保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢スル場合ニ於テハ様式第二號ニ依ル臨檢證ヲ携帶スベシ

第六條ノ二 健康保險法施行令第五條ノ二ノ規定ニ依リ發スル督促狀ハ様式第二號ノ二ニ依ル
第六條ノ三 廳府縣ノ官吏滯納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テ示スベキ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證據ハ様式第二號ノ三ニ依ル

第六條ノ四 健康保險法第十一條ノ四ノ規定ニ依ル公告ハ道府縣廳(東京府ニ在リテハ警視廳以下之ニ同シ)、廳府縣健康保險出張所又ハ健康保險組合ノ事務所ニ之ヲ爲スベシ
第七條 健康保險法施行令第九十九條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所毎ニ之ヲ備フベシ

一 被保險者ノ氏名
二 控除シタル保險料ノ金額
三 控除シタル年月日
第八條 事業主ハ保險ニ關スル書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ二年間保存スベシ
第八條ノ二 第三條、第四條、第五條第二項、第十條、第十一條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十三條第三項及第五項、第二十三條ノ二第一項及第二項、第四十五條第四項、第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項、第六十二條第二項及第六十四條ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スベキ事項ニ付テハ事業主ハ豫メ代理人

ヲ選任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業主代理人ヲ選任シタルトキハ地方長官又ハ健康保險組合ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

第八條ノ三 事業主又ハ被保險者ガ地方長官又ハ健康保險組合ニ對シ届出、申請又ハ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ様式ノ定アルモノヲ除キ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ届書、申請書又ハ請求書ニ添附スベキ書類ハ届出、申請又ハ請求ノ際之ヲ提出スベシ但シ保險者ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

口頭ヲ以テ届出、申請又ハ請求シタル者アル場合ニ於テ地方長官又ハ健康保險組合必要アリト認ムルトキハ其ノ届出、申請又ハ請求ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名調印セシムベシ

第九條 保險者ニ於テ被保險者ノ健康ヲ保持スル爲メ爲スコトヲ得ル施設左ノ如シ
一 保健ニ關スル宣傳
二 傷病ノ豫防ニ關スル施設
三 健康診斷ニ關スル施設
四 保養ニ關スル施設
五 前各號ニ掲グルモノノ外保險者ニ於テ必要アリト認ムル施設

第二章 被保險者
第十條 被保險者ノ資格ヲ取得シタル者アルトキハ事業主ハ様式第四號ニ依リ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ
被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ事業主ハ様式第五號ニ依リ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

第十一條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者カ同法第十三條若ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキハ事業主ハ様式第四號ニ準シ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

第十二條 被保險者同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルルトキハ其ノ各業務ニ付左ニ掲グル事項ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ
一 事業主ノ氏名及住所
二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱及所在地

第十三條 健康保險法第十四條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添付スベシ
一 事業ノ名稱及種類
二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱及所在地

三 被保險者ト爲ルベキ者ノ員數
健康保險法第十四條第一項ノ認可ノ申請ト同時ニ其ノ事業ニ付健康保險組合ノ設立又ハ事業ノ編入ニ關スル規約變更ノ認可申請アル場合ニ於テハ前項ノ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スベシ

第十四條 健康保險法第十九條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シ同條第二項ノ規定ニ依ル同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類ヲ添付スベシ
一 事業ノ名稱及種類
二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱、所在地及被保險者證ノ記號

一六二五

三 被保險者ノ員數

四 組合ノ設立アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ名稱及所在地並其ノ組合カ解散スヘキモノナルトキハ其ノ旨

第十五條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スベシ

一 住所

二 資格喪失ノ年月日

三 資格喪失ノ際使用セラレタル工場、事業場又ハ事業ノ名稱及被保險者證ノ記號

四 資格喪失後繼續シテ保險給付ヲ受ケタル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル年月日

五 健康保險法施行令第十條ノ期限經過後申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由

六 資格喪失ノ際屬シタル廳府縣(廳府縣健康保險出張所ノ分掌ニ屬シタルトキハ其ノ出張所)又ハ健康保險組合ノ名稱

第十六條 健康保險法第二十一條ノ規定ニ依リ猶豫期間ハ健康保險法施行令第一百條ニ規定スル納付期日經過後十日トス

第十七條 被保險者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

一 被保險者ノ氏名

二 被保險者證ノ記號及番號

三 該當ノ事實及該當シ又ハ該當セザルニ至リタル年月日

健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者又ハ被保險者ノ資格喪失後保

險給付ヲ受クル者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當シ又ハ該當セザルニ至リタルトキハ其ノ者ニ於テ前項ノ例ニ依リ之ヲ届出ツベシ

第十八條 事業主ニ變更アリタルトキハ事業主及事業主タリシ者連署ヲ以テ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

一 事業ノ種類及新舊名稱

二 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ所在地及被保險者證ノ記號

三 變更ノ年月日及事由

四 事業主及事業主タリシ者ノ氏名及住所

事業ノ一部ニ付事業主ノ變更アリタル場合ニ於テハ前項各號ノ外被保險者ノ氏名並被保險者證ノ記號及番號ヲ届出ツベシ

第十九條 健康保險法第十三條ノ工場又ハ事業場同條ノ規定ニ該當セザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

一 工場又ハ事業ノ名稱

二 被保險者證ノ記號

三 該當セザルニ至リタル年月日及事由

第二十條 左ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ事業主ハ變更ノ事項及年月日ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

一 事業ノ名稱又ハ種類

二 事業主ノ氏名又ハ住所

三 工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所ノ名稱、所在地又ハ種類

四 被保險者ノ氏名

第二十條ノ二 事業主被保險者ノ勤務スル工場、事業場又ハ事務所ヲ變更シタルトキハ左ニ掲クル事項ヲ五日以内ニ變更後ノ工場、事業場又ハ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

一 被保險者證ノ記號及番號

二 變更前ノ工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地

三 變更後ノ工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地

四 變更シタル年月日

五 報酬ニ異動アリタルトキハ其ノ内容(様式第四號「報酬日額算定基礎」欄ノ記載ニ準ズ)

第二十三條ノ二ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ場合ニ於テ被保險者ノ變更アリタルトキハ届出ヲ受ケタル被保險者ハ從前ノ被保險者ニ對シ被保險者ノ勤務ノ場所ニ變更アリタル旨及變更ノ年月日ヲ通知スベシ此ノ場合ニハ返納アリタル被保險者證ヲ添付スベシ

第二十一條 健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ變更ノ事項及年月日ヲ五日以内ニ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

被保險者道府縣ニ涉リ住所ヲ變更シタルトキハ前項ノ届出ハ各地方長官ニ對シ之ヲ爲スベシ

第二十二條 第十條第一項又ハ第十一條ノ規定ニ依リ届出アリタルトキハ地方長官又ハ健康保險組合ハ其ノ被保險者ノ被保險者證ノ記號及番號ヲ遅滞ナク事業主ニ通知スヘシ其ノ記號及番號ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十三條 地方長官又ハ健康保險組合ハ様式第六號ニ依リ被保險者證ヲ被保險者ニ交付スヘシ

地方長官又ハ健康保險組合被保險者證ヲ交付セントスルトキハ之ヲ被保

險者ヲ使用スル事業主ニ送付スベシ但シ被保險者健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ナル場合ニ於テハ之ヲ被保險者ニ送付スベシ

前項ノ規定ニ依リ被保險者證ノ送付アリタルトキハ事業主ハ遅滞ナク之ヲ被保險者ニ交付スベシ

被保險者證ノ第一面ノ記載事項ニ變更アリタルトキハ其ノ改訂ヲ受ケタル爲被保險者ハ遅滞ナク之ヲ事業主ニ提出スベシ

前項ノ規定ニ依リ被保險者證ノ提出アリタルトキハ事業主ハ遅滞ナク其ノ改訂ヲ爲シ被保險者ニ返付スベシ

健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者(健康保險組合ニ屬スル者ヲ除ク)道府縣ニ涉リ住所ヲ變更シタルトキハ遅滞ナク被保險者證ヲ地方長官ニ提出シテ其ノ改訂ヲ受ケベシ

被保險者證ヲ滅失若ハ毀損シタルトキ又ハ被保險者證ニ餘白ナキニ至リタルトキハ被保險者ハ遅滞ナク被保險者證ヲ添付(滅失ノ場合ヲ除ク)其ノ旨ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ届出ツベシ

第二十三條ノ二 被保險者其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ被保險者ニ變更アリタルトキハ事業主ハ遅滞ナク被保險者證ヲ回收シ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ送付スベシ但シ被保險者健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者タル場合ニ於テハ其ノ者ニ於テ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ

被保險者ノ資格喪失ニ因リ事業主ノ返納スベキ被保險者證ハ之ヲ資格喪失届ニ添付スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ資格喪失届ニ附記スベシ

被保險者(健康保險法第二十條ノ規定ニ依リ被保險者ヲ除ク)其ノ資格ヲ喪失シタルトキ又ハ其ノ被保險者ニ變更アリタルトキハ其ノ被保險者證ヲ

五日以内ニ事業主ニ提出スベシ但シ資格喪失後引續キ保險給付ヲ受クル者ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ
被保險者ノ資格喪失後引續キ保險給付ヲ受クル者ハ第一項ノ規定ニ拘ラズ其ノ給付ヲ受ケザルニ至リタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ

第一項ノ資格喪失ノ原因死亡ナルトキ又ハ第三項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ提出スベキ者若ハ前項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返納スベキ者死亡シタルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クベキ者ニ於テ其ノ請求ノ際被保險者證ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ返納スベシ

第三章 健康保險組合

第二十四條 健康保險組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ但シ健康保險法第三十二條ノ規定ニ依リ組合設立ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第五號及第六號ノ書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス

- 一 規約
- 二 事業計畫書
- 三 保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面
- 四 初年度ノ收入支出ノ豫算
- 五 健康保險法施行令第十一條ノ書面ノ寫(被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト)
- 六 組合ノ設立ニ付健康保險法第二十九條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類
- 第二十五條 健康保險法又ハ之ニ基ク命令ノ規定ニ依リ組合ニ於テ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項カ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ申請書

請ニ之ヲ準用ス

第二十八條 組合解散ノ認可申請書ニハ解散スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル財産目錄ヲ添付スヘシ

第二十九條 被保險者タル組合員當時ナキニ至リタル爲組合解散シタルトキハ其ノ事由、組合ノ名稱及解散ノ年月日ヲ理事タリシ者ニ於テ遲滞ナク内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届書ニハ解散ノ日ノ現在ニ依リ調製シタル財産目錄ヲ添付スヘシ
第三十條 組合ノ設立アル事業ノ編入又ハ削除ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ

- 一 規約變更後ニ於ケル事業計畫書
- 二 健康保險法施行令第七十條ノ書面ノ寫(被保險者ニ送付ノ年月日ヲ記載スルコト)
- 三 事業ノ編入又ハ削除ニ付健康保險法施行令第六十七條第一項ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類
- 第三十一條 組合合併又ハ分割シタル場合ニ於テハ理事又ハ理事タリシ者ハ其ノ組合員タリシ被保險者ノ保險ヲ管掌スル組合ノ理事ニ對シ遲滞ナク其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ
- 事務引繼完了シタルトキハ引繼ヲ爲シタル者及引繼ヲ受ケタル者連署ノ上完了ノ日ヨリ五日以内ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第三十二條 前條ノ規定ハ組合解散シタル場合及組合其ノ組合ノ設立アル事業ヲ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三十三條 組合會ノ會議録ニハ議長及出席議員二人以上之ニ署名スヘシ
- 第三十四條 收入支出ノ豫算ハ様式第七號ニ依リ之ヲ調製シ毎年二月末日

ニ其ノ會議録ノ寫ヲ添付スヘシ
認可申請ヲ爲スヘキ事項カ健康保險法施行令第四十條ノ規定ニ依リ理事專決シタルモノナルトキハ申請書ニ專決ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

第二十六條 組合合併ノ認可申請書ニハ合併スル各組合ノ名稱及被保險者ノ員數並合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立スル組合ノ名稱ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ

- 一 合併後ニ於ケル事業計畫書
- 二 認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル各組合ノ財産目錄
- 三 合併ニ因リテ成立スル組合アル場合ニ於テハ其ノ組合ノ規約、保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面並初年度ノ收入支出ノ豫算
- 合併後存續スル組合アル場合ニ於テハ合併ニ伴フ規約變更ノ認可申請ハ合併ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第二十七條 組合分割ノ認可申請書ニハ分割スル組合、分割後存續スル組合及分割ニ因リテ成立スル組合ノ名稱及被保險者ノ員數ヲ記載シ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ

- 一 分割後ニ於ケル各組合ノ事業計畫書
- 二 認可申請前一月以内ノ現在ニ於テ調製シタル分割スル組合ノ財産目錄
- 三 分割ニ因リテ成立スル組合ノ承繼スル權利義務ノ限度ヲ示シタル書面
- 四 分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約、保險料率及其ノ計算ノ基礎ヲ示シタル書面並初年度ノ收入支出ノ豫算

迄ニ認可申請ヲ爲スヘシ

第三十五條 保險料率ノ認可申請書ニハ計算ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添付スヘシ
第三十六條 決算ハ様式第七號ニ依リ、事業報告ハ様式第八號ニ依リ之ヲ調製シ年度經過後四月以内ニ組合會ノ認定ニ付スベシ

決算及事業報告ハ組合會ノ認定ヲ經タル後遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
前二項ノ規定ニ依リ事業報告ヲ組合會ノ認定ニ付シ又ハ地方長官ニ届出ツル場合ニ於テハ之ニ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目錄ヲ添付スヘシ

第三十七條 財産目錄ハ様式第九號ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第三十八條 組合ハ事業報告ニ付組合會ノ認定ヲ經タルトキハ年度末現在ニ依リ調製シタル財産目錄ト共ニ之ヲ公示スヘシ

第三十九條 削除
第四十條 組合ハ様式第十號ニ依リ毎月ノ事業狀況ヲ翌月十五日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

第四十一條 組合原簿ハ様式第十一號ニ依リ之ヲ調製スヘシ
第四十二條 組合ハ被保險者臺帳、歳入簿、歳出簿及現金出納簿ヲ備フヘシ

前項ノ帳簿ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
第四十三條 組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムヘシ

第四十四條 理事長就職、退職又ハ死亡シタルトキハ組合ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ

第四章 保險給付

第四十五條 被保險者療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師(以下保險醫ト稱ス)ニ之ヲ申出ツヘシ
前項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テハ被保險者ハ被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク被保險者證ヲ其ノ保險醫ニ提出スヘシ

第一項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テ疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ提出スヘシ
健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依リ繼續シテ療養ノ給付ヲ受ケルコトヲ得ル者療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ給付ヲ受ケルコトヲ得ルモノナルコトヲ保險者ニ於テ承認シタル書面ヲ提示シテ之ヲ保險醫ニ申出ツヘシ

第四十六條 保險醫被保險者ニ對シ療養ヲ爲ササルニ至リタルトキハ遲滞ナク被保險者證ヲ被保險者ニ返還スヘシ但シ其ノ被保險者死亡シタルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受クヘキ者ニ之ヲ返還スヘシ
保險醫前項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返還スルトキハ被保險者證ノ第二面ニ掲クル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ保險醫第四十七條第一項ノ規定ニ依リ療養證明書ヲ交付シタルモノナルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラス其ノ療養證明書ヲ全部返納アリタルトキ被保險者證ヲ返還スヘシ但シ保險醫變更ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 保險醫ノ療養ヲ受ケル被保險者同時ニ他ノ保險醫ニ就キ療養

康保險組合ニ届出ツヘシ

第五十三條 被保險者健康保險法施行令第七十七條第一項第一號ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ受ケムトスルトキハ左ニ掲クル事項ヲ届出ツヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
- 三 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
- 四 疾病又ハ負傷ノ經過
- 五 療養ノ給付ヲ受ケルコト困難ナル事由
- 五ノ二 被保險者醫師又ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ醫師又ハ齒科醫師ノ氏名及住所並診療ノ内容、期間及之ニ要シタル費用ノ額
- 六 疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨)

疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ前項ノ届書ニ添附スヘシ
被保險者特別ノ事情ニ因リ前項ノ證明書ヲ受ケルコトヲ得サルトキハ届書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

被保險者醫師又ハ齒科醫師ニ就キ診療ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證書類ヲ第一項ノ届書ニ添附スヘシ
第一項ノ届書ニハ被保險者證ヲ添附スベシ

地方長官又ハ健康保險組合ハ被保險者證ノ第二面ニ掲グル事項ヲ被保險者證ニ記載シ之ヲ被保險者ニ返付スベシ

第五十四條 健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ承認ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

ヲ受ケルノ必要アルトキハ被保險者證ヲ保管スル保險醫ニ就キ様式第三號ニ依リ療養證明書ヲ交付ヲ受クヘシ
三號ニ依リ療養證明書ハ之ヲ被保險者證ト看做シ前二條ノ規定ヲ適用ス
前項ノ療養證明書ハ之ヲ被保險者證ト看做シ前二條ノ規定ヲ適用ス
被保險者保險醫ヨリ療養證明書ヲ返還ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付シタル保險醫(保險醫變更ノ場合ニ於テハ變更後ノ保險醫)ニ遲滞ナク返納スヘシ

第四十八條 被保險者保險醫變更ノ爲被保險者證又ハ療養證明書ヲ返還ヲ受ケムトスルトキハ保險醫變更ニ付地方長官又ハ健康保險組合ノ承認アリタルコトヲ證明スル書面ヲ當該保險醫ニ提示スヘシ

第四十九條 被保險者ノ療養ノ爲必要アリト認ムルトキハ保險醫ハ地方長官又ハ健康保險組合ノ承認ヲ受ケ他ノ保險醫ノ診療ヲ求ムルコトヲ得緊急ノ必要アリト認ムルトキハ保險醫ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ他ノ保險醫ノ診療ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ診療後遲滞ナク其ノ事由ヲ地方長官又ハ健康保險組合ニ報告スヘシ

第五十條 保險醫被保險者ヨリ處方箋ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
被保險者ニ對シ處方箋ヲ交付スル場合ニ於テハ保險醫ハ様式第十四號ニ依リ之ヲ作製スベシ

第五十一條 被保險者前條ノ規定ニ依ル處方箋ニ依リ藥劑ヲ支給ヲ受ケントスルトキハ保險者ノ指定シタル藥劑師(以上保險藥劑師ト稱ス)ニ之ヲ提出スベシ

第五十二條 療養ノ給付ヲ受ケル疾病又ハ負傷カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ其ノ事實、第三者ノ氏名及住所(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨)並疾病又ハ負傷ノ狀況ヲ遲滞ナク地方長官又ハ健

(古四)

一 前條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲クル事項

二 診療ヲ受ケムトスル醫師又ハ齒科醫師ノ氏名及住所並其ノ診療ヲ受ケムトスル事由

第五十五條 健康保險法施行令第七十七條第一項第二號ノ療養費支給ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 診療ノ内容及期間
- 三 診療ニ要シタル費用ノ額
- 四 診療ヲ受ケサルニ至リタルトキハ其ノ事由
- 前項ノ申請書ニハ診療ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證書類ヲ添附スヘシ

第五十三條第五項及第六項ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條 健康保險法施行令第七十七條第一項第三號ノ療養費支給ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 第五十三條第一項第一號乃至第四號及第六號ニ掲クル事項
- 二 手當ヲ受ケタル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ氏名及住所
- 三 手當ノ内容及期間
- 四 手當ニ要シタル費用ノ額
- 五 緊急ナリシコトノ事由
- 第五十三條第二項、第五項及第六項並前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十六條ノ二 被保險者健康保險法施行令第七十四條第一項第三號(一回ノ費用二十圓ヲ超スル場合ニ限ル)乃至第五號ノ給付ヲ受ケ又ハ病院

ニ入院セムトスルトキハ第五十三條第一項第一號乃至第三號ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遅滞ナク申請書記載事項及已ムヲ得サル事由ヲ記載シタル届書ヲ提出スヘシ
前項ノ申請書又ハ届書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添付スヘシ

一 健康保險法施行令第七十四條第一項第三號乃至第五號ノ給付又ハ入院ヲ必要ト認ムル事由
二 給付ノ内容及之ニ要スヘキ費用ノ見積額
三 病院ニ入院セムトスル場合ニ在リテハ入院ノ期間

第五十七條 傷病手當金支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
- 三 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
- 四 勞務ニ服スルコト能ハサリシ期間
- 五 傷病手當金カ健康保險法施行令第七十九條又ハ同令第八十七條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄、收容セラレタル病院、病舎又ハ療養所ノ名稱及所在地並收容セラレタル年月日及期間
- 六 傷病手當金カ健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
- 七 傷病手當金カ健康保險法施行令第八十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間並健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依リ受け

若ハ第八條ノ二ノ規定ニ依ル代理人ノ證明書ヲ添付スヘシ

- 一 死亡シタル被保險者ノ氏名並被保險者證ノ記號及番號
- 二 死亡ノ年月日及原因
- 三 死亡カ第三者ノ行爲ニ因ルモノナルトキハ其ノ事實並第三者ノ氏名及住所

(氏名又ハ住所不詳ナルトキハ其ノ旨)

- 四 被保險者ト請求者トノ續柄
- 五 死亡ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別

第六十條 健康保險法第四十九條第二項又ハ同法第五十六條第二項ノ埋葬費支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫、死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主若ハ第八條ノ二ノ規定ニ依ル代理人ノ證明書及埋葬ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證書類ヲ添付スヘシ

- 一 前條第一號乃至第三號ニ掲クル事項
- 二 埋葬ヲ行ヒタル年月日
- 三 埋葬ニ要シタル費用ノ額
- 四 死亡ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別

第六十一條 分娩費支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長、醫師又ハ產婆ニ於テ出産又ハ死産ノ事實ヲ證明シタル書類ヲ添付スヘシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 分娩ノ年月日
- 三 死産ナルトキハ其ノ旨
- 四 分娩費ガ健康保險法施行令第八十一條第一項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ收容セラレタル産院ノ名稱及所在地又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル

タル傷病手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由
前項ノ請求書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添付スヘシ

- 一 前項第四號ノ期間ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書及事業主ノ證明書
- 二 疾病又ハ負傷カ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ之ニ關スル事業主ノ證明書

療養ノ給付ヲ受クルコト困難ナル爲療養費ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ傷病手當金支給ノ請求書ニハ前項各號ノ書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス此ノ場合ニ於テハ請求書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付引續キ傷病手當金ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ請求書ニ第二項第二號ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要セス

第五十八條 健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ申請書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

- 一 被保險者ノ氏名並被保險者證ノ記號及番號
 - 二 療養ノ給付ヲ受ケムトスル期間
 - 三 療養ニ要スル費用ノ見積額
 - 四 現ニ療養ヲ受クル保險醫ノ氏名及住所
 - 五 健康保險法第四十八條第一項第一號ノ場合ニ於テハ事業主ニ於テ扶助ヲ爲スヘキ義務ノ基ク法令ノ條項
 - 六 健康保險法第四十八條第一項第二號ノ場合ニ於テハ擔保ノ種類、數量及價格又ハ費用ノ償還ニ付定メタル方法
- 第五十九條 埋葬料支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載シ市町村長ノ埋火葬認許證ノ寫、死亡診斷書ノ寫又ハ被保險者ノ死亡ニ關スル事業主

醫師若ハ產婆ノ氏名及住所

- 第六十二條 出產手當金支給ノ請求書ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ
- 一 被保險者證ノ記號及番號
- 二 分娩前ノ場合ニ於テハ分娩ノ豫定年月日、分娩後ノ場合ニ於テハ分娩アリタル年月日
- 三 勞務ニ服セザリシ期間
- 四 出產手當金カ健康保險法施行令第八十一條第二項ノ規定ニ依ルモノナルトキハ主トシテ被保險者ニ依リ生計ヲ維持スル者ノ氏名、生年月及被保險者トノ續柄、收容セラレタル産院ノ名稱及所在地並收容セラレタル年月日及期間
- 五 出產手當金カ健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依ルモノナルトキハ其ノ報酬ノ額及期間
- 六 出產手當金カ健康保險法施行令第八十六條ノ規定ニ依ルモノナルトキハ受クルコトヲ得ヘカリシ報酬ノ額及期間、受クルコト能ハサリシ報酬ノ額及期間並健康保險法施行令第八十五條但書ノ規定ニ依リ受けタル出產手當金ノ額及報酬ヲ受クルコト能ハサリシ事由

- 一 前項第三號ノ期間ニ關スル事業主ノ證明書
 - 二 分娩ノ豫定年月日ニ關スル醫師又ハ產婆ノ意見書
- 前項第二號ノ意見書ニ付テハ第五十七條第四項ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 削除

第六十四條 第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項、第五十九條乃至第六十一條及第六十二條第二項ノ規定ニ依リ醫師、齒科醫師若ハ產婆ノ意見書若ハ證明書又ハ事業主若ハ市

町村長ノ證明書ヲ添附スヘキ場合ニ於テ保險給付ノ請求書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ意見書又ハ證明書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

第六十五條 削除

第六十六條 保險給付ヲ受ケムトスル者ヨリ第四十五條第四項、第五十三條第二項、第五十四條第二項、第五十六條第二項、第五十七條第二項及第六十二條第二項ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキハ事業主ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス第六十四條ノ規定ニ依ル證明ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第六十六條ノ二 保險給付ヲ受ケムトスル者ヨリ第四十七條第一項ノ規定ニ依ル療養證明書、第五十六條ノ二第二項、第五十七條第二項若ハ第六十二條第二項ノ規定ニ依ル意見書又ハ第六十一條ノ規定ニ依ル證明書ヲ求メラレタルトキハ保險醫ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス第六十四條ノ規定ニ依ル意見又ハ證明ノ記載ヲ求メラレタルトキ亦同シ

第六十六條ノ三 地方長官又ハ健康保險組合ハ保險醫及保險藥劑師ニ就キ療養ノ給付ニ關シ帳簿書類ヲ檢閲シ、説明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

第六十七條 健康保險組合ハ其ノ管掌スル保險ノ給付ニ關スル手續ニ付第六十五條乃至第六十二條ノ規定ニ拘ラス別段ノ定メ爲スコトヲ得

第六十八條 削除

第六十九條 削除

第七十條 削除

第七十一條 本章ニ於テ被保險者トアルハ被保險者ノ資格喪失後保險給付ヲ受ケタル者ヲ含ムモノトス

各號ノ事項ヲ記載シタル審査請求書ヲ作製シ讀開カセタル上之ニ記名調印セシメ證據書類アルトキハ之ヲ提出セシムヘシ

前項ノ審査請求書ニハ之ヲ作製シタル書記署名捺印スヘシ

第七十五條 健康保險審査會審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ健康保險組合ニ對シ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ヲ送付シタル地方長官又ハ健康保險組合前項ノ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ答辯書及證據書類ヲ當該健康保險審査會ニ提出スヘシ

第七十六條 健康保險審査會必要アリト認ムルトキハ期限ヲ指定シテ當事者交互ニ辯駁書及答辯書ヲ提出セシムルコトヲ得

第七十七條 審査ノ決定書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 審査請求人ノ氏名、住所及生年月
- 二 保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ健康保險組合ノ名稱
- 三 決定主文
- 四 決定ノ理由
- 五 年月日

前項ノ決定書ノ原本ニハ會長署名捺印スヘシ

第七十八條 健康保險審査會ハ前條ノ決定書ノ原本ニ基キ正本副本各一通ヲ作製シ健康保險審査會ノ印ヲ押捺シテ遲滞ナク正本ハ之ヲ審査請求人ニ交付シ副本ハ之ヲ關係アル地方長官又ハ健康保險組合ニ送付スヘシ

審査請求人ニ對シ決定書ヲ交付スルコトヲ得サルトキハ健康保險審査會ハ其ノ決定書ヲ揭示板ニ揭示スヘシ

前項ノ揭示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ決定書ノ交付アリタルモ

第五章 健康保險法第八十條ノ審査手續

第七十二條 審査ノ請求ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ第一次健康保險審査會ニ對スル審査ノ請求ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十三條 文書ヲ以テ審査ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ審査請求書ニ記名調印シ證據書類アルトキハ之ヲ添附シ當該健康保險審査會ニ提出スヘシ

- 一 第一次健康保險審査會ニ對スル審査請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 審査請求人ノ氏名、住所及生年月並審査請求人被保險者又ハ被保險者タリシ者ニ非サルトキハ其ノ職業及被保險者又ハ被保險者タリシ者トノ關係
 - 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名並保險事故發生ノ際其ノ使用セラレタル工場、事業場又ハ事務所ノ名稱及所在地
 - 三 保險給付ニ關スル處分ヲ爲シタル地方長官又ハ健康保險組合ノ名稱
 - 四 保險給付ニ關スル處分ノ通知ヲ受ケタル年月日
 - 五 請求ノ事件及一定ノ申立
 - 六 請求ノ理由
 - 七 立證
- 八 年月日

第二次健康保險審査會ニ對スル審査請求書ニハ前項第一號、第二號及第六號乃至第八號ノ事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ第一次健康保險審査會ノ決定書又ハ其ノ原本ヲ添附スヘシ

- 一 第一次健康保險審査會ノ決定書ノ交付ヲ受ケタル年月日
- 二 第一次健康保險審査會ノ決定ニ對スル不服ノ程度及變更ノ申立

第七十四條 口頭ヲ以テ審査ノ請求シタル者アルトキハ書記ハ前條第二項ノト看做ス

第七十九條 審査請求人ハ健康保險審査會ニ對シ決定書ノ原本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第六章 罰則

第八十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第三條、第四條、第十條、第十一條、第十七條第一項及第十八條乃至第二十條ノ二ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 二 第五條第二項ノ規定ニ依ル標準報酬ノ告知ヲ怠リタル者
- 三 正當ノ事由ナクシテ第六十六條ノ規定ニ依ル請求ニ應セス又ハ虛偽ノ證明ヲ爲シタル者
- 四 第七條ノ規定ニ依ル保險料ノ控除ニ關スル計算書ノ備付若ハ記載ヲ怠リ、虛偽ノ記載ヲ爲シ又ハ故ナク被保險者ニ對シ閱覽ヲ拒ミタル者
- 五 第八條ノ規定ニ依ル書類ノ保存ヲ怠リタル者

第八十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 第十七條第二項、第二十一條第一項及第五十二條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リ又ハ其ノ届書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者
- 二 事業主以外ノ者ニシテ第二十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納又ハ提出ヲ怠リタル者
- 三 第二十三條ノ二第一項但書、第四項若ハ第五項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ返納又ハ同條第三項ノ規定ニ依ル被保險者證ノ提出ヲ怠リタル者
- 四 第四十七條第三項ノ規定ニ依ル療養證明書ノ返納ヲ怠リタル者

ノト看做ス

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

附則

第八條、第九條、第十三條乃至第十六條、第十九條、第二十一條、第二十四條乃至第四十四條、第六十七條、第八十條及第八十一條ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ、第一條ノ規定ハ大正十五年十月一日ヨリ、第二條乃至第五條、第十條乃至第十二條、第十八條、第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ大正十五年十一月一日ヨリ、第六條、第七條、第十七條、第四十五條乃至第六十六條及第六十八條乃至第七十九條ノ規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第一項ノ規定ニ依ル届出ノ期間ハ第十條ノ規定施行ノ日以前ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ關シテハ第十條ノ規定施行ノ日ヨリ五日以内トス

附則 (昭和四年内務省令第一八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ交付シタル被保險者證及療養證明書ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨グズ

附則 (昭和九年内務省令第三九號)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和九年法律第十三號實施ノ爲ニ豫メ必要ナル事項ニ關シテハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ交付シタル被保險者證ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨グズ

本令施行前ニ處方箋ノ交付ヲ受ケタル被保險者ハ本令施行後ト雖モ之ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於ケル手續ハ從前ノ例ニ依ル

(中 四)

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

附則

第八條、第九條、第十三條乃至第十六條、第十九條、第二十一條、第二十四條乃至第四十四條、第六十七條、第八十條及第八十一條ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ、第一條ノ規定ハ大正十五年十月一日ヨリ、第二條乃至第五條、第十條乃至第十二條、第十八條、第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ大正十五年十一月一日ヨリ、第六條、第七條、第十七條、第四十五條乃至第六十六條及第六十八條乃至第七十九條ノ規定ハ大正十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條第一項ノ規定ニ依ル届出ノ期間ハ第十條ノ規定施行ノ日以前ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ關シテハ第十條ノ規定施行ノ日ヨリ五日以内トス

附則 (昭和四年内務省令第一八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ交付シタル被保險者證及療養證明書ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨グズ

附則 (昭和九年内務省令第三九號)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和九年法律第十三號實施ノ爲ニ豫メ必要ナル事項ニ關シテハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ交付シタル被保險者證ハ本令施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨グズ

本令施行前ニ處方箋ノ交付ヲ受ケタル被保險者ハ本令施行後ト雖モ之ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケルコトヲ妨グズ此ノ場合ニ於ケル手續ハ從前ノ例ニ依ル

(中 四)

被保險者報酬日額算定基礎届 昭和 年 月 日現在

氏名	工場、事業場 又ハ事務所 (名稱)	被保險者 證ノ記號 及番號	従來ノ 報 酬 等級	算定基礎					標準報酬 日額	等級		
				第一項各該當別日額							計	
				第一號	第二號	第三號	第四號	第五號				
				賃金、給料又ハ俸給	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		
				賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ	賃金、準ズルモノ		

様式第一號

一 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス

二 本様式中令トアルハ健康保險法施行令ヲ謂フ以下之ニ依リ

三 被保險者證ノ記號及番號ノ通知ヲ受ケザル被保險者ニ付テハ「被保險者證ノ記號及番號」欄ニ其ノ被保險者ノ生年月及男女別ヲ記載スベシ

四 「標準報酬」欄ハ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スベキモノトス故ニ届出者ニ於テ空欄ノ儘ト爲シ置クベシ

五 第四條ノ規定ニ依ル届出ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ備考「欄」ニ記載スベシ

六 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ「名稱」及「所在地」欄ニハ工場又ハ事業場ノ名稱及所在地ヲ記載スベシ

昭和 年 月 日

住所又ハ所在地

事業主 氏名又ハ名稱

第何號		昭和何年度		何々(項)	
何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何番地 某(何會社)		何々(款)		何々(項)	
一金	何程	昭昭和何年月分保險料	督促手数料	延滞金	
一金	拾錢				
一 納期限ノ翌日ヨリ保險料額百圓ニ付一日參錢ノ割合ニ依ル金額 二 昭昭和何年月何日限リ日本銀行本店(日本銀行何代理店)何道府縣廳又ハ廳府縣何健康保險出張所(何健康保險組合事務所)ノ 納付スベシ 指定期限迄ニ保險料及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ指定期限ヲ過キ完納セザルトキハ直ニ其ノ財產差押ノ處分ヲ爲スベシ 昭昭和何年月何日 地方長官ノ官氏名 (何健康保險組合)理事長 氏 名 (名)					

様式第二號ノ二

備考 本證ハ縦約八糎、横約十糎トシ厚キ紙ヲ用ヒ中央ノ點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「健康保險檢査」ト記載スベシ

第何號	昭昭和何年月何日交付 社會局又ハ廳府縣印	官職氏名
第九條 保險官署ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏又ハ吏員ヲシテ保險事故ノ生シタル作業ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得 第八十七條 正當ノ理由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ臨檢ヲ拒ミ若ハ妨ケ又ハ其ノ訊問ニ對シ各辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ答辯ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス		
健康保險法(抄)		

様式第二號

(中 區)

(右 區)

第何號	何道府縣廳又ハ廳府縣何健康保險出張所 官職氏名
-----	----------------------------

(裏面)

備考 本證ハ縦約八糎、横約五糎トシ厚キ紙ヲ用フベシ

様式第三號 別除

第何號	健康保險徵收金滞 廳府 納者財產差押證書 縣印
-----	----------------------------------

様式第二號ノ三 (表面)

- 備考
- 一 延滞金ヲ徵收セザルモノニ在リテハ「一納期限ノ翌日ヨリ保險料額百圓ニ付一日參錢ノ割合ニ依ル金額 延滞金」及「指定期限迄ニ保險料及督促手数料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徵收セズ」ノ文字ヲ記載セザルモノトス
 - 二 日本銀行ニ納付ヲ指定シタルトキハ本文ノ「納付スベシ」ノ下ニ左ノ但書ヲ加フルモノトス
「但シ同日ヲ超過シタルトキハ何道府縣廳又ハ廳府縣何健康保險出張所」ノ納付スルヲ要ス
 - 三 保險料以外ノ徵收金ノ督促狀ハ本様式ニ準ズベシ

被保險者 證ノ記號	工場、事業場 又ハ事務所	(名稱)	(所在地)	被保險者資格取得屆	昭和	年	月	日現在	
				令第五條第一項各號該當日額	標準報酬 日額	等級	備考		
				第一號	第二號	第三號	第四號	第五號	計

様式第四號

被保險者氏名	男女別	生年月	業務ノ別	資格取得日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ	令第五條第一項各號該當日額					標準報酬 日額	等級	備考	
						第一號	第二號	第三號	第四號	第五號				計
	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
	女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									

(右四)

男女別	生年月	業務ノ別	資格取得日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ	令第五條第一項各號該當日額					標準報酬 日額	等級	備考	
					第一號	第二號	第三號	第四號	第五號				計
男	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									
女	年 月 日		年 月 日	賃金、給料又ハ俸給 買金、準ズルモノ									

昭和 年 月 日

住所又ハ所在地

事業主 氏名又ハ名稱

備考

- 一 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 二 「被保險者證ノ記號」欄ニハ新ニ健康保險法ノ適用アリタル工場、事業場又ハ事業ニ在リテハ「新規」ト記載スベシ
- 三 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ
- 四 「男女別」欄ノ「男女」欄ハ被保險者男子ナルトキハ「女」ノ文字ヲ、女子ナルトキハ「男」ノ文字ヲ抹消スベシ
- 五 「業務ノ種別」欄ニハ被保險者ガ工場、事業場又ハ事業ニ於テ從事スル業務ノ種別ヲ記載スベシ例ヘバ紡績工場ニ於テハ棍綿又ハ精紡、織物工場ニ於テハ整理、絲繰又ハ製織、石炭鑛山ニ於テハ探炭又ハ支柱、運輸事業ニ於テハ運輸手又ハ車掌ト記載スルガ如シ
- 六 「標準報酬」欄ハ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スベキモノトス故ニ届出者ニ於テ空欄ノ儘ト爲シ置クベシ
- 七 被保險者健康保險法第六十二條第一項各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ該當事項ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
- 八 資格取得前被保險者タリシ者ニ付テハ最後ノ被保險者タル地方長官又ハ健康保險組合ノ名稱、事業主ノ氏名及住所又ハ名稱及所在地ヲ「備考」欄ニ記載スベシ但シ健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ者ナルトキハ同欄ニ「法第二十條ノ被保險者」ト記載スベシ
- 九 被保險者タリシ者ニシテ資格喪失後繼續シテ保險給付ヲ受クル者被保險者ノ資格ヲ取得シタル場合ニ於テハ其ノ旨及給付ノ種類並ニ

- 其ノ給付ガ療養ノ給付又ハ傷病手當金ノ支給ナルトキハ其ノ傷病名ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
- 十 資格取得前被保険者タリシ者ニシテ保險給付ヲ受ケタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルモ仍未治愈ノ傷病アル者ニ在リテハ其ノ傷病名ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
- 十一 第十一條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ標題ヲ「被保險者資格變更届」トシ其ノ原因ガ健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ガ同法第十三條又ハ同法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノナルトキハ「法第二十條ヨリ法第十三條へ」又ハ「法第二十条ヨリ法第十五條へ」ト「備考」欄ニ記載スベシ
- 十二 本様式ニ定ムル事項ノ外健康保險組合ニ於テ必要アリト認ムル事項ハ別ニ欄ヲ設ケテ之ヲ記載セシムルコトヲ得

様式第五號

被 保 險 者 資 格 喪 失 届

氏 名	工場、事業場又ハ事務所	(所在地)		備 考
		(名 稱)	(所 在 地)	
		被保險者證ノ記 被保險者證 號及番號	資格喪失年月日	資格喪失原因

住所又ハ所在地

事業主 氏名又ハ名稱

昭和 年 月 日

備 考

- 一 本様式ノ用紙ハ美濃紙半折大トス
- 二 「資格喪失原因」欄ニハ其ノ原因ガ事業ノ廢止又ハ休息ニ因ル解雇ナルトキハ「廢止」又ハ「休息」事業ノ繼續中ニ於ケル解雇ナルトキハ「解雇」健康保險法第十九條第一項ノ認可ナルトキハ「包括喪失」常備方臨時雇ト爲リタルモノナルトキハ「臨時雇」死亡ナルトキハ「死亡」ト記載シ其ノ他之ニ準ズベシ
- 三 資格喪失ノ際繼續シテ保險給付ヲ受ケタル爲又ハ其ノ事由ニ因リ被保險者證ヲ添付スルコト能ハザルモノニ付テハ其ノ事由ヲ「備考」欄ニ記載スベシ
- 四 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ

何第何號

被 保 險 者 證

何 某

(男女) 何年何月生

昭和何年何月何日資格取得

業務ノ種別
何々

工場、事業場又ハ事務所ノ名稱
何々

工場、事業場又ハ事務所ノ所在地
何々

昭和何年何月何日交付

何 廳 府 縣 団
(何健康保險組合同)

自 署	住 所	氏 名

療 養 給 付 記 録 (其ノ一)

傷 病 名	開 始 日	終 了 日	終 了 事 由	備 考	認 印

(第三面)

療養給付記録(其ノ二)

傷病名	開始日	終了日	終了事由	備考	認印

(第四面)

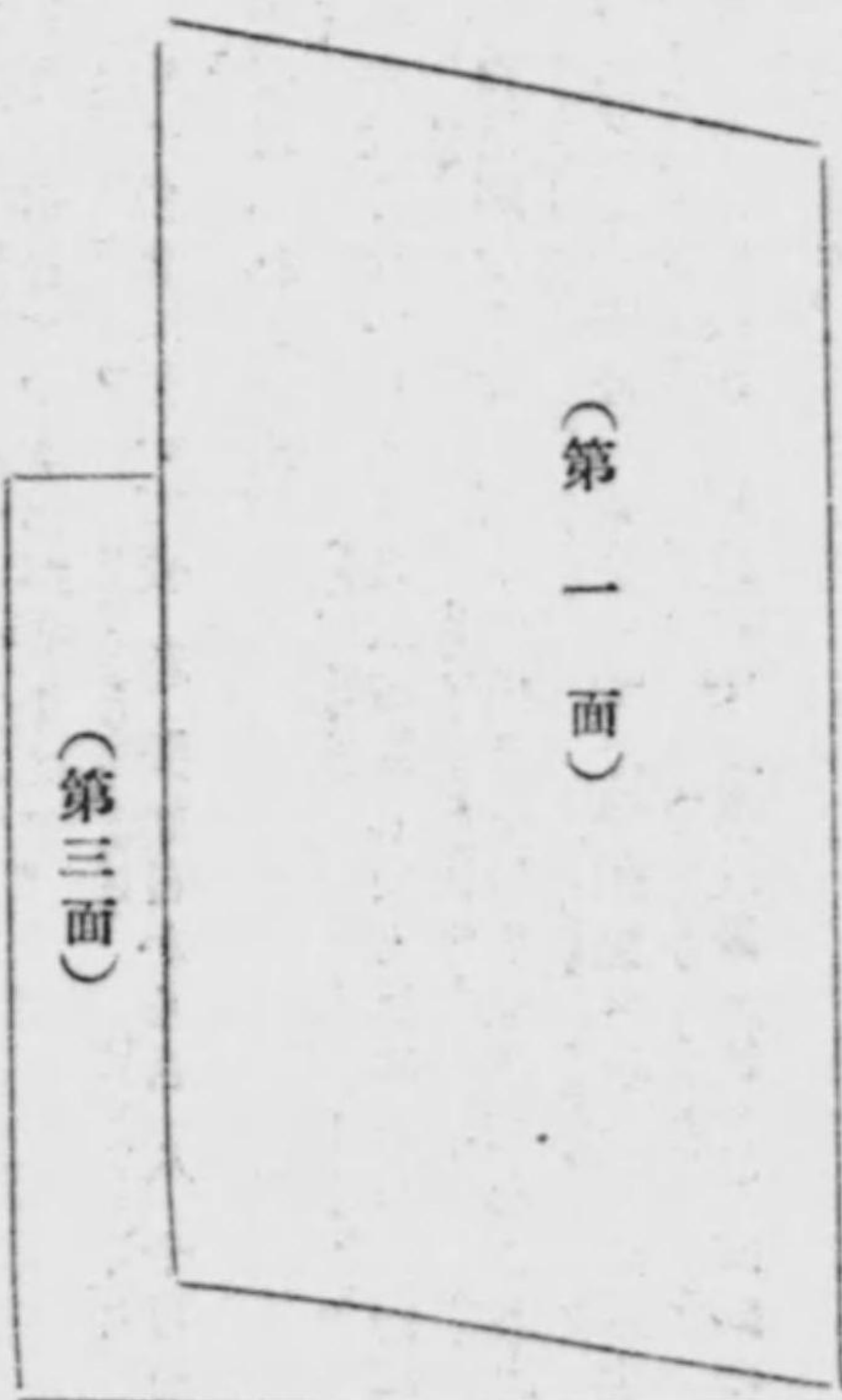
注意事項

- 一 此の證は健康保險の被保險者であるといふ證であるから大切に持つてゐなければなりません。療養を受けるときは此の證を醫師や齒科醫師に渡さなければなりません。醫師や齒科醫師は療養が終る迄此の證を預つてゐます。萬一其の間に他の疾病や負傷の爲に他の醫師や齒科醫師からも療養を受けなければならぬときは此の證を渡してある醫師や齒科醫師に其の手續をお聞きなさい。同一の疾病や負傷に付いて從來掛つてゐた醫師や齒科醫師を取替へる場合には北海道廳長官又は府縣知事(東京府では警視廳長)の承諾を要します。
- 二 療養は同一の疾病や負傷に付いて支給開始日から百八十日を過ぎたならばその疾病や負傷に付いてその後療養を受けられません。
- 三 被保險者の資格がなくなつたときは又は轉勤したときは五日以内に此の證を事業主に返さなければなりません。しかし資格がなくなつても引續き給付を受けてゐる者は其の給付を受けなくなつてから五日以内に此の證を直接道府縣廳(東京府では警視廳)組合)に返すことになつてゐます。
- 四 右の期間に事業主や道府縣廳(東京府では警視廳)組合)に此の證を返さない者は五十圓以下の罰金か料金の處分を受けます。
- 五 被保險者の資格がなくなつた者は此の證を持つてゐても療養を受けられません。
- 六 嘘を言つて療養を受けた者は詐欺罪として十年以下の懲役の處分を受けます。
- 七 此の證に記載欄がなくなつたり此の證が毀損したときは直に道府縣廳(東京府では警視廳)組合)に差出して代りの證を受けなければなりません。また此の證が滅失したときは直に其のことを道府縣廳(東京府では警視廳)組合)に届けなければなりません。

- 八 此の證の第一面に書いてある事項が變つたならば直に事業主に差出して訂正して貰ひなさい。
- 九 此の證の「自署」と書いてある欄には自分の住所と氏名とを自分で書きなさい。若し書くことができなければ他人に書いて貰つて捺印を押しなさい。尙此の欄に書いた住所や氏名が變つたならば直に訂正しなさい。

備考

一 本證ハ各面ノ大サヲ縦約十五糎、横約十糎トシ厚キ紙ヲ用ヒ之ヲ左圖ノ如クニツ折ト爲スベシ



- 二 「何第何號」トアルハ被保險者臺帳ノ記號及番號ヲ記載スルモノトス
- 二ノ二 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ
- 三 第二面及第三面ノ事項ハ被保險者證ヲ保管スル保險醫ニ於テ其ノ被保險者證返還ノ際記載スルモノトス但シ療養費支給ノ場合ニ於テハ地方長官又ハ健康保險組合ニ於テ記載スルモノトス
- 四 第二面及第三面ノ事項ノ記載ニ付テハ左ニ依ルベシ
 - イ 齒ニ付療養ノ給付ヲ爲シタル場合ニ於テハ患齒ノ部位ヲモ「傷病名」欄ニ記載スベシ
 - ロ 保險醫處方箋ヲ交付シタルトキハ其ノ使用期間ト診療期間トハ之ヲ通算シテ記載スベシ
 - ハ 「開始日」欄ニハ療養ノ給付ヲ開始シタル年月日ヲ記載スベシ

様式第七號

昭和何年度何健康保險組合收入支出豫算書

一金	収入豫算高
又ハ	
一金	經常部豫算高
一金	臨時部豫算高
合計	
支出	支出豫算高

又ハ
一金
一金
合計
差引
昭和何年度何健康保險組合收入支出豫算
收入

經常部豫算高
臨時部豫算高

科 款	項 目	豫 算 額	種 目	算		附 記
				本年 度 豫 算 額	前 年 度 豫 算 額	
一	健康保險收入					
	一 保險料		一何			
	二 國庫負擔金收入		二何			
	三 徵收金		一何			
二	繰越金					
	一 前年度繰越金		一何			

(台四)

三	繰入金		一何			
	一 準備金繰入		一何			
四	組合債					
	一 組合債		一何			
五	寄附金					
	一 寄附金		一何			
六	何		二何			
	一 何		一何			
七	雜收入					
	一 利子		一何			
二	何		一何			

收入		支出		合計		科目	事項	預算額	種目	本年度預算額	前年度預算額	增減	附記
一何	二何	一何	二何	一何	二何								
						一 俸給	事務所費		一何				
						二 諸給			二何				
						三 需用費			一何				
						四 雜費			二何				

二 組合會費		三 保險給付費				三 埋葬諸費			
一 諸給	二 需用費	三 雜費	一 療養諸費	二 傷病手當金	三 埋葬諸費	一何	二何	一何	二何
						一何	二何	一何	二何
						々	々	々	々

支	出	合	計	一	何	々	一	何	々	二	何	々	一	何	々	
				十	豫	備	費						一	豫	備	費

備考

- 一 豫算ハ必要アルトキハ經常、臨時ノ二部ニ大別シテ之ヲ編製スルコトヲ得
- 二 「増減」欄ノ減ハ朱書ト爲シ又ハ△印ヲ附スヘシ
- 三 「附記」欄ニハ豫算ノ計算ノ基ヲ所ヲ明細ニ記載スヘシ
- 四 病院費又ハ産院費ハ保險給付費中ニ項ヲ設ケテ記載スルモ妨ケス
- 五 追加豫算ノ場合ニ於テハ「豫算額」トアルヲ「追加豫算額」、「本年度豫算額」トアルヲ「追加豫算額」、「前年度豫算額」トアルヲ「既定豫算額」、「増減」トアルヲ「増」ト爲スヘシ
- 六 更正豫算ノ場合ニ於テハ「豫算額」トアルヲ「更正豫算額」、「本年度豫算額」トアルヲ「更正豫算額」、「前年度豫算額」トアルヲ「既定豫算額」ト爲スヘシ
- 七 決算ノ場合ニ於テハ「豫算書」トアルヲ「決算書」、「豫算高」トアルヲ「決算高」、「豫算」トアルヲ「決算」、「豫算説明」トアルヲ「決算説明」、「豫算額」トアルヲ「決算額」、「本年度豫算額」トアルヲ「決算額」、「前年度豫算額」トアルヲ「豫算額」、「増減」トアルヲ「過不足」ト爲シ「附記」欄ニハ決算額ノ豫算額ニ對スル過不足ノ事由ヲ記載スヘシ
- 八 差引殘金アルトキハ準備金ニ積立テタル額ト翌年度ニ繰越シタル額トニ區別シ内譯トシテ記載スヘシ
- 九 繼續費ヲ設ケタル場合ニ於テハ別ニ年度別表ヲ添附スヘシ

様式第八號

昭和何年度事業報告書

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何何番地

何健康保險組合

一 事業概況
本項ニハ事業ノ狀況ノ大體ヲ簡單ニ記載スベシ

二 事務所

本項ニハ事務所ノ所在地ヲ記載スベシ(主タル事務所ト從タル事務所ト有スル組合ニ在リテハ之ヲ區別シテ記載スルコト)

三 組合員

(一) 事業主數

前	年	度	末	現	在	本	年	度	中	增	本	年	度	中	減	本	年	度	末	現	在
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(二) 被保險者數

イ 異動及現在

種	別		前	年	度	末	現	在	本	年	度	中	增	本	年	度	中	減	本	年	度	末	現	在	
	強制	被保																							強
被保	任	包	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包	任	包
其	職	括	括	職	括	括	職	括	括	職	括	括	職	括	括	職	括	括	職	括	括	職	括	括	職
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	

險者	計
合	計

備考

- 一 様式中強制被保險者トアルハ健康保險法第十三條ノ規定ニ依ル被保險者、任意包括被保險者トアルハ健康保險法第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ヲ謂フ以下之ニ倣フ
 - 二 組合ノ設立アル事業ニ以上ノ組合ニ在リテハ事業毎ニ之ヲ別表ト爲スベシ此ノ場合ニ於テハ 業ノ名稱ヲ附記スベシ
 - 三 組合ノ設立アル事業ノ主要製品ノ概目又ハ作業ノ内容ヲ附記スベシ
 - 四 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者アルトキハ種別欄ニ任意 續被保險者ノ欄ヲ設ケ本様式ニ從ヒ其ノ數ヲ記載スベシ
- 標準報酬等級別

種別	強制被保險者			任意包括被保險者			合計	
	計	女	男	計	女	男	計	女
第一級								
第二級								
第三級								
第四級								
第五級								
第六級								
第七級								
第八級								
第九級								
第十級								
第十一級								
第十二級								
第十三級								
第十四級								
第十五級								
第十六級								
計								

(台四)

備考

- 一 年度末現在ニ依ルベシ
 - 二 健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者アルトキハ種別欄ニ任意繼續被保險者ノ欄ヲ設ケ本様式ニ從ヒ其ノ數ヲ記載スベシ
 - 四 組合會
 - 五 理事
 - 六 保險成績
- 本項ニハ組合會ノ開會年月日及議決事項ヲ記載スベシ
- 本項ニハ理事長及理事ノ氏名及住所(被保險者タル理事ニ在リテハ工場、事業場又ハ事業ニ於ケル業務ノ種別)ヲ記載スベシ

(一) 保險給付ノ件數、日數及費用額

種別	療養ノ給		療養		賃		傷病		手當		金		埋葬
	計	外	計	外	計	外	計	外	計	外	計	外	
業務上													
業務外													
計													
男													
女													
計													
日													
男													
女													
計													
費用													
男													
女													
計													
備考													

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

九 積立金

種	別	前年度末現在額		本年度積立額		本年度處分額		本年度末現在額	
		金	金	金	金	金	金	金	金
準備金									
何積立金									
何積立金									

備考

事業報告書ニ記載スベキ事實ノ屬スル年度ノ決算ノ結果準備金ニ積立ツベキ豫定額ヲ備考トシテ記載スベシ

十 組合債

種	別	前年度末現在額		本年度借入額		本年度償還額		本年度末現在額	
		金	金	金	金	金	金	金	金
前年度末現在額									
本年度借入額									
本年度償還額									
本年度末現在額									

十一 其ノ他重要ナル事項

本項ニハ組合ニ於テ重要ト認メタル事項ヲ記載スベシ
右及報告候也

昭和何年何月何日

理事長 何

某

様式第九號

何健康保險組合財産目録

昭和何年何月何日現在

種	別	數	量	金額又ハ價格		備	考
				銀行預金	郵便貯金		

總	產	準備金											
		其ノ他ノ財		合		有價證券				金員			
		何々	器 具 及 機 械	建 物	土 地	何 々	計	何 々	地 方 債 證 券	國 債 證 券	計	何 々	現 金

備考

- 一 有價證券ノ「金額又ハ價格」欄ニハ額面額ヲ記載シ尙其ノ種類及時價ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ
- 二 土地、建物又ハ器具及機械ノ「金額又ハ價格」欄ニハ時價ヲ記載シ尙土地及建物ハ其ノ用途ヲ「備考」欄ニ記載スヘシ
- 三 積立金アル場合ニ於テハ「準備金」ノ欄ニ準シ別ニ一欄ヲ設クヘシ

様式第十號

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

昭和何年何月分事業狀況報告

何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何何番地

何健康保險組合

一 標準報酬等級別被保險者數

第一級	第二級	第三級	第四級	第五級	第六級	第七級	第八級	第九級	第十級	第十一級	第十二級	第十三級	第十四級	第十五級	第十六級	計

備考

月末現在ニ依ルベシ

二 保險給付狀況

種別	件数	日数	備考	療養ノ給付			療養費	傷病手当金	埋葬料	埋葬費	分娩費	産院收容
				移送	看護	醫療						

(合四)

助産ノ手当	
出產手当	

備考

- 健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依ル療養ノ給付ノ分ハ×印ヲ附シ區別シテ之ヲ記載スベシ
- 療養費、傷病手当金、埋葬料、埋葬費、分娩費及出產手当金ニ在リテハ事故發生ノ日ノ屬スル月ノ如何ニ拘ラズ現ニ之ガ支拂ヲ爲シタル月ノ分ノ報告ニ記載スベシ
- 同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付數回ニ分チテ給付ヲ爲シタル場合ト雖モ此ノ數回分ヲ合シテ一件トシ尙療養費又ハ傷病手当金ニシテ二以上ノ疾病又ハ負傷ニ付通ジテ支給シタルモノニ在リテハ之ヲ通ジテ一件トシ記載スベシ一ノ分娩ニ付數回ニ分チテ給付ヲ爲シタル場合亦同ジ

三 收支狀況

種別	本年度豫算額	本月收入額	本年度收入累計額
何々々			
何々々			
何々々			
計			

支出

第四編 社會 第四章 保險 健康保險法施行規則

種別	本年		本月	
	年度	預算額	支出額	累計額
何々				
何々				
何々				
計				

一時借入金等

種別	本年		本月	
	借入額	返還額	月末	現在額
一時借入金				
準備金繰替使用				
前年度收支殘金一時充當				
計				

備考

- 一 四月分及五月分ノ收支狀況ニ付テハ其ノ年度ニ屬スル分ト前年度ニ屬スル分トハ之ヲ別表ト爲スベシ此ノ場合ニ於テハ所屬年度ヲ附記スベシ
- 二 收入又ハ支出ノ「種別」欄ハ豫算ノ款項ヲ記載スベシ
- 三 收入ノ測定ヲ爲シタルモ未ダ收入セザル金額並支拂ノ請求ヲ受ケタルモ未ダ支出セザル金額及支拂ノ請求ヲ受ケザルモ支拂義務ノ既ニ發生シタル金額(醫師會ニ對スル診療報酬ノ如シ)ヲ備考トシテ記載スベシ

四 過年度支出ノ科目ヨリ支出シタル金額ニ付テハ其ノ種類ヲ備考トシテ記載スベシ

四 保健施設

本項ニハ健康保險法第二十三條ノ規定ニ依リ施設シタル事項及其ノ成績ノ概要ヲ記載スベシ

五 議員及理事ノ異動

本項ニハ就職又ハ退職若ハ死亡シタル議員又ハ理事ノ數ヲ選定議員若ハ互選議員又ハ選定議員タル理事若ハ互選議員タル理事ニ區別シ記載スベシ尙月末現在ニ於テ缺員數アルトキハ其ノ數ヲ同様ニ區別シ記載スベシ

様式第十一號

組合原簿

組合ノ名稱其ノ他

名	稱	設立年月日	事務所所在地	組合ノ設立アル事業	工場、事業場又ハ事務所ノ名稱、所在地及種類	摘要

理事

定員	
事業主ノ選定シタル議員	人
中ヨリ互選シタル者	人
被保險者タル議員中ヨリ互選シタル者	人
計	人

氏名	生年月日	住	所	就職年月日	種別	任期	摘	期	要

議員

氏名	生年月日	住	所	就職年月日	種別	任期	摘	期	要

事業主タル組合員

氏名	生年月日	住	所	組合ノ設立アル事業	組合員タル資格取得ノ年月日	組合員タル資格取得ノ事由	摘	要

備考

- 一 記載事項ニ變更アリタルトキハ之ヲ改訂スルト共ニ變更ノ事項及年月日ヲ「摘要」欄ニ記載スベシ
- 二 理事又ハ議員退職又ハ死亡シタルトキ、組合員其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ朱線ヲ以テ抹消シ年月日及事由ヲ「摘要」欄ニ朱書スベシ
- 三 他ノ組合ヲ合併シタルトキ又ハ組合ガ分割シタルトキハ其ノ年月日及合併又ハ分割ノ組合名ヲ「組合、名稱其ノ他」ノ部ノ「摘要」欄ニ記載スベシ
- 四 「理事」ノ部ノ「種別」欄ニハ事業主ノ選定シタル議員中ヨリ互選シタル者、被保険者タル議員中ヨリ互選シタル者ノ別ヲ記載スベシ「議員」ノ部ノ「種別」欄亦之ニ準ズ
- 五 理事長ニ付テハ「理事」ノ部ノ氏名ノ右肩ニ「理事長又ハ理事長代理」ト記載スベシ
- 六 「理事」ノ部及「議員」ノ部ノ「任期」欄ハ「自昭和何年何月何日」至昭和何年何月何日」ノ如ク記載スベシ
- 七 「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ
- 八 本様式ニ定ムル事項ノ外必要アリト認ムル事項ハ別ニ欄ヲ設ケテ之ヲ記載スルコトヲ得

様式第十二號 削除

様式第十三號

療 養 證 明 書

被保險者證ノ記號及番號					
被 保 險 者	(氏 名)				
	(男女別)		(生年月)		
	(住 所)				
工場、事業場又ハ事務所	(名 稱)				
	(所在地)				
現ニ療養ヲ爲ス傷病名及給付開始年月日					
發 行 年 月 日					
發 行 者	何府(縣)何市(郡)何町(村)大字何何番地				
	醫師(齒科醫師) 何 某 [㊟]				
本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付	傷病名	開始日	終了日	終了事由	備考認印

備 考

- 一「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」欄ノ事項ハ療養證明書ニ依リテ療養ヲ爲シタル保險醫ニ於テ其ノ療養證明書返還ノ際記載スベシ
- 二「本證明書ニ依リテ爲シタル療養ノ給付」欄ノ記載ニ付テハ様式第六號備考四ノイ乃至ヘニ準ズベシ
- 三「工場、事業場又ハ事務所」欄ノ記載ニ付テハ様式第一號備考六ニ準ズベシ
- 様式第十四號

被保險者證ノ記號及番號		處 方 箋	
患 者 (氏 名)	年 齡	所 轄 廳 府 縣 保 險 組 合 名 稱	
藥 名		分 量	
用 法			
用 量			
使用期間	開始昭和 年 月 日 終了昭和 年 月 日	處方年月日	昭和 年 月 日
保險醫氏名印	診療所ノ名稱、所在地又ハ保險醫ノ住所		

健康保險用

備考

- 一 「所轄廳府縣又ハ健康保險組合ノ名稱」欄ニハ被保險者ノ屬スル廳府縣又ハ健康保險組合ノ名稱ヲ記載スベシ
- 二 健康保險組合ニ於テハ本様式ニ依ラザルコトヲ得但シ被保險者證ノ記載及番號並ニ使用期間ノ開始及終了年月日ノ記載ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

○健康保險法第十條ノ規定ニ依ル職權委任ノ件

昭和十年一月九日
內務省令第一號

- 左ニ掲グル職權ヲ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ニ委任ス
- 一 健康保險法第十四條第一項及第三項並ニ第十九條ノ規定ニ依ル職權(事業ガ二以上ノ道府縣ニ跨ル場合及健康保險組合ノ設立、解散又ハ規約ノ變更ヲ伴フ場合ヲ除ク)
- 二 健康保險法第三十七條ノ職權中健康保險組合ニ對シ事實ニ關スル報告ヲ爲サシメ事業及財産ノ狀況ヲ検査スル職權及同法第三十八條ノ職權(組合ガ二以上ノ道府縣ニ跨ル場合ヲ除ク)

附則

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○健康保險法第十三條第三號(ホ)ノ規定ニ依ル運送事業ノ指定ニ關スル件

昭和九年十二月二十八日
勅令第四百一號 (總理、內務大臣副署)

健康保險法第十三條第三號(ホ)ノ規定ニ依リ運送ノ事業ヲ指定スルコト左ノ如シ

- 一 自動車、荷牛馬車又ハ荷車ニ依ル運送ノ事業
- 二 索道ニ依ル運送ノ事業

附則

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和九年法律第十三號ノ實施ノ爲ニ豫メ必要ナル範圍ニ於テハ昭和十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○健康保險ノ被保險者タラサル臨時使用人ノ件

大正十五年十月十九日
內務省令第四十七號

健康保險法施行令第九條第四號ノ規定ニ依リ臨時ニ使用セラルル者ノ中被保險者タラサルモノヲ指定スルコト左ノ如シ

- 一 季節的業務ニ使用セラルル者但シ繼續シテ百二十日以上使用セラルヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

○官吏及待遇官吏ハ健康保險ノ被保險者タラサルノ件

大正十五年十月十九日
內務省令第四十八號

官吏及待遇官吏ハ健康保險ノ被保險者タラサルノ件左ノ通定ム

官吏及待遇官吏ハ健康保險ノ被保險者タラサルノ件

政府ノ事業ニ使用セラルル官吏及待遇官吏ハ健康保險ノ被保險者タラサル

モノトス

○昭和三年勅令第三百三十三號(海軍病院ニ於テ健康保險ノ療養ノ給付又ハ之ニ相當スル共濟組合ノ給付ノ爲診療ヲ爲スコトヲ得ルノ件)

昭和三年六月三十日
勅令第三百三十三號

朕海軍病院ニ於テ健康保險ノ療養ノ給付又ハ之ニ相當スル共濟組合ノ給付ノ爲診療ヲ爲スコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、海軍大臣副署)

第一條 海軍病院ハ海軍軍屬、職工、鑛夫及人夫ニシテ健康保險ノ被保險者タル者ニ對シ其ノ公務ニ因ル傷疾又ハ疾病ニ付健康保險法施行令第七十四條第一項第一號乃至第三號ノ療養ノ給付又ハ之ニ相當スル共濟組合ノ給付ノ爲診療ヲ爲スコトヲ得

前項ノ診療ニ關スル手續ハ海軍大臣之ヲ定ム

第二條 前條ノ規定ニ依ル診療ノ費用ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ辨償セシム

附則

本令ハ昭和三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者力養療ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及齒科醫師並藥劑師ニ關スル

第四編 社會 第四章 保險 健康保險

件

昭和元年十二月二十八日
內務省令第一號

改正 昭和四年第三一號

政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者力養療ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及齒科醫師並藥劑師ニ關スル件左ノ通定ム

政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者力養療ノ給付ヲ受クルコトヲ得ヘキ醫師及齒科醫師並藥劑師ニ關スル件

第一條 政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者(以下被保險者ト稱ス)ハ所轄地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ノ指定シタル保險醫又ハ保險藥劑師ニ就キ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第二條 被保險者所轄地方長官ノ管轄區域外ニ其ノ住所ヲ有スル場合ニ於テハ前條ノ保險醫又ハ保險藥劑師ノ外其ノ被保險者ノ住所地方長官ノ指定シタル保險醫又ハ保險藥劑師ニ就キ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第三條 被保險者所轄地方長官ノ承認ヲ受ケタル場合又ハ緊急ノ場合ニ於テハ前二條ノ保險醫又ハ保險藥劑師以外ノ保險醫又ハ保險藥劑師ニ就キ療養ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第四條 被保險者ハ其ノ診療ヲ受クヘキ場所ヨリ四里以内(診療所所在地ヲ管轄スル地方長官ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ之ニ從フ)ノ里程ノ地ニ在ル診療所ニ於テ診療ニ從事スル保險醫(齒科醫師ヲ除ク)ノ往診ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ診療ヲ受クヘキ場所ヨリ半里ヲ超ユル里程ノ地ニ在ル診療所ニ於テ診療ニ從事スル保險醫ノ往診ノ爲ニ要スル車馬賃ハ其ノ被保險者ノ負擔トス

附則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○政府ノ管掌スル健康保險ノ保險料率

大正十五年十月二十一日
內務省告示第五百五十九號

政府ノ管掌スル健康保險ノ保險料率左ノ通定ム

- 一 石炭ノ試掘、探掘及之ニ附屬スル事業ノ事業場又ハ工場ニ使用セラ
ルル各被保險者ニ付テハ其ノ標準報酬日額一圓ニ付八錢ノ割
- 二 前號以外ノ各被保險者ニ付テハ其ノ標準報酬日額一圓ニ付四錢ノ割

○健康保險組合臺帳閱覽ノ件

大正十五年十月十九日
內務省令第四十九號

改正 昭和四年第三〇號
健康保險組合臺帳閱覽ノ件左ノ通定ム

健康保險組合臺帳閱覽ノ件

道府縣廳(東京府ニ在リテハ警視廳)ニハ其ノ管轄区域内ニ事務所ヲ有スル
健康保險組合ニ付左ニ掲クル事項ヲ記載シタル健康保險組合臺帳ヲ備フ

- 一 組合ノ名稱
 - 二 事務所ノ所在地
 - 三 組合ノ設立アル事業ノ名稱及所在地
 - 四 設立認可ノ年月日
 - 五 理事長ノ氏名、住所及就職年月日
- 前項ノ健康保險組合臺帳ハ何人ト雖利害關係アル場合ニ於テハ其ノ閱覽ヲ
求ムルコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ閱覽ヲ求ムル者アルトキハ地方長官(東京府ニ在リテハ

警視總監)ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

○健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ノ概算拂ニ關スル件

昭和二年二月十六日
內務省令第九號

健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ノ概算拂ニ關スル件左ノ通定ム

健康保險組合ニ對シ交付スル國庫負擔金ノ概算拂ニ關スル件

第一條 健康保險組合國庫負擔金ノ概算拂ヲ受ケムトスルトキハ毎年度四
月三十日及九月三十日迄ニ左ノ事項ヲ具シ社會局長官ニ申請スヘシ

- 一 當該年度ニ於ケル保險給付ニ要スル費用ノ豫算額
- 二 第三條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル被保險者ノ員數ノ平均數及其
ノ計算ノ基礎ト爲リタル各月末ニ於ケル被保險者ノ員數
- 三 概算拂ヲ受ケムトスル額

第二條 概算拂ハ毎年度二回之ヲ爲ス

第三條 毎回ノ概算拂額ハ當該年度ニ於ケル當該健康保險組合ノ保險給付
ニ要スル費用ノ豫算額ノ百分ノ四以内トシ八十錢ニ被保險者ノ員數ヲ乘
シテ得タル額ヲ超エサルモノトス

前項ノ被保險者ノ員數ノ計算ニ關シテハ第一回ノ概算拂ニ在リテハ前年
十一月ヨリ其ノ年三月ニ至ル各月末ニ於ケル被保險者ノ員數ノ平均數、
第二回ノ概算拂ニ在リテハ其ノ年四月ヨリ八月ニ至ル各月末ニ於ケル被
保險者ノ員數ノ平均數ニ依ル但シ特別ノ事情アル健康保險組合ニ付テハ
此ノ限ニ在ラス

第四條 概算拂ヲ受ケタル健康保險組合ハ當該年度支拂閉鎖期日後三日以
內ニ左ノ事項ヲ社會局長官ニ報告スヘシ

一 當該年度ニ於テ健康保險法施行令第九十一條ノ國庫負擔金算定ノ基
礎タル保險給付ニ要シタル費用ノ決算額及其ノ内課

- 二 當該年度ノ各月末ニ於ケル被保險者ノ員數
- 三 概算拂ヲ受ケタル額

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十五年度ニ於ケル概算拂ハ之ヲ一回トス其ノ額ハ同年度ニ於ケル保險
給付ニ要スル費用ノ豫算額ノ百分八以内トシ四十錢ニ被保險者ノ員數ヲ乘
シテ得タル額ヲ超エサルモノトス

前項ノ被保險者ノ員數ハ概算拂申請ノ日前五日目ノ現在ニ依ル

○健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件

昭和二年八月十九日(總理、內務、文)
勅令第二百六十八號(部大臣副署)

第一條 官公立ノ大學附屬醫院其ノ他之ニ準ズベキ病院ハ健康保險ノ保險
者ノ委嘱ニ依リ健康保險法施行令第七十四條第一項第一號乃至第三號ノ
療養ノ給付(往診ヲ除ク)ヲ爲スコトヲ得

被保險者前項ノ病院ニ就キ療養ノ給付ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ給付ノ手
續ハ當該病院ノ定ムル所ニ依ル

第二條 被保險者前條ノ病院ニ就キ療養ノ給付ヲ受ケタルトキハ保險者ノ
承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ疾病又ハ負傷ニ付テハ健康保險法施
行令第七十五條ノ規定ニ依リ保險者ノ指定シタル醫師若ハ齒科醫師又ハ
前條ノ規定ニ依リ保險者ノ委嘱シタル他ノ病院ニ就キ療養ノ給付ヲ受ケ

ルコトヲ得ズ

保險者ハ正當ノ事由アルニ非サレバ前項ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三條 第一條ノ病院ニ於テ處方箋ノ交付ヲ受ケタルトキハ被保險者ハ健
康保險法施行令第七十六條ノ規定ニ依リ保險者ノ指定シタル藥劑師中自
己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受ケタルコトヲ得

第四條 第一條ノ病院ハ內務大臣文部大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○內務省告示第一號(昭和三年二月十日)

昭和二年勅令第二百六十八號健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等
ニ關スル件第一條ノ規定ニ依リ健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院
其ノ他之ニ準ズベキ病院同令第四條ノ規定ニ依リ左ノ通定メタリ

- 東京帝國大學醫學部附屬醫院
- 東京帝國大學醫學部附屬醫院分院
- 京都帝國大學醫學部附屬醫院
- 東北帝國大學醫學部附屬醫院
- 九州帝國大學醫學部附屬醫院
- 北海道帝國大學醫學部附屬醫院
- 新潟醫學科大學附屬醫院
- 岡山醫學科大學附屬醫院
- 千葉醫學科大學附屬醫院
- 金澤醫學科大學附屬醫院
- 長崎醫學科大學附屬醫院
- 傳染病研究所

○內務省告示第二號 (昭和三年十一月十七日)

昭和二、二年勅令第二百六十八號健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件第一條ノ規定ニ依リ健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等

同令第四條ノ規定ニ依リ昭和三年十一月一日左ノ通定メタリ
京都府立醫科大學附屬醫院
熊本醫科大學附屬醫院
大阪帝國大學醫學部附屬醫院
名古屋醫科大學附屬醫院

○健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル勅令施行ニ關スル件

昭和二年十二月八日
內務省令
文部省令

改正 昭和四年六月一日、八月一日、六年五月二日、一〇年一月九日
第一條 昭和二年勅令第二百六十八號健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件(以下勅令ト稱ス)第四條ノ規定ニ依リ定メタル官公立ノ大學附屬醫院其ノ他之ニ準ズベキ病院(以下病院ト稱ス)ハ內務大臣及文部大臣之ヲ告示ス
第二條 被保險者病ニ於テ療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ旨當該病院ニ申出ヅベシ
前項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テハ被保險者ハ被保險者證ヲ其ノ病院ニ提出スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク被保險者證ヲ其ノ病院ニ提出スベシ

第一項ノ申出ヲ爲ス場合ニ於テ疾病又ハ負傷ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナルトキハ被保險者ハ之ニ關スル事業主ノ證明書ヲ提出スベシ
健康保險法第四十八條第一項ノ規定ニ依リ繼續シテ療養ノ給付ヲ受ケルコトヲ得ル者病院ニ於テ療養ノ給付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ給付ヲ受ケルコトヲ得ルモノナルコトヲ保險者ニ於テ承認シタル書面ヲ提出シテ之ヲ當該病院ニ申出ヅベシ

第三條 病院被保險者ニ對シ療養ヲ爲サザルニ至リタルトキハ遲滞ナク被保險者證ヲ被保險者ニ返還スベシ但シ其ノ被保險者死亡シタルトキハ埋葬料又ハ健康保險法第四十九條第二項若ハ第五十六條第二項ノ埋葬費ノ支給ヲ受ケベキ者ニ之ヲ返還スベシ
病院前項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返還スルトキハ被保險者證ノ第二面ニ掲グル事項ヲ之ニ記載スベシ

第四條 健康保險法施行令第七十五條第一項ノ規定ニ依リ被保險者ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師(以下保險醫ト稱ス)ニシテ第五條第一項ノ規定ニ依リ療養證明書ヲ交付シタル者健康保險法施行規則第四十六條第一項ノ規定ニ依リ被保險者證ヲ返還スベキ場合ニ於テハ其ノ療養證明書ノ全部返納アリタルトキハ其ノ療養證明書ノ全部返納アリタルトキ之ヲ返還スベシ但シ健康保險法施行令第七十五條第二項ノ規定ニ依リ保險醫變更ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 保險醫ノ療養ヲ受ケル被保險者同時ニ病院ニ就キ療養ヲ受ケル必要アルトキ又ハ病院ノ療養ヲ受ケル被保險者同時ニ保險醫若ハ他ノ病院

ニ就キ療養ヲ受ケル必要アルトキハ被保險者證ヲ保管スル保險醫又ハ病院ニ就キ療養證明書ヲ交付ヲ受ケベシ
前項ノ療養證明書ハ之ヲ被保險者證ト看做シ第二條、第三條、健康保險法施行規則第四十五條及第四十六條ノ規定ヲ適用ス

被保險者病院又ハ保險醫ヨリ第一項ノ療養證明書ヲ返還ヲ受ケタルトキハ之ヲ交付シタル保險醫又ハ病院(保險醫又ハ病院變更ノ場合ニ於テハ變更後ノ保險醫又ハ病院)ニ遲滞ナク返納スベシ
第六條 被保險者病院變更ノ爲被保險者證又ハ前條第一項ノ療養證明書ノ返還ヲ受ケムトスルトキハ病院變更ニ付地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)又ハ健康保險組合ノ承認アリタルコトヲ證スル書面ヲ當該病院ニ提示スベシ

病院ニ就キ療養ヲ受ケル被保險者ニシテ同時ニ保險醫ニ就キ療養ヲ受ケル者保險醫變更ノ爲前條第一項ノ療養證明書ヲ返還ヲ受ケムトスルトキハ保險醫變更ニ付地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)又ハ健康保險組合ノ承認アルコトヲ證スル書面ヲ當該保險醫ニ提示スベシ
第七條 病院被保險者ニ對シ處方箋ヲ交付スル場合ニ於テハ之ニ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 所轄廳府縣名又ハ健康保險組合ノ名稱
 - 三 使用期間ノ開始及終了年月日
- 被保險者前項ノ處方箋ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受ケントスルトキハ被保險者ノ指定シタル藥劑師ニ之ヲ提出スベシ
- 第八條 第五條第一項ノ療養證明書ノ様式ハ健康保險法施行規則様式第十三號ニ依ル

第八條ノ二 被保險者病院ニ於テ健康保險法施行令第七十四條第一項第三號(一回ノ費用二十圓ヲ超ユル場合ニ限ル)乃至第五號ノ給付ヲ受ケ又ハ病院ニ入院セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由止ミタル後遲滞ナク申請書記載事項及已ムヲ得ザル事由ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

- 一 被保險者證ノ記號及番號
 - 二 發病又ハ負傷ノ年月日及原因
 - 三 疾病又ハ負傷ガ業務上ノ事由ニ因ルモノナリヤ否ヤノ別
- 前項ノ申請書又ハ申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル病院ノ意見書ヲ添附スベシ
- 一 健康保險法施行令第七十四條第一項第三號乃至第五號ノ給付又ハ入院ヲ必要ト認ムル理由
 - 二 給付ノ内容及之ニ要スベキ費用ノ見積額
 - 三 病院ニ入院セントスル場合ニ在リテハ入院ノ期間

第九條 保險給付ヲ受ケムトスル者ヨリ第二條第四項ノ規定ニ依リ證明書ヲ求メラレタルトキハ事業主ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
第十條 健康保險組合ハ病院ト協議ノ上第二條乃至第八條ノ二ノ規定ニ拘ラズ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第十一條 本令ニ於テ被保險者トアルハ被保險者ノ資格喪失後療養ノ給付ヲ受ケル者ヲ含ムモノトス

第十二條 第五條第三項ノ規定ニ依リ療養證明書ヲ返納ヲ怠リタル者ハ五十四以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條 正當ノ事由ナクシテ第九條ノ規定ニ依ル請求ニ應ゼズ又ハ虛偽ノ證明ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和四年六月一日內務、文部省令)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年內務省令第十八號施行前ニ交付シタル療養證明書ハ其ノ施行後ト雖モ之ヲ使用スルコトヲ妨ゲズ

附則 (昭和一年一月九日內務、文部省令)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ處方箋ノ交付ヲ受ケタル被保險者ハ本令施行後ト雖モ之ニ依リ藥劑ノ支給ヲ受クルコトヲ妨ゲズ此ノ場合ニ於ケル手續ハ従前ノ例ニ依ル

○口頭審問ノ爲健康保險審査會ニ出頭シタル者ニ對スル旅費支給ノ件

昭和二年四月四日 內務省令第二十一號

改正 昭和五年第一五號

第一條 健康保險審査會ニ口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條 旅費ハ鐵道貨、船賃、陸路雜費、車馬賃、宿泊料及食卓料ノ六種トシ各其ノ順路ニ依リテ之ヲ支給ス但シ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ハ實際ノ經路ニ依ル

第三條 鐵道旅行ニハ鐵道貨及水路旅行ニハ船賃ノ各其ノ最低賃金ニ相當スル額ヲ支給ス

鐵道八十五軒以上、水路五十海里以上ノ旅行ニ在リテハ前項ノ額ノ外普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路又ハ航路ニ依ル旅行ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四條 陸路旅行ニハ一里毎ニ陸路雜費十錢ヲ支給ス但シ片道一里未滿ノ陸路旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

第五條 不具、癢疾、傷痍、疾病等ノ爲歩行シ能ハサルトキハ其ノ陸路旅行ニ付テハ一里毎ニ車馬賃五十錢ヲ支給ス但シ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第六條 前項ノ場合ニ於テハ陸路雜費ヲ支給セス

第七條 食卓料ハ船賃ノ中ニ食費ヲ含マサルトキ又ハ官用ノ船舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ一夜ニ付一圓ヲ支給ス

第八條 車馬賃ヲ請求セムトスルトキハ不具、癢疾、傷痍、疾病等ノ爲歩行シ能ハサル旨ノ醫師ノ診斷書ヲ請求書ニ添附スヘシ

第九條 旅行中死亡シタルトキハ其ノ居住地ニ至ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス此ノ場合ニ於テハ陸路旅行ニ付テハ第五條ノ例ニ依ル

第十條 內國旅費規則第五條及第七條ノ規定ハ本令ニ依リ旅費ノ支給ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

テ生ジタル事故ニ對スル保險金ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第三節 勞働者災害扶助責任保險

○勞働者災害扶助責任保險法

昭和六年四月二日 (總理、大藏、內務大臣副署) 法律第五十五號

第一條 政府ハ本法ニ依リ勞働者災害扶助責任保險ヲ管掌ス

第二條 勞働者災害扶助責任保險ニ於テハ勞働者災害扶助法、工場法又ハ鑛業法ニ基テ扶助責任ヲ保險スルモノトス

扶助責任ノ保險ヲ付スベキ事業ノ種類、保險スベキ扶助責任ノ範圍及保險料率、保險料納付期日其ノ他保險料ニ關スル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 勞働者災害扶助法第一條第一項第二號ハノ工事ノ事業主及勅令ノ定ムル事業主ハ政府ト保險契約ヲ締結スベシ但シ同法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元請負人ニ於テ保險契約ヲ締結スベシ

第四條 保險契約者ヲ以テ保險金受取人トス但シ前條但書ノ規定ニ依リ元請負人が保險契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ扶助ヲ引受ケタル下請負人ヲ以テ保險金受取人トス

第五條 政府ハ前項ノ規定ニ拘ラズ勅令ノ定ムル所ニ依リ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第六條 保險契約者ガ惡意又ハ重大ナル過失ニ依リ保險料算定ノ基礎タル重要ナル事實ヲ告知セズ又ハ其ノ事實ニ付不實ノ告知ヲ爲シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ保險金ノ全部又ハ一部ヲ支拂ハザルコトヲ得

第七條 保險契約者保險料ノ拂込ニ付遲滞シタルトキハ其ノ遲滞期間ニ於

三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ニシテ本法施行前ニ著手
(請負ニ依ルモノニ付テハ請負契約ノ締結)セラレタルモノニ付テハ第三條
ノ規定ハ之ヲ適用セズ

○勞働者災害扶助責任保險ニ於ケル保

險料率

昭和六年十一月二十八日
內務省告示第二百六十六號

改正 昭和七年第一七號、八年第三四〇號

勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ニ於ケル保險料率ハ左表ノ
通りトス

一 工事ニシテ二以上ノ種類ヲ包含スルトキハ高キ料率ニ據ル但シ其ノ種類
毎ニ請負金額又ハ賃金額ガ區分セラルル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

勞働者災害扶助法第一條第一項第二號(ハ)ノ工事ノ保險料率

工事ノ種類	請負金一萬圓當リノ保險料	賃金一圓當リノ保險料
隧道工事	一四〇	四五
建築物ノ破壊工事	二八	四五
建築工事	二八	二二
橋梁工事	六七	三二
其ノ他ノ工事	八五	二二

○勞働者災害扶助責任保險法施行令

昭和六年十一月二十八日
勅令第二百七十七號

改正 昭和一〇年第二七號

朕勞働者災害扶助責任保險法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、大藏、內務大臣副署)

勞働者災害扶助責任保險法施行令

第一條 勞働者災害扶助責任保險ニ付スル事業ハ勞働者災害扶助法第一條
第一項第二號(ハ)ノ工事トス

前項ノ工事ノ事業主(勞働者災害扶助法第三條第二項ノ場合ニ於テハ元
請負人タル事業主)ハ工事ノ開始前十四日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲スベ
シ但シ已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ其ノ後ニ於テ保險契約ノ申込ヲ爲
スコトヲ妨ゲズ

第二條 保險スベキ扶助責任ノ範圍左ノ如シ

一 療養費中十四日超ニル部分

二 休業扶助料中八日以後ノ休業ニ付支給スル部分

三 障害扶助料

四 遺族扶助料

五 打切扶助料

第三條 前條第一號ノ療養費ノ範圍ハ左ニ掲グル療養ノ費用トス

一 診察(扶助請求ニ必要ナル診斷書意見書等ノ作成ヲ含ム)

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置及手術(齒科補綴ヲ含ム)

ニ最近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格

三 前二號ノ規定ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格

政府ハ第一項第一號ノ規定ニ依ルヲ著シク不適當ナリト認ムルトキハ同
項第二號ノ規定ニ依リ保險料ヲ定ムルコトヲ得

政府ハ工事開始後保險料(第七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險
料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ付工事開始後ノ拂込ガ已ムコトヲ得ザル事
由ニ因ルモノト認メタルトキハ工事開始ノ日ヨリ保險料拂込ノ日迄ニ於
ケル工事進捗ノ狀況又ハ使用勞働者延人員數ニ應ジテ保險料ヲ減額スル
コトヲ得

第七條 保險契約ノ申込ヲ爲シタル者ハ已ムコトヲ得ザル場合ヲ除クノ外
工事開始前ニ保險料ヲ政府ニ拂込ムベシ但シ工期間一年ヲ超ユルモノ
ニ付テハ最初ノ一年分ノ保險料ヲ工事開始前ニ拂込ミ爾後各年(一年ニ
滿テザルトキハ其ノ期間)分ノ保險料ヲ其ノ期間開始前ニ拂込ムコトヲ
得

(台四)

(台四)

四 物理的治療

五 病院收容

六 看護

七 移送

前項ノ療養ノ費用ハ政府ノ定ムル所ニ依リ之ヲ算定ス

第一項第一號乃至第五號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外
政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ受ケタルモノニ限ル

第一項第四號乃至第七號ノ療養ハ政府ノ承認ヲ受ケタルモノニ限ル

第四條 第二條第五號ノ打切扶助料ハ政府ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ指示ニ依
リ支給スルモノニ限ル

保險金受取人前項ノ指示ニ從ハザルトキハ政府ハ當該負傷又ハ疾病ニ付
以後ノ療養費及休業扶助料ニ對スル保險金ノ支拂ヲ爲サズ

第五條 保險期間ハ工事ノ開始ヨリ終了迄トス但シ工事開始後保險料(第
七條第一項但書ノ場合ニ於テハ第一回保險料)ノ拂込ヲ爲シタルモノニ
付テハ拂込ノ翌日ヨリ工事終了迄トス

第六條 保險料ハ左ノ金額トス

一 請負金額ノ定アル工事(工作物ノ破壊工事ヲ除ク)ニ付テハ請負金額
ニ保險料率ヲ乗ジタル額

二 前號以外ノ工事ニ付テハ勞働者ノ賃金總額ニ保險料率ヲ乗ジタル額
注文者ガ工事用物ヲ支給スル場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ算定シタル價
額ヲ其ノ工事ノ請負金額ニ加算シタルモノヲ以テ前項第一號ノ保險料算
定ノ基礎タル請負金額トス

一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價格

二 注文者ガ其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時

第四編 社會 第四章 保險 勞働者災害扶助責任保險法施行令

一六八三

ノ他必要アル場合ニ於テハ保險料ノ追加拂込ヲ命ズルコトヲ得
第八條 第六條第一項第二號及前條第二項第四項ノ貸金總額ハ勞働者災害扶助法施行令第十五條及第十六條ノ規定ニ依リ定ムル標準貸金額ニ使用勞働者延人員(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク)ノ數ヲ乘ジタル金額トス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ十六歳未満ノ者ハ十六歳以上ノ者ト看做ス
第九條 保險料率ハ内務大臣之ヲ定ム

第十條 第七條ノ規定ニ依リテ拂込ミタル保險料ガ工事終了後第六條ノ規定ニ依リテ算定シタル保險料ニ比シテ過不足アルトキハ政府ハ保險料ノ追加拂込ヲ命ジ又ハ之ヲ返還ス

第十一條 左ノ各號ノ條件ヲ具備スル場合ニ於テハ政府ハ第一號ノ剩餘額ノ範圍内ニ於テ且第三號ノ超過額ヲ限度トシテ第一號ノ工事ノ保險契約者ニ保險料ノ一部ヲ返還スルコトヲ得但シ勞働者災害扶助責任保險法第五條乃至第七條ノ規定ニ該當スル保險契約者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ
一 毎會計年度末現在ニ於テ前前年度中ニ作業ノ終了シタル工事ニ付其ノ保險料總額ノ八割ヨリ支拂保險金總額ヲ差引キ剩餘ヲ生ズルコト
二 當該會計年度決算ニ於テ損失ヲ生ゼザルコト
三 當該會計年度決算ニ於ケル積立金ガ本保險創始以來ノ收入保險料總額ノ一割ヲ超ユルコト

前項ノ規定ニ依ル返還ハ各個ノ工事ニ付保險料ノ八割ヨリ支拂保險金額ヲ控除シタル殘額ニ比例シテ之ヲ爲ス
第一項ノ會計年度九月末現在ニ於テ尙繼續シテ療養ヲ受クル者アルトキハ前二項ノ規定ノ適用ニ付テハ同年度九月末ニ於テ打切扶助料ヲ支給シタルモノト看做シ支拂保險金額ヲ計算ス

第十二條 保險金受取人ノ行方不明、資力薄弱其ノ他ノ事由ニ因リ扶助ヲ受クルコト困難ナリト認ムル場合ニ於テハ政府ハ扶助ヲ受クベキ者ニ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第十三條 勞働者災害扶助責任保險法第五條ノ場合ニ於テハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ保險契約者告知セザリシ事實ヲ告知シ又ハ不實ノ告知ヲ訂正シタル場合ニ於テ其ノ後ニ生ジタル事故ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 保險契約者第七條第一項但書ノ規定ニ依ル第二回以後ノ保險料ノ拂込又ハ同條第四項ノ規定ニ依ル保險料ノ追加拂込ヲ遲滞シタルトキハ政府ハ遲滞期間中ニ生ジタル事故ニ對スル保險金ノ支拂ヲ爲サズ但シ已ムコトヲ得ザル事由ニ因ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 保險契約者又ハ保險金受取人故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ扶助責任ノ原因タル事故ヲ生ゼシメタルトキハ政府ハ保險金ノ支拂ヲ爲サズ

第十六條 政府ハ事業主ガ扶助ヲ爲ス資力ナシト認ムル場合ニ於テハ前三條ノ規定ニ拘ラズ保險金ヲ支拂フコトヲ得

第十七條 勞働者災害扶助責任保險ハ社會局長官ニ於テ之ヲ掌ル但シ第三條第三項第四項又ハ第四條第一項ノ承認又ハ指示ハ工事ノ主タル事務所ノ所在地(扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)之ヲ爲ス

附則 (昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
附則 (昭和一〇年勅令第二七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十年四月二十日迄ニ保險契約ノ申込ヲ爲シタル工事ノ保險料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

○勞働者災害扶助責任保險法施行令ニ

第三條第三項ノ政府ノ指定スル醫師、

齒科醫師及病院

昭和六年十二月十四日
内務省告示第二百八十一號

勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項ノ政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ハ左ノ通トス

- 一 健康保險法施行令第七十五條ノ規定ニ依リ政府ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師
- 二 昭和二年勅令第二百六十八號健康保險ノ療養ノ給付ヲ爲ス大學附屬醫院等ニ關スル件第四條ノ規定ニ依リ内務大臣ノ定メタル病院

○勞働者災害扶助責任保險法施行規則

昭和六年十一月二十八日
内務省令第三十三號

改正 昭和一〇年第一六號

第一條 保險契約ノ申込ヲ爲サントスル者ハ保險契約申込書ニ左記事項ヲ具シ記名捺印ノ上社會局長官ニ提出スベシ但シ保險契約ノ申込當時第二號ノ工事ノ主タル事務所ノ設ケナキトキハ之ヲ設ケタル後遲滞ナク届出
一 工事ノ場所、名稱及種類
二 工事ノ主タル事務所ノ所在地

第四編 社會 第四章 保險 勞働者災害扶助責任保險法施行規則

三 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日

四 保險契約申込者ノ住所氏名

五 請負ニ依ル工事ニ在リテハ注文者ノ住所氏名

六 使用勞働者(工場法又ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル職工及鑛夫ヲ除ク以下ニ同ジ)男女別豫定延人員ノ概數

七 工事ノ豫定費用概算額(請負ニ依ル工事ニシテ請負金額ノ定マレルモノニ在リテハ請負金額)

八 注文者ヨリ工食用物ノ支給ヲ受クル場合ニハ其ノ種類別ノ數量及價格ノ見積額

九 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第二號ノ規定ニ依リモノニ付テハ貸金總額ノ見込額

十 保險料率

十一 勞働者災害扶助責任保險法施行令第七條ノ規定ニ依リ拂込ムベキ保險料(以下概算保險料ト稱ス)ノ總額及工事開始前ニ拂込ムベキ概算保險料額

十二 工事設計ノ概要

前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ社會局長官ニ届出スベシ但シ勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第二項又ハ同令第七條第四項ノ規定ニ依リ政府ガ前項第十號及第十一號ノ事項ヲ變更シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ規定ニ依リ社會局長官ニ保險契約申込書ヲ提出シタルトキハ其ノ寫本ヲ添ヘ其ノ旨地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下ニ同ジ)ニ届出スベシ

第二條 社會局長官保險契約ノ申込ヲ承諾シタルトキハ保險證書ヲ作成シ

第四編 社會 第四章 保險 勞働者災害扶助責任保險法施行規則

保險契約者ニ交付ス

保險證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ社會局長官記名捺印ス

- 一 保險證書作成ノ年月日及記載番號
- 二 保險契約者ノ住所氏名
- 三 工事ノ場所、名稱及種類
- 四 工事ノ開始及終了ノ豫定年月日
- 五 勞働者災害扶助責任保險法施行令第六條第一項第一號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ請負金額、同項第二號ノ規定ニ依ルモノニ付テハ賃金總額ノ見込額
- 六 保險料率
- 七 概算保險料額
- 八 拂込ミタル概算保險料ノ額及拂込年月日、概算保險料未拂込ノ部分アルトキハ其ノ額及拂込時期

第三條 勞働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ規定ニ依リ下請負人ガ保險金受取人タル場合ニ於テハ保險契約者ハ其ノ下請負人ガ扶助ヲ引受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ左記事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ

- 一 保險證書ノ作成年月日及記載番號(保險證書ノ受領前ニ在リテハ工事ノ場所及名稱)
 - 二 保險契約者ノ住所氏名
 - 三 保險金受取人ノ住所氏名及其ノ工事ニ於ケル主タル事務所ノ所在地
 - 四 扶助ヲ引受ケシメタル工事ノ種類、範圍及其ノ使用勞働者男女別豫定延人員ノ概數
- 前項各號ノ事項ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ

第四條 社會局長官ハ前條第一項ノ届出アリタルトキハ保險金受取人證書ヲ作成シ保險金受取人ニ交付ス

保險金受取人證書ニハ前條第一項各號ノ事項並ニ保險金受取人證書作成ノ年月日及記載番號ヲ記載シ社會局長官記名捺印ス

第五條 保險證書又ハ保險金受取人證書ノ記載事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ遲滞ナク保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ添ヘ其ノ訂正ノ申請ヲ爲スベシ

勞働者災害扶助責任保險法第四條但書ノ保險金受取人タル下請負人ガ保險金受取人タラザルニ至リタルトキハ保險契約者ハ其ノ旨社會局長官ニ届出ヅベシ

第六條 保險證書又ハ保險金受取人證書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第七條 保險契約者ハ日ノ使用勞働者男女別人員數ヲ記録シ毎月十日迄ニ前月分ヲ地方長官ニ届出ヅベシ但シ請負金額ニ依リ保險料ヲ定メタル場合ニ於テハ日ノ使用勞働者男女別人員數ヲ記録スルヲ以テ足ル

第八條 保險契約者ハ工事終了後遲滞ナク左記事項ヲ社會局長官ニ届出ヅベシ

- 一 保險證書作成ノ年月日及記載番號
- 二 保險契約者ノ住所氏名
- 三 工事ノ場所、名稱及種類
- 四 工事ノ開始及終了年月日
- 五 使用勞働者男女別延人員
- 六 請負金額ノ定アル工事ニ付テハ請負金額
- 七 注文者ヨリ支給ヲ受ケタル工費用物ノ有無

前項ノ届出ニ際シテハ第二十條第三項ノ規定ニ依リ委託ヲ受ケタル注文者ノ申告書ヲ併セテ提出スベシ

第九條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

- 一 保險證書ノ作成年月日及記載番號(保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記載番號)但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱
- 二 勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ勞働者死傷報告届出ノ年月日
- 三 扶助ヲ受ケル者ノ住所氏名及生年月日
- 四 療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名、職業及學位又ハ稱號
- 五 傷病ノ部位及經過
- 六 療養ノ内容
- 七 療養ニ要スル費用ノ見込額
- 八 政府ノ指定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ就キ療養ヲ受ケルコト能ハザル事由

第十條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第四項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ前條第一號乃至第三號及第五號乃至第七號ニ掲グル事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

前項ノ申請ニハ醫師又ハ齒科醫師ノ意見書ヲ添附スベシ

第十一條 前二條ノ規定ハ勞働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ政府ヨリ保險金ノ支拂ヲ受ケル者ガ勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ヲ受ケントスル場合ニ之ヲ準用ス但シ申請書ニ保險證書、保險金受取人證書又ハ勞働者死傷報告ニ關

第四編 社會 第四章 保險 勞働者災害扶助責任保險法施行規則

スル事項ヲ記載スルコト能ハザルトキハ保險金受取人ノ住所氏名、工事ノ場所及名稱、事故發生ノ年月日並ニ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

第十二條 勞働者災害扶助責任保險法施行令第三條第三項又ハ同條第四項ノ承認ヲ申請ハ療養ヲ擔當スル者ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第九條、第十條及前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十二條ノ二 保險金受取人療養擔當者ヲ變更セントスルトキハ左記事項ヲ具シ豫メ地方長官ニ届出ヅベシ但シ新ニ療養ヲ擔當セントスル者現ニ療養ヲ擔當スル者ト同一道府縣内ニ居住スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 保險證書ノ作成年月日及記載番號(保險金受取人保險契約者ナラザルトキハ保險金受取人證書ノ作成年月日及記載番號)但シ保險證書又ハ保險金受取人證書受領前ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所氏名及工事ノ場所及名稱
- 二 勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ勞働者死傷報告届出ノ年月日
- 三 扶助ヲ受ケル者ノ住所氏名及生年月日
- 四 現ニ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名
- 五 新ニ療養ヲ擔當セントスル者ノ住所氏名

第十三條 保險金受取人勞働者災害扶助責任保險法施行令第四條第一項ノ承認ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ具シ地方長官ニ申請スベシ

- 一 第九條第一號乃至第三號ニ掲グル事項
 - 二 扶助ニ關スル從來ノ經過及扶助ヲ打切ラントスル事由
- 前項ノ申請ニハ扶助ヲ受ケル者ノ現在ノ症狀及將來ノ療養見込日數ニ關スル醫師ノ意見書ヲ添附スベシ

第十四條 保險金受取人保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ勞働者毎ニ左

第四編 社會 第四章 保險 勞働者災害扶助責任保險法施行規則

記事項ヲ記載シタル請求書ヲ社會局長官ニ提出スベシ

一 第九條第一號、第二號及第五號ニ掲グル事項

二 傷病者又ハ死亡者ノ住所氏名及生年月日

三 勞働者治愈シタルトキ又ハ死亡シタルトキハ其ノ年月日、未治愈ノトキハ其ノ旨

四 扶助種類別保險金額、療養ノ扶助ニ付テハ費用ノ詳細、休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシ日數及年月日、障害扶助料ニ付テハ障害ノ概要及該當等級、遺族扶助料ニ付テハ之ヲ受クル者ノ住所氏名、生年月日及本人トノ續柄

前項ノ請求書ニハ左記書類ヲ添附スベシ
一 療養費ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ受取書但シ療養ヲ擔當スル者保險金受取人ノ委任ヲ受ケテ保險金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

二 休業扶助料、障害扶助料、遺族扶助料及打切扶助料ニ付テハ扶助料ヲ受ケタル者ノ受取書其ノ他扶助料ヲ支給シタルコトヲ證スル書類但シ扶助ヲ受ケベキ者保險金受取人ノ委任ヲ受ケ保險金ノ支拂ヲ請求スル場合ニハ之ヲ添附スルコトヲ要セズ

三 休業扶助料ニ付テハ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザリシコトニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ意見書

四 病院收容ノ場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者アルトキハ之ヲ證スル書類

五 障害扶助料ニ付テハ當該等級ニ相當スルコトヲ證スル醫師又ハ齒科醫師ノ診斷書

六 遺族扶助料ニ付テハ醫師ノ死亡診斷書、警察官署ノ檢死證又ハ市町

所在地(保險金ノ請求ニ付テハ扶助開始後ニ於テ扶助ヲ受クル者ガ工事ノ主タル事務所ノ所在スル道府縣以外ノ道府縣ニ移轉シタルトキハ其ノ居住地)ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ但シ第一條第一項ノ保險契約申込書ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ注文者請負者ニ工事用物ヲ支給シタルトキハ工事終了後遅滞ナク其ノ支給シタル物ノ種類別數量及左ノ各號ニ依リ算定シタル價額ヲ社會局長官ニ申告スベシ

一 注文者ガ購買シタル物ニ付テハ其ノ購買價額

二 注文者ガ其ノ業トシテ生産又ハ製造シタル物ニ付テハ其ノ支給ノ時ニ最近接シテ注文者ガ販賣シタル通常ノ價格

三 前二號ニ依リ難キ物ニ付テハ其ノ見積價格

地方長官ハ前項ノ注文者ニ對シ請負金額其ノ他必要ト認ムル事項ノ申告ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第一條第一項但書、同條第二項、同條第三項、第七條、第八條又ハ第十八條ノ規定ニ違反シタル者

二 前條ノ申告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者

三 本則ニ依リ社會局長官又ハ地方長官ニ提出スル書類ニ虛偽ノ事實ヲ記載シタル者

第二十二條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ注文者、保險契約者、保險金受取人又ハ扶助ヲ受ケベキ者未成年者若ハ禁治産者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法

第四編 社會 第四章 保險 勞働者災害補償内外人均等待遇條約

村長ノ埋火葬認許證寫其ノ他死亡ヲ證スル書類及死亡者ノ戶籍謄本其

ノ他遺族扶助料ヲ受ケベキ者ト本人トノ續柄ヲ證スル書類

第十五條 前條ノ保險金支拂ノ請求書ハ毎月二十日迄ニ前月分ニ付テハ提出スベシ

第十六條 扶助ヲ受ケベキ者勞働者災害扶助責任保險法施行令第十二條ノ規定ニ依リ保險金ノ支拂ヲ受ケントスルトキハ左記事項ヲ記載シタル請求書ヲ社會局長官ニ提出スベシ

一 第十四條第一項各號ノ事項

二 事業主ヨリ扶助ヲ受ケタルコト困難ナル事由

三 既ニ受ケタル扶助ノ内容(療養ニ付テハ療養ヲ擔當スル者ノ住所氏名及療養費、休業扶助料ニ付テハ休業年月日及期間並ニ金額、障害扶助料ニ付テハ其ノ該當等級及金額)

前項ノ請求書ニ付テハ第十一條但書及第十四條第二項(第二號ヲ除ク)ノ規定ヲ準用ス

社會局長官第一項ノ請求書ヲ受ケ扶助ヲ受ケベキ者ニ直接保險金ヲ支拂ヒタルトキハ保險金受取人ニ其ノ旨通知ス

第十七條 第九條乃至前條ノ適用ニ付勞働者災害扶助法施行規則第五條ノ規定ニ依リ勞働者死傷報告ノ届出ヲ爲スコトヲ要セザル場合ニ於テハ勞働者死傷報告届出ノ年月日ニ代ヘ事故ノ原因及發生狀況ヲ記載スベシ

第十八條 保險契約者及保險金受取人ハ工事ノ主タル事務所(工事終了後ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金受取人ノ住所)ニ保險ニ關スル書類ヲ備置クベシ

保險ニ關スル書類ハ扶助ノ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スベシ

第十九條 本則ニ依リ社會局長官ニ提出スベキ書類ハ工事ノ主タル事務所

令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 勞働者災害扶助法第一條第二號(ハ)ノ工事ノ注文者、保險契約者又ハ保險金受取人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居人、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十四條 本則ノ罰則ハ道府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ニ之ヲ適用セズ

附則 本則ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル條約

昭和三年十一月八日 條約第六號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十四年瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開催ノ第七回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、外務、内務大臣副署)

勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル條約 國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ召集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第二項目タル勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ

國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セラルルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月五日左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ本條約ヲ批准シタル他ノ締盟國ノ國民ニシテ其ノ領域内ニ於テ發生スル産業災害ニ因リ身體ノ傷害ヲ受ケタル者又ハ該勞働者ノ被扶養者ニ自國民ニ許與スルト同様ノ勞働者補償ニ關スル待遇ヲ許與スルコトヲ約ス
右ノ均等待遇ハ居所ノ如何ニ拘ラズ外國人勞働者又ハ其ノ被扶養者ニ保障セラルベシ締盟國又ハ其ノ國民ガ右原則ニ基キ該締盟國ノ領域内ニ於テ爲スベキ支拂ニ關シテ執ルベキ措置ハ、必要アルトキハ、關係アル締盟國間ノ特殊ノ協定ニ依リ之ヲ定ムベシ

第二條

一締盟國ノ領域内ニ於テ他ノ締盟國ノ領域内ニ存在スル企業ノ爲一時的又ハ間歇的ニ使用中ノ勞働者ニ發生スル産業災害ノ補償ハ右他ノ締盟國ノ法令及規則ノ適用ヲ受クベキコトヲ定ムル爲關係アル締盟國間ニ於テ特殊ノ取極ヲ爲スコトヲ得

第三條

本條約ヲ批准スル締盟國ニシテ保險其ノ他ノ方法ニ依ル勞働者災害補償ニ關スル制度ヲ未ダ有セザルモノハ其ノ批准ノ日ヨリ三年以内ニ右ノ制度ヲ設クルコトニ同意ス

第四條

本條約ヲ批准スル締盟國ハ本條約ノ實施並勞働者補償ニ關スル各自國ノ法令及規則ノ施行ヲ容易ナラシムル爲相互ノ助力ヲ互ニ與フルコト又勞働者

第十條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ十年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務總長宛登錄ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其ノ効力ヲ生ゼズ

第十一條

國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第十二條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス
前記ハ國際勞働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス
總會 議長
ドクトル、エドヴァルド、ベネシユ
國際勞働事務局長
アル、ベール、トーマ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕大正十四年瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開催ノ第七回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

補償ニ關スル現行ノ法令及規則ノ變更ニ關シ國際勞働事務局ニ通報スルコトヲ尙約ス右事務局ハ他ノ關係アル締盟國ニ之ヲ通報スベシ

第五條

「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スベシ

第六條

本條約ハ事務局長ガ國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スベシ
本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル締盟國ノミヲ拘束スベシ
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第七條

國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國ガ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ヲ登錄ヲ爲シタルトキハ事務局長ハ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務局長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ヲ登錄ヲ一切ノ締盟國ニ同様ニ通告スベシ

第八條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十七年一月一日迄ニ第一條、第二條、第三條及第四條ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルベキ措置ヲ執ルコトニ同意ス尤モ第六條ノ規定ニ從フモノトス

第九條

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

神武天皇即位紀元二千五百八十八年昭和三年七月二十六日東京宮城ニ於テ親ヲ署名シ麗ヲ鈴セシム
御名 國號
外務大臣 男爵 田中義一
昭和三年十一月八日

○外務省告示第三百三十五號
大正十四年第七回國際勞働總會ニ於テ採擇セラレタル「勞働者災害補償ニ付テノ内外人勞働者ノ均等待遇ニ關スル條約」ニ對スル帝國ノ批准ハ十月八日國際聯盟事務局ニ之ガ登錄ヲ了シタリ
尙同日迄ニ右條約ノ批准登錄ヲ爲シタル國名及地域名左ノ通
南阿弗利加聯邦
獨逸國
奧地利國
白耳義國
(白耳義領「コンゴ」及白耳義國委任統治地域ニ對スル右條約ノ適用ニ關スル將來ノ決定ヲ留保ス)
「グレート、ブリテン」國
「キユバ」國
丁抹國
(「グリーンランド」ヲ含マズ)
「フィンランド」國
佛蘭西國
「ハンガリー」國
印 度(英領印度)
伊太利國

「ラトヴィア」國
「ルクセンブルグ」國
和蘭國
「ポーランド」國
「セルブ、クロアチア、スロヴェニア」國
瑞典國
「チエッコスロヴァキア」國

○勞働者職業病補償ニ關スル條約

昭和三年十一月八日
條約第五號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大正十四年瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開催ノ第七回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル勞働者職業病補償ニ關スル條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム（總理、外務、内務、務大臣副署）

勞働者職業病補償ニ關スル條約
國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ召集セラレ千九百二十五年五月十九日ヲ以テ其ノ第七回會議ヲ開催シ
右會議ノ會議事項ノ第一項目ノ一部タル勞働者職業病補償ニ關スル提案ノ採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルベキモノナルコトヲ決定シ
國際勞働機關ノ締盟國ニ依リ批准セララルガ爲「ヴェルサイユ」條約ノ第三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ノ規定ニ從ヒ千九百二十五年六月十日左ノ條約案ヲ採擇ス

第一條

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ職業病ニ因リ勞働不能ト爲リタル勞働者ニ、又ハ右疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ被扶養者ニ、産業災害補償ニ關スル當該國ノ法制ノ一般原則ニ從ヒ補償ヲ支拂フベキヲ定ムルコトヲ約ス

右ノ補償ノ率ハ産業災害ニ因リ生ズル傷害ニ關スル當該國ノ法制ノ定ムル率ヲ下ルコトヲ得ズ、右ノ規定ヲ條件トシテ各締盟國ハ前記ノ疾病ニ對スル補償ノ支拂ハルベキ條件ヲ當該國ノ法令又ハ規則中ニ定ムルニ付又産業災害補償ニ關スル其ノ法制ヲ前記疾病ニ適用スルニ付其ノ便宜ト思惟スル變更及修正ヲ加フルコトヲ得

第二條

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ本條附表ニ掲グル料品ニ因リ生ズル疾病及中毒ガ右附表ニ於テ對當シテ掲グル工業又ハ職業ニ從事スル勞働者ヲ冒シ且當該國ノ法制ノ適用ヲ受クル企業ニ於ケル就業ノ結果生ズルトキハ右疾病及中毒ヲ職業病ト認ムルコトヲ約ス

附表

疾病及有毒料品ノ種目
鉛、其ノ合金又ハ化合物ノ中毒及其ノ續發症
之ニ對當スル工業又ハ職業ノ種目
含鉛礦石ノ取扱（亜鉛工場ニ於ケル鉛灰ヲ含ム）
古亞鉛及鉛ノ「インゴット」鑄造
鑄鉛又ハ鉛合金ヨリ成ル物品ノ製造
複寫業ニ於ケル作業
鉛化合物ノ製造

(右四)

(右四)

第四條

本條約ハ事務總長ガ國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スベシ

本條約ハ該事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル締盟國ノミヲ拘束スベシ
爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ右事務局ニ其ノ批准ヲ登錄シタル日ヨリ效力ヲ發生スルモノトス

第五條

國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國ガ國際聯盟事務局ニ本條約ノ批准ノ登錄ヲ爲シタルトキハ事務總長ハ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務總長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登錄ヲ一切ノ締盟國ニ同様ニ通告スベシ

第六條

本條約ヲ批准スル各締盟國ハ千九百二十七年一月一日迄ニ第一條及第二條ノ規定ヲ實施シ且右規定ヲ實施スルニ必要ナルベキ措置ヲ執ルコトニ同意ス尤モ第四條ノ規定ニ從フモノトス

第七條

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ「ヴェルサイユ」條約ノ第四百二十一條ノ規定及他ノ平和諸條約ノ對當條項ノ規定ニ依リ其ノ殖民地、屬地及保護國ニ之ヲ適用スルコトヲ約ス

第八條

本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ五年ノ期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務局總長宛登錄ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登錄アリタル日以後一年間ハ其ノ效力ヲ生ゼズ

水銀、其ノ「アマルガム」及化合物ノ
中毒並其ノ續發症

蓄電池ノ製造及修理
鉛ヲ含ム「エナメル」ノ製造及使用
鉛鍍又ハ鉛ヲ含ム「パテ」粉ヲ以テスル琢磨
鉛顔料ヲ含ム塗料、膠著料品又ハ著色料品ノ製造及取扱ヲ含ム一切ノ塗布作業

水銀礦石ノ取扱
水銀化合物ノ製造
計量器具及實驗用器具ノ製造
製帽業用ノ粗製材料ノ製造
「アマルガム」鍍金
灼熱燈ノ製造ニ於ケル水銀唧筒ノ使用
雷汞雷管ノ製造

炭疽病感染

炭疽病ニ感染セル動物ニ關聯スル作業
皮、蹄及角ヲ包含スル動物ノ殘骸又ハ右殘骸ノ一部ノ取扱
商品ノ積込及荷卸又ハ運送

第三條

「ヴェルサイユ」條約ノ第十三編及他ノ平和諸條約ノ對當編ニ定ムル條件ニ依ル本條約ノ正式批准ハ登錄ノ爲國際聯盟事務局總長ニ之ヲ通告スベシ

第四編 社會 第四章 保險 勞働者職業病補償條約

第九條

國際勞働事務局ノ理事會ハ少クトモ十年ニ一回本條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ改正又ハ變更ニ關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第十條

本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス 前記ハ國際勞働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九百二十五年六月十日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第七回會議中適法ニ採擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス 右證據トシテ千九百二十五年六月二十四日署名ス

總會議長

ドクトル、エドヴァルド、ベネシ

國際勞働事務局長

アル、ペール、トーマ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有業ニ宣示ス

朕大正十四年瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開催ノ第七回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル勞働者職業病補償ニ關スル條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百八十八年昭和三年七月二十六日東京宮城ニ於テ親ヲ署名シ璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣 男爵 田中義一

○外務省告示第三百三十四號 (昭和三年十一月八日)

大正十四年第七回國際勞働總會ニ於テ採擇セラレタル「勞働者職業病補償

案ヲ千九百三十四年六月二十一日採擇ス

勞働者職業病補償ニ關スル條約(千九百三十四年改正)

國際聯盟ノ國際勞働機關ノ總會ハ

國際勞働事務局ノ理事會ニ依リ「ジュネーヴ」ニ召集セラレ千九百三十四

年六月四日ヲ以テ其ノ第十八回會議ヲ開催シ

右會議ノ會議事項ノ第五項目タル、總會ニ依リ其ノ第七回會議ニ於テ採

擇セラレタル勞働者職業病補償ニ關スル條約ノ一部改正ニ關スル提案ノ

採擇ヲ決議シ且

該提案ハ國際條約案ノ形式ニ依ルヲ要スルコトヲ思ヒ

千九百三十四年ノ勞働者補償(職業病)條約(改正)ト稱セラレベキ左ノ條約

案ヲ千九百三十四年六月二十一日採擇ス

第一條

一本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ職業病ニ因リ勞働不能ト爲リタル勞働者ニ、又ハ右疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ被扶養者ニ、産業災害補償ニ關スル國內法制ノ一般原則ニ從ヒ補償ヲ支拂フベキヲ定ムルコトヲ約ス

二 右ノ補償ノ率ハ産業災害ニ因リ生ズル傷害ニ關スル國內法制ノ定ムル率ヲ下ルコトヲ得ズ右ノ規定ヲ條件トシテ各締盟國ハ前記ノ疾病ニ對スル補償ヲ支拂ハルベキ條件ヲ國內ノ法令又ハ規則中ニ定ムルニ付又産業災害補償ニ關スル其ノ法制ヲ前記疾病ニ適用スルニ付其ノ便宜ト思惟スル變更及修正ヲ加フルコトヲ得

第二條

本條約ヲ批准スル國際勞働機關ノ各締盟國ハ本條附表ニ掲グル料品ニ因リ生ズル疾病及中毒ガ右附表ニ於テ對當シテ掲ゲラルル職業、工業又ハ作業ニ從事スル勞働者ヲ且前記國內法制ノ適用ヲ受クル企業ニ於ケル就業

第四編 社會 第四章 保險 勞働者職業病補償條約

ニ關スル條約」ニ對スル帝國ノ批准ハ十月八日國際聯盟事務局ニ之ガ登錄ヲ了シタリ

尙同日迄ニ右條約ノ批准登錄ヲ爲シタル國名及地域名左ノ通

獨逸國

奧地利國

白耳義國

(「白耳義領」「コンゴ」及「白耳義國委任統治地域」ニ對スル右條約ノ適用ニ關スル將來ノ決定ヲ留保ス)

「グレイト、ブリテン」國

「キュバ」國

「フィンランド」國

「ハンガリー」國

印 度(英領印度)

「アイルランド」自由國

「ルクセンブルグ」國

「セルブ、クロアチア、スロヴェニア」國

瑞西國

○勞働者職業病補償ニ關スル條約(千九百三十四年改正)

昭和十一年十月三日 條約第七號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ昭和九年「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル第十八回國際勞働總會ノ採擇ニ係ル勞働者職業病補償ニ關スル條約(千九百三十四年改正)ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、內務、拓務、外務大臣副署)

ノ結果生ズルトキハ右疾病及中毒ヲ職業病ト認ムルコトヲ約ス

附表

疾病及有毒料品ノ種目

鉛、其ノ合金又ハ化合物ノ中毒及其ノ續發症

對當ノ職業、工業又ハ作業ノ種目

含鉛礦石(亞鉛工場ニ於ケル鉛灰ヲ含ム)ノ取扱

古亞鉛及鉛ノ「インゴット」鑄造

鑄鉛又ハ鉛合金ヨリ成ル物品ノ製造

複寫業ニ於ケル作業

鉛化合物ノ製造

蓄電池ノ製造及修理

鉛ヲ含ム「エナメル」ノ製造及使用

鉛鍍又ハ鉛ヲ含ム「パテ」粉ヲ以テスル琢磨

鉛顏料ヲ含ム塗料、接合料品又ハ著色料品ノ製造及取扱ヲ含ム一切ノ塗布作業

水銀礦石ノ取扱

水銀化合物ノ製造

計量器具及實驗用器具ノ製造

製帽業用ノ粗製材料ノ製造

「アマalgam」鍍金

灼熱燈ノ製造ニ於ケル水銀唧筒ノ使用

雷汞雷管ノ製造

炭疽病感染

炭疽病ニ感染セル動物ニ關聯スル作業、蹄及角ヲ包含スル動物ノ殘骸又ハ右殘骸ノ一部ノ取扱
商品ノ積込及荷卸又ハ運送
肺結核ヲ伴フ又ハ伴ハザル肺尤モ
肺ノ危險ニ曝サルモノト國內ノ
法令又ハ規則ニ依リ認メラルル工業
又ハ作業
燐又ハ其ノ化合物ノ生産、分離又ハ
使用ヲ含ム作業
砒素又ハ其ノ化合物ノ生産、分離又
使用ヲ含ム作業
「ベンゾール」又ハ其ノ同族體又ハ其
ノ「ニトロ」及「アミノ」誘導體ノ生
産、分離又ハ使用ヲ含ム作業
國內ノ法令又ハ規則ニ依リ指定セラ
ル脂肪族ノ炭化水素ノ「ハロゲン」
誘導體ノ生産、分離又ハ使用ヲ含ム
作業
「ラヂウム」、放射能料品又ハ「エツ
クス」線ノ作用ニ曝サルル作業
「タール」、「ピッチ」、瀝青、礦物油、
皮膚ノ原發性上皮癌

「パラフィン」又ハ此等ノ料品ノ化合
物、生産品若ハ殘滓ノ取扱又ハ使用
ヲ含ム作業

第三條

本條約ノ正式批准ハ登録ノ爲國際聯盟事務總長ニ之ヲ通告スベシ

第四條

一 本條約ハ國際聯盟事務總長ニ其ノ批准ヲ登録シタル國際勞働機關ノ締
盟國ノミヲ拘束スベシ
二 本條約ハ事務總長ガ締盟國中ノ二國ノ批准ヲ登録シタル日ノ後十二月
ニシテ效力ヲ發生スベシ
三 爾後本條約ハ他ノ何レノ締盟國ニ付テモ其ノ批准ヲ登録シタル日ノ後
十二月ニシテ效力ヲ發生スベシ

第五條

國際勞働機關ノ締盟國中ノ二國ノ批准ガ國際聯盟事務局ニ登録セラレタル
トキハ事務總長ハ國際勞働機關ノ一切ノ締盟國ニ右ノ旨ヲ通告スベシ事務
總長ハ爾後該機關ノ他ノ締盟國ノ通告シタル批准ノ登録ヲ一切ノ締盟國ニ
同様ニ通告スベシ

第六條

一 本條約ヲ批准シタル締盟國ハ本條約ノ最初ノ效力發生ノ日ヨリ五年ノ
期間滿了後ニ於テ國際聯盟事務局總長宛登録ノ爲ニスル通告ニ依リ之ヲ廢
棄スルコトヲ得右ノ廢棄ハ該事務局ニ登録アリタル日ノ後一年間ハ其ノ
效力ヲ生ゼズ
二 本條約ヲ批准シタル各締盟國ニシテ前項ニ掲グル五年ノ期間滿了後一
年以内ニ本條ニ定ムル廢棄ノ權利ヲ行使セザルモノハ更ニ五年間拘束ヲ

(古四)

左記ニ基因スル病變
イ 「ラヂウム」及他ノ放射能料品
ロ 「エツクス」線
皮膚ノ原發性上皮癌

受クベク又爾後各五年ノ期間滿了毎ニ本條ニ定ムル條件ニ依リ本條約ヲ
廢棄スルコトヲ得

第七條

國際勞働事務局ノ理事會ハ本條約ノ效力發生ヨリ各十年ノ期間滿了毎ニ本
條約ノ施行ニ關スル報告ヲ總會ニ提出スベク且其ノ全部又ハ一部ノ改正ニ
關スル問題ヲ總會ノ會議事項ニ掲グベキヤ否ヤヲ審議スベシ

第八條

一 總會ガ本條約ノ全部又ハ一部ヲ改正スル新條約ヲ採擇スル場合ニハ新
條約ガ別段ノ定ヲ爲サザル限リ
イ 締盟國ニ依ル新改正條約ノ批准ハ新改正條約ガ效力ヲ發生シタルト
キ前記第六條ノ規定ニ拘ラズ當然ニ本條約ノ即時ノ廢棄ヲ生ゼシムベ
シ

ロ 新改正條約ノ效力發生ノ日ヨリ本條約ハ締盟國ニ依リ批准セラレ得
ザルニ至ルベシ

第九條

二 本條約ハ之ヲ批准シタルモ改正條約ヲ批准セザル締盟國ニ對シテハ如
何ナル場合ニ於テモ其ノ現在ノ形式及内容ニ於テ引續キ效力ヲ有スベシ
本條約ハ佛蘭西語及英吉利語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トス
前記ハ國際勞働機關ノ總會ニ依リ、「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレ且千九
百三十四年六月二十三日閉會ヲ宣セラレタル其ノ第十八回會議中適法ニ採
擇セラレタル條約案ノ正文ナリトス
右證據トシテ千九百三十四年八月九日署名ス

總會議長 ジュスタン、ゴダール

國際勞働事務局長 ハロルド、バトラ

(古四)

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル大日本帝國天皇(御名)此ノ書ヲ見ル
有衆ニ宣示ス
朕昭和九年「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル第十八回國際勞働總會ノ採
擇ニ係ル勞働者職業病補償ニ關スル條約(千九百三十四年改正)ヲ閱覽點檢
シ之ヲ嘉納批准ス
神武天皇即位紀元二千五百九十六年昭和十一年四月三十日東京宮城ニ於テ
親ヲ署名シ璽ヲ鈐セシム
御名 國璽

外務大臣 有田 八郎

第五章 共済組合

○現業員ノ共済組合ニ對スル政府給

與金ニ關スル件

大正九年四月一日
勅令第八十號 (總理、大藏
大臣副署)

政府ノ事業ニ從事スル現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニシテ勅令ノ認
ムルモノニ於テ退職年金又ハ痲疾年金ノ給付ヲ爲ストキハ政府ハ當該勅令
ニ依ル給與金ノ外毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ三ニ
當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス但シ其ノ金額ハ年金給付ノ爲組合員ヨ
リ増徴スル掛金ノ總額ヲ超ニルコトヲ得ス
前項組合員ノ給料總額中ニハ現業員タル判任官以上ノ組合員及現業員ニ非
サル組合員ノ俸給給料ヲ包含セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○現業員ノ共済組合ニ對スル政府給 與金ノ増額ニ關スル件

昭和元年十二月二十九日
勅令第五號 (總理、大藏
大臣副署)

改正 昭和一〇年第一三四號

政府ノ事業ニ從事スル現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニシテ勅令ノ認
ムルモノガ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ該當スルモノナル場合ニ於テ
組合ガ其ノ健康保險ノ被保險者タル組合員ニ對シ健康保險法ノ規定ニ依ル

第四編 社會

第五章 共済組合

共済組合政府給與金

内閣印刷局共済組合

(古四)

保險給付ノ全部又ハ一部ニ相當スル給付ヲ爲ストキハ政府ハ當該勅令ニ依
ル給與金ノ外當該給付(内務大臣ニ於テ健康保險法施行令第七條ノ規定ニ
依ル指定ヲ爲スニ必要ナルモノニ限ル)ニ關シ政府ガ健康保險法ノ規定ニ
依ル國庫及事業主ノ負擔ト同一割合ノ負擔ヲ爲ス爲必要ナル金額ヲ組合ニ
給與ス但シ特別ノ事情アルトキハ豫算ノ範圍内ニ於テ所管大臣ハ大藏大臣
ト協議シテ其ノ負擔スル割合ヲ増加スルコトヲ得
政府部内ノ職員ヲシテ前項ニ規定スル組合事務ニ從事セシムル場合ニ於テ
ハ之ニ要スル經費ハ前項ノ健康保險法ノ規定ニ依ル國庫ノ負擔ニ相當スル
給與金額ヨリ之ヲ控除スルモノトス

附則

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○印刷局現業員ノ共済組合ニ關スル 件

明治四十二年三月十五日
勅令第二十二號 (總理大
臣副署)

明治四十年勅令第二百二十七號ハ「印刷局」所屬雇員以下ノ現業員ノ相互救済
ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○内務省直轄土木事業ニ従事スル現業員ノ共濟組合ニ關スル件

大正十二年七月三日 (總理、内務) 勅令第三百三十二號 (大臣副署)

明治四十年勅令第二百二十七號ハ内務省ノ直轄土木事業ニ従事スル現業員以下ノ現業員ノ相互救済ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ大正十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○土木事業従事員共濟組合規則

大正十二年七月二十日 内務省令第二十一號

改正 大正一五年第五六號

昭和三年第一〇號、第三五號、四年第八號、第一七號、六年第一七號

第一章 總則

第一條 本組合ハ大正十二年勅令第三百三十二號ニ基キ之ヲ組織ス

本組合ハ土木事業従事員共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務ハ内務次官之ヲ統轄シ土木局長土木出張所長土木試験所長其ノ事務ヲ分掌ス

第三條 土木局長土木出張所長土木試験所長ハ所部ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ従事セシムルコトヲ得

第二章 組合員

第四條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ内務省直轄土木事業ニ従事スル現業員以下ノ現業員タル組合員ヲ謂フ

乙種組合員トハ前項ノ現業員ニ非スシテ組合ニ加入シタル者又ハ前項ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタル場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

本令ニ於テ現業員以下ノ現業員ト稱スルハ定備ノ又ハ健康保險法施行令第九條但書ノ規定ニ該當スル職工及傭人(事務傭人ヲ除ク)並現場従務ノ雇員ヲ謂フ

第五條 雇員以下ノ現業員ニ採用セラレタル者及非現業員ヨリ現業員ニ轉シタル者ハ其ノ日ヨリ當然甲種組合員ト爲ル

雇員以下ノ現業員ニ非スシテ六月以上在職シ内務次官ニ於テ加入ヲ承認シタル者ハ其ノ翌月ヨリ乙種組合員ト爲ル

前條第三項ニ依ル意思表示ヲ爲シタル者ハ雇員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタルトキヨリ乙種組合員ト爲ル

給料ヲ支給セサル者ハ組合員タルコトヲ得ス

本令ニ於テ規定スル給料中ニハ俸給及給料ヲ包含ス

第六條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ組合ヨリ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退官又ハ退職シタルトキ
- 三 土木局、土木出張所、土木試験所以外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
- 四 休職ト爲リタルトキ
- 五 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ但シ其期間四月内ニシテ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 六 甲種組合員ニ在リテハ雇員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタルトキ

但シ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

七 乙種組合員ニ在リテハ加入後三年以上ヲ經過シタル者脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ

八 前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ

第七條 組合員正當ノ事由ナクシテ二月分以上掛金ノ支拂ヲ遅延シタルトキハ最後ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

第八條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ本令ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金

第九條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ組合ニ支拂フヘシ但シ錢位未滿ハ之ヲ切捨ツ

甲種組合員 給料月額百分ノ五、五

乙種組合員 給料月額百分ノ十一

乙種組合員ノ掛金ハ本人ノ請求ニ依リ給料月額百分ノ七、五ニ減スルコトヲ得

掛金額ハ特別ノ勞務又ハ臨時ノ事故ニ因リ一時給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルコトアルモ之ヲ増減セス

掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス但シ其ノ月ノ初日ニ於テ掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 掛金額算定ノ標準タル給料ハ日給者ニ付テハ日給ノ三十倍年俸者ニ付テハ年俸ノ十二分ノ一ヲ以テ給料月額ト看做ス

第十一條 掛金ハ毎月給料受領ノ日ニ於テ之ヲ支拂フヘシ

第四編 社會

第五章 共濟組合 土木事業従事員共濟組合規則

給料ヲ月數回ニ受領スル場合ハ其ノ月分第一回受領ノ日ニ於テ掛金ノ全額ヲ支拂フヘシ

給料ノ支給ヲ受ケサル月ノ掛金ハ次回給料受領ノ際之ヲ支拂フコトヲ得

給料ノ受領額カ掛金額ニ達セサルトキ亦同シ

第四章 給付

第一節 總則

第十二條 給付ハ左ノ七種トス

- 一 公傷病給付
 - 二 私傷病給付
 - 三 産婦給付
 - 四 罹災給付
 - 五 脱退給付
 - 六 遺族給付
 - 七 葬祭給付
- 給付ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給付ヲ併給ス但シ遺族給付ヲ爲ス場合ハ脱退給付ヲ爲サス
- 第九條第二項ノ規定ニ依リ掛金ノ減額ヲ爲シタル乙種組合員ニ對シテハ第五號乃至第七號ノ給付ニ限リ之ヲ爲ス
- 障害年金ト脱退年金トヲ併給スル場合ニ於テハ其ノ給付總額ハ給料年額ニ止ム
- 第十三條 給付額算定ノ標準タル給料ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リ月給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ一日ノ額トス
- 組合ヨリ脱退ノ後ニ於テ給付ノ事由發生シタルトキノ給付額算定ノ標準

タル給料ハ脱退ノ月ノ掛金ノ標準タル給料ニ依ル

組合員ノ中途ニ於テ脱退シタルトキハ給料ノ算定ニ付テハ其ノ月ノ終ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

第十四條 年金給付ノ期間ハ給付ノ事由發生ノ翌月ヲ以テ開始シ給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス但シ月ノ初日ニ於テ給付ノ事由發生シタルトキハ年金給付ノ期間ハ其ノ月ヲ以テ開始ス

第十五條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ一月、四月、七月及十月ニ於テ其ノ前三分ヲ支給ス但シ權利消滅ノ場合ニ於テハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第十六條 傷疾、疾病又ハ死亡ニ基因スル給付ハ直接ニ療養ノ給付ヲ爲ス場合ヲ除クノ外組合ノ指定シタル醫師ノ證明書ニ基キ之ヲ決定ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ組合ノ指定シタル醫師ノ證明書ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 給付ヲ爲ス場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ支給額ニ加ヘ又ハ支給額ヨリ控除ス

第十八條 給付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由發生ノ後遲滞ナク之ヲ申告スヘシ

第十九條 前項ノ申告ヲ怠リタルトキハ給付ハ之ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十條 本令ニ依リ給付ヲ受ケヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間療養ノ給付ヲ爲サス
一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ
二 法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタルトキ

三 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

前項第一號ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ期間公傷病手當金又ハ私傷病手當金ヲ給付セズ

第二十一條 第一項第二號ニ該當スル者ニ給付スル公傷病手當金又ハ私傷病手當金ニ付テハ療養ノ爲病院ニ收容スル場合ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 第一項第三號ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ期間公傷病手當金若ハ私傷病手當金ノ給付又ハ産婦給付ヲ爲サス

第二十三條 組合ハ必要アリト認ムルトキハ給付ヲ受ケタル者ノ診斷ヲ行フコトヲ得

第二十四條 組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シ給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトヲ得

第二十五條 故意ニ組合員、年金受領者又ハ給付受領ノ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シタル者ニ對シテハ給付ハ之ヲ爲サス

第二十六條 組合員又ハ組合員タリシ者自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ給付ヲ爲サス

第二十七條 組合員故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ其ノ者ニ對シ給付ヲ爲サス

第二十八條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテハ組合員ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メテ其ノ者ニ給付スヘキ私傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ給付セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ決定ハ組合ニ於テ其ノ事實ヲ知リタルトキ遲滞ナク之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ公傷病療養ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セズ

第二十九條 組合員間爭、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ公傷病手當金又ハ私傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ給付セサルコトヲ得

第三十條 組合ハ正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ給付スヘキ公傷病手當金又ハ私傷病手當金ノ一部ヲ給付セサルコトヲ得

第三十一條 第七條ノ規定ニ依リ脱退シタル者ニ對シテハ脱退給付ヲ爲サス但シ情狀ニ依リ其ノ一部ヲ給付スルコトヲ得

第三十二條 給付ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求セサルトキハ之ヲ受ケル權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第三十三條 年金ハ之ヲ讓渡シ又ハ買入ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ支給ヲ停止シ又ハ之ヲ給付セサルコトアルヘシ

第三十五條 年金ヲ受ケタル者六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ爾後之ヲ受ケルノ權利ヲ喪失ス

第三十六條 年金ヲ受ケタル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ執行中其ノ給付ヲ停止ス

第三十七條 遺族年金ヲ受ケタル者前項ニ該當シタルトキハ第四十二條及第四十三條ノ規定ニ準シ其ノ期間中次順位ノ者ニ之ヲ給付スルコトヲ得

第二節 公傷病給付
第二十六條 公傷病給付ハ左ノ四種トス
一 公傷病療養
二 公傷病手當金

三 障害年金

第四 障害一時金
第二十六條ノ二 組合員ノ職務上ノ傷疾疾病ニ關シテハ公傷病療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ
一 診察
二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
三 處置、手術其ノ他ノ治療
四 看護
五 療養者ノ移送

前項第四號及第五號ノ給付ハ組合員必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第一項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ組合員療養者ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第二十六條ノ三 組合員ヨリ脱退ノ際前條第一項ノ療養ノ給付ヲ受ケタル者尙療養ノ必要アルトキハ引續キ療養ノ給付ヲ受ケルコトヲ得

第二十六條ノ四 左ノ場合ニ於テハ組合員第二十六條ノ二第一項又ハ前條ノ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

一 組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
二 組合員又ハ組合員タリシ者カ組合ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員又ハ組合員タリシ者ノ申請アリタルトキ

三 組合員又ハ組合員タリシ者カ緊急ノ場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員又ハ

組合員タリシ者ノ申請アリタルトキ

前項ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ組合之ヲ定ム

第二十六條ノ五 第二十六條ノ二第一項又ハ第二十六條ノ三ノ場合ニ於テ組合員又ハ組合員タリシ者カ組合ノ承認ヲ得テ轉地療養ヲ爲ストキハ組合ハ其ノ轉地ノ爲特ニ要スル費用ノ全部又ハ一部ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ六 組合員公傷病療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間公傷病手當金ヲ給付ス第二十六條ノ三ノ規定ニ該當スル場合ニ於テ勞務ニ服スルコト能ハサルトキ亦同シ

前項ノ公傷病手當金ハ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額トス但シ病院ニ收容中ハ第三十條ノ三第二項但書ノ例ニ依ル

第一項ノ場合ニ於テ繼續シテ給料ヲ受タルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受タル期間ハ公傷病手當金ヲ給付セス

組合員タリシ者第一項ノ場合ニ於テ勞務ニ服シ之ニ依リテ受クル報酬日額カ給料日額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ニ相當スル公傷病手當金ヲ給付ス但シ其ノ金額カ第二項ノ金額ヲ超ユルトキハ之ヲ第二項ノ金額ニ止ム

第二十六條ノ七 公傷病療養及公傷病手當金ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ公傷病給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

第二十七條 組合員職務上ノ傷疾疾病ニ因リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ種別ニ從ヒ障害年金又ハ障害一時金ヲ給付ス但シ障害年金ヲ給付スルハ組合員其ノ障害ノ爲退官退職シ因テ脱退シタル場合ニ限ル

一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨シ得サルトキ並之ニ準スヘキトキ

障害年金(終身) 給料六月分乃至八月分

二 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルモ終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキトキ

障害年金(終身) 給料三月分乃至五月分

三 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得サルトキ

障害一時金 給料六月分乃至一年六月分

四 身體ニ障害ヲ存スルモ引續キ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得ルトキ

障害一時金 給料四月分乃至五月分

第二十八條 組合員職務上ノ傷疾疾病ニ因リ前條ノ給付ヲ受クルニ至ラサル者當該傷疾疾病ニ基因シ前條ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各號ノ給付ヲ爲ス

前條ニ依リ給付ヲ受ケタル者當該傷疾疾病ニ基因シ更ニ上級ノ給付ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ一時金ニ付テハ其ノ差額ヲ増給シ年金ニ付テハ其ノ事由ヲ認メタル月ヨリ翌月ヨリ増額ス但シ年金ニ付月ノ初日ニ於テ事由ヲ認メタルトキハ其ノ月ヨリ増額ス

前項ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ハ脱退ノ翌月ヨリ之ヲ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄之ヲ給付セス

職務上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル組合員ニシテ脱退ノ日ヨリ一年內ニ第一項又ハ第二項ニ該當スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ヲ準用ス

障害年金ヲ受クル者ニシテ其ノ障害ノ程度輕減シタルトキハ該年金ノ一部又ハ全部ノ給付ヲ爲ササルコトヲ得

第二十九條 削除

第三節 私傷病給付

第三十條 私傷病給付ハ左ノ四種トス

- 一 私傷病療養
- 二 私傷病手當金
- 三 療疾一時金
- 四 特症一時金

第三十條ノ二 組合員ノ職務外ノ傷疾疾病ニ關シテハ私傷病療養ノ給付ヲ爲ス

第二十六條ノ二 第二項乃至第四項、第二十六條ノ四及第二十六條ノ五ノ規定ハ私傷病療養ニ付之ヲ準用ス但シ第二十六條ノ二第二項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

第三十條ノ三 組合員職務外ノ傷疾疾病ニ因リ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタルトキハ其ノ日ヨリ起算シ第四日ヨリ私傷病手當金ヲ給付ス

私傷病手當金ハ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額トス但シ病院ニ收容中ハ左ノ額ニ依ル

- 一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合
 - 給料日額ノ百分ノ二十
 - 二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合
 - 給料日額ノ百分ノ四十
 - 三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合
 - 給料日額ノ百分ノ六十
- 第一項ノ場合ニ於テ繼續シテ給料ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ニ對シテハ之ヲ受クル期間ハ私傷病手當金ヲ給付セス

第三十條ノ四 第二十六條ノ七ノ規定ハ私傷病療養及私傷病手當金ニ付之

第四編 社會 第五章 共濟組合 土木事業従事員共濟組合規則

ヲ準用ス

第三十條ノ五 療養者又ハ第三者ヨリ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ申請アリタルトキハ前條ノ期間ヲ超エテ療養ノ給付ヲ繼續スルコトヲ得

第三十條ノ六 組合員ヨリ脱退ノ際私傷病給付ヲ受クル者ハ組合員トシテ私傷病給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得但シ公傷病手當金ヲ受クル期間ハ私傷病手當金ヲ受クルコトヲ得ス

第三十一條 組合員職務外ノ傷疾疾病ニ因リ左ノ各號ノ一ニ該當シ退官退職シ因テ脱退シタルトキハ其ノ種別ニ從ヒ療疾一時金ヲ給付ス但シ組合員ニ加入シタル日ヨリ一年內ニ傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ重大ナル過失ニ因ル傷疾疾病ニ付亦同ジ

一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨シ得サルトキ並之ニ準スヘキトキ

二 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルモ終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキトキ

第三十二條 組合員組合ニ加入後一年以上ニシテ肺結核其ノ他ノ傳染性疾患ニ因リ解職セラレ因テ脱退シタルトキハ給料三月分ニ相當スル特症一時金ヲ給付ス

第三十三條 削除

第四節 産婦給付

第三十四條 産婦給付ハ左ノ三種トス

- 一 分娩金
- 二 出產手當金
- 三 産院收容又ハ助產手當

第三十四條ノ二 組合員分産シタルトキハ分産金ヲ給付ス其ノ額ハ二十四トス

分産ノ場合ニ於テ分産ノ日前二十八日、分産ノ日以後四十二日以内ニ於テ給料ヲ受ケサル日ニ限リ出産手當金ヲ給付ス

前項ノ出産手當金ハ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額トス分産ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ第二項ノ分産ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

出産手當金ヲ受クル期間ハ私傷病手當金ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條ノ三 組合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ組合員ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタル組合員ニ對シ給付スル分産金ノ額ハ十圓トス

産院ニ收容シタル組合員ニ對シ給付スル出産手當金ニ付テハ第三十條ノ第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十四條ノ四 産婦給付ハ分産前一年内ニ於テ百八十日以上組合員タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十日以上組合員タリシ者ニ對シテハ分産金ヲ給付シ又ハ助産ノ手當ヲ爲ス

第三十四條ノ五 組合ヨリ脱退ノ際産婦給付ヲ受クル者ハ組合員トシテ産婦給付ヲ受クルコトヲ得ヘカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第三十四條ノ六 組合員タリシ者組合ヨリ脱退シタル日以後百八十日以内ニ分産シタルトキハ組合員トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ産婦給付ヲ受クルコトヲ得

第三十四條ノ七 健康保險法施行令第八十二條ニ該當スル者分産ノ豫定日

前二百八十日ヨリ分産ノ日以後四十二日迄ノ期間ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者ニ對シ給付ヲ爲スヘキ者ニ變更アリタルトキハ分産ニ關スル給付ニ付テハ前三條ノ規定ヲ適用セス健康保險法施行令第八十二條乃至第八十四條ノ規定ニ依ル

第五節 罹災給付

第三十五條 組合員ノ住宅水火震災其ノ他非常ノ災厄ニ罹リ財產ニ著シキ損害ヲ受ケタルトキハ給料半月分乃至二月分ニ相當スル罹災金ヲ給付ス

第六節 脱退給付

第三十六條 脱退給付ハ左ノ二種トス

一 脱退年金

二 脱退一時金

第三十七條 組合員組合加入後二十年以上ニシテ年齢五十歳ニ達シ退官退職シ因テ脱退シタルトキハ終身間脱退年金ヲ給付ス但シ事業上ノ都合ニ因リ又ハ傷疾疾病ノ爲職務ニ耐ヘサルニ因リ退官退職シ因テ脱退シタル場合ニ於テハ其ノ年齢ニ拘ラス之ヲ給付ス

脱退年金ノ額ハ給料三月分トシ加入期間二十年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料三日分ニ相當スル金額ヲ加算ス

脱退年金ヲ受クヘキ者ニ對シテハ本人ノ請求ニ依リ該年金ノ給付ニ代ヘ第三十八條第一項各號ニ依リ算出シタル金額ヲ脱退一時金トシテ給付スルコトヲ得

第三十八條 組合員脱退ノ場合ニ於テ前條第一項ニ該當セサルトキハ脱退一時金ヲ給付ス其ノ額ハ第六條第三號乃至第八號ニ該當シ脱退シタルトキ又ハ事業上ノ都合ニ因リ若ハ傷疾疾病ノ爲職務ニ耐ヘサルニ因リ退官退職シ脱退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ算出シタル金額、其ノ他ノ事由

ニ依リ脱退シタルトキハ其ノ十分ノ八トス但シ私傷病療養給付(昭和三年三月以前ノ事由ニ依)ノ額カ加入月數(昭和三年三月以前ノ月數ヲ除ク)ニ五十錢ヲ乘シタル額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除ス

一 甲種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額(昭和二年以後ノ掛金ニ付テハ)ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付乘數ヲ乘シタル金額

二 乙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ九分ノ五(金ニ付テハ其ノ總額ノ十二)ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付乘數ヲ乘シタル金額但シ第九條第二項ニ依リ掛金ヲ減額シタル期間ハ其ノ掛金總額ノ七十五分ノ五十ノ割合ニ依ル

三 甲種組合員ヨリ乙種組合員ト爲リタル者又ハ乙種組合員ヨリ甲種組合員ト爲リタル者ニ在リテハ第一號ニ依ル掛金總額ト第二號ニ依ル掛金總額トノ合計額ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給付乘數ヲ乘シタル金額

障害年金ヲ受クヘキ資格ヲ有シ脱退シタル者ニ給付スヘキ脱退一時金ノ額ハ給料三月分ニ相當スル金額ヲ下ラス

第七節 遺族給付

第三十九條 遺族給付ハ左ノ二種トス

一 遺族年金

二 遺族一時金

第四十條 組合員職務上ノ傷疾疾病ニ因リ死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依ル遺族年金及給料三月分ニ相當スル遺族一時金ヲ給付ス

一 加入後二十年未滿ノトキ 給料三月分
二 加入後二十年以上ノトキ 給料四月分
前項ノ遺族一時金ハ第四十一條乃至第四十三條ノ規定ニ依リ最初遺族年金ノ額ニ依リ算出シタル金額ノ六分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給付シタル年金額

金ヲ受クヘキ者ニ限リ之ヲ給付ス

第四十一條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ終身間之ヲ給付ス但シ夫ニ之ヲ給付スルハ不具養疾又ハ老衰ノ爲勞務ニ耐エサル場合ニ限ル

配偶者其ノ家ヲ去リ又ハ婚姻シタルトキハ年金ヲ受クル權利ヲ喪失ス

第四十二條 配偶者ナキトキ又ハ年金ヲ受クル配偶者死亡シ若ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ年金ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給付ス

前項ノ規定ニ依リ年金ヲ受クヘキ遺子ハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル年齢二十年未滿ノ未婚者ニ限ル但シ胎兒ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在リタルモノト看做ス

遺子數人アルトキハ民法第九百七十條ニ定ムル順位ニ依リ之ヲ給付ス

第四十三條 年金ヲ受クヘキ遺子ナキトキ若ハ年金ヲ受クル遺子其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父母又ハ祖父母ニ父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ給付スルコトヲ得

前條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第四十四條 組合員職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタルトキハ遺族一時金ヲ給付ス

前項遺族一時金ノ額ハ組合加入後二十年以上ノ者ニ付テハ第三十七條ノ規定ニ準シ算出シタル年金額ノ六分トシ組合加入後二十年未滿ノ者ニ付テハ第三十八條ノ規定ニ準シ算出シタル金額トス但シ給料三月分ニ相當スル金額ヲ下ラス

第四十五條 障害年金又ハ脱退年金ヲ受クル者脱退ノ日ヨリ六年内ニ死亡シタルトキハ該年金ノ六分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給付シタル年金額

ヲ控除シタル殘額ヲ遺族一時金トシテ給付ス但シ障害年金ヲ受クル者死亡ノ場合ニ於ケル遺族一時金ノ額ハ給料三十日分ニ相當スル金額ヲ超エス已ニ給付シタル年金額ト合シテ給料二十日分ニ相當スル金額ヲ下ラ

障害年金又ハ脱退年金ヲ受クル權利確定シ未タ該年金又ハ第三十八條第二項ノ給付ヲ受クルニ至ラスシテ死亡シタルトキハ前項ニ準ス

第四十六條 組合員死亡ノ日ヨリ六年内ニ遺族年金ヲ受クル者ナキニ至リタルトキハ該年金六年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給付シタル年金額ヲ控除シタル殘額ヲ遺族一時金トシテ給付ス

第四十七條 前三條ノ遺族一時金ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ遺族ニ給付ス其ノ範圍及順位左ノ如シ但シ第四號以下ノ者ニ給付スル場合ハ其ノ半額トス

一 配偶者

二 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系卑屬

三 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系尊屬

四 戸主

五 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル兄弟姉妹

六 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系卑屬

七 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系尊屬

八 組合員タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者

前項第二號、第五號及第六號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ準用シ第三號及第七號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス第八號ニ該當スル者數人

三 組合ヨリ脱退シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ前項ノ葬祭金ハ給料三十日分ニ相當スル金額トス其ノ金額三十日ニ滿タサルトキハ之ヲ三十日トス

第一項ノ規定ニ依リ給付ヲ受クヘキ者ナキ場合ニ付テハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五章 附屬事業

第五十一條 本組合ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救済又ハ慰安ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第六章 會計

第五十二條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十三條 本組合ノ財産ハ郵便貯金トシ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ノ應募又ハ買入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ルノ外財産ノ管理方法ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ内務次官之ヲ定ム

第五十四條 本組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ各年金及脱退一時金ノ給付ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第五十五條 本組合ハ寄附ヲ受クルコトヲ得

第五十六條 本組合ハ給付ヲ爲ス爲ニ必要アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第七章 審査會

第五十七條 加入、脱退並給付ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ内務次官ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

アル場合ニ於テ組合員特別ノ意思ヲ表示セサルトキハ其ノ給付ノ額ヲ均分ス

第四十八條 第四十一條乃至第四十三條及第四十七條ニ規定スル遺族ノ順位ハ組合員特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ從フコトアルヘシ

第四十九條 前二條ノ規定ニ依リ遺族一時金ヲ受クヘキ者ナキトキハ組合員ハ第四十七條第四號以下ノ者ニ給付スヘキ金額以内ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第八節 葬祭給付

第五十條 組合員死亡シタルトキハ組合員ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ其ノ葬祭ヲ行フモノニ對シ葬祭金ヲ給付ス

前項ノ葬祭金ハ左ノ區分ニ依ル但シ其ノ金額三十日ニ滿タサルトキハ之ヲ三十日トス

一 職務ノ爲死亡シタルトキ 給料二月分

二 職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタルトキ 給料一月分

第一項ノ規定ニ依リ給付ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス

第五十條ノ二 組合員タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ組合員タリシ者ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ其ノ葬祭ヲ行フモノニ對シ葬祭金ヲ給付ス

一 第二十六條ノ三、第二十六條ノ六、第三十條ノ六、第三十四條ノ五又ハ第三十四條ノ六ノ規定ニ依リ公傷病給付、私傷病給付又ハ産婦給付ヲ受クル期間中ニ死亡シタルトキ

二 前號ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ

第五十八條 審査會ハ内務省ニ之ヲ置キ會長及審査委員十名内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十九條 會長ハ内務次官ヲ以テ之ニ充ツ

第六十條 審査委員ハ内務省高等官及判任官中ヨリ内務次官之ヲ指定ス

第六十一條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス

第六十二條 會長事故アルトキハ出席審査委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第六十三條 審査會ノ決議ハ審査委員半數以上出席シ出席審査委員過半數ノ同意アルコトヲ要ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第六十四條 會長又ハ審査委員ハ自己ノ利害ニ關スル事項ノ議事ニ關與スルコトヲ得ス

第六十五條 審査會ノ決議ニ對シテハ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六十六條 審査委員ハ組合ノ重要ナル事項ニ關シ内務次官ノ諮問ニ應ジ又ハ内務次官ニ對シ意見ヲ開陳ス

附則

本令ハ大正十二年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

加入期間	乘給付數	加入期間	乘給付數	加入期間	乘給付數
一年未滿	1,00	十三年未滿	1,33	二十五年未滿	1,73
二年未滿	1,00	十四年未滿	1,35	二十六年未滿	1,76
三年未滿	1,00	十五年未滿	1,36	二十七年未滿	1,80
四年未滿	1,09	十六年未滿	1,42	二十八年未滿	1,84

五年未滿	一、二	十七年未滿	一、四	二十九年未滿	一、八
六年未滿	一、四	十八年未滿	一、六	三十年未滿	一、一〇
七年未滿	一、六	十九年未滿	一、八	三十一未滿	一、一二
八年未滿	一、八	二十年未滿	一、一〇	三十二年未滿	一、一四
九年未滿	一、一〇	二十一年未滿	一、一二	三十三年未滿	一、一六
十年未滿	一、一二	二十二年未滿	一、一四	三十四年未滿	一、一八
十一年未滿	一、一四	二十三年未滿	一、一六	三十五年未滿	一、二〇
十二年未滿	一、一六	二十四年未滿	一、一八		

○專賣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件

明治四十一年六月十九日 (總理、大藏) 勅令第五百五十七號 (大臣副署)

改正 大正九年第八一號
明治四十年勅令第二百二十七號ハ專賣局所屬雇員以下ノ現業員ノ相互救濟ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス但シ政府ノ給與額ハ組合員ノ給料總額ノ千分ノ二十ニ當ル金額ヲ限度トス

附則
本令ハ明治四十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

○專賣局共濟組合規則

昭和元年十二月三十日 大藏省令第四號

改正 昭和四年第一〇號、六年第四〇號、一〇年第三號、一一年第八號、一二年第一五號

第一章 總則

第一條 本組合ハ專賣局共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ハ本部ヲ專賣局ニ支部ヲ專賣局所屬支部局ニ置ク

專賣局長官ハ特ニ必要ト認メタルトキハ專賣局所屬支署ニ支部ヲ置クコトヲ得

第三條 本組合ノ事務ハ專賣局長官之ヲ統理ス

第二章 組合員

第四條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ雇員以下ノ現業員ニシテ健康保險法ニ依ル被保險者タル者ヲ謂ヒ乙種組合員トハ雇員以下ノ現業員ニシテ甲種組合員タラサル者ヲ謂フ

前項ノ乙種組合員タル雇員以下ノ現業員ノ範圍ハ專賣局長官之ヲ定ム

第五條 臨時ニ使用セラルル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ健康保險法ニ依ル被保險者タル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 雇員以下ノ現業員ハ其ノ就職ノ日ニ於テ當然組合員トナル但シ日給ヲ受タル者ニシテ就職ノ日ト就業ノ日ト異ルトキハ就業ノ日ヨリ組合員トナル

臨時ニ使用セラルル者ニシテ前條但書ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ該當スルニ至リタル日ヨリ組合員トナル

第七條 組合員タル期間ハ月ヲ以テ計算シ加入ノ日ノ屬スル月ニ始マリ脱

退ノ日ノ屬スル月ニ終ル

第八條 組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退職シタルトキ
- 三 現業ニ非サル職ニ轉シタルトキ
- 四 他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
- 五 解職セラレタルトキ
- 六 休職トナリタルトキ
- 七 臨時ニ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ國籍ヲ失ヒタルトキ

第九條 組合員ニシテ陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル爲退職シ因テ組合ヲ脱退シタル者徵集又ハ召集ヲ解除セラレタル日ヨリ三月以内ニ再ヒ組合員トナリタルトキハ其ノ前後ノ加入期間ハ之ヲ通算スルコトヲ得

前項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ再ヒ組合員トナリタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ意思ヲ表示シ且前加入期間ニ對スル退職給付ニ相當スル金額ヲ返還スルコトヲ要ス但シ再加入後六箇月以内ニ月賦ニ依リ返還スルコトヲ得

第九條ノ二 季節的業務ニ使用セラルル組合員ニシテ解職ニ因リ組合ヲ脱退シタル際退職給付ノ請求ヲ留保スルノ意思ヲ表示シ且次期ノ業務開始日ヨリ十日以内ニ再ヒ組合員トナリタル場合ニ限り其ノ前後ノ加入期間ハ之ヲ通算スルコトヲ得

第十條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ給付ニ關シ本規則ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 掛金

第十一條 組合員ハ毎月別表第一號ノ給料日額ニ依ル掛金ヲ支拂フヘシ

第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

第十二條 前條ノ給料日額ハ掛金額ノ改定ヲ爲ス月初日ニ於ケル給料ニ基キ左ノ區分ニ依リ之ヲ算定ス

- 一 月俸ヲ受タル者ニ在リテハ其ノ三十分ノ一
- 二 日給ヲ受タル者ニ在リテハ其ノ三十分ノ二十五但シ休日ニ給料ヲ受タル者ニ在リテハ其ノ日給額
- 三 功程賃金ヲ受タル者ニ在リテハ專賣局職工人夫給料工賃支給例第十條ニ依ル査定工賃日額ノ三十分ノ二十五
- 四 日給及功程賃金ヲ併給スル特殊賃金ヲ受タル者ニ在リテハ其ノ各ニ付前二號ニ依リ算定シタル額ノ合算額

新ニ加入シタル者ノ給料日額ハ加入當日ニ於ケル給料ニ基キ前項ノ區分ニ依リ之ヲ算定ス

第十三條 組合員ノ掛金額ハ毎年一回十月之ヲ改定ス但シ組合員全部ニ互リ給料更定セラレタルトキハ其ノ翌月之ヲ改定ス

第十四條 第十二條ニ依ル給料日額ノ算定ニ付錢位未滿ヲ生シタルトキハ四捨五入トス

第十五條 組合員ハ月ノ中途ニ於テ加入シ又ハ脱退シタル場合ト雖掛金ノ全額ヲ支拂フモノトス

第十六條 組合員ノ掛金ハ毎月其ノ給料ヨリ之ヲ控除徵收スルコトヲ得給料ヲ毎月數回ニ分チテ支給スル場合ニ於テハ其ノ月分ノ最初ノ支給ノトキ掛金ノ全額ヲ徵收スヘシ但シ其ノ支給スヘキ額カ掛金ノ全額ニ滿チサルトキハ次回支給ノトキ之ヲ徵收ス

第十七條 給料ノ支給ヲ受ケサル月、給料ノ支給ヲ受ケルモ掛金額ニ滿チサル月若ハ毎月數回ニ分チテ給料ヲ受領スル場合ニ於テ毎回ノ受領額カ掛金額ニ滿チサルトキハ其ノ月ニ於ケル組合員ノ掛金ハ之ヲ免除ス

第四章 給付

第一節 總則

第十八條 給付ノ種類左ノ如シ

- 一 公傷病年金
- 二 公傷病一時金
- 療養給付
- 傷病給付
- 一 醫療金
- 二 傷病手當金
- 三 特症金
- 產婦給付
- 一 分娩費
- 二 出產手當金
- 退職給付
- 一 退職年金
- 二 退職一時金
- 遺族扶助金
- 一 遺族扶助金
- 二 殉職金
- 三 死亡金
- 四 埋葬料

第十九條 標準日額ニ依リ給付額ヲ算定スル場合ニ於テハ給付ノ事由發生シタルトキノ標準日額ニ依ル但シ其ノ額カ直前ノ標準日額ヨリ低キトキ

ハ年金ヲ算定スル場合ニ依リ該直前ノ額ニ依ル

前項ノ標準日額ハ第十二條ニ依リ算定シタル給料日額ニ基キ別表第一號ニ依リ之ヲ定ム

共濟掛金額ニ依リ給付額ヲ算定スル場合ニ於テハ別表第一號ノ共濟掛金ニ依ル

第二十條 第十八條ノ給付ハ當該各條ノ規定ニ依リ之ヲ併給ス但シ出產手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ給セス

公傷病年金ト退職年金トノ併給額カ標準日額ノ三百六十日分ヲ超ユル場合ハ三百六十日分ニ止メ各年金額ハ按分シテ之ヲ定ム

第二十一條 削除

第二十二條 甲種組合員ニシテ其ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ給付ヲ受クル者ハ甲種組合員トシテ當該給付ヲ受クルコトヲ得

ヘカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ受クルコトヲ得

第二十三條 給付ノ支給期日ニ關シテハ本規則ニ定ムルモノノ外專賣局長官之ヲ定ム

第二十四條 年金ノ支給ハ退職ノ月ノ翌月ヨリ開始シ死亡又ハ權利喪失ノ月ヲ以テ終了ス

第二十五條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ給ス但シ死亡又ハ權利喪失ノ場合ハ期日ニ拘ラス之ヲ給ス

第二十六條 年金ヲ受クル者脫退ノ翌月ヨリ公傷病年金ニ在リテハ五年以内、退職年金ニ在リテハ七年以内ニ年金ノ前渡ヲ申請スルトキハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限り公傷病年金ニ在リテハ五年分、退職年金ニ在リテハ七年分ヲ限度トシ既ニ支給シタル金額ヲ控除シタル額ヲ專賣局長

官ノ定ムル利率ニ依リ割引キ前渡ヲ爲スコトアルヘシ

年金ノ前渡ヲ受ケタル者其ノ前渡ヲ認メラレタル期間内ニ再ヒ組合員トナリタルトキ又ハ年金ヲ受クルノ權利ヲ喪失シタルトキハ當該事由發生後ノ期間ニ對スル前渡金ヲ返還スヘシ

第二十七條 年金ヲ受クル者再ヒ組合員トナリタルトキハ其ノ期間年金ノ支給ヲ停止ス

第二十八條 退職給付及遺族扶助金ノ支給ニ關シテハ第十七條ノ規定ニ該當スル期間ハ之ヲ組合員タル期間ニ算入セス

第二十九條 給付ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ給セス但シ療養費及醫療金ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ一年以内ハ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ年金ノ每期ノ支拂請求ニ付之ヲ準用ス

第三十條 組合員又ハ組合員タリシ者自己ノ故意ノ犯罪ニ因リ若ハ故意ノ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病、分娩又ハ埋葬ニ關スル給付ヲ爲サス

組合員自己ノ故意ノ犯罪ニ因リ死亡シタルトキハ退職給付、遺族扶助金及死亡金ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトアルヘシ

第三十條ノ二 組合員懲戒處分ニ因リ解職セラレタルトキハ退職給付ノ一部ヲ、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル爲解職セラレタルトキハ退職給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第三十一條 組合員又ハ組合員タリシ者鬪爭、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害豫防ニ關スル職務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトアルヘシ

第三十二條 組合員又ハ組合員タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於

第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

ノ場所ニ於テ健康診断ヲ受ケ又ハ醫師ノ診斷書ヲ提出スルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ公傷病年金ノ支給ヲ停止スルコトアルヘシ
第三十九條 組合員死亡シ、負傷シ、疾病ニ罹リ若ハ分焼シタル場合又ハ
年金ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族ハ直ニ之ヲ組
合ニ申告スヘシ

組合員死亡シ、負傷シ、疾病ニ罹リ若ハ分焼シタル場合ニ於テハ本人又
ハ其ノ家族ハ正當ノ事由ナクシテ組合ヨリ指定シタル者ノ臨檢又ハ診療
ヲ拒ムコトヲ得ス

組合員若ハ其ノ家族前二項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ年金受領者タリ
シ者ノ家族第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ當該給付ノ全部又ハ一部ヲ
爲ササルコトアルヘシ

前三項ノ規定ハ第二十二條ノ適用ヲ受クル者ニ付之ヲ準用ス

第四十條 年金額ハ圓位未滿ヲ、支給金額ハ錢位未滿ヲ四捨五入トス

第四十一條 組合員脱退ノ際組合ニ對スル未拂金アルトキハ給付金額ヨリ
之ヲ控除ス

第四十二條 削除

第四十三條 組合員若ハ組合員タリシ者第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル事
故ニ付給付ヲ受ケタルトキハ其ノ受ケタル給付ノ價額ノ限度ニ於テ第三
者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ組合ニ讓渡スヘシ

第二節 公傷病給付

第四十四條 組合員職務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リ左ノ各級ノ一ニ該當ス
ル場合ニ於テハ公傷病給付トシテ各其ノ等級ニ從ヒ當該金額ヲ給ス
一級 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨スルコト能ハサ
ルトキ並之ニ準スヘキトキ

第三節 療養給付

第四十七條 甲種組合員負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ療養ノ給付ヲ爲
ス但シ法令其ノ他ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ療養ヲ受ク
ルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ場合ニ於テ療養上必要アリト認ムルトキハ甲種組合員ヲ病院ニ收
容スルコトヲ得

第四十八條 療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
- 三 處置、手術其ノ他ノ治療
- 四 看護
- 五 組合員ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合ニ於テ必要アリト認ムル場合
ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

第四十九條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ハ專賣局ノ醫療施設ニ依
ルノ外組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師ニ託シ之ヲ爲ス

第五十條 左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ給ス

- 一 組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
- 二 組合ノ承認ヲ受ケ專賣局ノ醫療施設又ハ組合ノ指定シタル醫師又ハ
齒科醫師以外ノ者ニ就キ診療ヲ受ケタルトキ
- 三 緊急已ムヲ得サル場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師其ノ他ノ者ノ手
當ヲ受ケタルトキ

公傷病年金 標準日額ノ二百十日分乃至二百七十日分
二級 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルト雖終身業務ヲ營ムコト能ハサル
トキ並之ニ準スヘキトキ

公傷病年金 標準日額ノ百二十日分乃至百八十日分
三級 自用ヲ辨シ就業ヲ營ムコトヲ得ルト雖身體ヲ毀損シ舊ニ復スル
コトヲ得ス因テ退職シタルトキ又ハ女子ニシテ其ノ外貌醜狀ヲ殘
シタルトキ

公傷病一時金 標準日額ノ五百日分以内但シ男子ニ在リテハ五十
圓女子ニ在リテハ九十圓ヲ下ルコトヲ得ス

四級 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得スト雖引續キ職務ニ服スル
キ

公傷病一時金 標準日額ノ二百五十日分以内但シ男子ニ在リテハ三
十圓、女子ニ在リテハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第四十五條 職務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リ前條ノ給付ヲ受クルニ至ラサ
リシ者當該負傷又ハ疾病ニ基因スル障害ノ程度増進シ前條ニ該當スルニ
至リタルトキハ當該等級ノ給付ヲ爲ス

前條ノ給付ヲ受ケタル者當該負傷又ハ疾病ニ基因シ更ニ上級ノ給付ヲ受
クヘキモノト決定セラレタルトキハ一時金ニ付テハ其ノ差額ヲ給シ、年
金ニ付テハ其ノ翌月ヨリ増額シ、一時金ヲ年金ニ改定スルモノニ付テハ
當該年金ノ支給ハ退職ノ翌月ヨリ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄之ヲ停
止ス

前二項ノ規定ハ退職ノ日ヨリ一年ヲ經過シタル者ニ付之ヲ適用セス
第四十六條 公傷病年金ヲ受クル者當該負傷又ハ疾病ニ基因スル障害ノ程
度輕減シタルトキハ該年金ノ全部又ハ一部ノ給付ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ支給スヘキ療養費ノ額ハ組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲ス
場合ニ要スル費用ノ額ヲ標準トシテ專賣局長官之ヲ定ム

第五十一條 療養ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ
付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲
サス

第五十二條 甲種組合員前條ニ規定スル期間ヲ超エ療養ヲ必要トスル場合
ニ於テ之ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定
メ本人若ハ第三者ヨリ申請ヲ爲ストキハ本組合ハ繼續シテ療養ノ給付ヲ
爲スコトアルヘシ

前項ノ擔保ノ種類、數量及價格並費用ノ償還ノ方法ハ專賣局長官之ヲ定
ム

第四節 傷病給付

第五十三條 乙種組合員職務上ノ事由ニ因ルニ非スシテ負傷シ又ハ疾病ニ
罹リ醫療ヲ受ケタルトキハ醫療金トシテ現ニ要シタル醫療費ノ半額以内
ヲ給ス

前項ノ醫療金ノ給付ノ範圍及金額ハ專賣局長官之ヲ定ム
醫療金ノ給付ハ疾病又ハ負傷ニ付引續キ三十日、一年度ヲ通シテ六十日
ヲ超エテ之ヲ爲サス

第五十四條 組合員負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲職務ニ服スルコト能ハ
サルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付左ノ區分ニ依ル額ヲ給ス

- 一 甲種組合員 標準日額ノ百分ノ六
標準日額ノ百分ノ五
- 二 乙種組合員 標準日額ノ百分ノ五
標準日額ノ百分ノ四

前項ノ傷病手當金ハ職務上ノ事由ニ因ル場合ヲ除クノ外職務ニ服スルコ

第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

ト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ給ス

第一項ノ給付ニ付テハ甲種組合員ニ在リテハ第五十一條ノ規定ヲ準用シ
乙種組合員ニ在リテハ第五十三條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十四條ノ二 病院ニ收容シタル甲種組合員ニ對シ給スヘキ傷病手當金
ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラス左ノ額トス

一 主トシテ甲種組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキ

標準日額ノ百分ノ二十

二 前號ニ掲クル者二人以内ナルトキ

標準日額ノ百分ノ四十

三 第一號ニ掲クル者三人以上ナルトキ

標準日額ノ百分ノ六十

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養
所ニ收容セラレタル甲種組合員ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條 傷病手當金ハ之ヲ受クヘキ期間中給料ノ支給ヲ受クルコトヲ
得ヘキ期間ハ之ヲ給セス但シ其ノ給料ノ額カ傷病手當金ノ額ニ達セサル
トキハ其ノ差額ヲ給ス

第五十六條 組合員病毒傳播ノ虞アル結核性疾患又ハ癩患ニ因リ解職セラ
レタルトキハ加入後一年ヲ經過シタル者ニ限リ特症金ヲ給ス

前項特症金ノ額ハ加入後一年ヲ經過シタルトキ標準日額ノ九十分分、爾
後一年ヲ増ス毎ニ之ニ標準日額ノ十五分ヲ加ヘタルモノトス

第五節 産婦給付

第五十七條 甲種組合員分産シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ給ス但シ分
産前一年内ニ於テ九十日以上甲種組合員タラサリシ者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十八條 組合員分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於
テ職務ニ服セサルトキハ其ノ期間中出產手當金トシテ一日ニ付左ノ區分ニ
依ル額ヲ給ス但シ分娩前一年内ニ百八十日以上組合員タラサリシ者ハ此

ノ限ニ在ラス

一 甲種組合員 標準日額ノ百分ノ六
十二相當スル金額

二 乙種組合員 標準日額ノ百分ノ五
十二相當スル金額

第五十九條ノ規定ハ出產手當金ノ支給ニ付テハ準用ス

分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ第一項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ
七日以内延長スルコトヲ得

第六十條 組合員ハ甲種組合員ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ
得

産院ニ收容セラレ又ハ助産ノ手當ヲ受ケタル甲種組合員ニ對シ給スヘキ
分娩費ノ額ハ十圓トス

第六十一條 第五十七條及第五十八條ノ規定ハ妊娠三箇月ヲ超エヌシテ流
産シタル組合員ニ之ヲ適用セス

第六十二條 甲種組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日以後百八十日以内
ニ分娩シタルトキハ第五十七條乃至第六十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 削除

第六節 退職給付

第六十四條 組合員加入後二十年ヲ經過シ男子組合員ニ在リテハ年齢四十
五歳、女子組合員ニ在リテハ年齢四十歳ヲ超エ脱退シタルトキハ退職年

金ヲ給ス但シ工場ノ廢止其ノ他事業上ノ都合ニ依リ解職セラレ又ハ負傷
若ハ疾病ニ因リ職務ニ堪ヘスシテ退職シタルトキハ年齢ニ拘ラス之ヲ給
ス

前項退職年金ノ額ハ加入後二十年ヲ經過シタルトキ標準日額ノ九十分
分、爾後一年ヲ増ス毎ニ之ニ標準日額ノ三分半ヲ加ヘタルモノトス

第六十五條 組合員加入後六箇月ヲ經過シ脱退シタルトキハ左ノ區分ニ依
リ退職一時金ヲ給ス但シ前條ニ依リ退職年金ヲ給スヘキトキ又ハ第六十
七條第二項後段ニ依リ遺族扶助金ヲ給スヘキトキハ此ノ限ニ在ラス

一 加入後三年以内ナルトキハ共濟掛金總額ニ相當スル金額

二 加入後四年以内ナルトキハ共濟掛金總額ニ百分ノ百十五ヲ乘シタル
金額

三 加入後四年ヲ經過シタルトキハ共濟掛金總額ニ加入一年以内ヲ増ス
毎ニ前號ノ乘率ニ百分ノ五ヲ累加シ算出シタル金額

第六十六條 組合員加入後六箇月以内ニ左ノ各號ノ一ニ該當シ因テ脱退シ
タルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス共濟掛金ニ相當スル額ヲ退職一時金トシ
テ給ス

一 職務上ノ負傷又ハ疾病ニ因リ退職

二 精神異常又ハ惡疾ニ因リ解職

三 死亡

四 陸海軍ノ徵集又ハ召集ニ因リ退職

五 工場ノ廢止其ノ他事業上ノ都合ニ因リ解職

六 非現業ヘノ轉職

第七節 遺族給付

第六十七條 年金ヲ受クル者年金ノ支給開始後公傷病年金ニ在リテハ五年
第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

ノ限ニ在ラス

一 甲種組合員 標準日額ノ百分ノ六
十二相當スル金額

二 乙種組合員 標準日額ノ百分ノ五
十二相當スル金額

第五十九條ノ規定ハ出產手當金ノ支給ニ付テハ準用ス

分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ第一項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ
七日以内延長スルコトヲ得

第六十條 組合員ハ甲種組合員ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ
得

産院ニ收容セラレ又ハ助産ノ手當ヲ受ケタル甲種組合員ニ對シ給スヘキ
分娩費ノ額ハ十圓トス

第六十一條 第五十七條及第五十八條ノ規定ハ妊娠三箇月ヲ超エヌシテ流
産シタル組合員ニ之ヲ適用セス

第六十二條 甲種組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日以後百八十日以内
ニ分娩シタルトキハ第五十七條乃至第六十一條ノ規定ヲ準用ス

第六十三條 削除

第六節 退職給付

第六十四條 組合員加入後二十年ヲ經過シ男子組合員ニ在リテハ年齢四十
五歳、女子組合員ニ在リテハ年齢四十歳ヲ超エ脱退シタルトキハ退職年
金ヲ給ス但シ工場ノ廢止其ノ他事業上ノ都合ニ依リ解職セラレ又ハ負傷
若ハ疾病ニ因リ職務ニ堪ヘスシテ退職シタルトキハ年齢ニ拘ラス之ヲ給
ス

第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

- 一 甲種組合員死亡シタルトキ
 - 二 第二十二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者死亡シタルトキ
 - 三 第二十二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ
 - 四 前二號以外ノ甲種組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ
- 前項ノ金額ハ標準日額ノ三十日分トス其ノ算出額ニシテ三十圓ニ滿チサルトキハ之ヲ三十圓トス
- 埋葬ヲ行フ遺族ナキトキハ其ノ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ給ス
- 第七十一條** 前條ノ給付ハ脫退後他ノ事業ニ於テ健康保險法ニ依ル被保險者トナリタル者ニ付テハ之ヲ給セス

第八節 給付ノ受領

- 第七十二條** 組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡ニ基因スル給付ニ付テハ埋葬料ヲ除クノ外之ヲ受ケヘキ遺族ノ範圍及順位左ノ如シ但シ組合員又ハ組合員タリシ者死亡前其ノ順位ニ關シ特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ
 - 一 配偶者
 - 二 直系卑屬
 - 三 直系尊屬
 - 四 戶主
 - 五 兄弟姉妹
 - 六 死亡者ノ扶養ヲ受ケタル者
- 前項第一號ノ適用ニ付テハ内縁ノ夫婦關係ニ在ル者ハ之ヲ配偶者ト看做ス

シ第二號、第三號及第五號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用ス

- 第七十三條** 前條第一項第二號、第三號及第五號ノ場合ニ於テ給付ヲ受ケヘキ者ハ死亡者ノ死亡當時其ノ家ニ在ルコトヲ要ス
- 第七十四條** 削除
- 第七十五條** 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタル場合ニ於テ給付ノ受領者ナキトキハ組合員第七十二條第一項ニ該當スル者ニ對スル給付額ノ二分ノ一以内ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第五章 評議會

- 第七十六條** 組合員ヲ有スル專賣局所屬各支部局、支署及分工場ニ評議會ヲ置ク但シ當時百人以上ヲ有セサルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第七十七條** 評議會ハ本組合ノ事務ニ關シ支部ヲ置ケル局長ニ對シ其ノ諮問ニ答ヘ又ハ意見ヲ開陳スルモノトス
- 第七十八條** 評議會ハ支部ヲ置ケル局長ノ指定シタル會長、役員及組合員ノ互選シタル評議員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第七十九條** 會長ハ評議會ノ議事ヲ整理ス役員ハ會長ノ指揮ニ從ヒ議事ニ參與シ會務ヲ處理ス
- 第八十條** 評議會ハ毎年一回之ヲ開ク但シ支部ヲ置ケル局長必要ト認メタルトキハ臨時ニ之ヲ開クコトヲ得
- 第八十一條** 評議會ハ二分ノ一以上ノ評議員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六章 審査會

- 專賣局長官ハ大藏大臣ノ承認ヲ經テ前二項以外ノ方法ニ依リ組合財産ヲ運用スルコトヲ得
- 第九十一條** 本組合ハ寄附ヲ受ケルコトヲ得
- 第九十二條** 本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第九十三條** 明治四十一年大藏省令第三十五號專賣局現業員共濟組合規則ハ之ヲ廢止ス
- 第九十四條** 明治四十一年大藏省令第三十五號專賣局現業員共濟組合規則ニ依ル組合及組合員ハ本令施行ト同時ニ本令ニ依ル組合及組合員ト爲ル
- 第九十五條** 本令施行前給付ノ事由トナルヘキ事故發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ其ノ事故ニシテ本令施行後ニ繼續シタルトキハ其ノ繼續シタル部分ニ付テハ本令ニ依ル
- 第九十六條** 本令施行ノ際ニ於ケル組合員ノ給料日額ハ仍從前ノ例ニ依ル
- 第九十七條** 本令施行ノ日前加入シタル組合員ニ對スル年功一時金及脫退一時金ノ計算ニ付テハ本令施行前ノ掛金ハ之ヲ別表第二號ノ退職掛金ト看做ス
- 第九十八條** 大正十五年三月一日前ニ加入シタル組合員中退職年金ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケタル者ニ對スル退職年金又ハ年功一時金ノ額ハ左ノ各號ニ依リ算定ス
- 一 退職年金ハ第六十四條第二項ニ依リ算出シタル額ヨリ其ノ標準日額ノ一日半分ニ大正十五年三月一日前ノ加入年數(一年未滿切捨)ヲ乘シ

- 第八十二條** 加入、脱退、掛金及給付ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ專賣局長官ニ其ノ審査ヲ請求スルコトヲ得
- 第八十三條** 專賣局長官前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ審査會ヲ開キ其ノ決議ニ依リ之ヲ決定シ審査請求者ニ通知スヘシ
- 第八十四條** 審査會ハ議長一名及審査委員七名ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第八十五條** 議長ハ專賣局長官ヲ以テ之ニ充テ審査委員ハ專賣局高等官中ヨリ之ヲ指定ス
- 第八十六條** 議長ハ審査ノ議事ヲ整理ス
- 第八十七條** 審査會ハ二分ノ一以上ノ審査委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
- 決議ハ出席審査委員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第七章 附屬施設

- 第八十八條** 本組合ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救済ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得
- 第八十九條** 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
- 第九十條** 本組合ノ財産ハ專賣局長官ノ定ムル所ニ依リ利殖ノ目的ヲ以テ銀行若ハ郵便官署ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債地方債證券ヲ買入ルルコトヲ得
- 專賣局長官ハ組合員ノ利益ノ爲ニ必要ト認メタル事業ニ對シ組合財産ノ一部ヲ運用スルコトヲ得

第八章 會計

- 第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則**

第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

タル額ヲ控除シタルモノトス

二 年功一時金ハ當該組合員ノ退職掛金總額ヨリ退職年金ノ爲徵シタル掛金額(男子組合員ノ掛金額ト女子組合員ノ掛金額トノ差額)ヲ控除シタルモノニ對シ第六十五條第一項女子組合員ノ例ニ依リ算出シタル額ト退職年金ノ爲徵シタル掛金額ニ對シ別表第三號ニ依リ各年毎ニ算出シタル給額ノ總和トヲ合計シタルモノトス

附則 (昭和四年大藏省令第一〇號)

本令ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ適用ス

本令施行ノ際現ニ舊第四十一條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ハ仍從前ノ例ニ依リ給付ノ期間トス

本令施行ノ際現ニ舊第四十一條ノ規定ノ適用ヲ受クル者ハ仍從前ノ例ニ依リ給付ノ期間トス

附則 (昭和一〇年大藏省令第三號)

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ日前加入シタル組合員ニ對スル退職一時金ハ左ノ各號ノ額ヲ合算シタルモノトス

一 本令施行前ノ掛金總額(舊退職掛金)ニ對シ加入後脱退迄ノ經過年數ニ相當スル從前ノ規定ニ依リ給率ヲ乘シタル額但シ大正十五年三月一日前ニ加入シタル組合員中退職年金ニ關スル規定ノ適用ヲ受クル者ニ付テハ加入後脱退迄ノ經過年數ニ對シ第九十七條第二號ノ規定ニ依リ算出シタル額

二 本令施行後ノ共濟掛金總額ニ對シ加入後脱退迄ノ經過年數ニ相當スル

二 等	四・五〇以上	五・〇〇未満	四・五〇	九・二五	七・四五	七・四五
三 等	四・〇〇以上	四・五〇未満	四・〇〇	八・二〇	六・六〇	六・六〇
四 等	三・五〇以上	四・〇〇未満	三・〇〇	七・二〇	五・八〇	五・八〇
五 等	三・〇〇以上	三・五〇未満	三・〇〇	六・一五	四・九五	四・九五
六 等	二・八〇以上	三・〇〇未満	二・八〇	五・七五	四・六〇	四・六〇
七 等	二・六〇以上	二・八〇未満	二・六〇	五・三五	四・三〇	四・三〇
八 等	二・四〇以上	二・六〇未満	二・四〇	四・九五	三・九五	三・九五
九 等	二・三〇以上	二・四〇未満	二・三〇	四・五〇	三・六五	三・六五
十 等	二・〇〇以上	二・三〇未満	二・〇〇	四・一〇	三・三〇	三・三〇
十一 等	一・九〇以上	二・〇〇未満	一・九〇	三・九〇	三・一五	三・一五
十二 等	一・八〇以上	一・九〇未満	一・八〇	三・七〇	二・九五	二・九五
十三 等	一・七〇以上	一・八〇未満	一・七〇	三・五〇	二・八〇	二・八〇
十四 等	一・六〇以上	一・七〇未満	一・六〇	三・三〇	二・六五	二・六五
十五 等	一・五〇以上	一・六〇未満	一・五〇	三・一〇	二・五〇	二・五〇
十六 等	一・四〇以上	一・五〇未満	一・四〇	二・九〇	二・三〇	二・三〇
十七 等	一・三〇以上	一・四〇未満	一・三〇	二・七五	二・一五	二・一五
十八 等	一・三〇以上	一・三〇未満	一・三〇	二・四五	二・〇〇	二・〇〇
十九 等	一・二〇以上	一・三〇未満	一・二〇	二・三五	一・八〇	一・八〇

第四編 社會 第五章 共濟組合 專賣局共濟組合規則

一七二〇

本令ニ依リ給率ヲ乘シタル額

本令施行ノ日前加入シタル女子組合員ニシテ退職年金ニ關スル規定ノ適用ヲ受ケサル者ニ對シテハ本令ニ依リ退職年金ノ計算ニ付本令施行前ノ加入期間ヲ通算セス

附則 (昭和二年大藏省令第八號)

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ甲種組合員又ハ乙種組合員タルヘキ現業ノ職ニ在ル者ハ本令施行ノ日ヨリ甲種組合員又ハ乙種組合員トナル

附則 (昭和二年大藏省令第一五號)

本令ハ昭和十二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前二年金ノ前渡ヲ受ケタル者ニ付テハ本令施行ノ日以後ノ前渡期間ニ對スル割引利率ハ本令ニ依リ

本令施行前公傷病給付ノ事由トナルヘキ事故發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ

別表第一號(給料日額、標準日額及掛金表)

等級	給料日額	日標準額	掛金	同業ノ共濟掛金
一 等	五・〇〇以上	五・〇〇	一〇・三〇	八・三五
二 等	四・〇〇以上	四・〇〇	八・〇〇	六・三五
三 等	三・〇〇以上	三・〇〇	六・〇〇	四・三五
四 等	二・〇〇以上	二・〇〇	四・〇〇	三・三五
五 等	一・〇〇以上	一・〇〇	二・〇〇	一・三五
六 等	〇・七〇以上	〇・七〇	一・五〇	一・三五
七 等	〇・五〇以上	〇・五〇	一・〇〇	一・三五
八 等	〇・四〇以上	〇・四〇	〇・七〇	一・三五
九 等	〇・三〇以上	〇・三〇	〇・五〇	一・三五
十 等	〇・二〇以上	〇・二〇	〇・三〇	一・三五

(台四)

等級	標準日額	掛金	同業ノ共濟掛金
二十 等	一・〇〇以上	一・〇〇	一・六五
一 等	九〇以上	九〇	一・五〇
二 等	八〇以上	八〇	一・三〇
三 等	七〇以上	七〇	一・一五
四 等	六〇以上	六〇	一・〇〇
五 等	五〇以上	五〇	〇・八五
六 等	四〇以上	四〇	〇・六五
七 等	四〇未満	三〇	〇・五〇

(台四)

別表第二號 削除

別表第三號(附則第九十七條第二號後段) 各年ノ掛金ニ對スル給額表

經過年數	各年ノ掛金一圓ニ對スル給額	經過年數	各年ノ掛金一圓ニ對スル給額
一年以内	一・〇〇	十一年以内	一・六三
二年以内	一・〇五	十二年以内	一・七一
三年以内	一・一〇	十三年以内	一・八〇
四年以内	一・一六	十四年以内	一・八九
五年以内	一・二三	十五年以内	一・九八
六年以内	一・三六	十六年以内	二・〇八

一七二一

七年以内	一・三四	十七年以内	二・一八
八年以内	一・四二	十八年以内	二・二九
九年以内	一・四八	十九年以内	二・四二
十年以内	一・五五	二十年以内	二・五三
二十一年以内	二・六五	二十九年以内	三・九三
二十二年以内	二・七九	三十年以内	四・一三
二十三年以内	二・九三	三十一以内	四・三三
二十四年以内	三・〇七	三十二年以内	四・五三
二十五年以内	三・三三	三十三年以内	四・七六
二十六年以内	三・三九	三十四年以内	五・〇〇
二十七年以内	三・五六	三十五年以内	五・二五
二十八年以内	三・七三		

備考

經過年數ハ脱退ノ月ヨリ廻リ計算スルモノトス

○大藏省令第三十九號 (昭和六年十二月二十二日)

專賣局共濟組合員ニシテ昭和六年勅令第百號判任官俸給令中改正ノ件ニ準シ減給セラレ因テ掛金額ノ低下シタル者ハ増給ニ依リ該掛金カ改定前ノ掛金額ニ達スル迄ハ從前ノ掛金ヲ爲シ從前ノ標準日額ニ依ル給付ヲ受クルコトヲ得

一ヲ以テ一日ノ額トス

第六條 削除

第七條 掛金額又ハ給付額ニシテ算出上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第二章 組合員及掛金

第八條 組合員ヲ分チテ甲種組合員、乙種組合員、丙種組合員及丁種組合員ノ四種トス

甲種組合員トハ雇員以下ノ現業員ニシテ健康保險ノ被保險者タル者ヲ謂フ

乙種組合員トハ雇員タル現業員ニシテ健康保險ノ被保險者タラサル者ヲ謂フ

丙種組合員トハ前二項ノ現業員ニ非スシテ組合ニ加入シタル者又ハ第十四條第三號及第四號ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

丁種組合員トハ甲種組合員タリシ者局員タル資格及健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シタル後繼續シテ健康保險ノ被保險者タル者又ハ甲種組合員ニシテ第十五條ニ該當シタル者ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ雇員以下ノ現業員ト稱スルハ職工、定備及工場勤務ノ雇員ヲ謂フ

第十條 本令施行ノ際雇員以下ノ現業員ニシテ健康保險ノ被保險者タル者ハ即日ヨリ、新ニ雇員以下ノ現業員ニ採用セラレ健康保險ノ被保險者タル資格ヲ有スル者ハ其ノ就職ノ日ヨリ當然甲種組合員ト爲ル

本令施行ノ際雇員以下ノ現業員ニシテ年收千二百圓ヲ超ユル職員ハ即日ヨリ、新ニ年收千二百圓ヲ超ユル雇員タル現業員ニ採用セラレタル者ハ

前項ニ依リ掛金ヲ爲サントスル者ハ其ノ意思ヲ表示シ本令施行ノ日ヨリ一月以内ニ掛金ノ不足額ヲ追納スルコトヲ要ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○造幣局現業員ノ共濟組合ニ關スル件

大正十二年一月二十二日 (總理、大藏 勅令第十九號)

明治四十年勅令第百二十七號ハ造幣局所屬雇員以下ノ現業員相互ノ救濟ヲ目的トスル組合ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○造幣局共濟組合規則

大正十二年一月二十三日 大藏省令第三號

改正 昭和元年第五號、二年第一九號、三年第六號、四年第九號、第二四號、六年第一四號

第一章 總則

第一條 本組合ハ之ヲ造幣局共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ハ事務所ヲ造幣局内ニ置ク

第三條 本組合ノ事務ハ造幣局長之ヲ管理ス

第四條 本組合ハ組合員ノ相互救濟ヲ爲スヲ以テ其ノ目的トス

第五條 掛金額又ハ給付額豫定ノ標準タル給料ハ日給付受クル者ニ在リテハ其ノ二十六日分ヲ以テ一月ノ額トシ其ノ十二倍ヲ以テ一年ノ額トス 給付額算定ノ標準タル給料ハ月給付受クル者ニ在リテハ其ノ二十六分ノ

(合四)

其ノ就職ノ日ヨリ、甲種組合員ニシテ年收千二百圓ヲ超ユル職員ニナリタルトキハ其ノ翌日ヨリ當然乙種組合員ト爲ル

從來乙種組合員タリシ者ハ本令施行ノ日ヨリ、雇員以下ノ現業員ニ非スシテ六月以上在職シ造幣局長ニ於テ加入ヲ承認シタル者ハ其ノ日ヨリ丙種組合員ト爲ル

甲種組合員タリシ者局員タル資格及健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ資格喪失ノ際引續キ六十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニシテ資格喪失ノ日(繼續シテ健康保險給付ニ相當スル給付ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ繼續シテ健康保險ノ被保險者タルノ意思表示ヲ爲シタルトキハ資格喪失ノ日ヨリ、甲種組合員ニシテ第十五條ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ翌日ヨリ丁種組合員ト爲ル

臨時ニ使用スル者、給料ヲ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得

第十一條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ支拂フヘシ

甲種組合員 一月ニ付給料月額ノ百分ノ六・二

乙種組合員 一月ニ付給料月額ノ百分ノ五

丙種組合員 一月ニ付給料月額ノ百分ノ九

丁種組合員 一月ニ付退職當時ノ給料月額ノ百分ノ四

掛金額ハ特別ノ勞務又ハ臨時ノ事故ニ因リ一時給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルコトアルモ之ヲ増減セス

第十一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間中甲種組合員ニ對シテハ其ノ掛金中ヨリ其ノ期間ニ對シ給料月額千分ノ十二ノ割合

ヲ以テ算出シタル金額ヲ減シテ丁種組合員ニ對シテハ其ノ期間ニ對スル掛金全額ヲ免除ス

一 傷病手當金又ハ出産手當金ノ支給ヲ受クルトキ

二 第二十五條ノ五ニ該當スルトキ

第十二條 掛金ハ毎月給料受領ノ際之ヲ支拂フヘシ

給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ掛金額ニ滿タサル給料ノ支給ヲ受ケタル月ノ掛金ハ次回給料受領ノ際之ヲ支拂フコトヲ得

組合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ毎月其ノ給料ヨリ掛金ヲ控除徵收スルコトアルヘシ

第十三條 掛金ニ異動ヲ生スヘキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス

第十四條 組合員ハ左ノ場合ニ限り脱退ス

一 死亡シタルトキ

二 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタル場合ニ於テ其ノ期間四月ヲ超ユルトキ又ハ其ノ期間四月以内ニシテ組合員タル資格ヲ繼續スルノ意思表示ヲ爲ササルトキ

三 甲種組合員ニ在リテハ退職シ又ハ他ノ官廳ニ轉勤シタル場合ニ於テ繼續シテ健康保險ノ被保險者タルノ意思表示ヲ爲ササルトキ又ハ雇員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタル場合ニ於テ繼續シテ組合員タルノ意思表示ヲ爲ササルトキ

四 乙種組合員ニ在リテハ退職シ又ハ他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ又ハ雇員以下ノ現業員ニ非サル職ニ轉シタル場合ニ於テ繼續シテ組合員タルノ意思表示ヲ爲ササルトキ

五 丙種組合員ニ在リテハ退官又ハ退職シ若ハ休職ト爲リ又ハ他ノ官廳ニ轉勤シタルトキ又ハ加入後三年以上ヲ經過シ脱退ノ意思表示ヲ爲シタルトキ

六 甲種組合員ニシテ第十五條ニ該當シテ種組合員ト爲リタル者ニ在リテハ局員タル資格ヲ喪失シタルトキ、其ノ他ノ丁種組合員ニ在リテハ健康保險ノ被保險者ト爲リタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ、掛金支拂期日ヨリ四十日ヲ經過スルモ掛金ヲ納付セサルトキ又ハ健康保險法第十三條若ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルトキ

七 第十條第五項ニ該當スルニ至リタルトキ

第十五條 甲種組合員、乙種組合員及丙種組合員正當ノ事由ナクシテ二月以上掛金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ甲種組合員ハ丁種組合員ト爲リ乙種組合員及丙種組合員ハ最後ノ支拂ヲ爲シタル月ノ終ニ於テ脱退シタルモノト看做ス

第十六條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ本令ニ定ムルモノノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第三章 給付

第一節 總則

第十七條 給付ハ左ノ九種トス

公傷給付

療養給付

傷病給付

分娩給付

罹災給付

脱退給付

遺族給付

埋葬給付

弔慰給付

第十七條ノ二 本令中公傷給付、特症給與金、罹災給付、脱退給付及遺族給付ニ關スル規定ハ丁種組合員ニ、職務ニ基キセサル傷病ニ對スル療養給付、傷病手當金、分娩給付ニ關スル規定ハ乙種組合員及丙種組合員ニ之ヲ適用セス

第十八條 給付ヲ爲スヘキ事由併發シタルトキハ當該各條ノ給付ヲ併給ス但シ公傷給付ヲ爲ス場合ニ於テハ特症給與金ヲ、出産手當金ヲ支給スル場合ニ於テハ傷病手當金ヲ、遺族給付ヲ爲ス場合ニ於テハ脱退給付ヲ爲サス

公傷年金ト脱退年金トヲ併給スル場合ニ於テハ其ノ併給金額ハ給料年額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條 給付ノ額ハ給付ノ事由發生當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リ之ヲ算定ス

第二十條 年金給與ノ期間ハ給與ノ事由發生ノ翌月ヲ以テ開始シ給與ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

第二十一條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ一月、四月、七月及十月ニ於テ其ノ前三分ヲ支給ス但シ權利消滅ノ場合ニ於テハ期月ニ拘ラス之ヲ支給ス

第二十二條 傷病手當金及出産手當金ハ繼續シテ給料ノ全部又ハ一部ヲ受クルコトヲ得ヘキ期間之ヲ支給セス但シ其ノ受クルコトヲ得ヘキ給料ノ額カ傷病手當金又ハ出産手當金ノ額ヨリ小ナルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第二十三條 傷病手當金又ハ出産手當金ハ給料支給日ニ之ヲ支給ス

第四編 社會 第五章 共濟組合 造幣局共濟組合規則

第二十二條 傷病、疾病又ハ死亡ニ基キテ給付ハ組合ノ指定シタル醫師ノ證明書ニ基キ之ヲ決定ス但シ已ムヲ得サキ事由ニ因リ組合ノ指定シタル醫師ノ證明書ヲ得ルコト能ハサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 組合員タリシ者ニ對シ組合脱退ノ際傷病、疾病又ハ分娩ニ關スル給付中ナルトキハ組合員タル場合ニ於テ之カ給付ヲ爲ササルヘカラサリシ期間引續キ之カ給付ヲ爲ス

第二十四條 金錢給付ヲ爲ス場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ支給額ニ加ヘ又ハ支給額ヨリ控除ス

第二十五條 給付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ事由發生ノ後直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ怠リタルトキハ給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十六條 組合員自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ給付ヲ爲サス但シ健康保險給付ニ相當スル給付以外ノ給付ニ付テハ情狀ニ因リ其ノ一部ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

第二十七條 組合員第十五條ノ規定ニ依リ組合員ノ種別ヲ變更セラレ又ハ第十五條ノ規定ニ依リ組合員ト脱退シタルトキハ給付ヲ爲サス但シ組合員タル種別ヲ變更セラレタル場合ニ於テハ健康保險給付ニ相當スル給付ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ健康保險給付ニ相當スル給付以外ノ給付ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラス情狀ニ因リ其ノ一部ヲ爲スコトアルヘシ

第二十八條 組合員懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ給付ヲ爲サス但シ健康保險給付ニ相當スル給付以外ノ給付ニ付テハ情狀ニ因リ其ノ一部ヲ爲スコトアルヘシ

失官又ハ免官ト爲リタルトキ

一七二五

二 解職セラレタルトキ但シ健康保險給付ニ相當スル給付ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條ノ四 組合員傷病又ハ疾病ノ場合ニ於テ組合ヨリ指定シタル者ノ臨検又ハ診察ヲ拒絕シタルトキハ給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十五條ノ五 療養給付、傷病手當金又ハ分焼給付ヲ受ケヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間ノ力給付ヲ爲サス

一 陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

二 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ

三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ

四 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第二十五條ノ六 組合員詐欺其ノ不正ノ行爲ニ因リ療養給付、傷病手當金、分焼給付又ハ埋葬給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタルトキハ百八十日以内ノ期間ニ限リ傷病手當金又ハ出產手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得但シ詐欺其ノ不正ノ行爲アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス傷病手當金ヲ支給ス
前項ノ給付ヲ爲シタル期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ計算ニ付テハ之ヲ算入セス

第二十六條 組合員傷病、疾病又ハ死亡ノ場合ニ於テ其ノ家族組合ヨリ指定シタル者ノ臨検又ハ診察ヲ拒絕シタルトキハ給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十七條 故意ニ組合員、年金受領者又ハ給付受領ノ先順位ニ在ル者ヲ

死ニ致シタル者ニハ給付ヲ爲サス

第二十八條 組合員刑事事件ニ關シ告訴又ハ告發セラレタルトキハ裁判確定ニ至ル迄給付ヲ停止シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレルニ至リタルトキハ之ヲ給付ヲ爲サス但シ健康保險給付ニ相當スル給付ニ付テハ第二十五條ニ該當スル事件ノ爲告訴又ハ告發セラレタル場合ノ外之ヲ給付ヲ爲スモノトス

第二十九條 給付ハ給付ノ事由發生ノ日ヨリ一年以内ニ請求ヲ爲ササルトキハ給付ヲ受ケル權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第三十條 年金其他給付ヲ受ケル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ質入ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ支給ヲ停止シ又ハ給付ヲ爲ササルコトアルヘシ

第三十一條 年金ヲ受ケル者死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキハ爾後之ヲ受ケルノ權利ヲ喪失ス
年金ヲ受ケル者六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ執行中ノ之ヲ給與セス

遺族年金ヲ受ケル者前項ニ該當シタルトキハ其ノ期間中第四十六條及第四十七條ノ規定ニ準シ次順位ノ者ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第三十一條ノ二 組合ハ事故カ第三者ノ行爲ニ因リテ生シタル場合ニ於テ給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ組合員又ハ組合員タリシ者カ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

第二節 公傷給付

第三十二條 公傷給付ハ左ノ二種トス

一 公傷年金

二 公傷一時金

第三十三條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ各號ノ一ニ該當シ因テ脱退シタルトキハ其ノ種別ニ從ヒ終身間公傷年金ヲ給與ス

一 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身自用ヲ辨シ得サルトキ並之ニ準スヘキトキ 給料六月分乃至八月分

二 一肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ト雖終身業務ニ就クコト能ハサルトキ並之ニ準スヘキトキ 給料三月分乃至五月分

第三十四條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ其ノ種別ニ從ヒ公傷一時金ヲ給與ス

一 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得サルトキ 給料八月分乃至一年六月分

二 身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ從フコトヲ得ルトキ 給料二月分乃至七月分

第三十五條 組合員職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ前二條ノ給與金ヲ受ケタルニ至ラサル者當該傷病又ハ疾病ニ基因シ前二條ニ該當スルニ至リタルトキハ當該各條ノ給與金ヲ給與ス

公傷給付ヲ受ケタル者ト雖當該傷病又ハ疾病ニ基因シ更ニ上級ノ給與金ヲ受ケヘキ事由アルニ至リタルトキハ其ノ差額ヲ給與ス此ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ノ支給額ハ脱退ノ翌月ヨリ之ヲ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄其ノ支給ヲ停止ス

職務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル組合員ニシテ脱退ノ日ヨリ一年以内ニ前二項ニ該當スルニ至リタルトキハ前二項ノ規定ヲ準用ス

第三十六條 公傷年金ヲ受ケタル者ニシテ傷病又ハ疾病ノ程度輕減シタルトキハ該年金ノ一部又ハ全部ヲ支給ヲ爲ササルコトヲ得

第三節 療養給付

第三十七條 組合員傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ療養ノ給付ヲ爲ス但シ他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

療養ノ給付ハ同一ノ疾病又ハ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

前各項ノ場合ニ於テ治療上必要アリト認ムルトキハ組合員ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

組合員第二項ノ期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル場合ニ於テ之ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請アリタルトキハ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

第三十七條ノ二 前條ノ規定ニ依リ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術又ハ其ノ他ノ治療

四 看護

五 患者ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ組合ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ限ル

第三十七條ノ三 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ組合員ハ組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師中自己ノ選定シタル者ニ付之ヲ受ケルコトヲ得但シ第三十七條第四項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四編 社會 第五章 共濟組合 造幣局共濟組合規則

第四編 社會 第五章 共濟組合 造幣局共濟組合規則

組合員前項ノ規定ニ依リ醫師又ハ齒科醫師ヲ選定シタルトキハ組合ノ承認アリタル場合ノ外同一ノ傷痍又ハ疾病ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十七條ノ四 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給スルコトヲ得

- 一 組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ
二 組合員カ組合ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ
三 組合員カ緊急ノ場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ

第三十七條ノ五 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ組合之ヲ定ム

第四節 傷病給付

第三十七條ノ六 傷病給付ハ左ノ二種トス

- 一 傷病手當金
二 特症給與金

第三十七條ノ七 組合員療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付給料日額百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ傷疾又ハ疾病カ職務ニ基因セサル場合ニ於テハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ傷痍及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス 病院ニ收容シタル者ニ對シテハ支給スル傷病手當金ハ左ノ額トス

キハ分娩費ノ額八十圓トス

第三十八條ノ四 組合ハ組合員ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

第三十八條ノ五 組合員分娩ノ爲分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシトキハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル出産手當金ヲ支給ス

組合員タリシ者健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シ以後其ノ資格ヲ取得スルコトナク百八十日以内ニ分娩シタル場合分娩ノ爲分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシトキハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ一日ニ付退職當時ノ給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル出産手當金ヲ支給ス 分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ前各項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

第三十八條ノ四ノ規定ニ依リ産院ニ收容シタル組合員ニ對シ支給スル出産手當金ニ付テハ第三十七條ノ七第三項ノ規定ヲ準用ス

第三十八條ノ六 分娩給付費用ノ分擔ニ付テハ健康保險法第五十三條及健康保險法施行令第八十三條ノ規定ヲ準用ス

第六節 罹災給付

第三十九條 組合員ノ住宅水災震災其ノ他非常ノ災厄ニ罹リ財產ニ著シキ損害ヲ受ケタルトキハ給料二月分以内ニ相當スル罹災給與金ヲ給與ス

第七節 脱退給付

第四十條 脱退給付ハ左ノ二種トス
一 脱退年金

第四編 社會 第五章 共濟組合 造幣局共濟組合規則

一七二八

一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合 給料日額ノ百分ノ二十

二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合 給料日額ノ百分ノ四十
三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合 給料日額ノ百分ノ六十

第三十七條ノ八 組合員闘争、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危害防禦ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ依リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ 組合員正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサルトキハ傷病手當金ノ一部ヲ支給セサルコトアルヘシ

第三十八條 組合員加入後一年以上ニシテ肺結核其ノ他ノ傳染性疾患ニ因リ解職セラレタルトキハ給料二月分ニ相當スル特症給與金ヲ給與ス 前項ノ金額ハ加入後一年以上一年ヲ増ス毎ニ給料五分ニ相當スル金額ヲ加算ス

第五節 分娩給付

第三十八條ノ二 分娩給付ハ左ノ二種トス

- 一 分娩費
二 出産手當金

第三十八條ノ三 組合員分娩シタルトキハ分娩前一年内ニ於テ九十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ分娩費トシテ二十圓ヲ支給ス 組合員タリシ者健康保險ノ被保險者タル資格ヲ喪失シ以後其ノ資格ヲ取得スルコトナク百八十日以内ニ分娩シタルトキハ分娩前一年内ニ於テ九十日以上健康保險ノ被保險者タリシ者ニ限リ分娩費トシテ二十圓ヲ支給ス

第三十八條ノ四ノ規定ニ依リ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタルトス

二 脱退一時金

第四十一條 組合員加入後二十年以上ニシテ傷痍若ハ疾病ノ爲將來ノ勞務ニ從フコト能ハス又ハ加入後二十年以上ニシテ年齢四十五年ニ達シ脱退シタルトキハ別表第一號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ終身間脱退年金ヲ給ス

第四十二條 組合員前條ノ年金ヲ受クルニ至ラスシテ脱退シタルトキハ左ノ區分ニ依リ算出シタル脱退一時金ヲ給與ス但シ自己ノ便宜ニ依リ脱退シタルトキハ其ノ十分ノ八トス

- 一 甲種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ六十二分ノ五十二ニ對シ別表第一號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額
二 乙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額
三 丙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ九分ノ五ニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額

四 甲種組合員若ハ乙種組合員ヨリ丙種組合員ト爲リタル者又ハ丙種組合員ヨリ甲種組合員若ハ乙種組合員ト爲リタル者ニ在リテハ甲種組合員トシテ爲シタル掛金總額ノ六十二分ノ五十二又ハ乙種組合員トシテ爲シタル掛金總額及丙種組合員トシテ爲シタル掛金總額ノ九分ノ五ヲ合算シタルモノニ對シ別表第二號ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘シタル金額

第八節 遺族給付

第四十三條 遺族給付ハ左ノ二種トス

- 一 遺族年金
二 遺族一時金

第四十四條 組合員職務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキハ左ノ區分ニ依リ遺族年金ヲ給與ス

- 一 加入後二十年未満ノトキ 給料三月分
- 二 加入後二十年以上ノトキ 給料四月分

第四十五條 遺族年金ハ組合員ノ配偶者ニ終身間之ヲ給與ス但シ夫ニ之ヲ給與スルハ不具廢疾者又ハ老衰者ニシテ勞務ニ耐エサル場合ニ限ル

第四十六條 配偶者ナキトキ又ハ年金ヲ受クル配偶者死亡シ若ハ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ年金ハ之ヲ組合員ノ遺子ニ給與ス

前項ノ規定ニ依リ年金ヲ受クヘキ遺子ハ組合員死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル年齢二十年未満ノ未タ婚姻セサル者ニ限ル但シ胎兒ハ組合員死亡ノ當時其ノ家ニ在リタルモノト看做ス

第四十七條 年金ヲ受クヘキ遺子ナキトキ若ハ年金ヲ受クル遺子其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ組合員ノ死亡當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル父母又ハ祖父母ニ父、母、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ヲ給與スルコトヲ得

第四十八條 組合員職務ノ爲ニ非スシテ死亡シタルトキハ給料六月分ニ相當スル遺族一時金ヲ給與ス

前項ノ金額ハ加入期間一年毎ニ給料半月分ニ相當スル金額ヲ加算ス

第四十九條 公傷年金又ハ脱退年金ヲ受クル者脱退ノ日ヨリ公傷年金ヲ受タル者ニ在リテハ七年以内脱退年金ヲ受クル者ニ在リテハ六年以内ニ死亡シタルトキハ遺族一時金ヲ給與ス

前項ノ金額ハ公傷年金ニ在リテハ該年金ノ七年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給與シタル年金ヲ控除シタル金額ノ半額トシ脱退年金ニ在リテハ該年金ノ六年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給與シタル年金ヲ控除シタル金額トス但シ公傷年金ヲ受クル者死亡ノ場合ニ於ケル遺族一時金ノ額ハ既ニ給與シタル年金額ト合シテ給料二十月分ヲ下ルコトナシ

第五十條 組合員死亡ノ日ヨリ七年以内ニ遺族年金ヲ受クル者ナキニ至リタルトキハ年金七年分ニ相當スル金額ヨリ既ニ給與シタル年金額ヲ控除シタル金額ヲ遺族一時金トシテ給與ス

第五十一條 遺族一時金ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ遺族ニ給與ス其ノ範圍及順位左ノ如シ但シ第四號以下ノ者ニ給與スル場合ハ其ノ半額トス

- 第一 配偶者
- 第二 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系卑屬
- 第三 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル直系尊屬
- 第四 戸主
- 第五 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時其ノ家ニ在ル兄弟姉妹
- 第六 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系卑屬
- 第七 組合員又ハ組合員タリシ者死亡ノ當時他家ニ在ル直系尊屬

前項第一號ノ適用ニ付テハ第四十五條第三項ノ規定ヲ準用シ第二號、第五號及第六號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百七十條及第九百七十四條ノ規定ヲ、第三號及第七號ニ該當スル者數人アルトキハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第五十二條 第四十五條乃至第四十七條及第五十一條ニ規定スル順位ハ組合員特別ノ意思ヲ表示シタルトキハ之ニ從フコトアルヘシ

第五十三條 第五十一條ノ規定ニ依リ遺族一時金ヲ受クヘキ遺族ナキトキハ組合員第五十一條第四號以下ノ者ニ給與スヘキ金額以内ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第九節 埋葬給付

第五十四條 組合員死亡シタルトキハ其ノ埋葬ヲ營ミタル者ニ給料日額三十日分ニ相當スル金額ヲ埋葬料トシテ支給ス但シ其ノ金額三十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ三十圓トス

第五十四條ノ二 甲種組合員又ハ丁種組合員タリシ者脱退ノ日ヨリ九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ給付ヲ受クル者死亡シタルトキ又ハ第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル後九十日以内ニ死亡シタルトキハ其ノ埋葬ヲ營ミタル者ニ對シ脱退當時ニ於ケル給料日額三十日分ニ相當スル埋葬料ヲ支給ス

前條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十節 弔慰給付

第五十四條ノ三 前條ノ規定ハ健康保險法第十三條又ハ第十五條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタル者ニ之ヲ適用セス

第四編 社會 第五章 共濟組合 造幣局共濟組合規則

ハ左ノ區分ニ依リ弔慰金ヲ其ノ遺族ニ支給ス

- 一 職務ノ爲死亡シタルトキ 給料日額 三十日分
- 二 前號以外ノ原因ニ因リ死亡シタルトキ 給料日額 十日分

前項遺族ノ範圍及順位ニ關シテハ第五十一條ノ規定ヲ準用ス

第四章 附屬事業

第五十五條 本組合ハ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ組合員ノ保護救済ノ爲ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十七條 本組合ノ財産ハ造幣局長ノ定ムル所ニ依リ利殖ノ目的ヲ以テ銀行若ハ郵便局ニ預入レ又ハ之ヲ以テ國債、地方債證券ノ應募若ハ買入ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 本組合ハ每事業年度ノ終ニ於テ各年金、特症給與金、脱退一時金及第四十八條ノ規定ニ依ル遺族一時金ノ給與ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第六章 審査會

第六十一條 加入、脱退並救済金ノ給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ造幣局長ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ハ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ

第四編 社會 第五章 共濟組合 造幣局共濟組合規則

要ス

第六十二條 審査會ハ造幣局長及審査委員八名ヲ以テ之ヲ組織ス

審査委員ハ造幣局高等官及判任官中ヨリ造幣局長之ヲ指定ス

第六十三條 審査會ハ造幣局長之ヲ召集ス

議長事務アルトキハ審査委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第六十四條 審査會ハ議長ハ造幣局長ヲ以テ之ニ充ツ

議長事務アルトキハ審査委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第六十五條 審査會ハ審査委員半数以上出席シ出席審査委員ノ過半数ヲ以テ決議ヲ爲ス

可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第六十六條 議長又ハ審査委員ハ自己ノ利害ニ關スル事項ノ議事ニ關與スルコトヲ得ス

第六十七條 審査會ノ爲シタル決議ニ對シテハ更ニ異議ノ申出ヲ爲スコトヲ得ス

第七章 評議會

第六十八條 評議會ハ左ノ議員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 造幣局各部部长

二 組合員ノ互選シタル者 九名

前項第二號ニ掲クル議員ノ選舉方法及其ノ任期ハ造幣局長之ヲ定ム

第六十九條 評議會ハ組合ノ重要ナル事項ニ關シ造幣局長ノ諮問ニ應シ又ハ造幣局長ニ對シ意見ヲ開陳ス

第七十條 評議會ハ毎年一回造幣局長之ヲ召集ス

臨時必要アルトキ又ハ議員三分ノ一以上ノ者會議ノ目的タル事項ヲ明示シテ評議會ノ召集ヲ請求シタルトキハ臨時評議會ヲ召集ス

第七十一條 評議會ノ議長ハ造幣局總務部長ヲ以テ之ニ充ツ

二十四年以上	八三	三十年以上	一〇八	三十六年以上	一四三
二十五年以上	八六	三十一年以上	一一三	三十七年以上	一四九
二十八年以上	一〇一	四十三年以上	一四四	四十八年以上	二二八
三十九年以上	一三三	四十四年以上	一五〇	四十九年以上	二四八
四十年以上	一七〇	四十五年以上	二一一	五十年以上	二五八
四十一年以上	一七八	四十六年以上	二二〇	五十一年以上	二六八
四十二年以上	一八六	四十七年以上	二二九	五十二年以上	二七六

別表第二號

加入期間	給與數	加入期間	給與數	加入期間	給與數
一年未滿	一、〇〇	十一年未滿	一、一七	二十一年未滿	一、五八
二年未滿	一、〇〇	十二年未滿	一、三〇	二十二年未滿	一、六二
三年未滿	一、〇〇	十三年未滿	一、三三	二十三年未滿	一、六六
四年未滿	一、〇九	十四年未滿	一、三五	二十四年未滿	一、六八
五年未滿	一、一一	十五年未滿	一、三六	二十五年未滿	一、七三
六年未滿	一、一四	十六年未滿	一、四二	二十六年未滿	一、七六
七年未滿	一、一六	十七年未滿	一、四四	二十七年未滿	一、八〇
八年未滿	一、一九	十八年未滿	一、四八	二十八年未滿	一、八四

第四編 社會

第五章 共濟組合

陸軍共濟組合規則

第七十二條 第六十四條第二項、第六十五條及第六十六條ノ規定ハ評議會ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十二年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和元年大藏省令第五號)

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

脱退一時金ノ計算ニ付本令施行前甲種組合員タリシ者ノ掛金ヲ算入スル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ支拂ヲ爲シタル掛金ノ總額ヲ算入スルモノトス

附則 (昭和二年大藏省令第一九號)

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

脱退一時金ノ計算ニ付從來甲種組合員タリシ者カ本令施行前ニ爲シタル掛金ヲ算入スル場合ハ左ノ區分ニ依ル

一 昭和元年十二月三十一日以前ノ掛金ニ付テハ其ノ總額

二 昭和二年一月一日ヨリ同年六月末日迄ノ掛金ニ付テハ其ノ五十八分ノ五十

別表第一號

加入期間	年金額	加入期間	年金額	加入期間	年金額
二十一年以上	七〇	二十六年以上	七〇	三十二年以上	一一八
二十一年以上	七〇	二十七年以上	七〇	三十三年以上	一二四
二十一年以上	七〇	二十八年以上	七〇	三十四年以上	一三〇
二十一年以上	七〇	二十九年以上	七〇	三十五年以上	一三六

(台四)

九年未滿	一、三三	十九年未滿	一、五二	二十九年未滿	一、八八
十年未滿	一、三四	二十年未滿	一、五四	三十年未滿	一、九三
十一年未滿	一、三六	二十一年未滿	一、五六	三十一未滿	一、九八
十二年未滿	一、三九	二十二年未滿	一、五八	三十二年未滿	二、〇三
十三年未滿	一、四一	二十三年未滿	一、六一	三十三年未滿	二、〇八
十四年未滿	一、四四	二十四年未滿	一、六四	三十四年未滿	二、一三
十五年未滿	一、四七	二十五年未滿	一、六七	三十五年未滿	二、一八
十六年未滿	一、五〇	二十六年未滿	一、七〇	三十六年未滿	二、二三
十七年未滿	一、五三	二十七年未滿	一、七三	三十七年未滿	二、二八
十八年未滿	一、五六	二十八年未滿	一、七六	三十八年未滿	二、三三
十九年未滿	一、五九	二十九年未滿	一、七九	三十九年未滿	二、三八
二十年未滿	一、六二	三十年未滿	一、八二	四十年未滿	二、四三

(台四)

陸軍作業廳現業員ノ共濟組合ニ關スル件

大正八年四月一日 勅令第八十號 (總理、陸軍大臣副署)

改正 昭和三年第一〇九號

第一條 陸軍作業廳所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 陸軍作業廳以外ノ陸軍部隊所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得

第三條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第四條 陸軍大臣ハ陸軍部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍共濟組合規則

大正十五年九月十六日 陸軍省令第十八號

改正 昭和二年第三號、四年第二號、九年第一六號

第一章 總則

第一條 本組合ハ大正八年勅令第八十號ニ基キ之ヲ組織ス

第二條 本組合ハ陸軍共濟組合ト稱ス

第三條 本規則ニ於テ廳長トハ陸軍大臣ノ直轄部隊ニ在リテハ當該長官、參謀總長又ハ教育總監ノ直轄部隊ニ在リテハ參謀總長又ハ教育總監ノ指定スル部長、東京警備司令部ニ在リテハ當該副官、師團又ハ軍ニ在リテハ當該經理部長ヲ謂フ

第四條 本組合ノ事務ハ陸軍次官之ヲ統轄シ組合員所屬ノ各廳長之ヲ掌理ス

第二章 組合員

第五條 各廳長ハ部下職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第六條 本規則ニ於テ期間ノ計算ハ民法第一編第五章ノ規定ニ依ル但シ組合員ノ組合加入年月數ノ計算ニ付テハ加入ノ月ヨリ起算シ脱退ノ月ヲ以テ終ル

第三章 組合員

第七條 組合員タルヘキ現業員ハ左ノ各號ニ依ル但シ六十日以内ノ期間ヲ定メテ使用スル者(引續キ所定ノ期間ヲ超エテ使用スルニ至リタル者ヲ除ク)及使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ若ハ試ニ使用シ又ハ日々雇傭スル者(引續キ三十日ヲ超エテ使用スルニ至リタル者ヲ除ク)ハ此ノ限ニ在ラス

一 陸軍職工規則ノ適用アル部隊及軍馬補充部所屬ノ雇員、職工及傭人

二 前號以外ノ部隊所屬ノ現業ニ從事スル雇員、職工及傭人

前項第二號現業ノ種類ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 新ニ現業員ト爲リタル者ハ採用ノ當日(第九條第一項第二號ニ掲ケタル事項ニ該當シ休務中ノ者ニ在リテハ出務ヲ命セラレタル日)ヨリ當

然組合員タルモノトス但シ戰時事變ニ際シ動員又ハ編成シタル部隊ニ採用セラレタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 組合員ハ左ノ場合ニ限り組合ヨリ脱退ス

- 一 雇傭ヲ解カレタルトキ
 - 二 陸海軍ニ徵集セラレ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレ又ハ戰時事變ニ際シ動員若ハ編成シタル部隊ニ配屬セラレタルトキ
 - 三 死亡シタルトキ
 - 四 第七條ニ規定スル現業員タルノ資格ヲ失ヒタルトキ
- 組合員ニシテ官ノ都合(處刑又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ因ルモノヲ除ク)ニ依リ雇傭ヲ解カレ又ハ前項第二號ニ該當シ脱退シタル者爾後再ヒ陸軍部内ノ他廳ニ於テ雇傭セラレ又ハ徵集、召集若ハ配屬ノ事由止ミ脱退ノ當月又ハ翌月中ニ新ニ組合員タリ得ヘキトキハ本人ノ希望ニ依リ特ニ脱退者トシテ取扱ハス前後繼續シテ組合員ト爲スコトヲ得
- 第一項第一號又ハ第四號ニ該當シ脱退シタル者ニシテ脱退ノ際引續キ六十日以上組合員タリシモノハ本人ノ希望ニ依リ準組合員トシテ繼續シテ組合員ニ加入セシメ第四章ノ規定ニ準シ醫療ノ給付ヲ爲シ、療養給付金、分娩給付金及死亡給付金丙號ニ限リ之ヲ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ準組合員タルノ資格ヲ失フモノトス
- 一 準組合員トシテ繼續シテ組合員ニ加入シタル日ヨリ百八十日ヲ經過シタルトキ
 - 二 掛金ヲ拂込ムヘキ期限後十日以内ニ拂込マサルトキ
 - 三 再ヒ組合員ト爲リタルトキ
 - 四 別ニ健康保險法ニ依ル被保險者ト爲リタルトキ
 - 五 死亡シタルトキ

準組合員タラムトスル者ハ脱退ノ日(第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ脱退後尙組合ヨリ給付ヲ受クル者ニ在リテハ該給付ヲ受クルコトナキニ至リタル日)ヨリ十日以内ニ廳長ニ申請スルヲ要ス但シ廳長ニ於テ該期間内ニ申請シ得サリシ已ムヲ得サレト認メタルモノニ付テハ該期限經過後ノ申請ト雖之ヲ受理スルコトヲ得

第十條 組合員ハ本規則ニ規定スル給與ヲ受クルノ外本組合ニ對シ何等ノ給與ヲ請求スルコトヲ得ス

第三章 掛金

第十一條 削除

第十二條 組合員ハ別表第一號ニ依リ加入ノ月ヨリ脱退當月迄毎月掛金ヲ拂込ムヘシ

準組合員ハ準組合員タル期間(療養給付金ヲ受クル期間ヲ除ク)掛金トシテ一日ニ付脱退當時ノ日給額ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ拂込ムヘシ但シ掛金拂込時ニ於ケル掛金額ノ厘位ハ四捨五入シ錢位ニ止ムルモノトス

第十三條 掛金ハ毎月給料支給ノトキ拂込ムヘシ但シ給料ヲ毎月數回ニ分チ支給スル場合ニ於テハ第一回支給ノトキ掛金ノ全額ヲ拂込ムモノトス

給料ノ支給ヲ受ケサル月又ハ其ノ受ケタル給料額ニシテ掛金ノ額ニ滿タサルトキハ次回支給ノトキ拂込ムヘシ但シ給料ヨリ拂込ムコト能ハサル場合ニ於テハ給付金支給ノ際之ヲ拂込ムモノトス

給料ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金額ヲ改正ス

準組合員ノ掛金ハ毎月末日迄ニ前月ノ分ヲ拂込ムモノトス

第四章 給付

第十四條 給付ノ種類左ノ如シ

第四編 社會 第五章 共濟組合 陸軍共濟組合規則

- 障害給付金
- 醫療ノ給付
- 療養給付金
- 分娩給付金
- 死亡給付金
- 特種給付金
- 脱退給付金
- 勤續給付金
- 罹災給付金
- 家族弔慰金
- 葬料
- 第十五條 給付ヲ受クヘキ事由併發シタルトキハ當該各種ノ給付ヲ併給ス
- 第十六條 組合員業務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ治療後仍身體ニ障害ヲ存スルトキハ其ノ程度ニ應ジ別表第二號ニ依リ障害給付金ヲ給ス
- 身體ノ障害程度ニシテ恩給法施行令第二十四條ノ第二項程度以上ノ者ニ給スヘキ障害給付金ハ本人ノ選擇ニ依リ一時金又ハ終身年金ヲ給スルモノトス但シ第三項以下ノ障害程度ニ應スル障害給付金ヲ受ケタル者ニシテ第四項ノ規定ニ依リ第二項程度以上ノ項症ニ該當スルニ至リタルモノニ給スヘキ障害給付金ハ一時金トス
- 障害給付金ハ脱退スル者ニ在リテハ其ノ際、引續キ加入シ居ル者ニ在リテハ症狀固定ノ際症項査定ノ上之ヲ給ス但シ脱退ノ際症項査定ノ機ニ到達セサル者ニシテ第二十一條ノ規定ニ依リ醫療ノ給付又ハ療養給付金ヲ

甲號
乙號
丙號

受クヘキモノニ在リテハ其ノ支給ヲ受クルコトナキニ至リタル際症項査定ノ上之ヲ給スルモノトス

前項ノ障害給付金ヲ受ケタル後當該傷病重症ニ趨キ又ハ當該傷病ニ基因シ既ニ受ケタル障害給付金ニ應スル項症ヨリ上級ノ項症ニ該當スルニ至リタル者ニ在リテハ脱退前又ハ脱退後一年ノ期間ニ限リ新ニ症項査定ノ上新項症ニ應スル給付金ト既ニ受ケタル給付金トノ差額ニ相當スル金額ヲ障害給付金トシテ給ス但シ第二項ノ規定ニ依リ年金ヲ受ケタル者ニ在リテハ上級ノ項症ニ該當スルニ至リタルトキ以後ニ於テ支給スヘキ分ヨリ其ノ年金額ヲ改定ス

第十七條 前條第二項ノ規定ニ依リ終身年金タル障害給付金ヲ受ケタル者五分ノ年金受領ニ先テ死亡シタルトキ又ハ六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ當該年金額ノ五倍ニ相當スル金額ト既ニ給シタル年金總額トノ差額ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ特ニ其ノ遺族又ハ本人ニ給シ爾後年金ノ給付ヲ打切ルモノトス但シ同條第四項ノ規定ニ依リ年金額ノ改定ヲ受ケタル者ニ付テハ死亡又ハ處刑當時ノ年金額ニ既ニ支給濟ノ年數(端月數ハ之ヲ年ノ小數ニ換算ス)ト五年トノ差年數ヲ乘シタル額ニ相當スル金額トス

前條第二項ノ規定ニ依リ終身年金タル障害給付金ヲ受ケタル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ刑ノ執行中ノ期間ニ對スル給付金ハ之ヲ給セス但シ當該給付金受給者ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 第十六條ノ規定ニ依リ障害給付金ヲ給セラルヘキ者ニシテ義眼、義肢又ハ「コルセット」ヲ必要トスルモノニハ特ニ之ヲ給スルコトヲ得

- 一 診察
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給
- 三 處置、手術其ノ他ノ治療
- 四 看護
- 五 組合員ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合又ハ豫メ應ノ承認ヲ受ケタル場合若ハ應長ニ於テ特ニ必要アリト認メタル場合ヲ除クノ外之ニ必要スル費用ハ一回二十圓ヲ以テ限度トス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ應長ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テ爲スモノニ限ル

第十九條ノ三 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ第十九條第二項ニ規定スル診療施設ニ就キ之ヲ受ケシムルモノトス

緊急ノ場合又ハ應長ニ於テ必要アリト認メタル場合ニ於テハ組合ノ指定シタル醫師、齒科醫師又ハ病院ノ中本人ノ選定シタルモノニ就キ之ヲ受ケシムルコトヲ得但シ第十九條第二項ノ規定ニ依リ病院ニ收容シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十九條ノ四 前條ニ規定スル醫師、齒科醫師又ハ病院ニ於テ處方箋ヲ交付シタルトキハ組合ノ指定シタル藥劑師ノ中組合員ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受ケシムルモノトス

第十九條ノ五 左ノ場合ニ於テハ醫療ノ給付ニ代ヘ醫療費ヲ給ス

一 組合ニ於テ醫療ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

前項ノ規定ニ依リ義眼、義肢又ハ「コルセット」ヲ給セラレタル者ハ脱退前又ハ脱退後一年ノ期間ニ限リ之カ修理ヲ請求スルコトヲ得但シ該修理ニ必要スル費用ハ總テ組合ニ於テ支辨スルヲ例トス

大正八年三月三十一日以前ニ於テ義務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲義眼又ハ義肢ヲ使用シ居ル者ニシテ引續キ勤務シ現ニ組合員タル者ニ對シテハ其ノ義眼又ハ義肢ノ修理ニ付前項ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第十八條ノ二 組合員業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ身體ニ障害ヲ貽シ職業ノ再教育ヲ要スル者ハ本人ノ希望ニ依リ餘額ノ上往復日數ヲ除キ概ネ一年ノ限度トシ陸軍次官ノ指定スル官又ハ公私ノ施設ニ派遣シ教育ヲ受ケシムルコトヲ得前條ノ規定ニ依リ給與スヘキ義眼、義肢等ノ製作又ハ其ノ使用法訓練ノ爲必要アル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依リ派遣セラレタル者ニハ其ノ往復ノ車料及派遣期間中在中之食費實費並第二十條ニ規定スル療養給付金ヲ給ス但シ當該疾病ニ關シ既ニ障害給付金ヲ受ケタル者ニ付テハ療養給付金ハ之ヲ給セス

第十九條 組合員療養ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ醫療ノ給付ヲ爲ス但シ業務ニ基因セサル傷病ニ在リテハ同一傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付醫療ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ超エサル期間ニ限ル

前項ノ場合應長ニ於テ醫療上必要アリト認メタルトキハ陸軍職工規則第六十五條及第六十六條ノ規定ニ依リ診療施設若ハ各處監督ノ下ニ在ル之ニ準スヘキ施設又ハ組合ノ指定シタル病院ニ收容スルコトヲ得

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ本條ノ給付ハ之ヲ爲サス

第十九條ノ二 前條第一項醫療ノ給付ノ範圍左ノ如シ

二 組合員カ應長ノ承認ヲ受ケ第十九條ノ三第一項又ハ第二項ニ規定スル以外ノ醫師、齒科醫師又ハ病院ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ

三 組合員カ緊急ノ場合ニ於テ第十九條ノ三第一項又ハ第二項ニ規定スル以外ノ醫師、齒科醫師、病院其ノ他ノモノノ應急手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請ニ對シ應長之ヲ承認シタルトキ

第二十條 組合員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ休業中ノモノニハ療養給付金ヲ給ス

一 業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者

二 業務ノ爲ニ非スシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ四日以上休業ヲ承認セラレタル者

三 分娩前後就業スルコト能ハス休業ヲ承認セラレタル者

前項ニ依リ給スヘキ療養給付金ノ支給期間及支給額ハ左ノ各號ノ區分ニ依ル

一 第一號該當者 休業全期間、一日ニ付給料十分ノ八

二 第二號該當者 三日ヲ超エタル休業期間(同一傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付療養給付金ノ支給ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ超ユルヲ得ス)、一日ニ付給料十分ノ七

三 第三號該當者 分娩前四週間及分娩後六週間以内ニ於ケル休業期間、一日ニ付給料十分ノ七

休業中給料ノ全部又ハ一部ヲ受ケタル者ニシテ其ノ受ケタル給料額前項ノ區分ニ依ル療養給付金ノ額ヨリ多額ナルモノニハ療養給付金ハ之ヲ給セス

但シ其ノ少額ナルモノハ療養給付金ノ額ト其ノ受クル給料額トノ差額ニ相當スル額ヲ療養給付金トシテ給ス

第二十條ノ二 前條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スル者ニシテ第十九條第二項又ハ第二十二條第二項ノ規定ニ依リ病院又ハ産院ニ收容セラレタル場合又ハ他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル場合ニ於ケル療養給付金ノ支給額ハ前條第二項ノ規定ニ拘ラス特ニ一日ニ付給料十分ノ五トス但シ入院前ヨリ當該組合員ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者三人以上アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲障害給付金ヲ受ケヘキ者ニシテ第十六條第三項ノ規定ニ依リ脱退ニ際シ障害給付金ノ支給ヲ受ケサリシ者ニ在リテハ脱退後ト雖モ尙勞務ニ服シ得サル期間第十九條及第二十條第一項第一號ニ該當スル者ニ給スヘキ醫療ノ給付又ハ療養給付金ヲ給スルコトヲ得但シ當該傷病ニ關シ療養開始後三年ヲ經過スルモ尙治癒セサル者ニ對シテハ本條ノ給付打切時ニ於ケル症狀ニ於テ症項査定ノ上別表第二號ニ依リ障害給付金ヲ給シ其ノ症狀尙症項査定ノ機ニ到達セサル者ニ對シテハ別表第二號ノ第二項症程度ノ者ニ給スヘキ障害給付金ヲ給シ爾後本條ノ給付ヲ打切ルモノトス

第二十二條 組合員分焼シタルトキ又ハ組合員タリシ者脱退後百八十日以内ニ分焼シタルトキハ分焼給付金トシテ二十圓ヲ給ス

第二十三條 組合員分焼シタルトキハ左ノ區分ニ依ル金額ヲ脱退給付金トシテ給ス

一 加入後勤続五年以上ノ者ニハ既ニ拂込ミタル掛金總額ト其ノ五十分ノ一ニ加入後ノ勤続年數(端月數ヲ除ク)ヲ乘シタル額トノ合算額ニ相當スル金額
二 加入後勤続五年未滿ノ者ニハ既ニ拂込ミタル掛金總額ニ相當スル金額

第二十六條 組合員加入後十年以上勤続シテ脱退シタルトキハ別表第五號ニ依リ勤続給付金ヲ給ス

官ノ都合ニ依リ雇傭ヲ解カレタル者(處刑又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ因ル者ヲ除ク)其ノ雇傭ヲ解カレタル日ヨリ一年內ニ再ヒ組合員ト爲リタル場合ニ於テハ前項給付金ノ算出ニ關スル勤続年數ノ計算ニ付テハ前後ノ勤続年數ヲ通算スルコトヲ得但シ前ニ脱退シタル際既ニ勤続給付金ヲ受ケタル者ニ給スヘキ勤続給付金額ハ別表第五號ノ金額ヨリ前ニ給シタル勤続給付金額ヲ控除シタル額トス

第二十七條 組合員ニシテ本人住家ノ火災、水災又ハ震災其ノ他非常ノ災厄ノ爲特ニ經濟上ノ扶助ヲ必要トスルトキハ罹災直後ノ經濟事情ヲ考慮シ五十圓以内ノ罹災給付金ヲ給ス

第二十八條 組合員ニシテ其ノ配偶者又ハ直系尊屬若ハ卑屬ノ死亡シタルトキハ別表第六號ニ依リ家族弔慰金ヲ給ス

金ヲ受クルモノニハ第二十條ノ規定ニ準シ療養給付金ヲ給ス

第二十三條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタルトキハ左ノ區分ニ從ヒ別表第三號ニ依リ死亡給付金ヲ給ス

甲號 組合員業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲死亡シタルトキ及組合員業務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ第二十一條ノ規定ニ依リ給付ヲ受クル期間又ハ脱退後一年內ノ期間ニ於テ當該業務上ノ傷病ニ基因シ死亡シタルトキ

乙號 組合員又ハ第二十一條ノ規定ニ依リ給付ヲ受クル者業務ノ爲ニ非スシテ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ

丙號 組合員タリシ者脱退ノ翌日(脱退後引續キ組合ヨリ給付ヲ受クル者ニ在リテハ該給付ヲ受クルコトナキニ至リタル日)ヨリ九十日以内ニ死亡シ前二號ノ一ニ該當セサルトキ

第二十四條 組合員肺結核、喉頭結核又ハ癩ニ罹リ公衆衛生上ノ必要ヨリ雇傭ヲ解カレタルトキハ別表第四號ニ依リ特種給付金ヲ給ス但シ當該疾病ニ因リ障害給付金ヲ受クル者ニハ本條ノ給付金ハ之ヲ給セス

ラサルモノ其ノ死亡當時現ニ組合員ト同居シ且其ノ收入ニ依リ其ノ生計ヲ維持シタル者ハ特ニ之ヲ組合員ト同一戸籍內ニ在ル者ト看做ス

第三十二條 但書ノ規定ニ依リ廳長ニ豫告シタル内縁ノ夫婦關係ニ在ル者ハ第一項ノ適用ニ付テハ特ニ之ヲ組合員ノ配偶者ト看做ス

第二十九條 組合員ニシテ第二十七條ノ規定スル災厄ニ罹リタルトキ又ハ廳長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキハ當該組合員ノ既ニ拂込ミタル掛金總額以内ノ金額ヲ貸與スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ毎年度各廳毎ニ貸與シ得ヘキ總額並其ノ貸與利子ハ陸軍次官之ヲ定ム

第三十條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シ第三十一條乃至第三十六條ノ規定ニ依リ給付金ヲ受領スヘキ者ナキ場合又ハ給付金ノ請求ナキ場合ニ於テ葬祭ヲ行フ必要アルトキハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ本人ノ受クヘカリシ給付金額ノ範圍內ニ於テ六十圓以内ノ葬祭料實費ヲ給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ葬祭料ヲ給シタル後正當ノ受領者ヨリ給付金ノ請求アリタルトキハ既ニ給シタル葬祭料ニ相當スル金額ヲ當該給付金中ヨリ控除シタル額ヲ給スルモノトス

第三十一條 組合ヨリ給付金ヲ受領スヘキ資格ヲ有スル組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタル場合ニ於テ給付金ヲ受領スヘキ者ノ順位左ノ如シ

- 一 配偶者
- 二 子

三 父、母

四 孫

五 祖父、祖母

第三十二條 前條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル順位ニ依リ其ノ一人ヲ給付金ノ受領者トス但シ組合員又ハ組合員タリシ者ハ遺言又ハ廳長ニ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中ヨリ第三十三條ニ規定スル順位ニ拘ラス特ニ其ノ一人又ハ數人ヲ指定シ(數人ヲ指定スル場合ニ於テハ其ノ代表受領者ヲ指定スヘシ)給付金ノ受領者ト爲スコトヲ得

一 家督相續人又ハ戸主

二 兄弟姉妹

三 組合員又ハ組合員タリシ者ノ收入ニ依リ其ノ生計ヲ維持シタル者ニシテ前二項ニ該當セサル者

第三十三條 第三十一條各號及前條第二號ノ一ニ該當スル者ハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡當時之ト同一戸籍内ニ在リ爾後引續キ當該戸籍内ニ在ルコトヲ要ス但シ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡當時胎兒タル嫡出ノ子出生シタルトキハ組合員又ハ組合員タリシ者ノ死亡當時之ト同一戸籍内ニ在リタル者ト看做ス

第三十一條第二號、第四號及前條第二號、第三號ノ一ニ該當スル者數人アルトキハ同順位内ニ在リテハ男ハ女ニ、長ハ幼ニ先ツ但シ家督相續人ハ最先トス

第三十四條 第三十一條及第三十二條ノ規定ニ依リ給付金受領ノ順位ニ在ル者ニシテ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ現ニ刑ノ執行中ニ在ルモノ又ハ生死不明ノモノナルトキハ給付金ハ次順位ノモノニ之ヲ給ス但シ次順位

ニ於テ所轄處ヨリ特ニ命シタル醫師ノ診斷治療又ハ職員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル者ニハ本規則ニ規定スル諸給與ノ全部又ハ一部ヲ給セサルコトアルヘシ

第三十九條ノ二 組合ノ醫務ニ關シテハ所管軍醫部長陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ケ之ヲ指導監督スルモノトス

第五章 審査會

第四十條 給與ニ關スル處分ニ異議アル者ハ處分ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ處分ヲ爲シタル者ニ具申シ表決ヲ求メ尙其ノ裁決ニ不服アルトキハ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ之カ審査ヲ請求スルコトヲ得

陸軍大臣ニ對スル審査ノ請求ハ前項ノ裁決ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ審査請求ノ趣旨及理由等ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條 前條ノ規定ニ依リ審査ノ請求アリタルトキハ裁決ヲ爲シタル當該廳長又ハ陸軍次官ニ於テ審査請求書ニ對スル意見ヲ具シ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第四十二條 陸軍大臣審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ審査會ノ議ニ附シ之ヲ裁定シ順序ヲ經テ審査請求者及前ニ裁定ヲ爲シタル陸軍次官又ハ廳長ニ之ヲ通達ス

第四十三條 審査會ハ議長一名及審査委員六名ヲ以テ之ヲ組織シ議長及審査委員ハ陸軍所屬ノ高等官中ヨリ之ヲ指定ス

第四十四條 議長ハ必要ニ應ジ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ關係廳評議員ノ若干名ノ意見ヲ徵シ審査上ノ參考ト爲スコトヲ得

第六章 評議會

第四編 社會 第五章 共濟組合 陸軍共濟組合規則

ノ者ナキトキハ現ニ刑ノ執行中ニ在ル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ假出獄ヲ許サレ若ハ刑ノ執行ヲ停止セラレタルトキ、生死不明ノ者ハ其ノ所在分明ト爲リタルトキ之ヲ給スルコトアルヘシ

第三十五條 第十六條乃至第二十八條ノ規定ニ依リ給付事由ノ生シタル者ト雖左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ニ直接關聯スル諸給付ハ之ヲ爲サス但シ脱退給付金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ又ハ故意ニ給付事由ヲ生セシメタルトキ

二 處刑又ハ懲戒懲罰ノ處分ニ因リ雇傭ヲ解カレ脱退シタルトキ

三 故意ニ危害豫防ニ關スル業務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ給付事由ヲ生セシメタルトキ

四 第三十九條ノ規定ニ違反シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ給付ヲ爲スヘカラサルモノト雖其ノ情狀ニ因リ特ニ全部又ハ一部ノ給付ヲ爲シ又ハ給付金ヲ減額シテ給スルコトヲ得但シ第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第三十六條 組合ヨリ給與ヲ受ケヘキ者其ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ之ヲ請求セサルトキハ之ヲ給セス但シ該期間内ニ請求シ得サリシ已ムヲ得サル事由ノ確證アル場合ニ在リテハ情狀ニ因リ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ給スルコトヲ得

第三十七條 本規則ニ規定スル諸給與及貸與金ノ貸與ハ各廳長之ヲ專行ス但シ障害給付金及死亡給付金甲號ノ給與ニ付テハ豫メ陸軍次官ノ裁定ヲ受ケヘシ

第三十八條 給付金計算上給料額ハ別表第一號備考日給額ノ例ニ倣フ

第三十九條 組合員又ハ組合員タリシ者ハ給付ヲ受ケヘキ事故發生ノ場合

第四十五條 廳長ノ諮問ニ對シ答申シ又ハ本組合ニ關スル組合員ノ意見ヲ開陳セシムル爲各廳ニ評議會ヲ置ク

第四十六條 評議會ハ廳長ノ指定シタル會長一名及組合員ノ互選ニ依リ評議員ヲ以テ組織ス

前項評議員ノ人員ハ五名以上トシ廳長之ヲ定ム

第四十七條 評議會ハ評議員ノ三分ノ一以上ノ發議アリタルトキ又ハ廳長ニ於テ必要アリト認メタルトキ廳長之ヲ召集ス

第四十八條 評議會ノ決議ハ出席評議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

評議會ノ議決事項ハ會長ヨリ順序ヲ經テ廳長ニ上申シ廳長ハ之ニ意見ヲ附シ陸軍次官ニ送付スルモノトス

第四十八條ノ二 評議員ニシテ評議會ニ出席シタル爲其ノ受クル給料額辭令面給額ヨリ減少シタル場合ニ在リテハ其ノ受クル給料額ト辭令面給額トノ差額ニ相當スル金額ヲ組合ヨリ給スルコトヲ得但シ廳長ニ於テ必要アリト認メ召集シタル評議會ニ出席シタル場合ニ限ル

第四十九條 前五條ノ外評議會ノ細部ニ關シテハ廳長之ヲ規定ス

第七章 會計

第五十條 組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十一條 組合ノ財産ハ本規則ニ依ル給付ニ充ツルノ外ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

前項ノ外組合ノ目的ノ範圍内ニ於テ他ニ之ヲ使用セムトスルトキハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五十二條 組合ノ財産ハ利殖ノ目的ヲ以テ郵便貯金ト爲シ若ハ確實ナル銀行ニ預入レ又ハ確實ナル信託會社ニ信託シ若ハ國債、地方債證券ヲ買

第四編 社會 第五章 共濟組合 陸軍共濟組合規則

一七四二

入ルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ルノ外財産ノ管理方法ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五十三條 組合ハ寄附ヲ受クルコトヲ得

用途ヲ指定シタル寄附ハ其ノ目的ニ限りテ之ヲ使用ス

第五十四條 財産ノ保管出納ハ所管經理部長（陸軍經理部長管轄外陸軍部隊ニ在リテハ陸軍省經理局監査課長）之ヲ檢査監督スルモノトス

附則

第五十五條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十六條 第四章ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ適用ス

第五十七條 大正十五年六月三十日迄ニ給與ヲ受ケヘキ事由發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ大正十五年七月一日以後ニ互リ引續キ給スヘキ給與ノ大正十五年七月一日以後ノ分ニ付テハ本令ニ依ル

大正十五年六月三十日迄ニ於テ傷病救濟金ヲ受ケタル者大正十五年七月一日以後其ノ障害ノ程度増進シタルトキ、業務上ノ傷病ニ基因シ死亡シタルトキ又ハ義眼、義肢等ノ修理ヲ要スルニ至リタルトキノ給與ニ付亦前項但書ニ同シ

別表第一號

毎月掛金表

日給額	掛金額	日給額	掛金額	日給額	掛金額	日給額	掛金額
四八七以下	四六一	二〇六以下	一九一	八四以下	七八	三六以下	三〇
四八七以上	四六一	一九四以下	一九一	七八以上	七八	三六以上	三〇
四六三以下	四三六	一九三以下	一七九	七二以下	七二	三三以下	二八
四六三以上	四三六	一八二以上	一七九	七二以上	七二	三三以上	二八
四三九以下	四一一	一八一以下	一六七	六六以下	六五	三三以下	二八
四三九以上	四一一	一八一以上	一六七	六六以上	六五	三三以上	二八
四一五以下	三八六	一八一以下	一五九	六〇以下	六〇	三〇以下	二四
四一五以上	三八六	一八一以上	一五九	六〇以上	六〇	三〇以上	二四
三九一以下	三六一	一五九以下	一四一	五九以下	五七	二八以下	二三
三九一以上	三六一	一五九以上	一四一	五九以上	五七	二八以上	二三
三六七以下	三三六	一四四以下	一二九	五八以下	五四	二六以下	二〇
三六七以上	三三六	一四四以上	一二九	五八以上	五四	二六以上	二〇
三五三以下	三二一	一三三以下	一一九	五五以下	五〇	二四以下	一八
三五三以上	三二一	一三三以上	一一九	五五以上	五〇	二四以上	一八
三二九以下	二八六	一一二以下	一一四	五三以下	四七	二二以下	一六
三二九以上	二八六	一一二以上	一一四	五三以上	四七	二二以上	一六
三〇五以下	二六一	一〇〇以下	一〇八	五一以下	四五	二〇以下	一四
三〇五以上	二六一	一〇〇以上	一〇八	五一以上	四五	二〇以上	一四
二八一以下	二四一	〇九以下	一〇〇	四九以下	四三	一八以下	一二
二八一以上	二四一	〇九以上	一〇〇	四九以上	四三	一八以上	一二
二五七以下	二二九	〇七以下	九五	四六以下	四〇	一六以下	一〇
二五七以上	二二九	〇七以上	九五	四六以上	四〇	一六以上	一〇
二三三以下	二〇六	〇六以下	八九	四四以下	三八	一四以下	〇八
二三三以上	二〇六	〇六以上	八九	四四以上	三八	一四以上	〇八
二〇九以下	一八六	〇四以下	八四	四二以下	三六	一二以下	〇六
二〇九以上	一八六	〇四以上	八四	四二以上	三六	一二以上	〇六
一八五以下	一六一	〇三以下	七八	四〇以下	三〇	一〇以下	〇四
一八五以上	一六一	〇三以上	七八	四〇以上	三〇	一〇以上	〇四
一六一以下	一四一	〇二以下	七二	三八以下	二四	〇八以下	〇二
一六一以上	一四一	〇二以上	七二	三八以上	二四	〇八以上	〇二
一三七以下	一一一	〇一以下	六六	三六以下	一八	〇六以下	〇〇
一三七以上	一一一	〇一以上	六六	三六以上	一八	〇六以上	〇〇

第五十八條 本令施行ノ日ニ於テ現ニ現業員タル雇員以下ノ者ニシテ從前ノ規定ニ依リ陸軍共濟組合員タラサルモノハ本令施行ノ翌月ヨリ本令ニ依リ組合員タルモノトス

附則 (昭和二年陸軍省令第三號)

本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

從前ノ規定ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ傷病救濟金、療治料、療養救濟金、死亡救濟金、特種救濟金、脫退救濟金、勤續救濟金及罹災救濟金ハ各本令ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ障害給付金、醫療ノ給付、療養給付金、死亡給付金、特種給付金、脫退給付金、勤續給付金及罹災給付金トシテ之ヲ給與ス

附則 (昭和四年陸軍省令第一號)

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十九條、第二十條及別表第三號中改正規定(別表第三號備考ノ改正規定ハ之ヲ除ク)ハ昭和四年六月一日以後ノ給付ニ付之ヲ適用ス

昭和三十四年五月三十一日迄ニ給付事由發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

從前ノ規定ニ依リ現ニ受クル醫療ノ給付及療養給付金支給ノ期間ニ付テハ本令ニ依ル

備	考
一 工場法ノ適用アル工場ヲ有セサル部隊所屬ノ組合員(健康保險法第十五條ノ被保險者ニ相當スル者ヲ除ク)ノ掛金額ハ當分ノ内特ニ本表ニ示ス金額ノ二割二分増トス但シ雇位ハ四捨五入シ錢位ニ止ム	
二 日給額ハ辭令面給額ヲ基礎トシ臨時ノ事故ニ因リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生スルモ之カ爲掛金額ヲ増減セス但シ朝鮮、臺灣、樺太及支那(關東州ヲ含ム)ニ在勤シ在勤加俸又ハ加俸ノ支給ヲ受ケサル者ニシテ豫メ在勤加俸又ハ加俸ノ額ヲ加味シテ定メタル給料ノ支給ヲ受ケタル者ハ其ノ給料額ヨリ在勤加俸又ハ加俸ニ相當スル額ヲ減シタル額ヲ以テ辭令面給額ト看做スモノトス	
三 月給ノ者ハ其ノ三十分ノ一ヲ以テ日給額トス但シ雇位ハ四捨五入シ錢位ニ止ム	
四 日給額五圓十三錢以上ノトキハ本表ノ掛金額三圓一四圓ノ間ノ等差ニ倣ヒテ其ノ掛金額ヲ定ム	

第四編 社會 第五章 共濟組合 陸軍共濟組合規則

一七四三

別表第二號

障害程度	金額
恩給法施行令第二十四條特別項症程度ノ者	給料千五百日分又ハ終身年金給料九月分
同 第一項症程度ノ者	同 千三百日分又ハ終身年金給料八月分
同 第二項症程度ノ者	同 千百日分又ハ終身年金給料七月分
同 第三項症程度ノ者	同 九百日分
同 第四項症程度ノ者	同 七百日分
同 第五項症程度ノ者	同 五百日分
同 第六項症程度ノ者	同 三百日分
同 第二十四條ノ二第一款症程度ノ者	同 二百五十日分
同 第二款症程度ノ者	同 二百日分
同 第三款症程度ノ者	同 百七十五日分
同 第四款症程度ノ者	同 百五十日分
同 第三十一條第一目症程度ノ者	同 百二十五日分
同 第二目症程度ノ者	同 百日分
同 第三目症程度ノ者	同 八十五日分

別表第三號

同	同	同
第四目症程度ノ者	同	七十五日分
第五目症程度ノ者	同	六十五日分
第六目症程度ノ者	同	五十五日分

備考 給料ハ症項査定當時ノ給額ニ依ル但シ第十六條第四項ノ規定ニ依リ新ニ査定スル者ニ在リテハ先ニ査定ヲ受ケタル當時ノ給額ニ、脱退後初メテ査定スル者ニ在リテハ脱退ノ日前九十日間ニ於ケル給料ノ平均額ニ依ルモノトス

死亡給付金表

種別	金額
甲 號	給料 千百日分
乙 號	給料 百日分
丙 號	給料 三十五日分(三十圓ニ滿タサルトキハ三十圓)

備考 給料ハ死亡ノ日(脱退者ニ在リテハ脱退ノ日)前九十日間ニ於ケル給料ノ平均額ニ依ル

別表第四號

特症給付金表

○海軍作業廳所屬雇員以下現業員ノ共濟組合ニ關スル件

改正 昭和三年第一〇九號 大正十一年三月二十九日 (總理、海軍) 勅令第六十號 (大臣副署)

朕明治四十五年勅令第十八號海軍造船造兵事業現業員ノ共濟組合ニ關スル件改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 海軍作業廳所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 海軍作業廳以外ノ海軍各廳所屬ノ雇員以下ノ現業員ハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得

第三條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第四條 海軍大臣ハ海軍各廳職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○海軍共濟組合規則

昭和元年十二月三十日 海軍省令第一號

改正 昭和二年第五號、第八號、三年第一四號、四年第三號、第七號、七年第三號、第四號、第六號、八年第八號、第一〇號、第一一號、一〇年第一三號、一一年第六號、一二年第三號

第一章 總則

第一條 本組合ハ明治四十五年勅令第十八號ニ基キ之ヲ組織ス

給料	九十日分
備考 給料ハ雇傭ヲ解カレタル日前九十日間ニ於ケル給料ノ平均額ニ依ル	

別表第五號

勤續期間	金額
十年以上十一年未滿	給料五十日分
十一年以上十二年未滿	同 六十日分
十二年以上十三年未滿	同 七十日分

備考 一 十三年以上ハ右例ニ倣ヒ一年毎二十日分ヲ加フ
二 給料ハ脱退ノ日前九十日間ニ於ケル給料ノ平均額ニ依ル

別表第六號

家族弔慰金表	金額
死亡者	金
配偶者又ハ直系尊屬	二十圓
八歳以上ノ直系卑屬	十五圓
八歳未滿ノ直系卑屬	十圓

第四編 社會 第五章 共濟組合 海軍共濟組合規則

第二條 本組合ハ海軍共濟組合ト稱シ海軍大臣之ヲ統轄ス

第三條 海軍共濟組合ニ共濟部及健康保險部ヲ置ク

第四條 海軍共濟組合ニ關スル事務ハ海軍艦政本部長之ヲ掌理シ組合員所屬各廳長之ヲ分掌ス

第五條 本則ニ於ケル期間ノ計算ニ付テハ民法第一編第五章期間ノ規定ニ依ル但シ加入期間ノ計算ニ付テハ加入當日ヨリ起算ス

第六條 組合員及組合員タリシ者ハ本則ノ定ムル所ニ依リ給付ヲ受クルノ外海軍共濟組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 組合員ハ本則中健康保險ニ關スル規定ヲ適用セズ

第二章 組合員及掛金

第七條 明治四十五年勅令第十八號ニ依リ組合員タルヘキ現業員ハ左ノ各廳ニ於ケル職工、傭人及雇員トス

- 一 海軍工廠
- 二 海軍火藥廠
- 三 海軍燃料廠
- 四 海軍艦政本部
- 五 海軍航空本部
- 六 海軍技術研究所
- 七 海軍航空廠
- 八 海軍軍需部

男子組合員掛金中千分ノ二十七(昭和十年十一月一日以後ニ加入シタル組合員ハ千分ノ三十九)ニ該ル金額ハ大正九年勅令第八十號ニ依ル年金給付ノ爲増徴スル掛金トシテ計算ス

第十條 鎮海要港部、馬公要港部、旅順要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)及海軍省建築局所屬以外ノ組合員ハ健康保險部掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ支拂フヘシ

大正十五年勅令第二百四十三號健康保險法施行令第三條ニ定ムル標準報酬日額ノ千分ノ十五以内ニ於テ海軍大臣ノ定ムル額ヲ日額トシテ給料支給期間ニ應シ計算セル金額

第十一條 組合員左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ期間前條ノ掛金ヲ徴收セズ

- 一 傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ受クルトキ
- 二 海陸軍ニ召集セラレ又ハ現役兵トシテ入營シタルトキ
- 三 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ
- 四 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ
- 五 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第十二條 掛金ハ毎月給料ノ支給ヲ受クル際ニシテ掛金ノ額ニ滿チサル月給料支給ヲ受ケサル月又ハ其ノ受クル給料ニシテ掛金ノ額ニ滿チサル月ノ掛金ハ次回支給ノ際ニシテ支拂フヘシ

第四編 社會 第五章 共濟組合 海軍共濟組合規則

九 海軍港務部

十 要港部港務部、同軍需部、同工作部、同建築部

十一 海軍省建築局

十二 海軍建築部

第十三條 臨時使役者、試ミノ雇傭者、給料ノ支給ヲ受ケサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第十四條 前條ノ現業員ト爲ル者ハ其ノ採用ノ日ヨリ當然組合員ト爲ルモノトス

第十五條 組合員ハ共濟部掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ支拂フヘシ但シ月ノ一日以後ニ加入シタル場合ハ加入當月分ノ掛金ハ之ヲ徴收セズ

第十六條 鎮海要港部、馬公要港部、旅順要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)及海軍省建築局所屬以外ノ組合員

第十七條 男子組合員 月給者ハ月給、日給者ハ日給三十日分ノ千分ノ四十七(昭和十年十一月一日以後ニ加入シタル組合員ハ千分ノ五十九)

第十八條 女子組合員 月給者ハ月給、日給者ハ日給三十日分ノ千分ノ二十(昭和十年十一月一日以後ニ加入シタル組合員ハ千分ノ六十六)

第十九條 給料ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ共濟部掛金ノ額ヲ改定ス

第二十條 組合員ハ左ノ場合ニ限り海軍共濟組合ヨリ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 第七條ニ定ムル現業員タルノ資格ヲ失ヒタルトキ

第三章 共濟給付

第一節 總則

- 第十七條 共濟給付ハ左ノ四種トス
- 一 公傷病給付
- 二 私傷病給付
- 三 脱退給付
- 四 遺族給付

第十八條 給付ノ事由併發シタルトキハ當該各種ノ共濟給付ヲ併給ス

第十九條 共濟給付額ヲ給料ニ依リ算出スル場合ニハ給付ノ事由發生シタル當時ノ掛金ノ基準タル給料ニ依リ算定ス但シ脱退直前ニ臨時昇給シタル者ノ共濟給付額ハ其ノ昇給前ノ額ニ依ル

第二十條 給付額算定ノ基準タル給料ハ日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ三十日分ヲ以テ一箇月ノ額トシ月額ノ十二倍ヲ以テ一年ノ額トス

第二十一條 給付額ニ錢位未滿ヲ生ジタルトキハ各給付毎ニ之ヲ切捨ツ但シ年金額給付ニ在リテハ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第二十一條 年金ノ給付ハ脱退ノ翌月(月ノ初日ニ於テ脱退シタルトキハ其ノ月)ヨリ始メ給付ノ事由消滅ノ月ヲ以テ終了ス

第二十二條 年金ハ月割ヲ以テ計算シ一月、四月、七月及十月ニ於テ各其ノ前月迄分ヲ支給ス但シ年金給付ノ事由消滅シタル場合ハ期月ニ拘ラズ其ノ際之ヲ支給ス

第二十三條 年金ヲ受クル者ニハ本人ノ請求ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ利率年六分(複利トス)ノ割引ヲ以テ一時ニ支給スルコトアルヘシ

一 脱退年金ニ在リテハ脱退後七年以内ニ限り年金七分以内
二 公傷病年金ニ在リテハ脱退後五年以内ニ限り年金五分以内
一時ニ支給シタル年金ニ相當スル年限ヲ經過シタル後ハ前條ノ規定ニ依リ年金ヲ支給ス但シ第二十五條第三項ニ該當シタル場合ニハ尙其ノ不給期間ニ對應スル額ニ達スル迄其ノ支給ヲ停止ス

第二十四條 年金ヲ讓渡シ又ハ質入其ノ他ノ擔保ニ供シタルトキハ其ノ支給ヲ停止シ又ハ之ヲ給セサルコトアルヘシ

第二十五條 年金ヲ受クル者死刑又ハ無期若ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ爾後年金ヲ受クルノ權利消滅ス

前項ノ規定ニ依リ年金ヲ受クルノ權利ヲ失ヒタル者ノ既ニ受ケタル年金ノ額力第四十一條第一項ニ依リ計算シタル金額ニ滿チサルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ支給ス

年金ヲ受クル者六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ執行中年金ヲ支給セズ

第二十六條 年金ヲ受クル者再ヒ組員ト爲リタルトキハ其ノ間年金ヲ支給セズ

再ヒ組合ニ加入シタル者再加入後一年以上ニシテ脱退シタル場合ニ於テ

之ニ脱退給付ヲ支給スル場合ニハ其ノ加入期間ハ組員ノ申請アリタルトキニ限り再加入後ノ期間ヲ從前ノ加入期間ニ加算シテ定ムルモノトス

再ヒ組合ニ加入シタル者死亡シタル場合ニ於ケル遺族一時金ハ再加入後ノ加入期間ニ對應スル所定額ノ外脱退年金ノ七分分ニ相當スル金額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シタル金額トス

第二十七條 組員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ共濟給付ヲ爲サズ但シ情狀酌量スヘキ者ニ對シテハ海軍大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ支給スルコトヲ得

一 自己ノ故意ノ犯罪行爲ニ因リ若ハ故意ニ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキ
二 疾病又ハ負傷ノ場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ組合ノ指定シタル者ノ臨檢又ハ診察ヲ拒ミタルトキ

第二十八條 故意ニ組合員、年金受給者又ハ共濟給付受給ノ先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シタル者ニ對シテハ共濟給付ヲ爲サズ

第二十九條 左ノ各號ノ場合ニ於ケル加入期間計算ニ付テハ其ノ前後ノ加入期間ヲ通算ス但シ脱退ニ因リ受領シタル共濟給付ニ相當スル金額ヲ其ノ再加入後六箇月以内ニ完納シタル場合ニ限ル

一 海陸軍ニ召集セラレ又ハ現役兵トシテ入營シ脱退シタル者召集解除又ハ退隊ノ日ヨリ九十日以内ニ組合員ト爲リタルトキ但シ志願ニ依リ服役期間ヲ延長セラレタル者ヲ除ク

二 部内生徒ヲ命セラレタル爲脱退シタル者學科ヲ終了シ又ハ生徒ヲ免セラレ復歸シタルトキ

第三十條 前條各號ニ掲ケタル事由ニ因リ一時脱退スル者其ノ脱退ノ際豫メ復歸ノ意思ヲ表示シタル場合ニ限り脱退一時金ヲ支給セズ

前項ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケサル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ際給付ヲ爲ス

一 死亡シタルトキ
二 官ニ於テ復歸ヲ許可セサルトキ
三 復歸セサル意思ヲ表示シタルトキ
四 復歸セサルコト滿五年ニ及ヒタルトキ

第二節 公傷病給付

第三十一條 公傷病給付ハ左ノ二種トス
一 公傷病年金
二 公傷病一時金

第三十二條 組員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルトキハ別表第二號ニ依リ公傷病年金又ハ公傷病一時金ヲ給ス

第三十三條 削除

第三十四條 組員ニシテ職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シタルモ第三十二條ノ給付ヲ受クルニ至ラサルモノ事故發生後五年以内ニ當該疾病負傷ニ基

因シ同條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ同條ノ給付ヲ爲ス

第三十二條ノ規定ニ依リ給付ヲ受ケタル者當該疾病負傷ニ基因シ事故發生後五年以内ニ更ニ上級ノ給付ヲ受クヘキ事由アルニ至リタルトキハ一時金ニ付テハ其ノ差額ヲ増給シ年金ニ付テハ組合ニ於テ其ノ事由ヲ認定シタル月ノ翌月(月ノ初日ニ於テ事由ヲ認メタルトキハ其ノ月)ヨリ増給ス

前項ノ場合ニ於テ一時金ヲ年金ニ改定スルノ必要アルトキハ當該年金ハ脱退ノ翌月(月ノ初日)ニ於テ事由ヲ認メタルトキハ其ノ月)ヨリ之ヲ積算シ該一時金ノ額ニ達スル迄其ノ支給ヲ停止ス

第三十五條 私傷病給付ハ左ノ二種トス
一 特症一時金
二 療養金

第三十六條 組員加入後六箇月以上ニシテ肺結核、喉頭結核又ハ癩ニ因リ療養ヲ解カレタルトキハ左ノ區別ニ依リ特症一時金ヲ給ス

一 加入期間四年未滿ナルトキハ給料百日分但シ加入期間一年未滿ナルトキハ二十日分ヲ減ズ

二 加入期間四年以上五年未滿ナルトキハ給料百十日分

三 加入期間四年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料十日分ヲ前號ノ額ニ加算ス

第三十七條 組員職務ニ因ルニ非スシテ疾病ニ罹リ又ハ負傷シ實際就業スルコト能ハス療養ノ爲八日以上ノ休業ヲ承認セラレ給料ヲ受ケサルトキハ一日ニ付給料日額二分ノ一ニ相當スル療養金ヲ給ス

前項ノ療養金ハ休業八日目ヨリ之ヲ給シ一事業年度ヲ通シ六十三日ヲ超ユルコトヲ得ス

月給ヲ受クル者ノ休業日數ハ月給給與停止ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第三十八條 前條ノ規定ハ鎮海要港部、馬公要港部、旅順要港部、海軍燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖工場ヲ除ク)又ハ海軍省建築局所屬以外ノ組員ニ之ヲ適用セス

第四節 脱退給付

第三十九條 脱退給付ハ左ノ二種トス
一 脱退年金
二 脱退一時金

第四十條 脫退年金ハ組合員組合加入後二十年以上ニシテ年齢四十歳ヲ超
ニ脱退シタルトキ終身之ヲ給ス但シ不具又ハ重症ノ爲職務ニ堪ヘサルニ
因リ脱退シタル場合ニ於テハ其ノ年齢ニ拘ラス之ヲ給ス

脱退年金ノ基準額ハ給料九十日分トシ加入期間二十年ヲ超ユルトキハ一
年ヲ増ス毎ニ給料三日分ヲ加算シタル金額トス

第四十一條 組合員前條ノ年金ヲ受クルニ至ラスシテ脱退(死亡脱退ヲ含
ム)シタルトキハ其ノ共濟部掛金總額ニ對シ別表第一號ニ依リ加入期間
ノ區別ニ從ヒ給付乘率ヲ乘シタル脱退一時金ヲ給ス

加入期間十年未滿ニシテ自己ノ便宜ニ依リ若ハ職務上以外ノ事由ニ依ル
疾病(肺結核、喉頭結核又ハ癩ヲ除ク)負傷ニ因リ脱退シタル者又ハ職務
ニ因ルニ非スシテ死亡シタル者ニ在リテハ左ノ區別ニ依ル額トス

- 一 加入期間三年未滿ノ者 共濟部掛金總額ノ十分ノ八
- 二 加入期間三年以上十年未滿ノ者 共濟部掛金總額

昭和元年十二月三十一日迄ノ掛金ハ總テ共濟部掛金ト看做ス

第五節 遺族給付

第四十二條 遺族給付ハ左ノ四種トス

- 一 遺族扶助金
- 二 公傷病遺族一時金
- 三 私傷病遺族一時金
- 四 公傷病埋葬金

第四十三條 遺族扶助金ハ公傷病年金ノ給付ヲ受クル者脱退後五年以内ニ
死亡シタルトキ又ハ脱退年金ノ給付ヲ受クル者脱退後七年以内ニ死亡シ
タルトキ左ノ區別ニ依リ遺族ニ之ヲ給ス

- 一 公傷病年金

第四十八條 前二條ノ規定ハ鎮海要港部、馬公要港部、旅順要港部、海軍
燃料廠平壤鐵業部、海軍艦政本部(製圖工場ヲ除ク)、海軍航空本部(製圖
工場ヲ除ク)又ハ海軍省建築局所屬以外ノ組合員ニ之ヲ適用セス

第四章 健康保險給付

第四十九條 健康保險給付ハ左ノ五種トス

- 一 療養ノ給付
- 二 傷病手當金給付
- 三 埋葬料給付
- 四 分娩費給付
- 五 出産手當金給付

第五十條 組合員ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ療養上必要アルトキハ左ノ區分ニ依リ組合員ヲ病院ニ
收容スルモノトス

- 一 職務上ノ事由ニ因ル疾病又ハ負傷ニ在リテハ海軍病院、要港部病院
其ノ他入院設備ヲ有スル海軍診療施設但シ海軍病院、要港部病院其
ノ他入院設備ヲ有スル海軍診療施設ニ收容力ナキ場合又ハ其ノ設置
ナキ地ニ於テハ海軍共濟組合病院、海軍共濟組合病院ニ收容力ナキ
場合又ハ其ノ設置ナキ地ニ於テハ他ノ病院
- 二 職務上ノ事由ニ因ラザル疾病又ハ負傷ニ在リテハ海軍共濟組合病院
但シ海軍共濟組合病院ニ收容力ナキ場合又ハ其ノ設置ナキ地ニ於テ
ハ他ノ病院

第五十一條 前條第一項ノ療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

- 一 診察(往診、處方箋)交付ヲ含ム但シ健康診斷ヲ含マズ
- 二 藥劑又ハ治療材料ノ支給(治療材料中矯正眼鏡以外ノ眼鏡、松葉杖ノ

年金五年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シタル
殘額

二 脱退年金

年金七年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支給シタル年金額ヲ控除シタル
殘額

前項ノ規定ハ公傷病年金又ハ脱退年金ノ給付ヲ受クヘキ者脱退後年金ノ
給付ヲ受クルニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキハ給料三
年三箇月分ニ相當スル額(其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十六圓ニ、女
子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿テザルトキハ夫々三百三十六圓又ハ二百四十
トス)ヲ公傷病遺族一時金トシテ遺族ニ給ス

第四十五條 組合員前條以外ノ事由ニ依リ死亡シタルトキハ左ノ區別ニ依
リ私傷病遺族一時金ヲ遺族ニ給ス

- 一 加入期間一年未滿ナルトキハ給料九十日分
- 二 加入期間一年以上二年未滿ナルトキハ給料百五十日分
- 三 加入期間一年以上二年未滿ナルトキハ給料百五十日分

第四十六條 組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキハ給料三
十日分ヲ公傷病埋葬金トシテ遺族ニ給ス但シ其ノ金額三十圓ニ滿テザル
トキハ三十圓トス

第四十七條 前四條ノ規定ニ依ル遺族給付ヲ受クヘキモノナキトキハ埋葬
ヲ行ヒタル者ニ給料三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿テザルトキハ三十圓
トス)ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス
但シ其ノ額八百圓ヲ超ユルコトヲ得ス

類ヲ含ム

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 看護

五 組合員ノ移送

前項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他海軍共濟組合病院長ニ於テ必
要アリト認ムル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回二十圓ヲ以テ限度ト
ス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ海軍共濟組合病院長必要アリト認ムル場
合ニ於テ爲スモノニ限ル

前二項ノ規定ハ海軍病院、要港部病院其ノ他海軍診療施設ニ於テ爲ス療
養ノ給付ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五十二條 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ受
クルモノトス

- 一 職務上ノ事由ニ因ルモノニ付テハ海軍病院、要港部病院其ノ他海軍
診療施設又ハ海軍共濟組合ノ其ノ都度指定スル所ニ從ヒ海軍共濟組
合病院又ハ其ノ他ノ醫師若ハ齒科醫師但シ海軍病院ニ在リテハ入院
治療ヲ要スル場合ニ限ルヲ例トス
- 二 職務上ノ事由ニ因ラザルモノニ付テハ海軍共濟組合病院又ハ海軍
共濟組合ノ定ムル醫師若ハ齒科醫師中自己ノ選定シタル者但シ第五
十條第二項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラルル場合ハ此ノ限ニ在ラ
ズ

組合員前項ノ規定ニ依リ診療擔當者ヲ選定シタルトキハ海軍共濟組合ノ
承認ヲ得ルニ非ザレバ同一ノ疾病又ハ負傷ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スル
コトヲ得ズ

第五十三條 前條ニ規定スル醫師又ハ齒科醫師處方箋ヲ交付シタルルキハ組合員ハ海軍共濟組合ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ就キ藥劑ヲ受クルコトヲ得

第五十四條 左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

一 海軍共濟組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二 組合員カ海軍共濟組合病院長ノ承認ヲ受ケ醫師又ハ齒科醫師ノ指定ナキ地方ニ於テ指定セラレサル醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請アリタルトキ

三 組合員カ緊急ノ場合ニ於テ海軍共濟組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ應急手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ申請ニ對シ組合員所屬ノ廳長ノ承認アリタルトキ

四 前各號ノ外特ニ必要ナル場合

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ支給スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標準トシテ海軍共濟組合病院長之ヲ定ム

第五十六條 組合員療養ノ爲就業スルコト能ハサルトキハ其ノ期間傷病手當金トシテ一日ニ付標準報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ職務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合以外ノ場合ニ於テハ就業スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日ヨリ之ヲ支給ス

第五十七條 病院ニ收容シタル組合員ニ對シテ支給スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シ亦同シ
一 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合

十二日以内ニ於テ就業セサリシ期間一日ニ付標準報酬日額ノ百分ノ六十ニ相當スル金額ヲ支給ス
分娩ノ日カ其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ海軍共濟組合ハ前項ノ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得
出産手當金ノ支給ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ支給セ

第六十二條 分娩ニ關スル給付ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上組合員タリシ者ニ非サレハ之ヲ爲サス但シ九十日以上組合員タリシ者ニ對シテハ分娩費ヲ支給ス
第六十三條 組合員ノ資格ヲ喪失シタル際疾病、負傷又ハ分娩ニ關シ保險給付ヲ受クル者ニハ組合員トシテ保險給付ヲ得ヘカリシ期間繼續シテ其ノ給付ヲ爲ス

第六十四條 前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル者死亡シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケタル者其ノ給付ヲ受ケサルニ至リタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ組合員タリシ者組合員ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ第五十九條ニ準シ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス
第六十五條 組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日後百八十日以内ニ分娩シタルトキハ分娩ニ關シ組合員トシテ受クルコトヲ得ヘカリシ給付ヲ爲ス

第六十六條 前二條ノ規定ハ健康保險法第五十六條又ハ第五十七條ノ規定ニ依リ給付ヲ爲スヘキ保險者アル場合ニハ之ヲ適用セス
第六十七條 削除
第六十八條 保險給付ヲ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ

二 前號ニ掲ケタル者二人以内ナル場合
標準報酬日額ノ百分ノ四十

三 第一號ニ掲ケタル者三人以上ナル場合
標準報酬日額ノ百分ノ六十

主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者トハ組合員ノ家ニ在ル直系尊屬又ハ直系尊屬ニシテ其ノ扶養ヲ受クル者及妻ヲ謂フ
組合員ノ扶養ヲ受クル前項以外ノ者ニシテ組合員所屬ノ廳長ノ承認ヲ受ケタルモノハ之ヲ主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ト看做ス

第五十八條 療養ノ給付及傷病手當金ノ支給ハ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ保險給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス
第五十九條 組合員死亡シタルトキハ遺族ニシテ埋葬ヲ行フモノニ對シ埋葬料トシテ組合員ノ標準報酬日額ノ三十日分ニ相當スル金額ヲ支給ス但シ其ノ金額三十日分ニ滿チサルトキハ之ヲ三十日トス

組合員死亡シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ埋葬料ノ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ金額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給ス
組合員職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡シタルトキ第一項ノ金額第四十六條ニ定ムル金額ヨリ少キトキハ第四十六條ニ依リ算出シタル金額ヲ支給ス

第六十條 組合員分娩シタルトキハ分娩費トシテ二十圓ヲ支給ス
第六十一條 出産手當金ハ組合員カ分娩ノ日前二十八日、分娩ノ日以後四

其ノ期間保險給付ヲ爲サス
一 海陸軍ニ召集セラレ又ハ現役兵トシテ入營シタルトキ
二 健康保險法施行區域外ニ在ルトキ
三 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタルトキ
四 監獄、留置場又ハ勞務場ニ拘禁又ハ留置セラレタルトキ

第六十九條 他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サス
第七十條 組合員又ハ組合員タリシ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ各定メタル給付ヲ爲サス但シ第二號、第三號ニ該當スル場合情狀酌量スヘキ者ニ對シテハ海軍大臣ノ承認ヲ受ケ其ノ全部又ハ一部ヲ支給スルコトヲ得

一 自己ノ故意ノ犯罪行為ニ因リ又ハ故意ニ事故ヲ生セシメタルトキハ總テノ給付
二 組合員間爭、泥酔若ハ著シキ不行跡ニ因リ又ハ故意ニ危險豫防ニ關スル職務上ノ監督者ノ指揮ニ從ハサルニ因リ事故ヲ生セシメタルトキハ傷病手當金
三 正當ノ理由ナクシテ療養ニ關スル指揮ニ從ハサル者ニ對シ傷病手當金ノ一部

第七十一條 詐欺其ノ他不正ノ行為ニ依リ保險給付ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者ニ對シテハ組合員所屬ノ廳長ハ百八十日以内ノ期間ヲ定メテ其ノ者ニ支給スヘキ傷病手當金又ハ出産手當金ノ全部又ハ一部ヲ支給セサル旨ノ決定ヲ爲スコトヲ得但シ詐欺其ノ他不正ノ行為アリタル日ヨリ一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ決定ハ組合員所屬ノ廳長ニ於テ其ノ事實ヲ知りタルトキハ遲滞ナ

ク之ヲ爲シ本人ニ通知スヘシ
 組合員職務上ノ事由ニ因リ疾病ニ罹リ又ハ負傷シタル場合ニ於テハ第五
 十六條ニ定ムル傷病手當金ヲ受クヘキ期間ハ第一項ノ百八十日ノ期間ノ
 計算ニ付キ之ヲ算入セス
第七十二條 傷病手當金及出產手當金ハ毎月一回以上一定ノ日ニ於テ之ヲ
 支給ス
 療養費、埋葬料及分焼費ハ其ノ都度之ヲ支給ス第五十九條又ハ第六十四
 條ノ規定ニ依リ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル金額ヲ支給スル場合亦同
 シ

第五章 給付ノ受領

第七十三條 組合員又ハ組合員タリシ者死亡シタル場合ニ於テ給付(埋葬
 料ヲ除ク)ヲ受クヘキ者ノ順位左ノ如シ

- 第一 配偶者
 - 第二 直系卑屬
 - 第三 直系尊屬
 - 第四 家督相續人又ハ戸主
 - 第五 兄弟姉妹
 - 第六 主トシテ組合員ニ依リ生計ヲ維持シタル者(組合員所屬ノ廳長ノ
 認定スル所ニ依ル)
 - 第七 他家ニ在ル直系卑屬
 - 第八 他家ニ在ル直系尊屬
- 前項第二號、第五號及第七號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付
 テハ民法第九百七十條ノ規定ニ依リ第三號及第八號ニ該當スル者數人ア
 ルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ニ依ル

第一項第四號乃至第六號ニ該當スル者ノ順位ニ關シ組合員又ハ組合員タ
 リシ者ノ遺言若ハ海軍共濟組合ニ對スル豫告アリタルトキハ前二項ノ規
 定ニ拘ラス其ノ内一人ヲ特ニ指定スルコトヲ得

第一項第二號、第三號及第五號ニ該當スル者ハ組合員又ハ組合員タリシ
 者死亡ノ時其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

第七十四條

前條第一項第五號乃至第八號ノ者ニ對シテハ健康保險給付ヲ
 除クノ外所定額ノ二分ノ一ヲ給ス但シ職務上疾病ニ罹リ又ハ負傷シ死亡
 シタル場合ニ於テ前條第一項第五號又ハ第六號ノ者ニ對シテ給スル遺族
 一時金ハ所定額ノ全額トス

第七十五條

給付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由發生ノ時速ニ本人又ハ相
 當權利者ヨリ海軍共濟組合規則施行細則ニ依リ請求スヘシ
 前項ノ請求ハ其ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ之ヲ爲ササルトキハ給付
 ヲ受クルノ權利ヲ拋棄シタルモノト看做ス

第六章 會計

第七十六條 海軍共濟組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第七十七條 健康保險部ノ會計ハ別會計トシ第十條ニ依ル掛金及之ニ對ス
 ル政府給與金ヲ以テ保險給付及之ニ必要ナル費途ニ充ツ

第七十八條 海軍共濟組合ノ財產ハ利殖ノ目的ヲ以テ銀行預金、信託預
 金若ハ郵便貯金トシ又ハ之ヲ以テ國債、地方債證券ヲ買入ルルコトヲ
 得

前項ノ規定ニ依ルノ外組合財產ノ管理方法ハ海軍大臣ノ認可ヲ經ルヲ要
 ス

第七十九條 海軍共濟組合ハ寄附ヲ受クルコトヲ得

用途ヲ指定シタル寄附ハ其ノ目的ニ限り之ヲ使用ス

(台四)

第八十條 海軍共濟組合ハ每事業年度ノ終ニ於テ年金、脫退一時金及遺族
 扶助金ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第七章 保健施設

第八十條ノ二 海軍共濟組合健康保險部ニ於テハ組合員ノ健康ヲ保持スル
 爲保健施設ヲ爲スコトヲ得

第八章 附屬施設

第八十一條 海軍共濟組合ハ海軍大臣ノ承認ヲ經テ組合員及其ノ家族ノ保
 護、福祉ノ増進ノ爲必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 前條施設ノ創設維持經營ニ要スル費用ハ指定寄附財產及之ヨ
 リ生スル利益並當該事業上生スル收入ニ依ルモノトス但シ海軍大臣ノ承
 認ヲ經テ海軍共濟組合ノ財產又ハ他ノ附屬施設ヨリ生スル利益ヲ使用ス
 ルコトヲ得

第八十三條 附屬施設カ前條ノ規定ニ依リ維持經營スルコト能ハサルニ至
 リタルトキハ海軍大臣ノ承認ヲ經テ一時之ヲ閉鎖シ又ハ賣却其ノ他必要
 ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第九章 審査會

第八十四條 加入、脫退、給付金額決定其ノ他支給ニ關スル處分ニ付異議
 アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ所屬廳長ヲ經由
 シ海軍大臣ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第八十五條 審査會ハ議長一人委員十人ヲ以テ之ヲ組織ス

第八十六條 議長及委員ハ海軍大臣ノ指定ス

第八十七條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス

議長事故アルトキハ委員中議長指定ノ者之ヲ代理ス

第八十八條 審査會ハ委員半数以上出席シ出席員ノ過半数ヲ以テ決議ヲ爲

ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第八十九條 議長又ハ委員ハ特別ノ利害關係ヲ有スル事件ノ審査ニ與ルコ
 トヲ得ス

第九十條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ海軍大臣ニ報告シ當該事項所管ノ廳長
 及審査請求者ニ通知スヘシ

第九十一條 審査會ノ決議ハ海軍共濟組合及審査請求者ヲ羈束ス

第九十二條 審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ海軍大臣ニ於テ審査會ノ審査ニ
 付スルノ必要ナシト認メタルトキハ其ノ請求ヲ却下ス

第十章 諮問委員會

第九十二條ノ二 海軍共濟組合ハ別ニ定ムル所ニ依リ其ノ事業ニ關シ組合
 員ニ諮問シ又ハ組合員ニ意見ヲ開陳セシムル爲海軍共濟組合諮問委員會
 ヲ設置スルコトヲ得

附則

第九十三條 出征地ニ於ケル艦船其ノ他ニ配屬セラレタル組合員ノ掛金及
 給付ノ額ハ別ニ之ヲ定ムルコトアルヘシ

第九十四條 大正十年三月三十一日以前ニ加入シタル組合員ニ對スル本則
 ニ依ル脫退年金ハ第四十條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ給料一日半
 分ヲ大正十年三月三十一日以前ノ加入年數(端數ハ切上一年トス)ニ乘シ
 タル額ヲ控除シタル金額トス

第九十五條 明治四十五年四月一日ヨリ大正十五年三月三十一日迄ニ加入
 シタル組合員ニシテ脫退一時金ヲ受クル場合其ノ脫退一時金別表第三號
 ニ依ル額ヨリ少キトキハ其ノ多額ニ付給ス

第九十六條 大正十五年三月三十一日以前ニ於テ二十九條ノ規定ニ該當
 スル者ニハ同條但書ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第四編 社會 第五章 共濟組合 海軍共濟組合規則

前項ノ場合ニ於ケル脱退給付ハ左ノ各號ニ依ル但シ給付金ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

一 脱退年金ニ付テハ一時脱退ノ爲既ニ受領シタル給付ニ相當スル金額ヲ將來脱退ノ際支給スヘキ給付金ヨリ之ヲ控除ス

二 脱退一時金ニ付テハ其ノ再加入後ノ期間ニ相當スル給付額トス但シ前後ノ加入期間ヲ通算シタル期間ニ付別表第三號ニ依リ算出シタル額ヨリ一時脱退ノ爲既ニ受領シタル給付ニ相當スル金額ヲ控除シタル額ガ本號給付額ヨリ多キトキハ其ノ多額ニ付給ス

第九十七條 本則施行ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附則 本令ハ昭和二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和八年海軍省令第八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十九條第一號ハ昭和六年九月七日ニ遡リ之ヲ適用ス

附則 (昭和十二年海軍省令第三號)

本令ハ昭和十二年一月一日以後支給事由ヲ生ジタル給付ニ付之ヲ適用ス

昭和十一年十二月三十一日以前支給事由ヲ生ジタル給付ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

別表第一號

給付乘率表

加入期間	給付乘率	
	甲	乙
一年未滿	1.00	1.00
二年未滿	1.00	1.00

備考

一 ○四ヲ加フ

二 昭和十年十一月一日以後ニ加入ノ組合員ニ對スル給付ハ加入期間ノ掛金總額ニ當該給付乘率乙ヲ乘シタル額トス

三 昭和十年十月三十一日以前ニ加入ノ組合員ニ對スル給付ハ同日以前ノ掛金總額ニ前後通算シタル加入期間ニ當スル給付乘率甲ヲ乘シタル額及昭和十年十一月一日以後ノ掛金總額ニ前後通算シタル加入期間ニ當スル給付乘率乙ヲ乘シタル額ノ合算トス

別表第二號 公傷病給付支給區分表

公傷病區分	等	
	一	二
終身自辨用 コト能ハ ザル者	一	二
	級一	級二
終身勞務 ニ服スル	一	二
	級一	級二

男子組合員	女子組合員
公傷病年金、給料九	公傷病一時金、給料三年
公傷病年金、給料八	公傷病一時金、給料三年
公傷病年金、給料七	公傷病一時金、給料三年
公傷病年金、給料六	公傷病一時金、給料二年
公傷病年金、給料五	公傷病一時金、給料二年

第四編 社會 第五章 共濟組合 海軍共濟組合規則

加入期間	三年未滿	四年未滿	五年未滿	六年未滿	七年未滿	八年未滿	九年未滿	十年未滿	十一年未滿	十二年未滿	十三年未滿	十四年未滿	十五年未滿	十六年未滿	十七年未滿	十八年未滿	十九年未滿
一	1.00	1.09	1.18	1.27	1.36	1.45	1.54	1.63	1.72	1.81	1.90	1.99	2.08	2.17	2.26	2.35	2.44
二	1.00	1.07	1.14	1.21	1.28	1.35	1.42	1.49	1.56	1.63	1.70	1.77	1.84	1.91	1.98	2.05	2.12
三	1.00	1.05	1.10	1.15	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80

公傷病區分	等	
	一	二
終身自辨用 コト能ハ ザル者	一	二
	級一	級二
終身勞務 ニ服スル	一	二
	級一	級二

男子組合員	女子組合員
公傷病一時金、給料二年	公傷病一時金、給料二年
公傷病一時金、給料二年	公傷病一時金、給料二年
公傷病一時金、給料二年	公傷病一時金、給料二年
公傷病一時金、給料二年	公傷病一時金、給料二年
公傷病一時金、給料二年	公傷病一時金、給料二年

等	四					
	級一	級二	級三	級四	級五	級六
身體ニ障 害ヲ胎ス ト難引續 キ從來ノ 勞務ニ服 ヲ得ル者	公傷病一時金、給料八月 百二十圓ニシテ其ノ金額七十五圓 トキハ百二十圓トス	公傷病一時金、給料七月 百八圓ニシテ其ノ金額六十七圓 トキハ百八圓トス	公傷病一時金、給料五月 九十六圓ニシテ其ノ金額六十四圓 トキハ九十六圓トス	公傷病一時金、給料四月 八十四圓ニシテ其ノ金額五十二圓 トキハ八十四圓トス	公傷病一時金、給料三月 七十二圓ニシテ其ノ金額四十五圓 トキハ七十二圓トス	公傷病一時金、給料二月 六十四圓ニシテ其ノ金額三十七圓 トキハ六十四圓トス

別表第三號

海軍共濟組合規則第九十五條ニ依リ給付スル場合ニ於ケル脱退一時金表

加入期間	額(男子)		額(女子ニ限ル)	
	甲	乙	甲	乙
十年以上	給料百七十日分	給料百六十日分	給料百二十日分	給料百十日分
十年未満	給料百七十日分	給料百六十日分	給料百二十日分	給料百十日分

備考 本表中ノ級別區分ハ本則ノ施行細則ニ之ヲ定ム

第二章 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三章 【農商務大臣】ハ【農商務部内】ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四章 第一條ノ事業ニ從事スル職員ハ同條ノ現業員ニ非サルモ【農商務大臣】ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セス

附則
本令ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○林野現業員共濟組合規則

大正八年六月二十八日 農商務省令第二十五號

改正 大正九年第七號、一〇年第一號、一二年第一〇號、昭和元年農林省令第一號、三年第一一號、六年第二三號、一〇年第一三號

第一章 總則

第一條 本組合ハ林野現業員共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務ハ農林大臣之ヲ統理シ營林局長之ヲ執行ス

第三條 本組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四條 計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタル場合ノ取扱ニ付テハ國庫出納金端數計算法ヲ準用ス

第五條 組合員ヨリ營林局長ニ提出スル文書ハ關係營林署長又ハ國有林產物販賣所長ヲ、審査會ニ提出スル文書ハ關係營林署長又ハ國有林產物販賣所長及營林局長ヲ經由スヘシ

第六條 本組合ノ事務取扱ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四編 社會 第五章 共濟組合 林野現業員共濟組合規則

考	備	
	三十年以上	二十年以上
一 加入期間十年以上十一年未満	給料百八十日分	給料百六十日分
二 加入期間十年以上ハ加入一年ヲ増ス毎ニ給料二十五日分ヲ前號ノ額ニ加算ス	給料百八十日分	給料百六十日分

○林野現業員共濟組合令

大正八年六月二十五日 (總理、農商務大臣副署)

改正 大正九年第五七八號、勅令第三百六號、昭和三年第一〇九號、一二年第四號

第一條 【農商務省】所管國有林野ノ事業及公有林野官行造林事業ニ從事スル職員以下ノ現業員ハ【農商務大臣】ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二章 組合員

第七條 營林局署及國有林產物販賣所ノ職員、巡視、自動車運轉手、電話手、給仕、小使、職工、定夫及一年以上又ハ毎年一定期間國有林野ノ現業員ハ公有林野官行造林ノ現業ニ從事スル者ハ林野現業員共濟組合令第一條ノ現業員トス但シ營林局長ニ於テ現業ニ從事セスト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 組合員ハ掛金トシテ毎月給料月額ノ千分ノ三十ヲ支拂フヘシ但シ前條第二項ニ依ル組合員ハ千分ノ四十三トス

第九條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 退官又ハ退職シタルトキ
- 三 休職トナリタルトキ
- 四 營林局署又ハ國有林產物販賣所以外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
- 五 現業員以外ノ職ニ轉シタルトキ但シ繼續シテ組合員タルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

六 日給ヲ受クル組合員陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレ缺勤ノ期間六箇月ヲ超ユルトキ

七 第七條第二項ニ依ル組合員ニ在リテハ加入又ハ第五號但書ニ依ル資格繼續ノ時ヨリ一箇年ヲ經過シ脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ

第十條 組合員組合ヲ脱退シタルトキハ本則ノ定ムル救濟金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

第十一條 日給ヲ受クル組合員ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ以テ給料月額トシ月給ヲ受クル組合員ニ在リテハ月給ノ三十日分ノ一ヲ以テ給料月額トス

稼高又ハ就業時間ニ依リ給料ヲ定ムル組合員ニ在リテハ前就業日數三十日分、前就業日數三十日ニ滿タサルトキハ就業全日數ノ給料日額ノ平均ヲ以テ其ノ日給トス

共同作業ヲ爲スニ依リ各自ノ給料ノ割合不明ナルモノ其ノ他前項ニ依リ給料日額ヲ定ムルコト能ハサルモノニ付テハ營林局署長又ハ國有林産物販賣所長之ヲ定ム

第三章 救濟

第十二條 救濟金ハ左ノ六種トス

- 一 公傷給與金
 - 二 疾病給與金
 - 三 死亡給與金
 - 四 脱退給與金
 - 五 年功給與金
 - 六 罹災給與金
- 前項第一號ノ救濟金ハ第七條第二項ニ依ル組合員ニ之ヲ給與セス

(台四)

第十三條 公傷給與金ハ障害扶助料及遺族扶助料ノ二種トシ組合員業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ之ヲ給與ス但シ療養開始後三年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

公傷給與金ハ組合ヲ脱退スルモノ仍之ヲ給與ス

第十四條 障害扶助料ハ傷疾又ハ疾病治療シタルトキニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スルトキ左ノ等級ニ從ヒ之ヲ給與ス但シ雇員扶助令又ハ傭人扶助令ニ依リ打切扶助料ヲ受クベキ場合ニ於テ治療後仍障害ヲ存スベシト認めタルトキハ打切扶助料ヲ給與スベキトキニ之ヲ給與スルコトヲ得

一等 終身自用ヲ辨ズルコト能ハザル者 給料日額 九百日分
二等 終身勞務ニ服スルコト能ハザル者 給料日額 六百六十日分
三等 從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザル者、健康舊ニ復スルコト能ハザル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者 給料日額 三百日分以上四百二十日分以下

四等 身體ニ障害ヲ存スト雖引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者 給料日額 六十日分以上二百四十日分以下

負傷シ又ハ疾病ニ罹リ前項ノ給與ヲ受ケタル者當該傷疾又ハ疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ給與シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給與ス

第十四條ノ二 遺族扶助料ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給與ス但シ前條第一項ノ規定ニ依リ一等又ハ二等ノ障害扶助料ノ給與ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ之ヲ給與セス

遺族扶助料ハ給料日額六百六十日分トス但シ前條第一項ノ規定ニ依リ三等又ハ四等ノ障害扶助料ノ給與ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ既ニ給與シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給與ス

(台四)

第十五條 疾病給與金ハ療養料及休業扶助料ノ二種トシ業務上ノ事由ニ因ルニ非ズシテ組合員疾病ニ罹リ又ハ負傷シ引續キ六日以上勞務ニ服スルコト能ハサルトキ之ヲ給與ス但シ陸海軍ニ召集中ノ疾病若ハ負傷又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因ル疾病若ハ負傷ニ付テハ之ヲ給與セス

組合加入後三箇月ヲ經過セサル期間内ニ在リテハ本條ノ給與金ハ加入後生シタル疾病又ハ負傷ニ對シテノミ之ヲ給與ス

療養料ハ療養ノ實費、休業扶助料ハ勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ給料ヲ受ケサル期間ノ給料ノ三分ノ一トシ休業ノ日ヨリ起算シテ六十日ヲ超ニス一箇年ヲ通シテ九十日ヲ超エサル期間之ヲ給與ス但シ休業扶助料ハ休業ノ日ヨリ起算シテ五日ヲ超エサル期間之ヲ給與セス

加入前ニ生シタル疾病又ハ負傷ニ因ル休業ニシテ加入後三箇月ヲ經過シタル日ノ前後ニ跨ルモノニ付テハ加入後三箇月ヲ經過シタル日ヲ以テ前項ハ休業ノ日ト看做ス

第十六條 死亡給與金ハ業務上ノ事由ニ因ルニ非ズシテ組合員死亡シタルトキ之ヲ給與ス此ノ場合ニ於テハ前條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

死亡給與金ハ給料日額三十日分以上百日分以下トス但シ其ノ金額ガ三十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ三十圓トス

第十七條 前二條ノ給與金ハ毎年一定期間勤務スル組合員ニ付テハ疾病給與金ニ在リテハ疾病又ハ負傷カ勤務期間内ニ生シ之カ爲勤務期間内ニ休業ヲ始メタルトキニ限り之ヲ給與シ死亡給與金ニ在リテハ死亡カ勤務期間内ニ生シタル疾病又ハ負傷ニ因リ勤務期間内又ハ勤務期間内休業ノ初日、休業セサルトキハ發病又ハ負傷ノ日ヨリ起算シテ六十日以内ニ生シタルトキニ限り之ヲ給與ス

第十八條 脱退給與金ハ組合員組合ヲ脱退シタルトキ之ヲ給與ス

第四編 社會 第五章 共濟組合 林野現業員共濟組合規則

脱退給與金ハ脱退前ノ各年ノ給料ノ千分ノ二十二ニ相當スル金額ニ付年

利率五分ヲ以テ重利計算ニ依リ算出シタル元利合計ニ相當スル金額トス

第十九條 年功給與金ハ三年以上繼續シテ組合員タル者組合ヲ脱退シタルトキ之ヲ給與ス但シ犯罪又ハ懲戒處分ニ因リ脱退シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

年功給與金ハ脱退前ノ各年ノ給料ノ千分ノ六ニ相當スル金額ニ付年利率五分ヲ以テ重利計算ニ依リ算出シタル元利合計ニ相當スル金額トス

第二十條 前二條ノ場合ニ於テ給與金ノ計算方法ハ別表ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 罹災給與金ハ組合員水火震災其ノ他非常ノ災害ニ遭遇シ財產上損害ヲ受ケタルトキ之ヲ給與ス

罹災給與金ハ給料日額六十日分以下トス

第二十二條 營林局長ハ負傷又ハ疾病ノ療養ニ關シ豫メ醫師ヲ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ指定以外ノ醫師ニ付治療ヲ受ケタル必要アルトキハ營林局署長又ハ國有林産物販賣所長ノ承認ヲ受ケテハシ

前項ノ承認ヲ受ケスシテ他ノ醫師ニ付治療ヲ受ケタルトキハ營林局長ハ救濟金ノ給與ニ關シ適當ナル療養費ヲ定ムルコトヲ得

第二十三條 救濟金給與ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ救濟金額ニ加ヘ又ハ之ヲ救濟金額ヨリ減ス

第二十四條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救濟金ヲ受領スヘキ者其ノ願ニ對抗スルコトヲ得ス

位ニ關シテハ本則ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス但シ死亡給與金ニ在リテハ葬祭ヲ行フ遺族其ノ他ノ者ニ其ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

第二十四條ノ二 組合員若ハ家族ノ疾病若ハ不慮ノ災厄又ハ家族ノ死亡ニ因リ生計上困難アル場合ニ於テハ組合ハ當該組合員ノ爲ニ積立テタル退給與資金ノ十分ノ八迄ヲ限リ相當期間ヲ定メ組合員ニ貸付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ貸付金ノ利息ハ元金一圓ニ付月五厘ノ割トシ曆月ヲ以テ計算シ月中途ニ於テ貸付又ハ償還シタル金額ニ對シテハ其ノ月分ノ利息ヲ徵收ス

第一項ノ貸付金ハ分割辨濟ニ依リ償還セシムルコトヲ得

組合員退給ノ際第一項ノ規定ニ依リ貸付ヲ受ケタル金額及利息ノ償還未済金アルトキハ當該組合員ノ受ケヘキ退給與金ハ第十八條第二項ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ未済金額ヲ減シタルモノトス

第二十四條ノ三 組合員又ハ組合員タリシ者疾病、負傷、死亡又ハ分娩ニ關シ健康保險法ニ依リ保險給付ヲ受ケベキトキハ之ニ代ヘ之ニ相當スル給付ヲ爲ス

第十五條及第十六條ノ規定ハ前項ノ給付ヲ受ケル者ニハ之ヲ適用セズ

健康保險法第四章(第四十八條、第五十九條及第六十七條乃至第六十九條ヲ除ク)及健康保險法施行令第四章(第八十六條ヲ除ク)ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前項ニ依リ準用シタル健康保險法第四十九條ニ依ル金額カ第十六條ニ依リ給與スヘキ金額ヨリ小ナルトキハ第十六條ニ依リ給與スヘキ金額ヲ給與ス但シ業務上ノ事由ニ因ル死亡ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條ノ四 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

前項ノ附屬事業ヲ行ハントスルトキハ附屬事業資金ヲ置キ其ノ收入支出ハ一般ノ會計ト區分シ特別會計トスベシ

前項ノ附屬事業資金造成ノ爲必要アルトキハ一般會計ヨリ特別會計ニ對シ資金ノ繰入又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得但シ資金ノ繰入ニ在リテハ組合剩餘金ヲ限度トス

第四章 審査會

第二十五條 加入、退退又ハ救濟金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條 審査會ハ之ヲ農林省ニ置キ會長一人委員十人ヲ以テ組織ス

第二十七條 會長ハ農林次官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ農林省高等官中ヨリ之ヲ命ス

第二十八條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス

第二十九條 審査會ニ幹事一人書記二人ヲ置キ記録ヲ整理シ庶務ニ從事セシム

第三十條 審査會ハ半數以上ノ委員出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第三十一條 審査會ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決シ決議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第三十一條 審査會ノ決議ハ當該營林局長及審査請求者ニ之ヲ通知ス

審査會ノ決議ハ當該營林局長及審査請求者ヲ羈束ス

附則

(台四)

本則ハ大正八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十二年農商務省令第一〇號)

本令ハ大正十二年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

第七條第二項ノ規定ニ該當スル組合員ハ本令施行後一箇月以内ニ限り第九條第七號ノ規定ニ拘ラス脱退スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ組合員タル者ニ付テハ第十五條第二項及第四項ノ規定ハ之ヲ適用セズ

附則 (昭和六年農林省令第三三號)

本令ハ昭和六年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ貸付金ノ利息ニシテ本令施行ノ日ヨリ償還完了ノ日ニ至ル迄ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ計算シタル額ガ第二十四條ノ二第二項ノ改正規定ニ依リ計算シタル額ヨリ小ナルトキハ從前ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス

別表

年數	係數	年數	係數	年數	係數
一	一、〇〇	一	一、六三	二一	二、六五
二	一、〇五	二	一、七一	二二	二、七九
三	一、一〇	三	一、八〇	二三	二、九三
四	一、一六	四	一、八九	二四	三、〇七
五	一、二二	五	一、九八	二五	三、二三
六	一、二八	六	二、〇八	二六	三、三九

○生絲検査所共濟組合令

昭和十二年五月十四日 (總理、農林) 勅令第二百一號 (大臣副署)

第一條 生絲検査所所屬ノ職員以下ノ現業員ハ農林大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救濟ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員ノ給料總額ノ百分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス

第三條 農林大臣ハ農林部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 生絲検査所所屬ノ職員ハ第一條ノ現業員ニ非ザルモ農林大臣ノ定

一	七	一、三四	一七	二、一八	二七	三、五六
二	八	一、四一	一八	二、二九	二八	三、七三
三	九	一、四八	一九	二、四一	二九	三、九二
四	一〇	一、五五	二〇	二、五三	三〇	四、一二

本表ニ依リ給與金ヲ計算スル方式左ノ如ク定ム

$$C_1 K_1 + C_2 K_2 + C_3 K_3 + \dots + C_n K_n$$

C₁ハ脱退ノ月ヨリ起リ滿一年前迄ノ元金合計C₂ハ滿一年ヨリ滿二年迄ノ元金合計C₃、C_n等之ニ準ズ

K₁ハ前表ニ於ケル一年ノ係數K₂ハ前表ニ於ケル二年ノ係數K₃、K_n等之ニ準ズ

(台四)

ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ俸給ハ第二條ノ給料總額ニ之ヲ算入セズ

附則

本令ハ昭和十二年五月十六日ヨリ之ヲ施行ス

○生絲検査所共濟組合規則

昭和十二年五月十四日 農林省令第十五號

第一章 總則

第一條 本組合ハ生絲検査所共濟組合ト稱ス

第二條 本組合ノ事務ハ農林大臣之ヲ統理シ生絲検査所長之ヲ執行ス

第二章 組合員

第三條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員トハ生絲検査所共濟組合令第一條ノ現業員(雇員、傭、守備、給仕、小使、定傭夫、電話手、火夫、自動車運轉手及機關手)ヲ謂フ

乙種組合員トハ前項ノ現業員以外ノ生絲検査所所屬ノ職員ニシテ組合ニ加入シタルモノ又ハ第四條第五號但書ノ場合ニ於テ組合員タル資格ヲ繼續スル意思ヲ表示シタル者ヲ謂フ

甲種組合員ハ第二項ノ現業員ニ採用セラレタル時、乙種組合員ハ前項後段ニ該當スル者ヲ除クノ外生絲検査所長ノ加入承認ヲ受ケタル時ヲ以テ組合ニ加入ス

臨時ニ使用スル者及給料ヲ支給セザル者ハ組合員タルコトヲ得ズ

第四條 組合員ハ左ノ場合ニ限リ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ
二 退官又ハ退職シタルトキ

三 休職トナリタルトキ

四 生絲検査所以外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ

五 現業員以外ノ職ニ轉ジタルトキ但シ繼續シテ組合員タルノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

六 乙種組合員ニ在リテハ加入又ハ前號但書ニ依ル資格繼續ノ時ヨリ一箇年ヲ經過シ脱退ノ意思ヲ表示シタルトキ

七 前條第五項ニ該當スルニ至リタルトキ

第五條 組合員及組合員タリシ者ハ本則ノ定ムル救済金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ズ

第六條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ支拂フベシ

甲種組合員 給料月額ノ千分ノ三十

乙種組合員 給料月額ノ千分ノ四十五

月ノ中途ニ於テ組合ニ加入又ハ脱退シタルトキハ日割計算ニ依リ掛金ヲ支拂フベシ特別ノ勞務又ハ缺勤其ノ他臨時ノ事故ニ依リ給料ノ支給額ニ増減ヲ生ズルモ掛金額ヲ増減セズ

掛金ハ給料支拂ノ際之ヲ徴收ス

第七條 日給ヲ受クル組合員ニ在リテハ日給ノ三十日分ヲ以テ給料月額トス但シ休日ニ給料ヲ受ケザル者ニ在リテハ日給ノ二十五日分トス

月給ヲ受クル組合員ニ在リテハ月給ノ三十分ノ一ヲ以テ給料日額トス

第八條 給料ノ支給ヲ受ケザル月又ハ掛金額ニ滿タザル給料ノ支給ヲ受ケタル月ノ掛金ハ次回給料受領ノ際之ヲ支拂フコトヲ得

第九條 掛金ニ異動ヲ生ズベキ事由發生シタルトキハ其ノ翌月ヨリ掛金ノ額ヲ改定ス

第三章 救済

(台四)

第十條 救済金ハ左ノ七種トス

- 一 公傷給與金
二 疾病給與金
三 特症給與金
四 分娩給與金
五 死亡給與金
六 脱退給與金
七 罹災給與金

前項第一號ノ救済金ハ乙種組合員ニハ之ヲ給與セズ

第十一條 給與ノ事由併發シタルトキハ各該ノ給與金ヲ併給ス但シ出産手當金ヲ給與スル場合ニ於テハ其ノ期間休業扶助料ハ之ヲ給與セズ

第十二條 救済金ノ額ハ給與ノ事由發生シタル當時ノ掛金ノ標準タル給料ニ依リテ之ヲ算出ス

第十三條 公傷給與金ハ障害扶助料及遺族扶助料ノ二種トシ組合員業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキ之ヲ給與ス

第十四條 障害扶助料ハ傷痕又ハ疾病治癒シタルトキニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スルトキ左ノ等級ニ從ヒ之ヲ給與ス

- 一等 終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ
二等 終身勞務ニ服スルコト能ハザルモノ
三等 終身勞務ニ服スルコト能ハザル者、健康舊ニ復スルコト能ハザル者又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタル者

給料日額 三百日分以上四百二十日分以下
給料日額 六十日分以上二百四十日分以下
給料日額 六十日分以上二百四十日分以下
給料日額 四百八十日分以上六百六十日分以下

第四編 社會 第五章 共濟組合 生絲検査所共濟組合規則

給料日額 三百日分以上四百二十日分以下
給料日額 六十日分以上二百四十日分以下
給料日額 六十日分以上二百四十日分以下
給料日額 四百八十日分以上六百六十日分以下

四等 身體ニ障害ヲ存スト雖モ引續キ從來ノ勞務ニ服スルコトヲ得ル者

負傷シ又ハ疾病ニ罹リ前項ノ給與ヲ受ケタル者當該傷痕又ハ疾病ノ再發ニ依リ身體傷害ノ程度ヲ加重シタル場合ニ於テハ障害扶助料ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ給與シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給與ス

第十五條 遺族扶助料ハ給料日額六百六十日分トシ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給與ス但シ前條第一項ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ給與ヲ受ケタル者死亡シタル場合ニ於テ其ノ障害扶助料ノ金額ガ給料日額六百六十日分以上ナルトキハ之ヲ給與セズ給料日額六百六十日分未滿ナルトキハ既ニ給與シタル障害扶助料ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給與ス

第十六條 疾病給與金ハ療養料及休業扶助料ノ二種トシ業務上ノ事由ニ因ルニ非ズシテ組合員負傷シ又ハ疾病ニ罹リ勞務ニ服スルコト能ハザルトキ之ヲ給與ス但シ陸海軍ニ召集中ノ負傷若ハ疾病又ハ自己ノ重大ナル過失ニ因リ負傷若ハ疾病ニ付テハ之ヲ給與セズ

第十七條 療養料ハ醫師ニ付醫療ヲ受ケタル場合ニ於テ現ニ要シタル醫療費ノ半額ヲ給與ス

第十八條 休業扶助料ハ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ給料ヲ受ケザル期間給料日額ノ三分ノ一ヲ給與ス

第十九條 療養料及休業扶助料ハ休業ノ日ヨリ起算シテ六十日ヲ超エズ一箇年ヲ通ジテ九十日ヲ超エザル期間之ヲ給與ス但シ休業扶助料ハ休業ノ日ヨリ起算シテ五日ヲ超エザル期間之ヲ給與セズ

第二十條 特症給與金ハ組合員加入後一年以上ヲ經過シ肺結核其ノ他ノ傳

染性疾患ニ因リ解職セラレタルトキ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ給與ス

- 一 加入期間二年未滿ナルトキハ給料日額六十日分
- 二 加入期間二年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料日額五日分ヲ前號ノ額ニ加算ス

第二十一條 分娩給與金ハ分娩費及出産手當金ノ二種トシ組合員加入後六箇月以上ヲ經過シ分娩シタルトキ之ヲ給與ス

分娩費ハ二十圓トス
出産手當金ハ分娩ノ爲勞務ニ服セザルニ依リ給料ヲ受ケザル期間給料日額ノ三分ノ一ヲ給與ス但シ分娩ノ日ノ前後ヲ通ジ四十二日ヲ超ユルトキト得ズ

第二十二條 死亡給與金ハ業務上ノ事由ニ因ルニ非ズシテ組合員死亡シタルトキ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ給與ス

- 一 加入期間一年未滿ナルトキハ給料日額三十日分
- 二 加入期間一年ヲ超ユルトキハ一年ヲ増ス毎ニ給料日額十日分ヲ前號ノ額ニ加算ス

第十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十三條 脱退給與金ハ組合員加入後六箇月以上ヲ經過シ脱退シタルトキ之ヲ給與ス

- 一 甲種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘ジタル金額
- 二 乙種組合員ニ在リテハ其ノ掛金總額ノ四十五分ノ三十二ニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘ジタル金額
- 三 甲種組合員ヨリ乙種組合員ト爲リタル者又ハ乙種組合員ヨリ甲種組合員ト爲リタル者ニ在リテハ甲種組合員トシテ爲シタル掛金總額及乙種組合員トシテ爲シタル掛金總額ノ四十五分ノ三十二ヲ合算シタルモノニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘ジタル金額

第四章 會計

第三十一條 本組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第三十二條 掛金額又ハ救濟金額ノ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第三十三條 本組合ノ財産ハ利殖ノ目的ヲ以テ銀行預金、信託預金若ハ郵便貯金トシ又ハ之ヲ以テ國債證券若ハ地方債證券ヲ買入ルコトヲ得
生絲検査所長前項ニ規定スル方法以外ノ方法ニ依リ組合財産ヲ管理セン
トスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三十四條 本組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ脱退給與金ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第五章 附屬施設
第三十五條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救濟ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第六章 審査會
第三十六條 加入、脱退又ハ救濟金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ對シ異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 審査會ハ之ヲ農林省ニ置キ會長一人委員十人ヲ以テ組織ス

第三十八條 會長ハ農林次官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ農林省高等官中ヨリ之

合員ト爲リタル者ニ在リテハ甲種組合員トシテ爲シタル掛金總額及乙種組合員トシテ爲シタル掛金總額ノ四十五分ノ三十二ヲ合算シタルモノニ對シ別表ニ依リ加入期間ノ區別ニ從ヒ給與乘數ヲ乘ジタル金額

第二十四條 罹災給與金ハ組合員水火震災其ノ他非常ノ災害ニ遭遇シ財産上損害ヲ受ケタルトキ之ヲ給與ス
罹災給與金ハ給料日額ノ六十日分以下トス

第二十五條 組合員生絲検査所長ノ指定シタル醫師以外ノ醫師ニ付醫療ヲ受クル必要アルトキハ生絲検査所長ノ承認ヲ受ケタベシ
前項ノ承認ヲ受ケズシテ他ノ醫師ニ付醫療ヲ受ケタルトキハ生絲検査所長ハ適當ナル醫療費ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 救濟金給與ノ場合ニ於テ過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ之ヲ救濟金額ニ加ヘ又ハ之ヲ救濟金額ヨリ減ズ

第二十七條 救濟金ハ給與ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ請求ヲ爲サザルトキハ之ヲ給與セズ但シ公傷給與金ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ二年以内ハ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條 組合員死亡シ、負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ分娩シタル場合ニ於テハ本人又ハ其ノ家族其ノ他之ニ代ルベキ者ヨリ遲滞ナク之ヲ生絲検査所長ニ申告スベシ

第二十九條 組合員懲戒處分又ハ刑事裁判ニ因リ其ノ官職ヲ免ゼラレタルトキハ本章ノ救濟金ノ全部又ハ一部ヲ給與セザルコトアルベシ

第三十條 組合員死亡シタル場合ニ於テ救濟金ヲ受領スベキ者其ノ順位ニ關シテハ工場法施行令第十條乃至第十二條ノ規定ヲ準用ス但シ死亡給與金ニ在リテハ葬祭ヲ行フ遺族其ノ他ノ者ニ其ノ全部又ハ一部ヲ給與スルコトヲ得

ヲ命ズ

第三十九條 會長ハ審査會ノ事務ヲ掌理シ議事ヲ整理ス

第四十條 審査會ニ幹事一人書記一人ヲ置キ記録ヲ整理シ庶務ニ從事セシム

第四十一條 審査會ハ半数以上ノ委員出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ
決議ハ委員ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲シ可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第四十二條 審査會ノ決議ハ當該生絲検査所長及審査請求者ニ之ヲ通知ス

審査會ノ決議ハ當該生絲検査所長及審査請求者ヲ羈束ス

第四十三條 組合員ヨリ審査會ニ提出スル文書ハ當該生絲検査所長ヲ經由スベシ

附則
本令ハ昭和十二年五月十六日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ生絲検査所共濟組合令第一條ノ現業員タル者本令施行後一年未滿ノ期間内ニ第二十二條ニ掲グル事由ニ因リ解職セラレタル場合ニ於テ其ノ解職ノ日迄一年以上繼續シテ生絲検査所ニ勤務シタルモノナルトキハ第二十二條第一號ノ特種給與金ヲ給與ス

別表

加入期間	給與乘數	加入期間	給與乘數
六箇月以上	九五	十一年以上	一・二
			二一
			一・三〇

一	年	以	上	・九五	十	二	年	以	上	一・一〇
二	年	以	上	・九五	十	三	年	以	上	一・〇八
三	年	以	上	・〇〇	十	四	年	以	上	一・〇六
四	年	以	上	・〇〇	十	五	年	以	上	一・〇四
五	年	以	上	・〇〇	十	六	年	以	上	一・〇二
六	年	以	上	・〇〇	十	七	年	以	上	一・〇〇
七	年	以	上	・〇〇	十	八	年	以	上	一・〇〇
八	年	以	上	・〇〇	十	九	年	以	上	一・〇〇
九	年	以	上	・〇〇	十	十	年	以	上	一・〇〇
十	年	以	上	・〇〇	十	一	年	以	上	一・〇〇

三十一一年以上ハ加入期間一年ヲ増ス毎二〇・〇ニテ加算ス

○日本製鐵株式會社ノ從業者ニ對スル扶助ノ特例ニ關スル件

昭和九年一月二十五日 (總理、內務) 勅令第二號 (大臣副署)

日本製鐵株式會社ハ會社從業者ノ組織スル共濟組合ガ會社ヨリ給與金ヲ受ケ組合員ノ業務上ノ負傷、疾病又ハ死亡ニ關シ給付ヲ爲ス場合ニ於テ豫メ內務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ共濟組合ノ組合員又ハ其ノ遺族若ハ組合員ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ對シ工場法施行令ニ定ムル扶助ヲ爲スコトヲ要セズ

一	・一三	二	十二	年	以	上	一・一三
一	・一五	二	十三	年	以	上	一・一五
一	・一七	二	十四	年	以	上	一・一七
一	・一九	二	十五	年	以	上	一・一九
一	・二〇	二	十六	年	以	上	一・二〇
一	・二二	二	十七	年	以	上	一・二二
一	・二四	二	十八	年	以	上	一・二四
一	・二六	二	十九	年	以	上	一・二六
一	・二八	三	十	年	以	上	一・二八
一	・三二	一	・三二				一・三二
一	・三四	一	・三四				一・三四
一	・三六	一	・三六				一・三六
一	・三八	一	・三八				一・三八
一	・四〇	一	・四〇				一・四〇
一	・四二	一	・四二				一・四二
一	・四四	一	・四四				一・四四
一	・四六	一	・四六				一・四六
一	・四八	一	・四八				一・四八

○逓信部内現業員共濟組合ニ關スル件

明治四十二年五月二十六日 (總理、逓信) 勅令第五百一十一號 (大臣副署)

改正 明治四十二年第二〇〇號、四十二年第一六〇號、大正二年第二二二號、七年第一五號、九年第四六七號、昭和三年第一〇九號

第一條 逓信部内ノ通信手及雇員以下ノ現業員ニシテ逓信大臣ノ指定スルモノハ逓信大臣ノ定ムル所ニ依リ相互救済ヲ目的トスル組合ヲ組織ス

第二條 政府ハ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ組合員掛金總額ノ三分ノ二ニ當ル金額ヲ限度トシテ組合ニ給與ス但シ組合員給料總額ノ千分ノ二十四ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條 逓信大臣ハ逓信部内ノ職員ヲシテ組合ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得

第四條 逓信部内ノ職員ハ第一條ニ定ムル現業員ニ非サルモ逓信大臣ノ定ムル所ニ依リ組合ニ加入スルコトヲ得但シ其ノ掛金及給料ハ第二條ノ掛金總額及給料總額ニ之ヲ算入セス

附則 本令ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○逓信部内職員共濟組合規則

大正九年十月四日 逓信省令第七號

改正 大正一年第七一號、一三年第四四號、一四年第五七號、一五年第五五號、昭和元年第三號、四年第一六號

第一章 總則

第一條 本組合ハ逓信部内職員共濟組合ト稱シ逓信大臣之ヲ監督ス

第四編 社會 第五章 共濟組合 逓信部内職員共濟組合規則

第二條 本組合ノ事務ハ逓信次官之ヲ統理ス

第二章 組合員

第三條 組合員ヲ分チテ甲種組合員及乙種組合員トス

甲種組合員ハ明治四十二年勅令第五百一十一號第一條ノ現業員ヲ謂フ其ノ範圍ハ別ニ之ヲ定ム

乙種組合員ハ甲種組合員タル職員以外ノ逓信部内ノ職員ニシテ組合ニ加入シタル者又ハ第五條第一項第四號ノ場合ニ於テ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル者ヲ謂フ

甲種組合員ハ第二項ノ職員ニ採用セラレタル時、乙種組合員ハ加入ヲ承認セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入ス但シ三等郵便局(特ニ指定シタル三等郵便局ヲ除ク)以下之ニ依リ所屬ノ職員ハ甲種組合員トシテ指定セラレタル時ヲ以テ組合ニ加入ス

第三條ノ二 甲種組合員ニシテ別ニ定ムル範圍ノ職務ニ從事スル者ヲ甲種特別組合員ト謂フ

甲種特別組合員タル資格ハ前項ノ職務ニ從事スルニ至リタルトキヲ以テ之ヲ取得ス

甲種特別組合員タル資格ハ第一項ニ定ムル範圍ノ職務ニ從事セサルニ至リタルトキヲ以テ之ヲ喪失ス

第四條 臨時ニ使役スル者、逓信官署ノ事務ニ從事スルコトヲ主トセサル者、豫備トシテ採用シタル者、給料俸給ヲ含ム以テ支給セサル者及外國人ハ組合員タルコトヲ得ス

第五條 組合員ハ左ノ場合ニ於テ組合ヲ脱退ス

- 一 死亡シタルトキ

二 退職下之ニ依リシタルトキ
 三 選信部外ノ官廳ニ轉勤シタルトキ
 四 甲種組合員ニ在リテハ第三條第二項ニ依リ指定スル職員以外ノ選信部内ノ職員トナリタルトキ但シ加入繼續ノ意思表示ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 五 乙種組合員ニ在リテハ加入後三年以上ヲ經過シタル者脫退ノ意思表示ヲ爲シタルトキ
 六 第四條ニ該當スルニ至リタルトキ
 廢職、廢職其ノ他官署ノ都合ニ依リ又ハ兵役ニ服スル爲メ退職シタル者退職シ又ハ兵役ヲ終リタル日ヨリ三十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス但シ退職ノ際反對ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 選信官吏練習所又ハ選信講習所へ入所シタル者退所後再採用セラレ又ハ復歸シタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス
 選信部外ニ於テ臨時選信ノ業務ニ従事スル爲メ第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタル者元所屬ノ選信官署ニ歸還シタル後六十日以内ニ再ヒ採用セラレタル場合ハ組合員ノ資格ニ付テハ前後繼續スルモノト看做ス
 第二項但書ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第六條 組合員及組合員タリシ者ハ本令ニ依リ救済金ノ給與ヲ受クルノ外組合ニ對シ何等ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス
 第三章 掛金
 第七條 組合員ハ掛金トシテ毎月左ノ金額ヲ拂込ムヘシ但シ三等郵便局所

屬ノ組合員ノ掛金ハ所轄選信局長ノ指定スル額ニ依ル
 甲種組合員 給料月額ノ千分ノ五十六
 乙種組合員 給料月額ノ千分ノ百
 日給ヲ受クル者ニ在リテハ其ノ日給額ニ三十ヲ乘シタル額ヲ以テ前項ノ給料月額トス
 特別ノ勞務又ハ缺勤其ノ他ノ事由ニ因リ給料ノ受領額カ給料月額ニ異ル場合ニ於テモ掛金ノ額ヲ増減セズ
 第七條ノ二 甲種特別組合員ハ掛金トシテ前條ニ依ル甲種組合員ノ掛金ノ外一日ニ付給料日額ノ千分ノ十三ニ相當スル金額ヲ拂込ムヘシ
 第七條ノ三 前條ノ給料日額ノ千分ノ十三ニ相當スル掛金ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ拂込ムコトヲ要セス
 一 傷病手當金又ハ出產手當金ヲ受クル期間
 二 陸海軍ニ召集セラレタル期間
 三 健康保險法施行區域外ニ在ル期間
 四 感化院其ノ他之ニ準スヘキモノニ入院セシメラレタル期間
 五 監獄、留置場又ハ勞役場ニ拘禁又ハ留置セラレタル期間
 第八條 掛金ノ拂込ハ毎月給料受領ノ時之ヲ爲スヲ要ス
 給料ヲ受ケサル月又ハ其ノ受領額カ掛金ノ額ニ滿タサル月ノ拂込ハ次回給料受領ノ時之ヲ爲スヲ要ス
 第九條 給料額又ハ指定額ノ變更共ノ他掛金ノ額ニ異動ヲ生スヘキ事由アリタルトキハ組合員加入シタル月ニ應當スル月ニ於テ其ノ前月末ニ於ケル給料額又ハ指定額ニ依リ掛金ノ額ヲ改定ス
 甲種組合員ヨリ乙種組合員ニ又ハ乙種組合員ヨリ甲種組合員ニ變更シタルトキハ前項ニ依ルノ外尙其ノ變更ノ翌月ヨリ掛金ノ率ヲ改定ス
 (台四)

第四章 救濟

第十條 救済金ハ左ノ十三種トス
 一 殉職給與金
 二 療疾年金
 三 傷疾給與金
 四 疾病給與金
 五 療養給與金
 五ノ二 特症給與金
 六 醫療給與金
 七 死亡給與金
 八 災害給與金
 九 脫退給與金
 十 勤績給與金
 十一 退職年金
 十二 遺族扶助金
 第十一條 殉職給與金ハ組合員職務上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ死亡シタルトキ給料二年六月分乃至三年分ニ相當スル額ヲ遺族ニ給與スルモノトス
 第十二條 療疾年金ハ組合員職務上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ種別ニ從ヒ脫退ノ月ヨリ終身間毎年之ヲ給與スルモノトス
 甲種
 兩眼ヲ盲シ若ハ二肢以上ノ用ヲ失ヒ終身 給料七月分乃至九月分ニ自用ヲ辨スルコト能ハサルニ至リタルト 相當スル額
 第四編 社會 第五章 共濟組合 選信部内職員共濟組合規則

キ又ハ之ニ準スルトキ

乙種
 一 肢ノ用ヲ失ヒ自用ヲ辨シ得ルモ終身業 給料三月分乃至六月分ニ務ニ就クコト能ハサルニ至リタルトキ又 相當スル額
 ハ之ニ準スルトキ
 第十三條 傷疾給與金ハ組合員職務上傷疾ヲ受ケ左ノ場合ニ該當シタルトキ其ノ種別ニ從ヒ之ヲ給與スルモノトス
 甲種
 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得ス因テ 給料七月分乃至一年六月分ニ退職シタルトキ 分ニ相當スル額
 乙種
 身體ヲ毀損シ舊ニ復スルコトヲ得サルモ 給料一月分乃至六月分ニ職務ニ堪ユルトキ 相當スル額
 第十四條 疾病給與金ハ組合員職務上疾病ニ罹リタルトキ前條ノ例ニ準シ之ヲ給與スルモノトス
 第十五條 療養給與金ハ組合員職務上傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ爲シタルトキ其ノ療養ニ必要ナル額ヲ給與スルモノトス
 第十六條 前五條ノ場合ニ於テ其ノ傷疾又ハ疾病カ組合員ノ重大ナル過失ニ因ルモノナルトキハ救済金ヲ給與セス
 第十六條ノ二 特症給與金ハ組合員トナリタル後二年以上ヲ經過シタル者結核性疾患ニ因リ業務ニ堪ヘサル爲之ヲ退職セシメタルトキ左ノ區別ニ從ヒ給與スルモノトス
 一 加入期間三年未滿ノ者 給料三月分ニ相當スル額
 二 加入期間三年以上ノ者 前號ノ額ニ加入期間一年未滿
 (台四)

ヲ増ス毎ニ給料十日分ニ相當スル額ヲ加算シタル額

第十七條 醫療給與金ハ組合員トナリタル後一年以上ヲ經過シタル者傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ七日以上勤務スルコト能ハサルトキ其ノ七日ヲ超エタル日ヨリ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ缺勤中給料ヲ受ケタル者ニハ之ヲ給與セス

第十八條 死亡給與金ハ組合員死亡シタルトキ左ノ區別ニ依リ遺族ニ之ヲ給與スルモノトス
一 加入期間六月未満ノ者 給料三月分ニ相當スル額
二 加入期間六月以上一年未満ノ者 給料六月分ニ相當スル額
三 加入期間一年以上ノ者 前號ノ額ニ加入期間一年未満ヲ増ス毎ニ給料十五日分ニ相當スル額ヲ加算シタル額

第十九條 災害給與金ハ組合員水火震災其ノ他非常ノ災害ニ罹リタルトキ給料二月分ニ相當スル額以内ヲ給與スルモノトス

第二十條 脫退給與金ハ組合員脫退シタルトキ左ノ區別ニ依リ之ヲ給與スルモノトス
一 加入期間六月未満ノ者 別表第一號ニ依ル額ノ十分ノ七
二 加入期間六月以上一年未満ノ者 別表第一號ニ依ル額ノ十分ノ八
三 加入期間一年以上二年未満ノ者 別表第一號ニ依ル額ノ十分ノ九

四 加入期間二年以上ノ者 別表第一號ニ依ル額

死亡若ハ職務上ノ傷痍疾病、廢職、廢職其ノ他官署ノ都合ニ依リ又ハ兵役ニ服スル爲退職シタル場合ニ於テハ前項ノ規定ニ拘ラス別表第一號ニ依ル額ヲ給與ス

第二十一條 勤続給與金ハ組合員トナリタル後三年以上ヲ經過シタル者脫退シタルトキ別表第二號ニ依ル額ヲ給與スルモノトス

第二十二條 脫退給與金及勤続給與金ハ掛金額ニ基キ之ヲ算定ス

掛金額ニ異動アリタルトキハ異動前ノ掛金額ニ基キ全加入年數ニ對スル給與金額ヲ算定シ之ニ異動後ノ加入年數ニ對シ掛金額ノ差額ニ基キ計算シタル給與金額ヲ併算ス

二回以上掛金額ニ異動アリタル場合ハ前項ノ計算方法ニ準ズ
乙種組合員ニ在リテハ第五條第一項第四號但書ノ規定ニ依リ加入ヲ繼續シタル者ノ甲種組合員タリシ期間ノ掛金ヲ除クノ外掛金ノ百分ノ五十六ヲ以テ前各項ノ掛金額トス

第二十二條ノ二 第七條ノ二ニ依リ拂込ミタル給料日額ノ千分ノ十三ニ相當スル掛金ハ前條ノ掛金額ニ算入セス

第二十三條 退職年金ハ組合員トナリタル後二十年以上ヲ經過シ年齢四十歳ヲ超エタル者脫退シタルトキ左ノ區別ニ依リ終身間毎年之ヲ給與スルモノトス
一 加入期間二十年ノ者 平均給料年額ノ三分ノ一ニ相當スル額
二 加入期間二十年ヲ超エタル者 前號ノ額ニ加入期間二十年ヲ

第二十四條 遺族扶助金ハ療養年金又ハ退職年金ノ給與ヲ受ケタル者脫退後療養年金ニ在リテハ五年以内、退職年金ニ在リテハ七年以内ニ、死亡シタルトキ左ノ區別ニ依リ遺族ニ之ヲ給與スルモノトス

一 療養年金ノ場合 年金五年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支拂ヒタル年金ノ額ヲ控除シタル殘額
二 退職年金ノ場合 年金七年分ニ相當スル額ヨリ既ニ支拂ヒタル年金ノ額ヲ控除シタル殘額

前項ノ規定ハ療養年金又ハ退職年金ノ給與ヲ受ケヘキ者脫退後年金ノ給與ヲ受ケタルニ至ラスシテ死亡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 療養年金又ハ退職年金ハ其ノ年額ヲ四分シ三月、六月、九月及十二月ニ於テ其ノ前三月分ヲ支給ス但シ年金ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ期月ニ拘ラス其ノ期分金額ヲ支給ス

第二十六條 療養年金又ハ退職年金ヲ受ケタル者ニハ脫退後七年以内ニ限り年金五年分ニ相當スル額以内ヲ利率年六分ノ割引ヲ以テ一時ニ支拂フ爲スコトアルヘシ

第二十七條 年金ヲ賣買讓與買入書入シタルトキハ其ノ支拂ヲ停止シ又ハ其ノ給與ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十八條 療養年金、傷痍給與金、疾病給與金、療養給與金又ハ職務上ノ事由ニ因リ療養ノ給付ヲ受ケ脫退シタル者脫退後一年以内ニ其ノ救済

ヲ受ケタル事由ニ起因シ第十一條乃至第十四條ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ既ニ給與シタル救済金ヨリ多額ノ救済金ヲ給與スヘキ事由アルニ至リタルトキハ當該各條ノ規定ニ從ヒ救済金ヲ給與ス

前項ノ場合ニ於テ既ニ給與シタル救済金ヨリ多額ノ救済金ヲ給與スヘキモノナルトキハ其ノ差額ヲ給與シ療養年金ヲ給與スヘキモノナルトキハ其ノ年金トシテ支拂フヘキ額ヲ脫退後最初ノ分ヨリ積算シ既ニ支拂ヒタル傷痍給與金又ハ疾病給與金ノ總額ニ達スル迄ノ期間中ノ給與ヲ停止シ其ノ傷痍給與金又ハ疾病給與金ノ額ヲ以テ其ノ期間中ノ療養年金支拂額ニ充當ス

第二十九條 救済金給與ノ事由併發シタルトキハ當該各條ノ救済金ヲ併給ス但シ退職年金ト脫退給與金及勤続給與金、療養年金ト傷痍給與金若ハ疾病給與金トハ之ヲ併給セス

第三十條 殉職給與金、療養年金、傷痍給與金、疾病給與金、特症給與金、醫療給與金、死亡給與金、災害給與金、傷病手当金、分娩費、出産手当金及埋葬金ハ救済ノ事由發生ノ時ノ掛金ノ標準タル給料額ニ依リ之ヲ算定ス但シ第二十八條及第三十九條ノ十五乃至第三十九條ノ十七ノ場合ニ於テハ組合脫退又ハ資格喪失ノトキノ掛金ノ標準タル給料額ニ依ル

退職年金ハ脫退ノ時ヨリ起リ二十年間ノ各年ニ付掛金ノ標準トナリタル給料額ヲ合算シタル額ヲ二十ヲ以テ除シタル平均給料額ニ依リ之ヲ算定ス

三等郵便局所屬ノ組合員ニ在リテハ掛金ヲ五十六分シタルモノニ一千ヲ乘シタルモノヲ以テ給料月額ト看做シ前二項ノ例ニ依ル

第三十條ノ二 掛金又ハ給與金ノ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ四捨五入ス但シ第七條ノ二ノ場合ニ於テハ掛金拂込ノトキ四捨五入ス

第三十一條 醫療給與金、死亡給與金、脫退給與金、勤績給與金、退職年金、特種給與金、療養ノ給付、傷病手當金、分焼費、出產手當金及埋葬金ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ加入、甲種特別組合員ノ資格ノ取得喪失及救濟ノ事由發生ノ日ヲ各一日トス

第三十二條 組合員犯罪ニ因リ死亡シタルトキ又ハ懲戒處分若ハ刑事裁判ニ因リ解職セラレタルトキハ救濟ヲ爲サス但シ脱退給與金ハ此ノ限ニ在ラス

刑事裁判ノ爲訴追セラレタル者ニ對シテハ其ノ裁判確定ニ至ル迄救濟金ノ給與ヲ停止シ有罪ノ裁判確定シタルトキハ前項ノ例ニ依ル但シ既ニ支拂ヒタルモノニ付テハ之ヲ追徴セス

第三十三條 組合員又ハ組合員タリシ者第十一條乃至第十五條、第十七條乃至第十九條、第二十四條、第二十八條、第三十九條ノ三、第三十九條ノ七、第三十九條ノ十一、第三十九條ノ十二、第三十九條ノ十四、第三十九條ノ十六及第三十九條ノ十七ニ該當シタルトキハ本人、戶主、家族又ハ代理人ヨリ別ニ定ムル所ニ依リ直ニ之ヲ組合員又ハ組合員タリシ者ノ所屬長官ニ申告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ本人、戶主及家族ハ組合ノ醫師ノ臨檢、診察若ハ治療又ハ職員ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ救濟金ヲ給與セサルコトアルヘシ

第三十四條 救濟金ハ給與ノ事由發生ノ日ヨリ二年以内ニ請求ヲ爲ササルトキハ之ヲ給與セス但シ療養給與金ハ醫療ヲ廢シタル日ヨリ二年以内ハ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ療養年金及退職年金ノ毎期ノ支拂請求ニ付之ヲ準用ス

第三十五條 救濟金給與ノ時過拂又ハ未拂ノ掛金アルトキハ給與金額ニ加ヘ又ハ之ヨリ減ス

第三十六條 救濟金ヲ受クヘキ者死亡シタル場合ニ於テ救濟金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ但シ死亡前其ノ順位ニ付特別ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ之ニ依ルコトアルヘシ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 内縁ノ夫婦關係ニ在ル者

第四 直系尊屬

第五 兄弟姊妹

第六 戶主

第七 他家ニ在ル直系卑屬

第八 他家ニ在ル直系尊屬

第九 他家ニ在ル兄弟姊妹

第十 扶養ヲ受ケタル者

前項第二號、第五號、第七號及第九號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第四號及第八號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號、第四號、第五號及第十號ニ該當スル者ハ救濟金ヲ受クヘキ者死亡ノトキ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

前各項ノ規定ハ第十一條、第十八條及第二十四條ニ依リ救濟金ヲ受クヘキ遺族ノ範圍及順位ニ付之ヲ準用ス

第三十七條 前條第一項第七號乃至第十號ノ者及救濟金ヲ受クヘキ者死亡シタル後戶主トナリタル者ニ對シテハ救濟金ノ半額ヲ給與ス

第三十八條 第三十六條ニ依リ救濟金ヲ受領スル者無キトキハ組合ハ救濟金ノ半額迄ヲ死亡者ノ爲ニ處分スルコトヲ得

第三十九條 第三十二條第二項ノ規定ハ故意ニ救濟金ヲ受クヘキ者又ハ救濟金ノ給與ニ付先順位ニ在ル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サムトシタル爲訴追セラレタル者ニ付之ヲ準用ス

第五章 甲種特別組合員ニ關スル救濟

第三十九條ノ二 甲種特別組合員ニ關シテハ前章ニ依ル救濟金ノ外左ノ五種ヲ加フ

一 療養ノ給付

二 傷病手當金

三 分焼費

四 出產手當金

五 埋葬金

第三十九條ノ三 療養ノ給付ハ甲種特別組合員傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルトキ左ノ範圍ニ於テ之ヲ給與スルモノトス

一 診察

二 藥劑又ハ治療材料ノ支給

三 處置、手術其ノ他ノ治療

四 看護

五 組合員ノ移送

前項ノ給與ハ同一ノ傷病又ハ疾病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給與ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ超過シタルトキハ之ヲ給與セス但シ職務上ノ傷病又ハ疾病ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項第三號ノ給付ハ緊急ノ場合其ノ他組合必要アリト認ムル場合ヲ除

タノ外之ニ要スル費用一回二十四限リトス但シ職務上ノ傷病又ハ疾病ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項第四號及第五號ノ給付ハ組合必要アリト認ムル場合ニ限ル

組合必要アリト認ムル場合ハ組合員ヲ病院ニ收容スルコトヲ得

第十五條ノ規定ハ本條ノ救濟ヲ受クル者ニハ之ヲ適用セス

第三十九條ノ四 前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ甲種特別組合員ハ組合ノ指定シタル醫師中自己ノ選定シタル者ニ就テ之ヲ受クルコトヲ得但シ前條第五項ノ規定ニ依リ病院ニ收容セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

甲種特別組合員前項ノ規定ニ依リ醫師ヲ選定シタルトキハ組合ノ承認アリタル場合ヲ除クノ外同一ノ傷病又ハ疾病ノ療養ニ付テハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ組合ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十九條ノ五 前條ニ規定スル醫師處方箋ヲ交付シタルトキハ甲種特別組合員ハ組合ノ指定シタル藥劑師中自己ノ選定シタル者ニ付キ藥劑ヲ受クルコトヲ得

第三十九條ノ六 組合ハ左ノ場合ニ於テハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ給與スルコトヲ得

一 組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二 甲種特別組合員カ組合ノ承認ヲ受ケ其ノ指定セサル醫師ノ診察ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ請求アリタルトキ

三 甲種特別組合員カ緊急ノ場合ニ於テ組合指定セサル醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ組合員ノ請求アリタルトキ

前項ニ依リ給與スル療養費ノ額ハ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ標

準トシテ組合之ヲ定ム

第三十四條 但書ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條ノ七 傷病手當金ハ甲種特別組合員傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲引續キ三日以上勤務スルコト能ハサルトキ其ノ三日ヲ超エタル日ヨリ一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ缺勤中給料ヲ受ケタル者ニハ之ヲ給與セズ

前項ノ給與ハ同一ノ傷病又ハ疾病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給與ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過シタルトキハ之ヲ給與セズ

第十七條ノ規定ハ本條ノ救濟ヲ受ケタル者ニハ之ヲ適用セズ

第三十九條ノ八 削除

第三十九條ノ九 甲種特別組合員第三十九條ノ三第二項ニ規定スル期間ヲ超エテ療養ヲ必要トスル場合ニ於テ療養ノ給付ニ要スル費用ノ償還ニ付擔保ヲ提供シ其ノ他確實ナル方法ヲ定メ本人又ハ第三者ヨリ申請スルトキハ組合ハ繼續シテ療養ノ給付ヲ爲スコトアルヘシ

第三十九條ノ十 病院ニ收容シタル甲種特別組合員ニ對シ給與スヘキ傷病手當金ハ左ノ額トス

- 一 主トシテ甲種特別組合員ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキ場合
給料日額ノ百分ノ二十
 - 二 前號ニ掲クル者二人以内ナル場合
給料日額ノ百分ノ四十
 - 三 第一號ニ掲クル者三人以上ナル場合
給料日額ノ百分ノ六十
- 第三十九條ノ十一 分娩費ハ分娩前一年内ニ於テ九十日以上甲種特別組合員タリシ者分給シタルトキ二十圓ヲ給與スルモノトス
- 組合必要アリト認ムル場合ハ前項ノ組合員ヲ産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲スコトヲ得

産院ニ收容シ又ハ助産ノ手當ヲ爲シタルトキ給與スヘキ分娩費ノ額ハ十圓トス

第三十九條ノ十二 出産手當金ハ分娩前一年内ニ於テ百八十日以上甲種特別組合員タリシ者分娩ノ日以前二十八日分給ノ日以後四十二日以内ニ於テ勞務ニ服セザリシ期間一日ニ付給料日額ノ百分ノ六十ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ分娩ノ日力其ノ豫定日ヨリ後レタルトキハ分娩ノ日前ノ期間ヲ七日以内延長スルコトヲ得

前項ノ組合員ヲ産院ニ收容シタルトキハ第三十九條ノ十ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ場合ニ於テ組合員勞務ニ服セザリシ期間給料ヲ受ケタルトキハ出產手當金ハ之ヲ給與セズ

第三十九條ノ十三 出産手當金ノ給與ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間傷病手當金ハ之ヲ給與セズ

第三十九條ノ十四 埋葬金ハ甲種特別組合員死亡シタルトキ埋葬ヲ行フ遺族ニ對シ其ノ甲種特別組合員ノ給料日額ノ三十日分ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス但シ其ノ額カ三十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ三十圓トス

前項ノ遺族ナキ場合ニ於テハ埋葬ヲ行ヒタル者ニ對シ前項ノ額ノ範圍内ニ於テ其ノ埋葬ニ要シタル費用ニ相當スル額ヲ給與スルモノトス

第三十九條ノ十五 甲種特別組合員ニシテ組合脫退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ喪失シタル際傷病疾病又ハ分娩ニ關シ本章ノ救濟ヲ受ケタル者ハ甲種特別組合員トシテ本章ノ救濟ヲ受ケタル者死シタルトキ、前項ノ規定ニ依リ救濟ヲ受ケタル者其ノ救濟ヲ受ケサルニ至リタル日後九

第三十九條ノ十六 前條ノ規定ニ依リ救濟ヲ受ケタル者死シタルトキ、前條ノ規定ニ依リ救濟ヲ受ケタル者其ノ救濟ヲ受ケサルニ至リタル日後九

十日以内ニ死亡シタルトキ又ハ其ノ他ノ甲種特別組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日後九十日以内ニ死亡シタルトキハ第三十九條ノ十四ノ規定ニ準シテ埋葬金ヲ給與スルモノトス

第三十九條ノ十七 甲種特別組合員タリシ者其ノ資格ヲ喪失シタル日後百八十日以内ニ分娩シタルトキハ分娩費及出產手當金ノ給與ヲ受ケタルモノトス

第三十九條ノ十八 第七條ノ三第二號乃至第五號ノ場合ニ在リテハ甲種特別組合員又ハ甲種特別組合員タリシ者ニ對シ本章ノ救濟ハ之ヲ爲サズ

他ノ法令ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ負擔ニ於テ病院、病舎又ハ療養所ニ收容セラレタル者ニ對シテハ療養ノ給付ヲ爲サズ

第三十九條ノ十九 組合ハ正當ノ理由ナクシテ療養ノ指揮ニ從ハサル者ニ對シ之ニ給與スヘキ傷病手當金ノ一部ヲ給與セサルコトアルヘシ

第六章 審査會

第四十條 加入、脱退、救濟金額ノ決定其ノ他給與ニ關スル處分ニ付異議アル者ハ其ノ處分ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ選信大臣ニ申告シテ審査會ノ審査ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 審査會ハ議長一名委員十名ヲ以テ之ヲ組織ス

第四十二條 議長及委員ハ選信部内ノ高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ選信大臣之ヲ指定ス

第四十三條 議長ハ審査會ヲ召集シ議事ヲ整理ス

議長事故アルトキハ委員中ノ上席者之ヲ代理ス

第四十三條ノ二 審査會ニ幹事一名ヲ置キ選信部内高等官ノ中ヨリ選信大臣之ヲ指定ス

幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第四編 社會 第五章 共濟組合 選信部内職員共濟組合規則

第四十三條ノ三 審査會ニ書記一名ヲ置キ選信部内判任官ノ中ヨリ選信大臣之ヲ命ス

書記ハ議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第四十四條 審査會ハ委員半數以上出席シ出席員ノ過半數ヲ以テ決議ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十四條ノ二 審査會ハ第四十條ノ審査請求書及之ニ對スル辨明書ニ付審査ス

審査會ハ必要ト認ムル書類ヲ徵スルコトヲ得

第四十四條ノ三 審査ノ請求カ成規ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ決議ヲ以テ之ヲ却下スヘシ但シ審査請求手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ審査會之ヲ補正セシムルコトヲ妨ケズ

第四十五條 議長又ハ委員ハ自己ニ關スル審査ニ與ルコトヲ得ス

第四十六條 審査會ノ決議ハ議長之ヲ選信大臣ニ具申シ且之ヲ選信次官及審査請求者ニ通知スヘシ

第四十七條 選信大臣ハ審査會ノ決議ヲ不當ト認メタルトキハ再審査ヲ命ス

第四十八條 審査會ノ決議ハ組合ヲ羈束ス

第七章 會計

第四十九條 本組合ノ事業年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十條 本組合ノ財産ハ郵便貯金若ハ銀行預金ニ預入シ又ハ之ヲ以テ國債券若ハ地方債券ヲ購入スルコトヲ得

前項ニ依ルモノノ外組合財産ノ管理方法ハ選信大臣ノ認可ヲ經ルコトヲ要ス

第五十一條 組合ハ毎事業年度ノ終ニ於テ養疾年金、退職年金、脱退給與

第四編 社會 第五章 共済組合 選信部内職員共済組合規則

一七七八

金及勤続給與金ノ給與ニ對スル責任準備金ヲ計算シ之ヲ積立ツルコトヲ要ス

第五十二條 組合ハ其ノ附屬事業トシテ組合員ノ保護救済ニ必要ナル施設ヲ爲スコトヲ得

第五十二條ノ二 組合財産ノ管理ニ付テハ共済組合財産管理委員ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ヲ經ヘキ財産管理ノ範圍及共済組合財産管理委員ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

附則

第五十三條 本令ハ大正九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十四條 明治四十二年六月選信省令第二十三號爲替貯金局及地方選信官署職員共済組合規則ハ之ヲ廢止ス

第五十五條 明治四十二年六月選信省令第二十三號爲替貯金局及地方選信官署職員共済組合規則ニ依ル組合及組合員ハ本令施行ト同時ニ本令ニ依ル

組合及組合員ト爲ル

第五十六條 前條ニ依リ本組合ノ組合員ト爲ル者ノ外本令施行ノ際現ニ本令第三條第二項ノ現業員タル者ハ本令施行ト同時ニ組合ニ加入ス

第五十七條 本令施行前ニ救済金給與ノ事由發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第五十八條 本令施行前ニ加入シタル組合員ニ對スル退職年金ハ第二十三條ニ依リ算出シタル金額ヨリ平均給料年額ノ二百分ノ一ニ本令施行前ノ加入年數ヲ乗シタル額ヲ控除シタル金額トス

附則 (昭和四年選信省令第一六號)

本令ハ昭和四年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前給與ノ事由發生シタルモノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本令施行ノ際現ニ受クル療養ノ給付及傷病手當金ノ支給期間ニ付テハ其ノ給與ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日限リトス

(別表)

第一號表(脱退給與金)

加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脱退ノ時迄ノ年數	掛金毎月一圓ニ對スル給與額	加入又ハ掛金異動ノ時ヨリ脱退ノ時迄ノ年數	掛金毎月壹圓ニ對スル給與額
一 年	二二・三三	九 年	一三四・八二
二 年	一五・〇九	十 年	一五・七六

(台四)

三 年	三八・五五	十 年	一七三・七〇
四 年	四三・九〇	十 年	一九四・六一
五 年	六七・五六	十 年	二二六・七七
六 年	八三・二六	十 年	二三九・六三
七 年	九九・五五	十 年	二六三・八三
八 年	一一六・七五		

(台四)

備考

- 一 十五年ヲ超ユルトキハ十五年ニ對スル金額ト其以後ノ掛金額トニ脱退ノ前月迄年五朱ノ複利ヲ附シタルモノヲ積算ス
- 二 年數ノ計算ニ於テ端數ノ月數ヲ生シタル場合ニハ其端數ヲ除キタル年數ニ對シテ受クヘキ金額ニ其金額ト其年數ヨリ一年ヲ經過シタルトキニ受クヘキ金額トノ差ヲ十二分シ之レニ端數ノ月數ヲ乘シタルモノヲ加ヘ給與ス